

シラバス

(年間授業計画)

都市工学科

令和2年度

神戸市立工業高等専門学校

I 本校の目的

1. 本校の使命

本校は、学校教育法の定める高等専門学校として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育、研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを使命とする。

2. 本校の教育方針

■ 人間性豊かな教育

心身の調和のとれた、たくましい感性豊かな人間形成をめざして、教養教育の充実をはかるとともに、スポーツ・文化クラブ等の課外活動を振興する。

■ 基礎学力の充実と深い専門性を培う教育

工学に関する基礎知識と専門知識を身につけ、日進月歩する科学技術に対応し、社会に貢献できる実践的かつ創造的人材を育成する。

■ 国際性を育てる教育

国際・情報都市神戸にふさわしい高専として、世界的視野を持った、国際社会で活躍できる人材を育成する。

3. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

神戸高専の本科課程では、教育課程を学習・教育目標に沿って、以下のように編成しています。

- ① 一般科目を低学年に多く配置し、学年が進むにつれて専門科目が多くなるようくさび形に授業科目を編成しています。
- ② 一般科目については、次の3点を基本方針として授業科目を編成しています。
 - ・専門科目を学習していく上で必要な基礎的な学力を養うこと。
 - ・心身ともに成長する時期に調和のとれた感性豊かな人間性を養うこと。
 - ・技術者、また社会人として必要とされる幅広い教養と思考力を身につけること。
- ③ 専門科目については、学科ごとの基本方針のもと授業科目を編成しています。

【機械工学科】

機械工学科では、近年の科学技術の進歩に応えるべく、各種機器を開発、設計、製作するために必要な材料力学、熱力学、流体力学、機械力学に関する基礎知識と技術を修得し、コンピュータ利用、計測制御技術、電気電子技術等の分野にも即応できる能力を持った独創的なエンジニアを育成できるように編成しています。実習系科目を通して実践的な能力を身につけるとともに、機械工学実験や卒業研究を通して論理的な思考能力や問題解決能力を養えるように系統的に編成しています。

【電気工学科】

電気工学科では、現代社会の基盤となる電気エネルギーとそれにより構築された高度産業システムを支えることのできる技術者を養成するため、①材料、電子デバイス②電気エネルギー、機器、設備 ③コンピュータ、計測、制御、通信を3本柱とし、グローバルな活躍に必須の工業英語、課題解決力を育む実験実習、学外実習、卒業研究をバランス良く系統的に配置した編成にしており、経済産業省が定める電気主任技術者の国家資格認定基準をも満たしたカリキュラムとなっています。

【電子工学科】

電子工学科では、今後もますます多様化、高度化していくであろうエレクトロニクス分野の第一線で活躍できるように、低学年に電気電子系基礎科目を配置し、それを基礎に高学年では、物性・デバイス系科目、計測・制御系科目、情報・通信系科目をバランスよく配置した5年間の系統的なカリキュラムで学ぶことができるように編成しています。また、各科目に関連した実験実習、学外実習、卒業研究などを通して、実践的で創造性豊かなエンジニアを養成できるように教育課程を編成しています。

【応用化学科】

応用化学科では、学習教育目標に掲げている5分野（有機化学、無機化学・分析化学、物理化学、化学工学、生物工学）をコアとし、有機的なつながりに配慮したカリキュラムを編成しています。また、5分野を学ぶにあたり必要不可欠な基礎としての情報技術に加え、先端分野として着目されているエネルギー、新素材関連、環境問題などもバランス良く修得できるように編成しています。さらに、座学で学んだ内容の理解をより深めるために、実験実習や卒業研究を系統的に編成しています。

【都市工学科】

都市工学科では、自然環境や人に優しい生活環境をデザインするための総合的な技術力、判断力、創造性を合わせ持つ実践的技術者の養成を目指し、「教育プログラム」と「学習・教育目標」を定め、それらに沿って教育課程を編成しています。

情報技術、構造力学、水理学、土質力学、計画・環境保全等の専門講義科目に加え、実験実習、学外実習、卒業研究などの体験的な科目を系統性に配慮した順次性のある体系的な教育課程を編成し、いずれも専門性や学修難易度を考慮して編成しています。

4. 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

神戸高専の本科課程では、一般科目と専門科目を通じて、健康な心身と豊かな教養のもと、工学に関する基礎的な知識を身につけると同時に、創造性も合わせ持つ、国際性と問題解決能力を有する実践的技術者を養成しています。そのために学生が卒業時に身につけるべき学力や資質・能力を次の4つの学習・教育目標として設定しています。

(A) 工学に関する基礎知識を身につける。

- (A1) 数 学 工学的諸問題に対処する際に必要な数学の基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A2) 自然 科学 工学的諸問題に対処する際に必要な自然科学に関する基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A3) 情 報 技 術 工学的諸問題に対処する際に必要な情報に関する基礎知識を身につけ、活用することができる。
- (A4) 専 門 分 野 各学科の専門分野における工学の基礎知識・基礎技術を身につけ、活用することができる。 ※各科の詳細は、Ⅷ概要・系統図に記載

(B) コミュニケーションの基礎的能力を身につける。

- (B1) 論理的説明 自分の意図する内容を文章及び口頭で相手に適切に伝えることができる。
- (B2) 質 疑 応 答 自分自身の発表に対する質疑に適切に応答することができる。
- (B3) 日 常 英 語 日常的な話題に関する平易な英語の文章を読み、聞いて、その内容を理解することができる。
- (B4) 技 術 英 語 英語で書かれた平易な技術的文章の内容を理解し、日本語で説明することができる。

(C) 複合的な視点で問題を解決する基礎的能力や実践力を身につける。

- (C1) 応 用・解 析 工学的基礎知識を工学的諸問題に応用して、得られた結果を的確に解析することができる。
- (C2) 複 合・解 決 与えられた課題に対して、工学的基礎知識を応用し、かつ情報を収集して戦略を立て、解決できる。
- (C3) 体 力・教 養 技術者として活動するために必要な体力や一般教養の基礎を身につける。
- (C4) 協 調・報 告 与えられた実験テーマに対してグループで協調して挑み、期日内に解決して報告書を書くことができる。

(D) 地球的視点と技術者倫理を身につける。

- (D1) 技術者倫理 工学技術が社会や自然に与える影響および技術者が負う倫理的責任を理解することができる。
- (D2) 異文化理解 異文化を理解し、多面的に物事を考えることができる。

※ 学科別学習・教育目標 (A4：専門分野細目)

【機械工学科】

(A4-M1) 機械工学的諸問題に対処する際に必要な材料に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 機械工学的諸問題に対処する際に必要な材料および材料力学に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

(A4-M2) 機械工学的諸問題に対処する際に必要な熱力学および流体力学に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 熱および流体の諸性質を理解し、対象とする熱流体の物性値を定めることができる。
- 熱流体に関する諸定理を理解し、それをを用いて熱流動現象を説明できる。
- 各種熱機関や流体機械の動作原理や特徴を理解し、エネルギー・環境問題を念頭におきながら、目的に応じた応用技術・システムを構築できる。

(A4-M3) 機械工学的諸問題に対処する際に必要な計測および制御に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 設計、製造等を行う際に必要な計測の基礎知識を身につけ活用できる。
- 設計、製造等を行う際に必要な制御の基礎知識を身につけ活用できる。

(A4-M4) 機械工学的諸問題に対処する際に必要な生産に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 機械工作に関連する基本作業を習得し、実用に応じた加工ができる。
- 機械加工および塑性加工の基礎知識を習得し、設計・生産分野における技術課題に対応できる。
- 生産システムに必要な基礎知識を理解し、生産管理や生産技術として活用できる。

【電気工学科】

(A4-E1) 電気電子工学分野に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- 電気および磁気に関する諸現象と諸定理を理解し、それらを説明できる。
- 電気回路や電子回路の解析ができ、基本的な回路を組み活用できる。
- コンピュータリテラシーと基本的なプログラミング技術を身に付け、活用できる。

(A4-E2) 電気材料や電子デバイスに関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- 電気電子材料における原子集合としての諸現象と諸定理を理解し、それらを説明できる。
- 電気電子材料の特性を理解し、電気電子素子を活用できる。

(A4-E3) 計測や制御に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- 計測機器のしくみを理解し、適切な使用ができる。
- 計測システムを構築し、計測データの処理ができる。
- 制御システムを解析でき、基本的なシステムを組み活用できる。

(A4-E4) エネルギー、電気機器、設備に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- 電気エネルギーの発生と輸送のしくみを理解し、環境や信頼性を考慮した電気設備の基礎知識を身に付ける。
- 電気機器の仕組みを理解し、用途に応じて適切な機器を使用できる。

【電子工学科】

(A4-D1) 電気材料や電子デバイスに関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- 電界および磁界に関する諸定理を理解し、それらによって生じる物理現象を説明できる。
- 電気回路や電子回路の動作を理解し、基本的な回路を設計できる。
- 工学系に必要な情報リテラシーと基本的なプログラミング技術を身につける。

(A4-D2) 物性や電子デバイスに関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 電子部品や電子素子(電子デバイス)に使用される材料の特徴を理解し、取り扱うことができる。
- 電子部品や電子素子のしくみと特性を理解し、活用できる。

(A4-D3) 計測や制御に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- 計測機器のしくみを理解し、適切な使用ができる。
- 自動計測システムを構築し、計測データの処理ができる。
- 電子制御システムを理解し、簡単なシステムを構成できる。

(A4-D4) 情報や通信に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- コンピュータおよび周辺ハードウェアのしくみを理解し、基本的な回路を設計できる。
- コンピュータソフトウェアを利用活用でき、開発できる。
- 情報ネットワークのしくみを理解し、小規模なネットワークを構築できる。

【応用化学科】

(A4-C1) 有機化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 代表的な有機化合物の構造・性質・反応性について説明できる。
- 各種スペクトルの原理を理解し、解析に利用できる。
- 有機化学反応を電子論や分子構造に基づいて反応機構を解説できる。

(A4-C2) 無機化学・分析化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 主な無機化合物の製法や性質を説明できる。
- 容量分析や代表的な分析機器の使用法を習得し、その解析ができる。

(A4-C3) 物理化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 化学熱力学の基礎概念を理解し、それらの応用としての相平衡関係について説明できる。
- 反応速度式や量子理論の基礎を理解し、それらを用いて各種現象の説明ができる。

(A4-C4) 化学工学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 拡散単位操作の物理化学的基礎を理解し、各種装置の基本的な設計ができる。

- 移動現象の基礎理論を理解し、装置設計に活用できる。
- 反応工学の基礎理論を理解し、反応モデルや反応器の種類に応じた反応器の基本設計ができる。

(A4-C5) 生物工学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 生物を構成する生体分子の種類、構造について理解し、生合成過程を説明できる。
- 遺伝子組み換え技術の応用例を理解し、有用性と問題点について説明できる。

【都市工学科】

(A4-S1) 設計に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 測量に関する理論を理解し、測量技術を身につける。
- 設計製図に関する理論を理解し、図面作成技術を身につける。
- 情報処理、CADに関する理論を理解し、設計に活用できる。

(A4-S2) 力学に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 応用物理に関する理論を理解し、力学の解析に活用できる。
- 構造力学、水理学、土質力学に関する諸定理を理解し、基礎的解析ができる。

(A4-S3) 施工に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- コンクリート工学、材料学に関する理論を理解し、基礎的な施行技術を身につける。
- 施工管理学に関する理論を理解し、施工に対して活用できる。
- 防災に関する理論を理解し、施工に対して活用できる。

(A4-S4) 環境に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 都市環境、環境水工、環境生態に関する理論を理解し、建設に対して活用できる。
- 都市交通に関する理論を理解し、交通データの処理ができる。
- デザイン、景観に関する理論を理解し、建設に対して活用できる。

I 本校の目的

1. 本校の使命

本校は、学校教育法の定める高等専門学校として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育、研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを使命とする。

2. 本校の教育方針

■ 人間性豊かな教育

心身の調和のとれた、たくましい感性豊かな人間形成をめざして、教養教育の充実をはかるとともに、スポーツ・文化クラブ等の課外活動を振興する。

■ 基礎学力の充実と深い専門性を培う教育

工学に関する基礎知識と専門知識を身につけ、日進月歩する科学技術に対応し、社会に貢献できる実践的かつ創造的人材を育成する。

■ 国際性を育てる教育

国際・情報都市神戸にふさわしい高専として、世界的視野を持った、国際社会で活躍できる人材を育成する。

3. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

神戸高専の本科課程では、教育課程を学習・教育目標に沿って、以下のように編成しています。

- ① 一般科目を低学年に多く配置し、学年が進むにつれて専門科目が多くなるようくさび形に授業科目を編成しています。
- ② 一般科目については、次の3点を基本方針として授業科目を編成しています。
 - ・専門科目を学習していく上で必要な基礎的な学力を養うこと。
 - ・心身ともに成長する時期に調和のとれた感性豊かな人間性を養うこと。
 - ・技術者、また社会人として必要とされる幅広い教養と思考力を身につけること。
- ③ 専門科目については、学科ごとの基本方針のもと授業科目を編成しています。

【機械工学科】

機械工学科では、近年の科学技術の進歩に応えるべく、各種機器を開発、設計、製作するために必要な材料力学、熱力学、流体力学、機械力学に関する基礎知識と技術を修得し、コンピュータ利用、計測制御技術、電気電子技術等の分野にも即応できる能力を持った独創的なエンジニアを育成できるように編成しています。実習系科目を通して実践的な能力を身につけるとともに、機械工学実験や卒業研究を通して論理的な思考能力や問題解決能力を養えるように系統的に編成しています。

【電気工学科】

電気工学科では、現代社会の基盤となる電気エネルギーとそれにより構築された高度産業システムを支えることのできる技術者を養成するため、①材料、電子デバイス②電気エネルギー、機器、設備 ③コンピュータ、計測、制御、通信を3本柱とし、グローバルな活躍に必須の工業英語、課題解決力を育む実験実習、学外実習、卒業研究をバランス良く系統的に配置した編成にしており、経済産業省が定める電気主任技術者の国家資格認定基準をも満たしたカリキュラムとなっています。

【電子工学科】

電子工学科では、今後もますます多様化、高度化していくであろうエレクトロニクス分野の第一線で活躍できるように、低学年に電気電子系基礎科目を配置し、それを基礎に高学年では、物性・デバイス系科目、計測・制御系科目、情報・通信系科目をバランスよく配置した5年間の系統的なカリキュラムで学ぶことができるように編成しています。また、各科目に関連した実験実習、学外実習、卒業研究などを通して、実践的で創造性豊かなエンジニアを養成できるように教育課程を編成しています。

【応用化学科】

応用化学科では、学習教育目標に掲げている5分野（有機化学、無機化学・分析化学、物理化学、化学工学、生物工学）をコアとし、有機的なつながりに配慮したカリキュラムを編成しています。また、5分野を学ぶにあたり必要不可欠な基礎としての情報技術に加え、先端分野として着目されているエネルギー、新素材関連、環境問題などもバランス良く修得できるように編成しています。さらに、座学で学んだ内容の理解をより深めるために、実験実習や卒業研究を系統的に編成しています。

【都市工学科】

都市工学科では、自然環境や人に優しい生活環境をデザインするための総合的な技術力、判断力、創造性を合わせ持つ実践的技術者の養成を目指し、「教育プログラム」と「学習・教育目標」を定め、それらに沿って教育課程を編成しています。

情報技術、構造力学、水理学、土質力学、計画・環境保全等の専門講義科目に加え、実験実習、学外実習、卒業研究などの体験的な科目を系統性に配慮した順次性のある体系的な教育課程を編成し、いずれも専門性や学修難易度を考慮して編成しています。

4. 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

神戸高専の本科課程では、一般科目と専門科目を通じて、健康な心身と豊かな教養のもと、工学に関する基礎的な知識を身につけると同時に、創造性も合わせ持つ、国際性と問題解決能力を有する実践的技術者を養成しています。そのために学生が卒業時に身につけるべき学力や資質・能力を次の4つの学習・教育目標として設定しています。

(A) 工学に関する基礎知識を身につける。

- (A1) 数 学 工学的諸問題に対処する際に必要な数学の基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A2) 自然 科学 工学的諸問題に対処する際に必要な自然科学に関する基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A3) 情 報 技 術 工学的諸問題に対処する際に必要な情報に関する基礎知識を身につけ、活用することができる。
- (A4) 専 門 分 野 各学科の専門分野における工学の基礎知識・基礎技術を身につけ、活用することができる。 ※各科の詳細は、Ⅷ概要・系統図に記載

(B) コミュニケーションの基礎的能力を身につける。

- (B1) 論理的説明 自分の意図する内容を文章及び口頭で相手に適切に伝えることができる。
- (B2) 質疑応答 自分自身の発表に対する質疑に適切に応答することができる。
- (B3) 日常英語 日常的な話題に関する平易な英語の文章を読み、聞いて、その内容を理解することができる。
- (B4) 技術英語 英語で書かれた平易な技術的文章の内容を理解し、日本語で説明することができる。

(C) 複合的な視点で問題を解決する基礎的能力や実践力を身につける。

- (C1) 応用・解析 工学的基礎知識を工学的諸問題に応用して、得られた結果を的確に解析することができる。
- (C2) 複合・解決 与えられた課題に対して、工学的基礎知識を応用し、かつ情報を収集して戦略を立て、解決できる。
- (C3) 体力・教養 技術者として活動するために必要な体力や一般教養の基礎を身につける。
- (C4) 協調・報告 与えられた実験テーマに対してグループで協調して挑み、期日内に解決して報告書を書くことができる。

(D) 地球的視点と技術者倫理を身につける。

- (D1) 技術者倫理 工学技術が社会や自然に与える影響および技術者が負う倫理的責任を理解することができる。
- (D2) 異文化理解 異文化を理解し、多面的に物事を考えることができる。

※ 学科別学習・教育目標 (A4：専門分野細目)

【機械工学科】

(A4-M1) 機械工学的諸問題に対処する際に必要な材料に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 機械工学的諸問題に対処する際に必要な材料および材料力学に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

(A4-M2) 機械工学的諸問題に対処する際に必要な熱力学および流体力学に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 熱および流体の諸性質を理解し、対象とする熱流体の物性値を定めることができる。
- 熱流体に関する諸定理を理解し、それをを用いて熱流動現象を説明できる。
- 各種熱機関や流体機械の動作原理や特徴を理解し、エネルギー・環境問題を念頭におきながら、目的に応じた応用技術・システムを構築できる。

(A4-M3) 機械工学的諸問題に対処する際に必要な計測および制御に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 設計、製造等を行う際に必要な計測の基礎知識を身につけ活用できる。
- 設計、製造等を行う際に必要な制御の基礎知識を身につけ活用できる。

(A4-M4) 機械工学的諸問題に対処する際に必要な生産に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 機械工作に関連する基本作業を習得し、実用に応じた加工ができる。
- 機械加工および塑性加工の基礎知識を習得し、設計・生産分野における技術課題に対応できる。
- 生産システムに必要な基礎知識を理解し、生産管理や生産技術として活用できる。

【電気工学科】

(A4-E1) 電気電子工学分野に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- 電気および磁気に関する諸現象と諸定理を理解し、それらを説明できる。
- 電気回路や電子回路の解析ができ、基本的な回路を組み活用できる。
- コンピュータリテラシーと基本的なプログラミング技術を身に付け、活用できる。

(A4-E2) 電気材料や電子デバイスに関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- 電気電子材料における原子集合としての諸現象と諸定理を理解し、それらを説明できる。
- 電気電子材料の特性を理解し、電気電子素子を活用できる。

(A4-E3) 計測や制御に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- 計測機器のしくみを理解し、適切な使用ができる。
- 計測システムを構築し、計測データの処理ができる。
- 制御システムを解析でき、基本的なシステムを組み活用できる。

(A4-E4) エネルギー、電気機器、設備に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- 電気エネルギーの発生と輸送のしくみを理解し、環境や信頼性を考慮した電気設備の基礎知識を身に付ける。
- 電気機器の仕組みを理解し、用途に応じて適切な機器を使用できる。

【電子工学科】

(A4-D1) 電気材料や電子デバイスに関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- 電界および磁界に関する諸定理を理解し、それらによって生じる物理現象を説明できる。
- 電気回路や電子回路の動作を理解し、基本的な回路を設計できる。
- 工学系に必要な情報リテラシーと基本的なプログラミング技術を身につける。

(A4-D2) 物性や電子デバイスに関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 電子部品や電子素子(電子デバイス)に使用される材料の特徴を理解し、取り扱うことができる。
- 電子部品や電子素子のしくみと特性を理解し、活用できる。

(A4-D3) 計測や制御に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- 計測機器のしくみを理解し、適切な使用ができる。
- 自動計測システムを構築し、計測データの処理ができる。
- 電子制御システムを理解し、簡単なシステムを構成できる。

(A4-D4) 情報や通信に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- コンピュータおよび周辺ハードウェアのしくみを理解し、基本的な回路を設計できる。
- コンピュータソフトウェアを利用活用でき、開発できる。
- 情報ネットワークのしくみを理解し、小規模なネットワークを構築できる。

【応用化学科】

(A4-C1) 有機化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 代表的な有機化合物の構造・性質・反応性について説明できる。
- 各種スペクトルの原理を理解し、解析に利用できる。
- 有機化学反応を電子論や分子構造に基づいて反応機構を解説できる。

(A4-C2) 無機化学・分析化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 主な無機化合物の製法や性質を説明できる。
- 容量分析や代表的な分析機器の使用法を習得し、その解析ができる。

(A4-C3) 物理化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 化学熱力学の基礎概念を理解し、それらの応用としての相平衡関係について説明できる。
- 反応速度式や量子理論の基礎を理解し、それらを用いて各種現象の説明ができる。

(A4-C4) 化学工学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 拡散単位操作の物理化学的基礎を理解し、各種装置の基本的な設計ができる。

- 移動現象の基礎理論を理解し、装置設計に活用できる。
- 反応工学の基礎理論を理解し、反応モデルや反応器の種類に応じた反応器の基本設計ができる。

(A4-C5) 生物工学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 生物を構成する生体分子の種類、構造について理解し、生合成過程を説明できる。
- 遺伝子組み換え技術の応用例を理解し、有用性と問題点について説明できる。

【都市工学科】

(A4-S1) 設計に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 測量に関する理論を理解し、測量技術を身につける。
- 設計製図に関する理論を理解し、図面作成技術を身につける。
- 情報処理、CADに関する理論を理解し、設計に活用できる。

(A4-S2) 力学に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 応用物理に関する理論を理解し、力学の解析に活用できる。
- 構造力学、水理学、土質力学に関する諸定理を理解し、基礎的解析ができる。

(A4-S3) 施工に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- コンクリート工学、材料学に関する理論を理解し、基礎的な施行技術を身につける。
- 施工管理学に関する理論を理解し、施工に対して活用できる。
- 防災に関する理論を理解し、施工に対して活用できる。

(A4-S4) 環境に関する基礎知識を身につけ、活用できる。

- 都市環境、環境水工、環境生態に関する理論を理解し、建設に対して活用できる。
- 都市交通に関する理論を理解し、交通データの処理ができる。
- デザイン、景観に関する理論を理解し、建設に対して活用できる。

Ⅱ 授業科目の履修について

下記に「学生便覧」の「学業成績評価及び進級並びに卒業認定に関する規程」について抜粋した条文を掲載する。それ以外の条文についても学生諸君にとって修学上関係の深い諸規則なので、別途配布されている「学生便覧」を必読すること。

第1章 総則

第1条 この規程は、神戸市立工業高等専門学校における試験・学業成績の評価・進級及び卒業の認定について定める。

第2章 単位数

第2条 単位数は、次のとおりとする。

- (1) 学修単位Ⅰ 1単位は30単位時間の授業を行う。
 - (2) 学修単位Ⅱ 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、15単位時間の授業を行う。
 - (3) 学修単位Ⅲ 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、30単位時間の授業を行う。
- なお、50分の授業は1単位時間、90分の授業は2単位時間として扱う。

1～3学年の授業科目の単位数は学修単位Ⅰを適用。4～5学年の授業科目の単位数は学修単位Ⅰ、学修単位Ⅱ及び学修単位Ⅲで構成する。

第3章 試験

第3条 試験は、定期試験、中間試験及び必要に応じて随時、臨時試験を行うものとする。

- 2 定期試験及び中間試験は、期日を定めて実施するものとし、試験の開始10日前までに、試験科目及び時間表を学生に発表する。

第4条 定期試験及び中間試験を病気・忌引などその他やむを得ない理由で受験できなかった学生に対しては、教務主事が認めた場合、追試験を行うことができる。

- 2 追試験の成績は、原則80点満点で評価する。
- 3 感染症による出席停止の場合は、100点満点で評価する。

第5条 故意に試験を忌避したと認められた者は、当該試験の成績を0点とする。

- 2 試験中、不正行為を行った者は、当該試験期間中の全科目の試験成績を0点とする。

第4章 学業成績の評価

第6条 年間欠課時数が年間授業総時間の1/3を超えない科目を「履修科目」とし、「評価」を行う。1/3を超える科目は「不履修科目」とし、評価は行わない。

第7条 学業成績の評価は、各授業科目ごとに、試験成績及び平素の成績をシラバスに記載された評価基準に基づき、総合して行う。

- 2 試験成績は、定期試験、中間試験、臨時試験により評価するものとする。

3 平素の成績は、学習態度が良好なことを前提としてレポート及び演習等を総合して評価するものとする。

4 学年成績の評価は、各学期末の学業成績を総合して行う。ただし、前期のみ又は後期のみで修了する科目については、学期末の学業成績を学年成績とする。

第8条 科目担当教員は、必要に応じてレポート及び演習等の成績を試験成績に代えることができる。

第9条 科目担当教員が2人以上のときの学業成績は、当該担当教員が協議してその評価を行う。

第10条 学業成績は100点法により評価し、60点以上の科目は単位の「修得」を認定する。評価が60点未満は「未修得」となる。

2 卒業研究の評価は、優、良、可及び不可の区別で行う。

3 学外実習を修得した場合の評価は、認定となる。

4 学業成績の優、良、可及び不可の評語の区分は次のとおりとする。

学業成績	評語
80点～100点	優
70点～79点	良
60点～69点	可
0点～59点	不可

Ⅲ 試験についての注意事項

1. 受験上の注意事項（定期試験・中間試験・追試験）

- ① 中間試験は授業時間、定期試験は学校行事として扱うものとする。
- ② 試験教室では、監督者に指示された座席で受験すること。
机は原則として6列で（専門科棟の場合、ロッカーを移動するなどの措置を行っている場合7列も可）等間隔に真直ぐに並べ、特に指示のない場合は窓側の前から出席番号順に着席すること。
- ③ 試験開始後、30分以上遅刻してきた者は受験できない。また、試験開始後30分以内は退室できない。尚、延着証明は遅刻を免除するためのものであり、試験に関して特別に扱うことはない。ただし、両主事判断により特別措置を講じることもある。
- ④ 教室での受験が物理的に不可能な場合、両主事の判断による別室受験を認めることもある。
- ⑤ 鉛筆（シャープペンシル）・消しゴムのほか、許可されたもの以外の使用は認めない。また、電卓など持ち込みを許可された物の貸し借りはしないこと。
- ⑥ 机の中には何も入れないこと。持ち物は、教室の前後に置くか、または机のフックに掛けておくこと。また下敷などを使用する場合には、あらかじめ監督者の許可を得ておくこと。
- ⑦ 試験中、いったん退室した者の再入室は認めない。試験が終了しても答案用紙の回収が済むまで教室への再入室はできない。
- ⑧ 廊下での試験の待機は他の受験者への迷惑となるので、他所（食堂・図書館等）を利用すること。
- ⑨ 授業中と同様、携帯電話等の電源はOFFにして、カバンに入れ、身に着けないこと。
- ⑩ 試験監督からの終了合図にしたがい、速やかに筆記用具を置くこと。
- ⑪ 答案用紙の回収は、最後尾の学生のみが行い、その他の学生は試験監督の指示があるまで絶対に席を立たず、静かに待機すること。

2. 試験における不正行為

[I] 以下の行為は不正行為（カンニング）とみなす。

- ① 予め机などに書き込んだり、またはカンニングペーパーなどを用意すること。また、それらを参照すること。
- ② 使用を許可されていないノート、テキスト、参考書、辞書などを参照すること。
- ③ 許可された場合を除き、電卓に式、数値などをあらかじめ記憶させておき、参照すること。
- ④ 答案を互いに交換すること。
- ⑤ 他人の答案を写し取ったり、写させたりすること。
- ⑥ 試験中に私語をすること。
- ⑦ 他人に受験を依頼すること。
- ⑧ 試験中不審な行為をし、監督の先生の指示にしたがわないこと。
- ⑨ 試験に関する資料などを記録した携帯電話などの電子媒体を身に着けること。また、それらを参照すること。
- ⑩ 以上に類する行為をすること。

[II] 不正行為をした場合には、以後の受験は認めない。

当該学生は監督者の指示を受けること。なお、当該試験期間の全試験科目は0点となる。

更に、1週間の家庭謹慎（初回）となる。

3. 追試験

- ① 中間・定期試験を病気・忌引など、やむを得ない理由で欠席した試験科目の追試験を希望する学生は、追試験受験願書（所定の用紙）にその欠席理由を証明する書類等を添え、事務室学生係に提出すること。教務主事が可否を決定する。
- ② 追試験が認められる理由は以下のような場合である。
 - (イ) 病気・負傷（医師の診断書、薬袋等が必要）
 - (ロ) 忌引（三親等以内）
 - (ハ) 天災・交通機関等の障害（証明書を必要とする場合がある）
 - (ニ) 就職・編入学受験（証明する書類等が必要）
 - (ホ) 以上に相当する理由のある場合
- ③ 追試験許可者には、教科担当教官宛の「追試験実施依頼書」を発行する。
追試験の実施日・時間等については、教科担当教官から直接指示を受けること。ただし、非常勤講師の担当科目の場合はクラス担任から指示を受けること。
- ④ 追試験の成績は、原則 80 点満点で評価する。ただし、以下の場合については追試験の成績は 100 点満点で評価する。
 - ア インフルエンザなど学校保健安全法施行規則第 18 条にかかげる第 1 種・第 2 種・第 3 種感染症による出席停止に伴う追試験（V. 感染症による学生の出席停止期間）を参照）
 - イ 忌引（二親等以内）に伴う追試験
 - ウ 気象警報により、登校を自粛し、公欠を認められた学生を対象とした追試験
 - エ その他教務主事が妥当と認めた学生を対象とした追試験

4. 再評価

- ① 進級認定会議の結果、不合格となった科目の再評価を許可された学生は、不合格科目の再評価を受けることができる。なお選択科目については再試験の科目を指定することがある。
- ② 再評価で許可された学生が再評価を受けるためには、各自所定の申請を行う必要がある。前期修了科目の内、必修科目は後期に再評価を受けることができる。加えて、30 点未満の科目は、後期に 59 点上限とする「特別再評価」を受けることができる場合がある。
- ③ 学年末には、5 年生は再評価許可となった学生氏名、科目名をクラス担任が該当学生に連絡するので各自確認すること。試験実施期日・時間、場所等についても各自確認すること。再評価合格による成績の評価は、60 点となる。

5. 防災警報および交通機関の計画運休またはストライキ時の試験の取り扱い

『試験の場合の取り扱いは、通常の授業の場合と異なるので、注意すること。』

- (1) 兵庫県の阪神または播磨南東部に特別警報が発令されたとき
- (2) 兵庫県の阪神または播磨南東部に暴風警報が発令されたとき
- (3) 神戸市に大雨警報、大雪警報または暴風雪警報が発令されたとき

または JR 西日本（大阪－姫路間）、神戸市営地下鉄（西神・山手線）が運休の「スト」の場合の処置は以下のとおりとする。

- ① 午前7時までに(1)から(3)すべての警報が解除された場合、または運休が解決した場合は、平常どおり午前9時から試験を実施する。
- ② 午前10時までに(1)から(3)すべての警報が解除された場合、または運休が解決した場合は、その日の試験を午後に移動して、午後1時より実施する。当日、午後に予定されている試験については、後日、連絡する。
- ③ 午前10時までに(1)から(3)いずれかの警報が解除されない場合、または運休が解決しない場合は自宅学習日とする。また、その日の試験は試験最終日の次の日に（試験最終日が金曜日の場合は翌週の月曜日）移動して、試験期間を1日延長し、実施する。
- ④ 山陽電鉄、神戸電鉄、阪急電鉄、阪神電鉄のいずれかが運休のときには、開始時間を午前10時からに移動して、実施する。（3限目以降の試験は午後1時より行う。）
- ⑤ その他の交通機関が運休の場合は、平常どおり午前9時から試験を実施する。
- ⑥ 試験中に警報が発令された場合には、教務主事の判断によって措置する。

なお、阪神または播磨南東部以外の特別警報または暴風警報が発令された地域、あるいは神戸市以外の大雨警報、大雪警報または暴風雪警報が発令された市町に在住の学生は、登校を自粛すること。登校自粛した学生は公欠扱いとするので、後日担任を通じて「公用欠席届」および「追試験実施依頼書」を合わせて提出すること。

IV 感染症による学生の出席停止期間

出席停止の期間の基準を以下の表に定めるが、学生が下記病気のため欠席したときは、出席停止届に医師の登校証明書を添付のうえ届け出るものとする。

病名		期間の基準
第1種	エボラ出血熱，クリミア・コンゴ出血熱，痘そう，南米出血熱，ペスト，マールブルグ病，ラッサ熱，急性灰白髄炎，ジフテリア，重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）及び鳥インフルエンザ（病原体がインフルエンザウイルス A 属インフルエンザ A ウイルスであってその血清型が H5N1 であるものに限る）以後「鳥インフルエンザ (H5N1)」 という。	治癒するまで
第2種	インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	下記欄外 ※ 参照
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	解熱した後 3 日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺，顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し，かつ，全身状態が良好になるまで
	風しん	発しんが消失するまで
	水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後 2 日を経過するまで
	結核 髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
第3種		
コレラ，細菌性赤痢，腸管出血性大腸菌感染症，腸チフス，パラチフス，流行性角結膜炎，急性出血性結膜炎その他の感染症（感染性胃腸炎など）	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで	
その他の感染症		感染性胃腸炎（ノロ・ロタ・カンピロバクター・サルモネラなど），溶連菌感染症，マイコプラズマ感染症，手足口病，伝染性紅斑，ヘルパンギーナ，デング熱

※発症した後 5 日を経過し，かつ，解熱した後 2 日を経過するまで

（発症，解熱を 0 日とし，翌日から 1 日と数える）（発症日は，初診日とは限らない）

ただし，病状により学校医その他の医師において感染の恐れが無いと認められた場合は，その限りではない。（「登校証明書」に記載の登校許可日から登校可）「登校証明書」は，「病名」「発症日」「登校可能日」を医師が証明していれば，様式は問わない。

V 諸手続一覧

種 類	用紙の 交付	提 出 先	時 期
追試験受験願	学生係	担任印受領後、学生係へ提出	病気・忌引等により中間・定期試験を受験できなかった場合
未修得科目再評価申請書	学生係	担任印受領後、担任へ提出	所定の期間
再履修免除申請書	学生係	担任及び科目担当教員印受領後、学生係へ提出	所定の期間(4,5年生のみ)
選択科目履修申請書	教務 主事室	担任へ提出	所定の期間(4,5年生のみ)
選択科目追加履修申請書	学生係	担任及び科目担当教員印受領後、学生係へ提出	所定の期間
公用欠席願	学生係	担任印受領後、学生係へ提出	その都度
公用欠席願 (課外活動関係)	学生係	担任印受領後、学生主事室へ提出	その都度
出席停止届	学生係	担任へ提出	その都度
遅刻取消届	学生係	学生係へ提出	当日の昼休みから 17:00 まで

VI 教育課程表

1. 一般科目（各学科共通）

（1）平成 27 年度～29 年度入学生

	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語	9	3	3	2	1		
	倫理	2		2				
	政治・経済	2			2			
	歴史	4	2	2				
	地理	2	2					
	数学Ⅰ	14	6	4	4			
	数学Ⅱ	4	2	2				
	確率・統計	1				1		
	物理	6	2	2	2			
	化学	5(4)	3(4)	2(0)				
	生物	1(2)		1(2)				
	保健・体育	9	2	2	2	2	1	
	芸術	1	1					
	英語	12	4	4	4			
	英語演習	5			1	2	2	
	修得単位計	77	27(28)	24(23)	17	6	3	
選択科目	国際コミュニケーション	2				2		複数言語から一言語を選択
	哲学	2						いずれか一科目を選択
	日本史	2						
	世界史	2						
	社会科学特講	2						
	人文科学特講	2						
	経済学	2						
	開設単位計	14				2	12	
	修得単位計	4				2	2	
一般科目開設単位計	91	27(28)	24(23)	17	8	15		
一般科目修得単位計	81	27(28)	24(23)	17	8	5		

(注)0内は、応用化学科の実施単位数である。

(2) 平成30年度～令和2年度入学生

授業科目	単位数	学年別配当					備考			
		1年	2年	3年	4年	5年				
必修科目	国語	6	2	2	2					
	国語表現法	2				2				
	倫理	2		2						
	政治・経済	2			2					
	歴史	4	2	2						
	地理	2	2							
	数学Ⅰ	12	4	4	4					
	数学Ⅱ	6	4	2						
	確率・統計	1				1				
	物理	6	2	2	2					
	化学	4	2(4)	2(0)						
	生物	2								
	地学	2		2				うち一科目を履修		
	保健・体育	9	2	2	2	2	1			
	芸術	1	1							
	英語	12	4	4	4					
	英語演習	5			1	2	2			
修得単位計	76	25(27)	24(22)	17	7	3				
選択科目	国際コミュニケーション	2				2		※		
	A選択(前期)	日本語文化論	1							
		哲学A	1							
		日本史学A	1							
		環境と人類の歴史	1					1	いずれか一科目を選択	
		地理学A	1							
		数学特講A	1							
		自然科学特講A	1							
	応用英語A	1								
	B選択(前期)	日本の文学	1							
		日本史学B	1							
		社会と文化の歴史	1							
		経済学Ⅰ	1						1	いずれか一科目を選択
		数学特講B	1							
		数学特講C	1							
		手話言語学Ⅰ	1							
	応用英語B	1								
	C選択(後期)	国文学・国語学	1							
		哲学B	1							
		経済学Ⅱ	1							
地理学B		1						1	いずれか一科目を選択	
自然科学特講B		1								
手話言語学Ⅱ		1								
スポーツ科学演習A		1								
スポーツ科学演習B	1									
開設単位計	26				2	24				
修得単位計	5				2	3				
一般科目開設単位計	102	25(27)	24(22)	17	9	27				
一般科目修得単位計	81	25(27)	24(22)	17	9	6				

(注)0内は、応用化学科の実施単位数である。

※は、複数言語から一言語を選択する。

2. 専門科目（都市工学科）

（2）平成 28 年度～29 年度入学生

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	応用数学Ⅰ	2			2		
	応用数学Ⅱ	2			2		
	応用物理	2			2		
	環境生態	2				2	
	構造力学Ⅰ	2	2				
	構造力学Ⅱ	2		2			
	構造力学Ⅲ	2			2		
	構造力学Ⅳ	1				1	
	水理学	5			3	2	
	土質力学Ⅰ	2			2		
	土質力学Ⅱ	2				2	
	土質力学Ⅲ	2				2	
	コンクリート工学	3			2	1	
	材料学	2		2			
	施工管理学	1					1
	橋梁工学	2				2	
	建築計画	1					1
	情報基礎	2	2				
	CAD 基礎	1			1		
	情報数値解析	1				1	
	土木計画学Ⅰ	2				2	
	測量学	5	2	1		2	
	都市環境工学	2					2
	環境水工学Ⅰ	1				1	
	環境水工学Ⅱ	1				1	
	都市交通計画学	1					1
	都市工学概論	1	1				
	土木・建築設計製図Ⅰ	1			1		
	土木・建築設計製図Ⅱ	1			1		
	土木・建築設計製図Ⅲ	1				1	
土木・建築設計製図Ⅳ	1					1	
工業英語	1					1	
都市工学実験実習	12	2	2	3	2	3	
卒業研究	10					10	
修得単位計	79	7	7	15	27	23	
選択科目	学外実習	1			1		
	建設都市法規	2				2	
	都市情報工学	2				2	
	環境経営学	2				2	
	防災工学	2				2	
	景観工学	2				2	
	応用 CAD	1				1	
	建築施工	2					2
	開設単位計	14				2	12
	修得単位計	7 以上				4・5 年で 7 以上	
専門科目開設単位合計	93	7	7	15	29	35	
専門科目修得単位合計	86 以上	7	7	15	26 以上 4・5 年で 57 以上		
一般科目修得単位合計	81	27	24	17	8	5	
一般科目との合計修得単位	167 以上	34	31	32	34 以上 4・5 年で 70 以上		

(3) 平成30年度～令和2年度入学生

	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2				2		
	応用物理	2				2		
	環境生態	2					2	
	構造力学Ⅰ	2		2				
	構造力学Ⅱ	2			2			
	構造力学Ⅲ	2				2		
	構造力学Ⅳ	1					1	
	水理学Ⅰ	2			2			
	水理学Ⅱ	2				2		
	水理学Ⅲ	2				2		
	土質力学Ⅰ	2			2			
	土質力学Ⅱ	2				2		
	土質力学Ⅲ	2				2		
	コンクリート工学Ⅰ	2			2			
	コンクリート工学Ⅱ	1				1		
	材料学	2		2				
	施工管理学	1					1	
	橋梁工学	2				2		
	建築計画概論	1					1	
	情報基礎	2	2					
	CAD基礎	1			1			
	情報数値解析	1				1		
	土木計画	2				2		
	測量学Ⅰ	2	2					
	測量学Ⅱ	1		1				
	測量学Ⅲ	2				2		
	都市環境工学	2					2	
	河川工学	1				1		
	海岸工学	1				1		
	都市交通計画学	1					1	
	都市工学概論	1	1					
	土木・建築設計製図Ⅰ	1			1			
土木・建築設計製図Ⅱ	1			1				
土木・建築設計製図Ⅲ	1				1			
土木・建築設計製図Ⅳ	1					1		
工業英語	1					1		
都市工学実験実習	12	2	2	3	2	3		
卒業研究	10					10		
修得単位計	80	7	7	14	29	23		
選択科目	学外実習	1				1		
	建設都市法規	2					2	
	都市情報工学	2					2	
	防災工学	2					2	
	景観工学	2					2	
	応用CAD	1				1		
	建築施工	2					2	
	開設単位計	14				2	10	
修得単位計	6以上				4・5年で6以上			
専門科目開設単位合計	92	7	7	14	31	33		
専門科目修得単位合計	86以上	7	7	14	29以上 4・5年で58以上			
一般科目修得単位合計	81	25	24	17	9	6		
一般科目との合計修得単位	167以上	32	31	31	38以上 4・5年で73以上			

X. シラバス

1. 一般科目一覧

■国語

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	国語	林田 定男 准教授	2	通年	S-1
2年	必修	国語	石原 のり子 准教授	2	通年	S-3
3年	必修	国語	土居 文人 教授	2	通年	S-5
4年	必修	国語	石原 のり子 准教授	1	後期	S-7

■人文社会

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	歴史	町田 吉隆 教授	2	通年	S-9
1年	必修	地理	八百 俊介 教授	2	通年	S-11
2年	必修	倫理	手代木 陽 教授	2	通年	S-13
2年	必修	歴史	深見 貴成 准教授	2	通年	S-15
3年	必修	政治・経済	高橋 秀実 特任教授	2	通年	S-17

■数学

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	数学Ⅰ	山路 哲史 准教授	4	通年	S-19
1年	必修	数学Ⅱ	北村 知徳 准教授	4	通年	S-21
2年	必修	数学Ⅰ	[前期] 谷口 公仁彦 准教授, [後期] 吉村 弥子 准教授	4	通年	S-23
2年	必修	数学Ⅱ	北村 知徳 准教授	2	通年	S-25
3年	必修	数学Ⅰ	菅野 聡子 教授	4	通年	S-27
4年	必修	確率・統計	児玉 宏児 教授	1	前期	S-29

■理科

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	物理	谷口 博 教授	2	通年	S-31
1年	必修	化学	佐藤 洋俊 教授	2	通年	S-33
2年	必修	物理	高見 健太郎 准教授	2	通年	S-35
2年	必修	化学	大塩 愛子 准教授	2	通年	S-37
2年	必修	地学	福江 慧 非常勤講師	2	通年	S-39
3年	必修	物理	大多喜 重明 教授	2	通年	S-41

■英語

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	英語	南 侑樹 講師	4	通年	S-43
2年	必修	英語	今里 典子 教授	4	通年	S-45
3年	必修	英語	石井 達也 講師	4	通年	S-47
3年	必修	英語演習	PILEGGI MARK 准教授	1	後期	S-49
4年	必修	英語演習	[前期] PILEGGI MARK 准教授, [後期] 柳生 成世 非常勤講師	2	通年	S-51
5年	必修	英語演習	[前期] 山本 長紀 准教授, ミラー 非常勤講師, [後期] 石井 達也 講	2	通年	S-53

■国際コミュニケーション

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
4年	選択	国際コミュニケーション(ドイツ語)	李 明哲 非常勤講師	2	通年	S-55
4年	選択	国際コミュニケーション(中国語)	牛根 靖裕 非常勤講師	2	通年	S-57
4年	選択	国際コミュニケーション(韓国語)	高 秀美 非常勤講師	2	通年	S-59

■保健・体育

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
----	-----------	-----	------	-----	----	-----

1年	必修	保健・体育	春名 桂 教授, 吉本 陽亮 講師, 寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授	2	通年	S-61
2年	必修	保健・体育	春名 桂 教授, 吉本 陽亮 講師	2	通年	S-63
3年	必修	保健・体育	寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂 教授, 中川 一穂 非常勤講師	2	通年	S-65
4年	必修	保健・体育	寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂 教授, 吉本 陽亮 講師	2	通年	S-67
5年	必修	保健・体育	寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授, 吉本 陽亮 講師	1	前期	S-69

■芸術

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	芸術	水田 純子 非常勤講師	1	後期	S-71

■5年選択科目

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
5年	選択	哲学	李 明哲 非常勤講師	2	通年	S-73
5年	選択	日本史	深見 貴成 准教授	2	通年	S-75
5年	選択	世界史	町田 吉隆 教授	2	通年	S-77
5年	選択	社会科学特講	八百 俊介 教授	2	通年	S-79
5年	選択	人文科学特講(英会話)	PILEGGI MARK 准教授	2	通年	S-81
5年	選択	人文科学特講(手話言語学)	今里 典子 教授	2	通年	S-83
5年	選択	経済学	高橋 秀実 特任教授	2	通年	S-85

2. 専門科目一覧

■1年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	情報基礎	[前期] 上中 宏二郎 教授, [後期] 柿木 哲哉 教授	2	通年	S-87
1年	必修	測量学 I	[前期] 酒造 敏廣 非常勤講師, [後期] 瀬谷 創 非常勤講師	2	通年	S-89
1年	必修	都市工学概論	水越 睦視 教授, 伊原 茂 教授, 鳥居 宣之 教授, 柿木 哲哉 教授, 上中 宏二郎 教授, 宇野 宏司 教授, 高科 豊 准教授, 野並 賢 准教授, 田島 喜美恵 准教授, 小塚 みすず	1	前期	S-91
1年	必修	都市工学実験実習	[前期] 水越 睦視 教授, 酒造 敏廣 非常勤講師, [後期] 野並 賢 准教授, 小塚 みすず 准教授	2	通年	S-93

■2年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
2年	必修	構造力学 I	上中 宏二郎 教授	2	通年	S-95
2年	必修	材料学	水越 睦視 教授	2	通年	S-97
2年	必修	測量学 II	瀬谷 創 非常勤講師	1	前期	S-99
2年	必修	都市工学実験実習	[前期] 稲田 幸助 非常勤講師, 藤井 達司 非常勤講師, 倉園 史郎 非常勤講師, [後期] 宇野 宏司 教授	2	通年	S-101

■3年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
3年	必修	構造力学 II	伊原 茂 教授	2	通年	S-103
3年	必修	水理学 I	[前期] 柿木 哲哉 教授, [後期] 宇野 宏司 教授	2	通年	S-105
3年	必修	土質力学 I	[前期] 鳥居 宣之 教授, [後期] 野並 賢 准教授	2	通年	S-107
3年	必修	コンクリート工学 I	[前期] 水越 睦視 教授, [後期] 上中 宏二郎 教授	2	通年	S-109
3年	必修	CAD基礎	田島 喜美恵 准教授	1	後期	S-111
3年	必修	土木・建築設計製図 I	小塚 みすず 准教授	1	前期	S-113
3年	必修	土木・建築設計製図 II	小塚 みすず 准教授	1	後期	S-115
3年	必修	都市工学実験実習	野並 賢 准教授, 伊原 茂 教授, 水越 睦視 教授, 鳥居 宣之 教授, 上中 宏二郎 教授, 高科 豊 准教授	3	通年	S-117

■4年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
4年	必修	応用数学 I	佐野 英樹 非常勤講師	2	通年	S-119
4年	必修	応用数学 II	大澤 哲史 非常勤講師	2	通年	S-121
4年	必修	応用物理	大多喜 重明 教授	2	通年	S-123
4年	必修	構造力学 III	伊原 茂 教授	2	後期	S-125
4年	必修	水理学	宇野 宏司 教授	2	前期	S-127
4年	必修	土質力学 II	野並 賢 准教授【実務経験者担当科目】	2	前期	S-129
4年	必修	土質力学 III	鳥居 宣之 教授	2	後期	S-131
4年	必修	コンクリート工学	高科 豊 准教授	1	後期	S-133
4年	必修	橋梁工学	伊原 茂 教授【実務経験者担当科目】	2	前期	S-135
4年	必修	情報数値解析	高科 豊 准教授	1	後期	S-137
4年	必修	土木計画学 I	小塚 みすず 准教授	2	通年	S-139

4年	必修	測量学	伊原 茂 教授【実務経験者担当科目】	2	前期	S-141
4年	必修	環境水工学Ⅰ	宇野 宏司 教授	1	後期	S-143
4年	必修	環境水工学Ⅱ	柿木 哲哉 教授	1	前期	S-145
4年	必修	土木・建築設計製図Ⅲ	小走 薫 非常勤講師	1	後期	S-147
4年	必修	都市工学実験実習	上中 宏二郎 教授, 伊原 茂 教授, 鳥居 宣之 教授, 柿木 哲哉 教授, 野並 賢 准教授	2	前期	S-149
4年	選択	応用CAD	田島 喜美恵 准教授	1	後期	S-151
4年	選択	学外実習	宇野 宏司 教授【実務経験者担当科目】	1	通年	S-153

■5年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
5年	必修	環境生態	宇野 宏司 教授【実務経験者担当科目】	2	前期	S-155
5年	必修	構造力学Ⅳ	上中 宏二郎 教授	1	前期	S-157
5年	必修	施工管理学	松岡 義幸 非常勤講師	1	前期	S-159
5年	必修	都市環境工学	稲生 智則 非常勤講師	2	後期	S-161
5年	必修	都市交通計画学	小塚 みすず 准教授	1	後期	S-163
5年	必修	土木・建築設計製図Ⅳ	田島 喜美恵 准教授	1	前期	S-165
5年	必修	工業英語	角谷 明美 非常勤講師	1	後期	S-167
5年	必修	建築計画	田島 喜美恵 准教授	1	前期	S-169
5年	必修	都市工学実験実習	柿木 哲哉 教授, 水越 睦視 教授, 高科 豊 准教授, 宇野 宏司 教授, 小塚 みすず 准教授, 田島 喜美恵	3	通年	S-171
5年	必修	卒業研究	都市工学科講義科目担当教員	10	通年	S-173
5年	選択	建設都市法規	浅見 雅之 非常勤講師	2	前期	S-175
5年	選択	都市情報工学	鳥居 宣之 教授	2	後期	S-177
5年	選択	建築施工	浅見 雅之 非常勤講師	2	前期	S-179
5年	選択	環境経営学	柿木 哲哉 教授	2	前期	S-181
5年	選択	防災工学	宇野 宏司 教授, 鳥居 宣之 教授	2	前期	S-183
5年	選択	景観工学	田島 喜美恵 准教授	2	後期	S-185

Ⅱ 授業科目の履修について

下記に「学生便覧」の「学業成績評価及び進級並びに卒業認定に関する規程」について抜粋した条文を掲載する。それ以外の条文についても学生諸君にとって修学上関係の深い諸規則なので、別途配布されている「学生便覧」を必読すること。

第1章 総則

第1条 この規程は、神戸市立工業高等専門学校における試験・学業成績の評価・進級及び卒業の認定について定める。

第2章 単位数

第2条 単位数は、次のとおりとする。

- (1) 学修単位Ⅰ 1単位は30単位時間の授業を行う。
 - (2) 学修単位Ⅱ 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、15単位時間の授業を行う。
 - (3) 学修単位Ⅲ 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、30単位時間の授業を行う。
- なお、50分の授業は1単位時間、90分の授業は2単位時間として扱う。

1～3学年の授業科目の単位数は学修単位Ⅰを適用。4～5学年の授業科目の単位数は学修単位Ⅰ、学修単位Ⅱ及び学修単位Ⅲで構成する。

第3章 試験

第3条 試験は、定期試験、中間試験及び必要に応じて随時、臨時試験を行うものとする。

- 2 定期試験及び中間試験は、期日を定めて実施するものとし、試験の開始10日前までに、試験科目及び時間表を学生に発表する。

第4条 定期試験及び中間試験を病気・忌引などその他やむを得ない理由で受験できなかった学生に対しては、教務主事が認めた場合、追試験を行うことができる。

- 2 追試験の成績は、原則80点満点で評価する。
- 3 感染症による出席停止の場合は、100点満点で評価する。

第5条 故意に試験を忌避したと認められた者は、当該試験の成績を0点とする。

- 2 試験中、不正行為を行った者は、当該試験期間中の全科目の試験成績を0点とする。

第4章 学業成績の評価

第6条 年間欠課時数が年間授業総時間の1/3を超えない科目を「履修科目」とし、「評価」を行う。1/3を超える科目は「不履修科目」とし、評価は行わない。

第7条 学業成績の評価は、各授業科目ごとに、試験成績及び平素の成績をシラバスに記載された評価基準に基づき、総合して行う。

- 2 試験成績は、定期試験、中間試験、臨時試験により評価するものとする。

3 平素の成績は、学習態度が良好なことを前提としてレポート及び演習等を総合して評価するものとする。

4 学年成績の評価は、各学期末の学業成績を総合して行う。ただし、前期のみ又は後期のみで修了する科目については、学期末の学業成績を学年成績とする。

第8条 科目担当教員は、必要に応じてレポート及び演習等の成績を試験成績に代えることができる。

第9条 科目担当教員が2人以上のときの学業成績は、当該担当教員が協議してその評価を行う。

第10条 学業成績は100点法により評価し、60点以上の科目は単位の「修得」を認定する。評価が60点未満は「未修得」となる。

2 卒業研究の評価は、優、良、可及び不可の区別で行う。

3 学外実習を修得した場合の評価は、認定となる。

4 学業成績の優、良、可及び不可の評語の区分は次のとおりとする。

学業成績	評語
80点～100点	優
70点～79点	良
60点～69点	可
0点～59点	不可

Ⅲ 試験についての注意事項

1. 受験上の注意事項（定期試験・中間試験・追試験）

- ① 中間試験は授業時間、定期試験は学校行事として扱うものとする。
- ② 試験教室では、監督者に指示された座席で受験すること。
机は原則として6列で（専門科棟の場合、ロッカーを移動するなどの措置を行っている場合7列も可）等間隔に真直ぐに並べ、特に指示のない場合は窓側の前から出席番号順に着席すること。
- ③ 試験開始後、30分以上遅刻してきた者は受験できない。また、試験開始後30分以内は退室できない。尚、延着証明は遅刻を免除するためのものであり、試験に関して特別に扱うことはない。ただし、両主事判断により特別措置を講じることもある。
- ④ 教室での受験が物理的に不可能な場合、両主事の判断による別室受験を認めることもある。
- ⑤ 鉛筆（シャープペンシル）・消しゴムのほか、許可されたもの以外の使用は認めない。また、電卓など持ち込みを許可された物の貸し借りはしないこと。
- ⑥ 机の中には何も入れないこと。持ち物は、教室の前後に置くか、または机のフックに掛けておくこと。また下敷などを使用する場合には、あらかじめ監督者の許可を得ておくこと。
- ⑦ 試験中、いったん退室した者の再入室は認めない。試験が終了しても答案用紙の回収が済むまで教室への再入室はできない。
- ⑧ 廊下での試験の待機は他の受験者への迷惑となるので、他所（食堂・図書館等）を利用すること。
- ⑨ 授業中と同様、携帯電話等の電源はOFFにして、カバンに入れ、身に着けないこと。
- ⑩ 試験監督からの終了合図にしたがい、速やかに筆記用具を置くこと。
- ⑪ 答案用紙の回収は、最後尾の学生のみが行い、その他の学生は試験監督の指示があるまで絶対に席を立たず、静かに待機すること。

2. 試験における不正行為

[I] 以下の行為は不正行為（カンニング）とみなす。

- ① 予め机などに書き込んだり、またはカンニングペーパーなどを用意すること。また、それらを参照すること。
- ② 使用を許可されていないノート、テキスト、参考書、辞書などを参照すること。
- ③ 許可された場合を除き、電卓に式、数値などをあらかじめ記憶させておき、参照すること。
- ④ 答案を互いに交換すること。
- ⑤ 他人の答案を写し取ったり、写させたりすること。
- ⑥ 試験中に私語をすること。
- ⑦ 他人に受験を依頼すること。
- ⑧ 試験中不審な行為をし、監督の先生の指示にしたがわないこと。
- ⑨ 試験に関する資料などを記録した携帯電話などの電子媒体を身に着けること。また、それらを参照すること。
- ⑩ 以上に類する行為をすること。

[II] 不正行為をした場合には、以後の受験は認めない。

当該学生は監督者の指示を受けること。なお、当該試験期間の全試験科目は0点となる。更に、1週間の家庭謹慎（初回）となる。

3. 追試験

- ① 中間・定期試験を病気・忌引など、やむを得ない理由で欠席した試験科目の追試験を希望する学生は、追試験受験願書（所定の用紙）にその欠席理由を証明する書類等を添え、事務室学生係に提出すること。教務主事が可否を決定する。
- ② 追試験が認められる理由は以下のような場合である。
 - (イ) 病気・負傷（医師の診断書、薬袋等が必要）
 - (ロ) 忌引（三親等以内）
 - (ハ) 天災・交通機関等の障害（証明書を必要とする場合がある）
 - (ニ) 就職・編入学受験（証明する書類等が必要）
 - (ホ) 以上に相当する理由のある場合
- ③ 追試験許可者には、教科担当教官宛の「追試験実施依頼書」を発行する。
追試験の実施日・時間等については、教科担当教官から直接指示を受けること。ただし、非常勤講師の担当科目の場合はクラス担任から指示を受けること。
- ④ 追試験の成績は、原則 80 点満点で評価する。ただし、以下の場合については追試験の成績は 100 点満点で評価する。
 - ア インフルエンザなど学校保健安全法施行規則第 18 条にかかげる第 1 種・第 2 種・第 3 種感染症による出席停止に伴う追試験（V. 感染症による学生の出席停止期間）を参照）
 - イ 忌引（二親等以内）に伴う追試験
 - ウ 気象警報により、登校を自粛し、公欠を認められた学生を対象とした追試験
 - エ その他教務主事が妥当と認めた学生を対象とした追試験

4. 再評価

- ① 進級認定会議の結果、不合格となった科目の再評価を許可された学生は、不合格科目の再評価を受けることができる。なお選択科目については再試験の科目を指定することがある。
- ② 再評価で許可された学生が再評価を受けるためには、各自所定の申請を行う必要がある。前期修了科目の内、必修科目は後期に再評価を受けることができる。加えて、30 点未満の科目は、後期に 59 点上限とする「特別再評価」を受けることができる場合がある。
- ③ 学年末には、5 年生は再評価許可となった学生氏名、科目名をクラス担任が該当学生に連絡するので各自確認すること。試験実施期日・時間、場所等についても各自確認すること。再評価合格による成績の評価は、60 点となる。

IV 感染症による学生の出席停止期間

出席停止の期間の基準を以下の表に定めるが、学生が下記病気のため欠席したときは、出席停止届に医師の登校証明書を添付のうえ届け出るものとする。

病名		期間の基準
第1種	エボラ出血熱，クリミア・コンゴ出血熱，痘そう，南米出血熱，ペスト，マールブルグ病，ラッサ熱，急性灰白髄炎，ジフテリア，重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）及び鳥インフルエンザ（病原体がインフルエンザウイルス A 属インフルエンザ A ウイルスであってその血清型が H5N1 であるものに限る）以後「鳥インフルエンザ（H5N1）」という。	治癒するまで
第2種	インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	下記欄外 ※ 参照
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	解熱した後 3 日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺，顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し，かつ，全身状態が良好になるまで
	風しん	発しんが消失するまで
	水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後 2 日を経過するまで
	結核 髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
第3種	コレラ，細菌性赤痢，腸管出血性大腸菌感染症，腸チフス，パラチフス，流行性角結膜炎，急性出血性結膜炎その他の感染症（感染性胃腸炎など）	
その他の感染症	感染性胃腸炎（ノロ・ロタ・カンピロバクター・サルモネラなど），溶連菌感染症，マイコプラズマ感染症，手足口病，伝染性紅斑，ヘルパンギーナ，デング熱	

※発症した後 5 日を経過し，かつ，解熱した後 2 日を経過するまで

（発症，解熱を 0 日とし，翌日から 1 日と数える）（発症日は，初診日とは限らない）

ただし，病状により学校医その他の医師において感染の恐れが無いと認められた場合は，その限りではない。（「登校証明書」に記載の登校許可日から登校可）「登校証明書」は，「病名」「発症日」「登校可能日」を医師が証明していれば，様式は問わない。

V 諸手続一覧

種 類	用紙の 交付	提 出 先	時 期
追試験受験願	学生係	担任印受領後、学生係へ提出	病気・忌引等により中間・定期試験を受験できなかった場合
未修得科目再評価申請書	学生係	担任印受領後、担任へ提出	所定の期間
再履修免除申請書	学生係	担任及び科目担当教員印受領後、学生係へ提出	所定の期間(4,5年生のみ)
選択科目履修申請書	教務 主事室	担任へ提出	所定の期間(4,5年生のみ)
選択科目追加履修申請書	学生係	担任及び科目担当教員印受領後、学生係へ提出	所定の期間
公用欠席願	学生係	担任印受領後、学生係へ提出	その都度
公用欠席願 (課外活動関係)	学生係	担任印受領後、学生主事室へ提出	その都度
出席停止届	学生係	担任へ提出	その都度
遅刻取消届	学生係	学生係へ提出	当日の昼休みから 17:00 まで

VI 教育課程表

1. 一般科目（各学科共通）

（1）平成27年度～29年度入学生

	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語	9	3	3	2	1		
	倫理	2		2				
	政治・経済	2			2			
	歴史	4	2	2				
	地理	2	2					
	数学Ⅰ	14	6	4	4			
	数学Ⅱ	4	2	2				
	確率・統計	1				1		
	物理	6	2	2	2			
	化学	5(4)	3(4)	2(0)				
	生物	1(2)		1(2)				
	保健・体育	9	2	2	2	2	1	
	芸術	1	1					
	英語	12	4	4	4			
	英語演習	5			1	2	2	
	修得単位計	77	27(28)	24(23)	17	6	3	
選択科目	国際コミュニケーション	2				2		複数言語から一言語を選択
	哲学	2						いずれか一科目を選択
	日本史	2						
	世界史	2						
	社会科学特講	2						
	人文科学特講	2						
	経済学	2						
	開設単位計	14				2	12	
	修得単位計	4				2	2	
一般科目開設単位計	91	27(28)	24(23)	17	8	15		
一般科目修得単位計	81	27(28)	24(23)	17	8	5		

(注)0内は、応用化学科の実施単位数である。

(2) 平成30年度～令和2年度入学生

授業科目	単位数	学年別配当					備考		
		1年	2年	3年	4年	5年			
必修科目	国語	6	2	2	2				
	国語表現法	2				2			
	倫理	2		2					
	政治・経済	2			2				
	歴史	4	2	2					
	地理	2	2						
	数学Ⅰ	12	4	4	4				
	数学Ⅱ	6	4	2					
	確率・統計	1				1			
	物理	6	2	2	2				
	化学	4	2(4)	2(0)					
	生物	2							
	地学	2		2				うち一科目を履修	
	保健・体育	9	2	2	2	2	1		
	芸術	1	1						
	英語	12	4	4	4				
	英語演習	5			1	2	2		
修得単位計	76	25(27)	24(22)	17	7	3			
選択科目	国際コミュニケーション	2				2		※	
	A選択(前期)	日本語文化論	1						
		哲学A	1						
		日本史学A	1						
		環境と人類の歴史	1					1	いずれか一科目を選択
		地理学A	1						
		数学特講A	1						
		自然科学特講A	1						
	応用英語A	1							
	B選択(前期)	日本の文学	1						
		日本史学B	1						
		社会と文化の歴史	1						
		経済学Ⅰ	1						
		数学特講B	1						
		数学特講C	1						
		手話言語学Ⅰ	1						
	応用英語B	1							
	C選択(後期)	国文学・国語学	1						
		哲学B	1						
		経済学Ⅱ	1						
地理学B		1							
自然科学特講B		1							
手話言語学Ⅱ		1							
スポーツ科学演習A		1							
スポーツ科学演習B	1								
開設単位計	26				2	24			
修得単位計	5				2	3			
一般科目開設単位計	102	25(27)	24(22)	17	9	27			
一般科目修得単位計	81	25(27)	24(22)	17	9	6			

(注)0内は、応用化学科の実施単位数である。

※は、複数言語から一言語を選択する。

2. 専門科目（都市工学科）

（2）平成 28 年度～29 年度入学生

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	応用数学Ⅰ	2			2		
	応用数学Ⅱ	2			2		
	応用物理	2			2		
	環境生態	2				2	
	構造力学Ⅰ	2	2				
	構造力学Ⅱ	2		2			
	構造力学Ⅲ	2			2		
	構造力学Ⅳ	1				1	
	水理学	5			3	2	
	土質力学Ⅰ	2			2		
	土質力学Ⅱ	2				2	
	土質力学Ⅲ	2				2	
	コンクリート工学	3			2	1	
	材料学	2		2			
	施工管理学	1					1
	橋梁工学	2				2	
	建築計画	1					1
	情報基礎	2	2				
	CAD 基礎	1			1		
	情報数値解析	1				1	
	土木計画学Ⅰ	2				2	
	測量学	5	2	1		2	
	都市環境工学	2					2
	環境水工学Ⅰ	1				1	
	環境水工学Ⅱ	1				1	
	都市交通計画学	1					1
	都市工学概論	1	1				
	土木・建築設計製図Ⅰ	1			1		
	土木・建築設計製図Ⅱ	1			1		
	土木・建築設計製図Ⅲ	1				1	
土木・建築設計製図Ⅳ	1					1	
工業英語	1					1	
都市工学実験実習	12	2	2	3	2	3	
卒業研究	10					10	
修得単位計	79	7	7	15	27	23	
選択科目	学外実習	1			1		
	建設都市法規	2				2	
	都市情報工学	2				2	
	環境経営学	2				2	
	防災工学	2				2	
	景観工学	2				2	
	応用 CAD	1				1	
	建築施工	2					2
	開設単位計	14				2	12
	修得単位計	7 以上				4・5 年で 7 以上	
専門科目開設単位合計	93	7	7	15	29	35	
専門科目修得単位合計	86 以上	7	7	15	26 以上 4・5 年で 57 以上		
一般科目修得単位合計	81	27	24	17	8	5	
一般科目との合計修得単位	167 以上	34	31	32	34 以上 4・5 年で 70 以上		

(3) 平成30年度～令和2年度入学生

	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学Ⅰ	2				2		
	応用数学Ⅱ	2				2		
	応用物理	2				2		
	環境生態	2					2	
	構造力学Ⅰ	2		2				
	構造力学Ⅱ	2			2			
	構造力学Ⅲ	2				2		
	構造力学Ⅳ	1					1	
	水理学Ⅰ	2			2			
	水理学Ⅱ	2				2		
	水理学Ⅲ	2				2		
	土質力学Ⅰ	2			2			
	土質力学Ⅱ	2				2		
	土質力学Ⅲ	2				2		
	コンクリート工学Ⅰ	2			2			
	コンクリート工学Ⅱ	1				1		
	材料学	2		2				
	施工管理学	1					1	
	橋梁工学	2				2		
	建築計画概論	1					1	
	情報基礎	2	2					
	CAD基礎	1			1			
	情報数値解析	1				1		
	土木計画	2				2		
	測量学Ⅰ	2	2					
	測量学Ⅱ	1		1				
	測量学Ⅲ	2				2		
	都市環境工学	2					2	
	河川工学	1				1		
	海岸工学	1				1		
	都市交通計画学	1					1	
	都市工学概論	1	1					
	土木・建築設計製図Ⅰ	1			1			
	土木・建築設計製図Ⅱ	1			1			
土木・建築設計製図Ⅲ	1				1			
土木・建築設計製図Ⅳ	1					1		
工業英語	1					1		
都市工学実験実習	12	2	2	3	2	3		
卒業研究	10					10		
修得単位計	80	7	7	14	29	23		
選択科目	学外実習	1				1		
	建設都市法規	2					2	
	都市情報工学	2					2	
	防災工学	2					2	
	景観工学	2					2	
	応用CAD	1				1		
	建築施工	2					2	
	開設単位計	14				2	10	
修得単位計	6以上				4・5年で6以上			
専門科目開設単位合計	92	7	7	14	31	33		
専門科目修得単位合計	86以上	7	7	14	29以上 4・5年で58以上			
一般科目修得単位合計	81	25	24	17	9	6		
一般科目との合計修得単位	167以上	32	31	31	38以上 4・5年で73以上			

VII. シラバス

1. 一般科目一覧

■国語

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	国語	林田 定男 准教授	2	通年	S-1
2年	必修	国語	石原 のり子 准教授	2	通年	S-3
3年	必修	国語	土居 文人 教授	2	通年	S-5
4年	必修	国語	石原 のり子 准教授	1	後期	S-7

■人文社会

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	歴史	町田 吉隆 教授	2	通年	S-9
1年	必修	地理	八百 俊介 教授	2	通年	S-11
2年	必修	倫理	手代木 陽 教授	2	通年	S-13
2年	必修	歴史	深見 貴成 准教授	2	通年	S-15
3年	必修	政治・経済	高橋 秀実 特任教授	2	通年	S-17

■数学

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	数学Ⅰ	山路 哲史 准教授	4	通年	S-19
1年	必修	数学Ⅱ	北村 知徳 准教授	4	通年	S-21
2年	必修	数学Ⅰ	[前期] 谷口 公仁彦 准教授, [後期] 吉村 弥子 准教授	4	通年	S-23
2年	必修	数学Ⅱ	北村 知徳 准教授	2	通年	S-25
3年	必修	数学Ⅰ	菅野 聡子 教授	4	通年	S-27
4年	必修	確率・統計	児玉 宏児 教授	1	前期	S-29

■理科

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	物理	谷口 博 教授	2	通年	S-31
1年	必修	化学	佐藤 洋俊 教授	2	通年	S-33
2年	必修	物理	高見 健太郎 准教授	2	通年	S-35
2年	必修	化学	大塩 愛子 准教授	2	通年	S-37
2年	必修	地学	福江 慧 非常勤講師	2	通年	S-39
3年	必修	物理	大多喜 重明 教授	2	通年	S-41

■英語

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	英語	南 侑樹 講師	4	通年	S-43
2年	必修	英語	今里 典子 教授	4	通年	S-45
3年	必修	英語	石井 達也 講師	4	通年	S-47
3年	必修	英語演習	PILEGGI MARK 准教授	1	後期	S-49
4年	必修	英語演習	[前期] PILEGGI MARK 准教授, [後期] 柳生 成世 非常勤講師	2	通年	S-51
5年	必修	英語演習	[前期] 山本 長紀 准教授, ミラー 非常勤講師, [後期] 石井 達也 講	2	通年	S-53

■国際コミュニケーション

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
4年	選択	国際コミュニケーション(ドイツ語)	李 明哲 非常勤講師	2	通年	S-55
4年	選択	国際コミュニケーション(中国語)	牛根 靖裕 非常勤講師	2	通年	S-57
4年	選択	国際コミュニケーション(韓国語)	高 秀美 非常勤講師	2	通年	S-59

■保健・体育

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
----	-----------	-----	------	-----	----	-----

1年	必修	保健・体育	春名 桂 教授, 吉本 陽亮 講師, 寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授	2	通年	S-61
2年	必修	保健・体育	春名 桂 教授, 吉本 陽亮 講師	2	通年	S-63
3年	必修	保健・体育	寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂 教授, 中川 一穂 非常勤講	2	通年	S-65
4年	必修	保健・体育	寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂 教授, 吉本 陽亮 講師	2	通年	S-67
5年	必修	保健・体育	寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授, 吉本 陽亮 講師	1	前期	S-69

■芸術

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	芸術	水田 純子 非常勤講師	1	後期	S-71

■5年選択科目

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
5年	選択	哲学	李 明哲 非常勤講師	2	通年	S-73
5年	選択	日本史	深見 貴成 准教授	2	通年	S-75
5年	選択	世界史	町田 吉隆 教授	2	通年	S-77
5年	選択	社会科学特講	八百 俊介 教授	2	通年	S-79
5年	選択	人文科学特講(英会話)	PILEGGI MARK 准教授	2	通年	S-81
5年	選択	人文科学特講(手話言語学)	今里 典子 教授	2	通年	S-83
5年	選択	経済学	高橋 秀実 特任教授	2	通年	S-85

2. 専門科目一覧

■1年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	情報基礎	[前期] 上中 宏二郎 教授, [後期] 柿木 哲哉 教授	2	通年	S-87
1年	必修	測量学 I	[前期] 酒造 敏廣 非常勤講師, [後期] 瀬谷 創 非常勤講師	2	通年	S-89
1年	必修	都市工学概論	水越 睦視 教授, 伊原 茂 教授, 鳥居 宣之 教授, 柿木 哲哉 教授, 上中 宏二郎 教授, 宇野 宏司 教授, 高科 豊 准教授, 野並 賢 准教授, 田島 喜美恵 准教授, 小塚 みすず	1	前期	S-91
1年	必修	都市工学実験実習	[前期] 水越 睦視 教授, 酒造 敏廣 非常勤講師, [後期] 野並 賢 准教授, 小塚 みすず 准教授	2	通年	S-93

■2年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
2年	必修	構造力学 I	上中 宏二郎 教授	2	通年	S-95
2年	必修	材料学	水越 睦視 教授	2	通年	S-97
2年	必修	測量学 II	瀬谷 創 非常勤講師	1	前期	S-99
2年	必修	都市工学実験実習	[前期] 稲田 幸助 非常勤講師, 藤井 達司 非常勤講師, 倉園 史郎 非常勤講師, [後期] 宇野 宏司 教授	2	通年	S-101

■3年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
3年	必修	構造力学 II	伊原 茂 教授	2	通年	S-103
3年	必修	水理学 I	[前期] 柿木 哲哉 教授, [後期] 宇野 宏司 教授	2	通年	S-105
3年	必修	土質力学 I	[前期] 鳥居 宣之 教授, [後期] 野並 賢 准教授	2	通年	S-107
3年	必修	コンクリート工学 I	[前期] 水越 睦視 教授, [後期] 上中 宏二郎 教授	2	通年	S-109
3年	必修	CAD基礎	田島 喜美恵 准教授	1	後期	S-111
3年	必修	土木・建築設計製図 I	小塚 みすず 准教授	1	前期	S-113
3年	必修	土木・建築設計製図 II	小塚 みすず 准教授	1	後期	S-115
3年	必修	都市工学実験実習	野並 賢 准教授, 伊原 茂 教授, 水越 睦視 教授, 鳥居 宣之 教授, 上中 宏二郎 教授, 高科 豊 准教授	3	通年	S-117

■4年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
4年	必修	応用数学 I	佐野 英樹 非常勤講師	2	通年	S-119
4年	必修	応用数学 II	大澤 哲史 非常勤講師	2	通年	S-121
4年	必修	応用物理	大多喜 重明 教授	2	通年	S-123
4年	必修	構造力学 III	伊原 茂 教授	2	後期	S-125
4年	必修	水理学	宇野 宏司 教授	2	前期	S-127
4年	必修	土質力学 II	野並 賢 准教授【実務経験者担当科目】	2	前期	S-129
4年	必修	土質力学 III	鳥居 宣之 教授	2	後期	S-131
4年	必修	コンクリート工学	高科 豊 准教授	1	後期	S-133
4年	必修	橋梁工学	伊原 茂 教授【実務経験者担当科目】	2	前期	S-135
4年	必修	情報数値解析	高科 豊 准教授	1	後期	S-137
4年	必修	土木計画学 I	小塚 みすず 准教授	2	通年	S-139

4年	必修	測量学	伊原 茂 教授【実務経験者担当科目】	2	前期	S-141
4年	必修	環境水工学Ⅰ	宇野 宏司 教授	1	後期	S-143
4年	必修	環境水工学Ⅱ	柿木 哲哉 教授	1	前期	S-145
4年	必修	土木・建築設計製図Ⅲ	小走 薫 非常勤講師	1	後期	S-147
4年	必修	都市工学実験実習	上中 宏二郎 教授, 伊原 茂 教授, 鳥居 宣之 教授, 柿木 哲哉 教授, 野並 賢 准教授	2	前期	S-149
4年	選択	応用CAD	田島 喜美恵 准教授	1	後期	S-151
4年	選択	学外実習	宇野 宏司 教授【実務経験者担当科目】	1	通年	S-153

■5年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
5年	必修	環境生態	宇野 宏司 教授【実務経験者担当科目】	2	前期	S-155
5年	必修	構造力学Ⅳ	上中 宏二郎 教授	1	前期	S-157
5年	必修	施工管理学	松岡 義幸 非常勤講師	1	前期	S-159
5年	必修	都市環境工学	稲生 智則 非常勤講師	2	後期	S-161
5年	必修	都市交通計画学	小塚 みすず 准教授	1	後期	S-163
5年	必修	土木・建築設計製図Ⅳ	田島 喜美恵 准教授	1	前期	S-165
5年	必修	工業英語	角谷 明美 非常勤講師	1	後期	S-167
5年	必修	建築計画	田島 喜美恵 准教授	1	前期	S-169
5年	必修	都市工学実験実習	柿木 哲哉 教授, 水越 睦視 教授, 高科 豊 准教授, 宇野 宏司 教授, 小塚 みすず 准教授, 田島 喜美恵	3	通年	S-171
5年	必修	卒業研究	都市工学科講義科目担当教員	10	通年	S-173
5年	選択	建設都市法規	浅見 雅之 非常勤講師	2	前期	S-175
5年	選択	都市情報工学	鳥居 宣之 教授	2	後期	S-177
5年	選択	建築施工	浅見 雅之 非常勤講師	2	前期	S-179
5年	選択	環境経営学	柿木 哲哉 教授	2	前期	S-181
5年	選択	防災工学	宇野 宏司 教授, 鳥居 宣之 教授	2	前期	S-183
5年	選択	景観工学	田島 喜美恵 准教授	2	後期	S-185

科目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	林田 定男 准教授		
対象学年等	都市工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)		
授業の概要と方針	様々な文章を主体的に読み、感じ、考えを整理することにより、豊かな人間性、感性、思考力を養う。論理的な読解を通して、的確な理解力と適切な表現力を獲得する。現代文は、エッセイ、小説、詩の読解法と鑑賞法を学習する。古文は、日本古典文学・古代日本語に関する基礎知識の習得および古典文学作品の現代語訳に基づき、日本語と日本文化についての理解を深める。また漢文の訓読を通じて、わが国の文化が大きな影響を受けた古代中国の思想・文学に触れる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【B1】随想、評論、小説、詩の基本的読解方法、鑑賞方法を習得し、それにより、随想、評論、小説、詩を読解・鑑賞できる。		随想、評論、小説、詩を的確に読解・鑑賞できているか、中間・定期試験で評価する。
2	【B1】思考を筋道立てて表現するための知識と方法を習得する。		思考を筋道立てて表現するための知識と方法が身についているか、レポートおよび中間・定期試験で評価する。
3	【B1】日本古代語に関する知識を習得し、日本古典文学作品を正確に現代語訳できるようになる。		古代日本語に関する知識が身についているか、日本古典文学作品を正確に現代日本語訳できるか、レポートおよび中間・定期試験で評価する。
4	【B1】古代日本の文化、古代中国の思想と文学に関する知識を習得し、それを説明できる。		古代日本の文化、古代中国の思想と文学について理解できているか、レポートおよび中間・定期試験で評価する。
5	【B1】実用的な漢字表現を使いこなせるようになる。		実用的な漢字表現の知識について、レポートおよび中間・定期試験で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験80% レポート20% として評価する。到達目標1～5についての試験80%(前期定期、後期中間、後期定期の平均)、到達目標2～5に関するレポート20%として評価、100点満点で60点以上を合格とする。なお、各試験において再試験を実施する場合は、70点以上で合格とし、当該試験の点数を60点とする。		
テキスト	『新高等学校 国語総合』(明治書院) 『漢検3級 漢字学習ステップ 改訂四版』(漢字能力検定協会) プリント教材		
参考書	福澤一吉『文章を論理で読み解くためのクリティカル・リーディング』(NHK出版新書) 村上慎一『なぜ国語を学ぶのか』(岩波ジュニア新書) 山口仲美『日本語の歴史』(岩波新書) 定延利之編・森篤嗣・茂木俊伸・金田純平『私たちの日本語』(朝倉書店) 二通信子・門倉正美・佐藤広子編『日本語力をつける文章読本』(東京大学出版会)		
関連科目	第2,3学年「国語」。		
履修上の注意事項	『漢検3級 漢字学習ステップ 改訂四版』(漢字能力検定協会)の内容は、中間・定期試験に出題する。また、夏季・冬季休業中の課題としても利用する。そのため、漢検3級に合格している者であっても、必ず購入すること。		

授業計画(国語)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス,国語を学ぶ意義について,随想の読解.	ガイダンス,(現代文)随想・評論とは何か,随想・評論を読むことの意義を考える。「本の読み方」(平野啓一郎)を読む.
2	随想の読解	(現代文)「どうすれば虹の根もとに行けるか」(黒井千次)を読解する.
3	随想の読解	(現代文)「どうすれば虹の根もとに行けるか」(黒井千次)を読解する.
4	古文入門,古代日本語の助動詞の解説.	(古文)古文入門,古文を学ぶ意義を考える,古代日本語の助動詞について学ぶ,『宇治拾遺物語』を読む.
5	中世の説話を読む.	(古文)『宇治拾遺物語』を読む.
6	中世の説話を読む.	(古文)『宇治拾遺物語』を読む.
7	中世の説話を読む.	(古文)『宇治拾遺物語』を読む.
8	小説の読解	(現代文)「羅生門」(芥川龍之介)を精読する.
9	小説の読解	(現代文)「羅生門」(芥川龍之介)を精読する.
10	小説の読解	(現代文)「羅生門」(芥川龍之介)を精読する.
11	小説の読解	(現代文)「羅生門」(芥川龍之介)を精読する.
12	小説の読解/中世の随筆を読む	(現代文)「羅生門」(芥川龍之介)を精読する,(古文)『徒然草』を読む.
13	中世の随筆を読む	(古文)『徒然草』を読む.
14	中世の随筆を読む	(古文)『徒然草』を読む.
15	前期のまとめ.	定期試験の解答・解説,前期のまとめ.
16	短歌の解釈と鑑賞	(現代文)教科書所収の短歌を解釈・鑑賞する.
17	短歌の解釈と鑑賞,評論の読解	(現代文)教科書所収の短歌を解釈・鑑賞する,「働くことの意味」(内田樹)精読する.
18	評論の読解	(現代文)「働くことの意味」(内田樹)精読する.
19	評論の読解	(現代文)「働くことの意味」(内田樹)精読する.
20	古代の物語を読む	(古文)『伊勢物語』を読む.
21	古代の物語を読む	(古文)『伊勢物語』を読む.
22	古代の物語を読む	(古文)『伊勢物語』を読む.
23	中間試験	後期中間試験を実施する.
24	中間試験の解答・解説,評論の読解	(現代文)中間試験の解答と解説,「水の東西」(山崎正和)を精読する.
25	評論の読解	(現代文)「水の東西」(山崎正和)を精読する.
26	評論の読解	(現代文)「水の東西」(山崎正和)を精読する.
27	漢文入門	(漢文)漢文入門,漢文を学ぶ意義と漢文訓読について学ぶ.
28	『論語』を読む	(漢文)『論語』を読み,古代中国の思想に触れる.
29	『論語』を読む	(漢文)『論語』を読む.
30	定期試験の解答・解説,本年度のまとめ	定期試験の解答・解説,一年間の学習のまとめ
備考	前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	石原 のり子 准教授		
対象学年等	都市工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)		
授業の概要と方針	様々な文章を主体的に読み、感じ、考えを整理することにより、豊かな人間性、感性、思考力を養う。論理的な読解を通して、的確な理解力と適切な表現力を獲得する。現代文は、エッセイ、小説、詩の読解法と鑑賞法を学習する。古文は、日本古典文学・古代日本語に関する基礎知識の習得および古典文学作品の現代語訳に基づき、日本語と日本文化についての理解を深める。また漢文の訓読を通じて、わが国の文化が大きな影響を受けた古代中国の思想・文学に触れる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[B1]随想,評論,小説,詩の基本的読解方法,鑑賞方法を習得し,それにより,随想,評論,小説,詩を読解・鑑賞できる。		随想,評論,小説,詩を的確に読解・鑑賞できているか,中間・定期試験で評価する。
2	[B1]思考を筋道立てて表現するための知識と方法を習得する。		思考を筋道立てて表現するための知識と方法が身についているか,レポートおよび中間・定期試験で評価する。
3	[B1]日本古代語に関する知識を習得し,日本古典文学作品を正確に現代語訳できるようになる。		古代日本語に関する知識が身についているか,日本古典文学作品を正確に現代日本語訳できるか,レポートおよび中間・定期試験で評価する。
4	[B1]古代日本の文化,古代中国の思想と文学に関する知識を習得し,それを説明できる。		古代日本の文化,古代中国の思想と文学について理解できているか,レポートおよび中間・定期試験で評価する。
5	[B1]実用的な漢字表現を使いこなせるようになる。		実用的な漢字表現の知識について,レポートおよび中間・定期試験で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験80% レポート20% として評価する。到達目標1~5についての試験80%(前期定期,後期中間,後期定期の平均),到達目標2~5に関するレポート20%として評価,100点満点で60点以上を合格とする。なお,各試験において再試験を実施する場合は,70点以上で合格とし,当該試験の点数を60点とする。		
テキスト	『新編 国語総合 改訂版』(大修館書店) 『漢検準2級 漢字学習ステップ 改訂三版』(漢字能力検定協会) プリント教材		
参考書	福澤一吉『文章を論理で読み解くためのクリティカル・リーディング』(NHK出版新書) 村上慎一『なぜ国語を学ぶのか』(岩波ジュニア新書) 山口仲美『日本語の歴史』(岩波新書) 定延利之編・森篤嗣・茂木俊伸・金田純平『私たちの日本語』(朝倉書店) 二通信子・門倉正美・佐藤広子編『日本語力をつける文章読本』(東京大学出版会)		
関連科目	第1,3学年「国語」。		
履修上の注意事項	『漢検準2級 漢字学習ステップ 改訂三版』(漢字能力検定協会)の内容は,中間・定期試験の出題範囲に含む。また,夏季・冬季休業中の課題としても利用する。そのため,漢検準2級に合格している者であっても,必ず購入すること。		

授業計画(国語)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス,国語を学ぶ意義について,評論の精読	ガイダンス,(現代文)評論「ペンギンはなぜ一列になって歩くのか?」(佐藤克文)を精読する.
2	評論の精読	(現代文)評論「ペンギンはなぜ一列になって歩くのか?」(佐藤克文)を精読する.
3	評論の精読	(現代文)評論「ペンギンはなぜ一列になって歩くのか?」(佐藤克文)を精読する.
4	古代の随筆を読む	(古文)『枕草子』を読む.
5	古代の随筆を読む	(古文)『枕草子』を読む.
6	古代の随筆を読む	(古文)『枕草子』を読む.
7	古代の随筆を読む	(古文)『枕草子』を読む.
8	中世の軍記物語を読む	(古文)『平家物語』を読む.
9	中世の軍記物語を読む	(古文)『平家物語』を読む.
10	中世の軍記物語を読む	(古文)『平家物語』を読む.
11	中世の軍記物語を読む	(古文)『平家物語』を読む.
12	中世の軍記物語を読む/評論の精読	(古文)『平家物語』を読む./ (現代文)「生きることと食べることの意味」(福岡伸一)を精読する
13	評論の精読	(現代文)「生きることと食べることの意味」(福岡伸一)を精読する
14	評論の精読	(現代文)「生きることと食べることの意味」(福岡伸一)を精読する
15	前期のまとめ.	定期試験の解答・解説.前期のまとめ.
16	俳句の解釈と鑑賞	(現代文)俳句について学ぶ.教科書所収の俳句を解釈・鑑賞する.
17	俳句の解釈と鑑賞	(現代文)教科書所収の俳句を解釈・鑑賞する.
18	詩の鑑賞	(現代文)「季節の言葉と出会う」(黛まどか)を鑑賞する.
19	評論の読解	(現代文)「季節の言葉と出会う」(黛まどか)を鑑賞する.
20	近世の俳諧紀行文を読む	(古文)『奥の細道』を読む.
21	近世の俳諧紀行文を読む	(古文)『奥の細道』を読む.
22	近世の俳諧紀行文を読む	(古文)『奥の細道』を読む.
23	中間試験	後期中間試験を実施する.
24	中間試験の解答・解説.評論の読解	(現代文)中間試験の解答・解説.「何ために「働く」のか」(姜尚中)を精読する.
25	評論の読解	(現代文)「何ために「働く」のか」(姜尚中)を精読する.
26	評論の読解	(現代文)「何ために「働く」のか」(姜尚中)を精読する.
27	漢詩の解釈と鑑賞	(漢文)漢詩について.教科書所収の漢詩を鑑賞する.
28	『漢詩の解釈と鑑賞	(漢文)教科書所収の漢詩を鑑賞する.
29	漢詩の解釈と鑑賞	(漢文)教科書所収の漢詩を鑑賞する.
30	本年度のまとめ	定期試験の解答・解説.一年間の学習のまとめ
備考	前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	土居 文人 教授		
対象学年等	都市工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)		
授業の概要と方針	第1,2学年で行った一般教養としての国語で学んだことを確認し,その発展的・実践的学習を行う.エッセイ・小説・詩・短歌・俳句などについて学習し,エッセイの執筆,短歌・俳句の作成(その解説を含む),志望動機・自己PRの作成(4年次の夏に参加するインターンシップのエントリーシート作成のための準備として)を行う.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[B1]エッセイ・小説・詩・短歌・俳句の読解方法および鑑賞方法を習得し,その方法によってエッセイ・小説・詩・短歌・俳句を鑑賞できる.		エッセイ・小説・詩・短歌・俳句を的確に読解・鑑賞できているか,定期試験で評価する.
2	[B1]文意の明快な文章を書くための知識と方法,短歌・俳句などの簡単な文学作品の作成法を習得し,文意の明快な文章を書き,簡単な文学作品を作ることができる.		明快な文章を書くための知識と方法,簡単な文学作品の作成法を身につけ,それを実践することができるか,レポートと提出物で評価する.
3	[B1]実用的な漢字能力(漢検2級程度)および語彙力を身につける.		実用的な漢字能力,語彙力が身につけているか,小テストおよび定期試験で評価する.
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験60% レポート14% 小テスト20% 提出物(俳句・短歌)6% として評価する.		
テキスト	「精選現代文B 改訂版」(三省堂) 「漢検2級漢字学習ステップ 改訂四版」(漢字能力検定協会) プリント教材		
参考書			
関連科目	第1,2,4学年国語.		
履修上の注意事項			

授業計画(国語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス.さまざまな文体.漢字の練習.	さまざまな文体について,具体例を挙げて解説する(プリント教材).漢字の練習を行う(以下,漢字の練習と漢字小テストは,随時行う.詳細は授業で連絡する).
2	エッセイとは何か.エッセイの読解	「エッセイとは何か」について,解説する.教科書のエッセイを通読し,読解する.
3	エッセイの読解	教科書のエッセイを読解する.
4	エッセイの読解	教科書所取のエッセイを読解する.
5	前期レポート課題(エッセイの執筆)の作成法について	前期レポート課題(エッセイの執筆)の作成法について解説する.
6	レトリック(修辞)とは何か	直喩・メタファー・メトニミー・アイロニー・擬人法などのレトリック(修辞)について解説する(プリント教材)
7	俳句とは何か.俳句の作成法.俳句の解釈と鑑賞	「俳句とは何か」について解説し,俳句の作成法について簡単に示す.教科書の俳句を通読し,解釈・鑑賞する.
8	俳句の解釈と鑑賞	教科書の俳句を解釈し,鑑賞する.
9	俳句の解釈と鑑賞	教科書の俳句を解釈し,鑑賞する.
10	俳句の解釈と鑑賞.俳句の作成(提出課題)	教科書の俳句を解釈し,鑑賞する.俳句を作り,その解説を書く(提出課題).
11	小説を読むことの意義.教科書の小説を読む	小説を読むことの意義について,解説する.教科書の小説を通読する.
12	小説を読む	教科書の小説を読解する.
13	小説を読む	教科書の小説を読解する.
14	小説を読む	教科書の小説を読解する.
15	定期試験の返却と解説.前期のまとめ	前期定期試験の返却と解説を行う.前期のまとめを行う.
16	後期レポート課題の作成法について.エントリーシートの書き方について.	後期レポート課題(志望動機・自己PRを書く)の作成法について,解説する.エントリーシートの書き方について解説する(プリント教材)
17	エントリーシートの書き方について	エントリーエントリーシートの書き方について解説する(プリント教材).
18	短歌とは何か.短歌の作成法.短歌の解釈と鑑賞	「短歌とは何か」について解説し,短歌の作成法について簡単に示す.教科書の短歌を通読し,解釈・鑑賞する.
19	短歌の解釈と鑑賞	教科書の短歌を解釈し,鑑賞する.
20	短歌の解釈と鑑賞	教科書の短歌を解釈し,鑑賞する.
21	短歌の解釈と鑑賞.短歌の作成(提出課題)	教科書の短歌を解釈し,鑑賞する.短歌を作り,その解説を書く(提出課題).
22	詩の本質について.詩の解釈と鑑賞	詩の本質について解説する.教科書の詩を通読し,解釈・鑑賞する.
23	詩の解釈と鑑賞	教科書の詩を解釈し,鑑賞する.
24	詩の解釈と鑑賞	教科書の詩を解釈し,鑑賞する.
25	日本文化の特徴について	日本文化の特徴について簡単に解説する(プリント教材).
26	エッセイの通読と読解	教科書のエッセイを通読し,読解する.
27	エッセイの読解	教科書のエッセイを読解する.
28	エッセイの読解	教科書のエッセイを読解する.
29	エッセイの読解	教科書のエッセイを読解する.
30	定期試験の返却と解説.1年のまとめ	後期定期試験の返却と解説を行う.1年のまとめを行う.
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する.	

科目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	石原 のり子 准教授		
対象学年等	都市工学科・4年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)	JABEE基準	(d),(f)
授業の概要と方針	本授業では、日本語によるコミュニケーション能力の向上を目的とする。とくに、学校生活におけるレポート、卒業研究等と、就職活動時や社会に出てからのビジネス文書等の作成に必要な、論理的文章を書く技術を身につけることに重きをおく。そのうえで、口頭発表における資料作成と実際の発表、その聞き取り等、理系に不可欠なコミュニケーション能力の伸長を目指す。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[B1]文章表現の基礎を習得する。		話しことばと書きことばの違い、原稿用紙の使い方、文章表現・構成の注意点が身についているか、定期試験、中間試験およびレポート、提出物により評価する。
2	[B1]論理的文章の基礎を習得する。		文体が統一された論理的文章が書けるか、定期試験、中間試験およびレポート、提出物により評価する。
3	[B1]レポートの書き方を習得する。		資料・文献等の根拠に基づき、自己の意見を筋道を立てて述べることができるか、中間試験、定期試験、レポートにより評価する。
4	[B1]就職活動やビジネスの場で求められる文書の書き方を習得する。		日常生活やビジネスの場に適したことば遣いが理解できているか、定期試験と中間試験により評価する。
5	[B1]日常生活やビジネスの場における正しいことば遣いを習得する。		適切なことばを用いた口頭での自己表現ができるか、演習発表により評価する。
6	[B1]口頭発表における自己表現の方法を習得する。		わかりやすく、興味を持てる口頭発表のための知識・技術が習得できたか、授業中の演習発表、および定期試験により評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85% レポート10% プレゼンテーション5% として評価する。到達目標1～4に関する中間試験、到達目標1～5に関する定期試験の平均値を85%、到達目標1～5に関するレポート10%、到達目標6に関するプレゼンテーション5%として評価。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	米田明美・藏中さやか・山上登志美『大学生のための日本語表現実践ノート』改訂版 2012年3月 風間書房 そのほか、適時プリントを配布する。		
参考書	野田尚史『なぜ伝わらない、その日本語』(岩波書店,2005) 定延利之・茂木俊伸・金田純平・森篤嗣『私たちの日本語』(朝倉書店,2012) 石黒圭『論文・レポートの基本』(日本実業出版社,2012) 石黒圭『文章は接続詞で決まる』(光文社,2008) 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会,2002)		
関連科目	第3学年「国語」		
履修上の注意事項	※教科書は、必ず購入すること。初回の授業で確認する		

授業計画(国語)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス.表現の基礎(1)	授業の目的・成績評価の方法・授業計画についてガイダンスを行う(注意:初回から教科書を用いるので必ず持参すること).話しことばと書きことばの違い,原稿用紙の使い方等について学ぶ.
2	表現の基礎(2) 話し方の基本	人に話を伝えるときに必要となる要素や技術について学ぶ.
3	表現の基礎(3) 敬語について	相手や自分の立場,その場の状況をとらえ,ふさわしい表現を選べるようになる.敬語の種類と働きを理解し,使い方のルールを学ぶ.
4	表現の基礎(4) 敬語について	相手や自分の立場,その場の状況をとらえ,ふさわしい表現を選べるようになる.敬語の種類と働きを理解し,使い方のルールを学ぶ.
5	表現の基礎(5) 接続詞について・わかりやすい文章,わかりにくい文章	接続表現の使い方,適切な語順や句読点を打つ箇所などを学び,わかりやすい文章の書き方を身につける.
6	説明をする・メモを取る	相手の立場に立って,理解しやすい話し方について学ぶ.メモの取り方を身につける.
7	議事録をとる	議事録の意義と議事録のとり方について学ぶ.
8	中間試験	話しことばと書きことばの違い,原稿用紙の使い方,文章表現・構成の注意点,文体が統一された論理的文章,日常生活やビジネスの場に適したことば遣いについて理解でき,身に付いているか,確認する.
9	中間試験の解答・解説.レポートの構成(1)	中間試験の解答と解説.レポートを書く際の注意点について学ぶ.また,資料・文献の集め方と,引用・出典表記の方法について学ぶ.
10	レポートの構成(2)	レポートを書く際の注意点について学ぶ.また,資料・文献の集め方と,引用・出典表記の方法について学ぶ.
11	電話対応のマナー	電話対応のマナーについて学ぶ
12	ビジネス文書	ビジネスメール・ビジネス文書の書き方を学ぶ.
13	手紙の書き方	手紙文の書き方やマナーについて学ぶ.実際に手紙を書いてみる.
14	履歴書の書き方	履歴書の書き方について学ぶ.履歴書を書く.
15	定期試験の解答・解説.学習のまとめ	定期試験の解答と解説.学習のまとめ
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	歴史 (History)		
担当教員	町田 吉隆 教授		
対象学年等	都市工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	日本列島の社会における歴史的な転換期に起こった事象を地域文化の視点から学習する。主に近世以降、つまり江戸時代から明治時代までを扱うが、通史ではない。歴史的な転換期にあると考えられる現代から古代までを含めて捉えることを心掛ける。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]琉球や蝦夷地を含む日本列島の社会や文化の変容について理解することができる。		琉球や蝦夷地を含む日本列島の社会や文化の変容についての理解を中間試験および定期試験で評価する。
2	[C3]具体的な史料や歴史叙述に基づいて、歴史的イベントや事象の内容と因果関係を説明することができる。		授業で扱った歴史的イベントや事象の内容と因果関係についての理解を、中間試験および定期試験で評価する。
3	[C3]歴史的イベントや事象の内容と因果関係を、正確かつ丁寧に解説、表現することができる。		授業で扱った歴史的イベントや事象の内容と因果関係についての理解を、歴史プリントおよびノート検査で評価する。
4	[C3]史跡や文化財および近代化遺産について、実際に調査して、その作成過程を説明することができる。歴史的イベントや歴史上の人物について調べるとともに客観的に評価することができる。		各自が興味を持つテーマにしたがって、史跡や文化財および近代化遺産について、また歴史的イベントや歴史上の人物について、作成するレポートの内容で評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% レポート10% 歴史プリント、ノート10% 遠隔授業期間の課題10% として評価する。到達目標1,2,3については中間および定期試験3回の平均点で評価する。また到達目標3については歴史プリント作成およびノート検査で評価する。到達目標4についてはレポートで評価する。これらを総合して100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	『詳説日本史 改訂版』:石井進・五味文彦・笹山晴生・高埜利彦ほか著(山川出版社) 『最新日本史図表 二訂版』外園豊基編集代表(第一学習社)		
参考書	『日本史B用語集』(山川出版社) 『角川日本史辞典』(角川書店)		
関連科目	歴史(2年)・日本史(5年)・世界史(5年)		
履修上の注意事項	中学校までで学んだ知識に基づく内容だが、教科書を授業前に読んでおくことを期待する。授業に参加する姿勢の乏しい者については個別に注意する。		

授業計画(歴史)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入-日本の歴史を学ぶ意味とは何か	日本列島の「地域」的な多様性について確認し、その歴史的な形成について考える。
2	日本列島の東と西(1)	日本列島の「地域」的な多様性について、現代につながる具体的な事例から学ぶ。
3	日本列島の東と西(2)	日本列島の「地域」的な多様性について、現代につながる具体的な事例から学ぶ。
4	日本社会の歴史(1)	政治史を中心に日本社会の歴史を振り返る。
5	日本社会の歴史(2)	経済史、社会史を中心に日本社会の歴史を振り返る。
6	日本社会の歴史(3)	外交史を中心に日本社会の歴史を振り返る。
7	日本列島の社会の地域性(1)	網野善彦氏の論説を読んで、日本社会の東と西の地域性について考える。
8	日本列島の社会の地域性(2)	縄文時代の遺跡分布から当時の社会に存在した地域性を推測・考察する。
9	日本列島の社会の地域性(3)	自然環境と人間社会の生産活動の変化について考える。
10	日本列島の社会の地域性(4)	方言分布から地域性が形成されるしくみを考える。
11	蝦夷地の歴史(1)	古代から中世にかけての蝦夷地の社会と変化を学習する。
12	蝦夷地の歴史(2)	中世から近世にかけての蝦夷地をめぐる国際関係を経済史の面から考える。
13	琉球王国の歴史(1)	中世から18世紀にかけての琉球王国の社会と変化を学習する。
14	琉球王国の歴史(2)	中世から近世にかけての琉球王国をめぐる国際関係を経済史の面から考える。
15	前期のまとめ	定期試験の解答・解説を踏まえ、前期の学習内容を確認する。
16	15,16世紀の対外関係(1)	中世から近世にかけての転換期の社会を国際関係を経済史の面から考える。
17	15,16世紀の対外関係(2)	中世から近世にかけての転換期の社会を国際関係を経済史の面から考える。
18	江戸時代初期の対外関係(1)	徳川家康の外交・通商政策を幕藩体制形成との関連から学ぶ。
19	江戸時代初期の対外関係(2)	徳川家康の外交・通商政策を幕藩体制形成との関連から学ぶ。
20	江戸時代中期の対外関係(1)	新井白石と徳川吉宗の対外認識、外交政策を比較しながら、江戸時代の経済と社会について考える。
21	江戸時代中期の対外関係(2)	「漂流民」と「漂着民」の具体的な事例から、江戸時代の経済と社会について考える。
22	江戸時代中期の対外関係(3)	ロシアのシベリア進出と田沼意次、松平定信の外交と通商政策について考える。
23	中間試験	第16週から第22週までの内容について試験を行う。
24	中間試験の解答とまとめ	中間試験の内容について解説する。18世紀から19世紀前半までの日本社会の動きを、世界の動きとの関連から理解する。
25	日本の「開国」(1)	19世紀における日本列島社会の変化を、太平洋・インド洋地域の変容との関係から考える。
26	日本の「開国」(2)	19世紀における日本列島社会の変化を、太平洋・インド洋地域の変容との関係から考える。
27	沖縄と北海道の成立(1)	明治政府初期の外交と国境の画定を、欧米諸国の動きと関連させて理解する。
28	沖縄と北海道の成立(2)	明治政府初期のアジア諸国との外交を、世界情勢と関連させて理解する。
29	戦争と外交	近代化の過程において生じた戦争と外交に関する原型の問題を岩倉使節団と台湾出兵の事例に即して考える。
30	まとめ	定期試験の解答・解説を踏まえ、日本列島の歴史を、世界史の視点で捉えることの意義について考える。
備考	前期定期試験、後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科目	地理 (Geography)		
担当教員	八百 俊介 教授		
対象学年等	都市工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	はじめに,地形図から地形・地域の歴史等の情報を読み取る手法を学習する.次に気候の形成要因を学んだ上で,植生・土壌・農業等と気候との関連を学習する.さらに,人口構成の変化・地域的差異の要因,工業の立地要因を学習し,これら産業・社会状況と貿易の関係を学ぶ.最後に都市の内部構造,形成要因と諸問題について学習する.基本的な地理的情報を各種資料から検索する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]気候の形成要因を理解し,植生・土壌との関連を捉えることができる.気候・植生・土壌の分布等を判別することができる		気候の形成要因を理解し,植生・土壌との関連を捉えることができるか,気候・植生・土壌の分布等を判別することができるか定期試験で評価する
2	[C3]農業・工業の立地条件・分布が理解できるとともに産業と貿易の関係が理解できる		農業・工業の立地条件・分布,産業と貿易の関係が理解できるかを中間試験および定期試験で評価する
3	[C3]人口変化・人口構成の形成要因が理解でき,地域特性が推察できる		人口変化・人口構成の形成要因が理解できているかを中間試験で評価する
4	[C3]都市の内部構造とその形成要因,都市問題が理解できる		都市の内部構造とその形成要因が理解できているかを定期試験で評価する
5	[C3]地形図など資料から地誌情報を検索・判読することができる		地形図など資料から地誌情報を検索・判読することができるか課題およびレポートで評価する
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験80% レポート20% として評価する.100点を満点とし,60点以上を合格とする.試験成績は中間試験,定期試験の平均点とする.前期中間試験に替えて課題を課し,その点数を前期中間試験の点数に代用する		
テキスト	高橋彰他「新詳地理B」:帝国書院 荒井良雄他「新詳高等地図」:帝国書院		
参考書	高校地理B課程に関するもの		
関連科目	なし		
履修上の注意事項			

授業計画(地理)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	地形図の判読1	地形図から地形を判別する.地形図の基本
2	地形図の判読2	地形図から地形を判別する.山地の地形と傾斜
3	地形図の判読3	地形図から地形を判別する.河川による地形(上流から中流)
4	地形図の判読4	地形図から地形を判別する.河川による地形(下流)と海岸地形
5	地形図の利用1	地形図から村落など歴史を読み取る.建物の表記
6	地形図の利用2	地形図から村落など歴史を読み取る.家屋配置による分類・地形と村落
7	地形図の利用3	地形図から村落など歴史を読み取る.時代別にみた村落
8	地形図のまとめ	地形図から地形・村落などを総合的に判読する
9	気候要素と特性1ならびに中間試験の解答解説	中間試験の返却・解答の解説を行うとともに気温分布の形成要因を学習し,データから特性を読み取り,地点を特定する手法を学習する.
10	気候要素と特性2	気圧配置と風系の形成要因を学習し,データから特性を読み取り,地点を特定する手法を学習する.
11	気候要素と特性3	降水分布の形成要因を学習し,データから特性を読み取り,地点を特定する手法を学習する.
12	気候と土壌・植生	気候ごとの土壌・植生の特徴と形成要因を学習する.
13	自然と農業1	自然条件を背景とした農業の分布・成立を学習する.小規模農業
14	自然と農業2	自然条件を背景とした農業の分布・成立を学習する.大規模農業
15	自然と生活ならびに定期試験の解答・解説	定期試験の返却・解説を行うとともに気候条件と住宅・衣服等の関係を学習する
16	人口の変化と要因1	人口変化の社会的・経済的要因を学習する.人口転換論1期と2期
17	人口の変化と要因2	人口変化の社会的・経済的要因を学習する.人口転換論3期と4期
18	人口構成と地域1	人口構成と地域特性の関係を学習する.人口移動と人口構成
19	人口構成と地域2	人口構成と地域特性の関係を学習する.経済と人口構成
20	工業立地1	工業立地の類型を学習する.輸送と工業
21	工業立地2	工業立地の類型を学習する.生産過程と工業
22	工業立地3	工業の盛衰と地域
23	中間試験	第16週目から第22週目の範囲で試験を行なう
24	産業と貿易1ならびに中間試験の解答・解説	中間試験の返却・解説を行うとともに貿易と産業の関係について学習する
25	産業と貿易2	産業の変化と貿易の関係について学習する
26	貿易問題	貿易をめぐる諸問題について学習する
27	都市の内部構造1	市街地の発展過程について学習する
28	都市の内部構造2	郊外の発展過程について学習する
29	都市問題	都市における問題とその対応について学習する
30	まとめおよび定期試験の解答・解説	定期試験の返却・解説を行うとともに年間授業を通じて地理的視点を応用する意義を学習する
備考	前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する.学年末に再試験を行うことがある.前期中間試験に替えて課題を課し,その点数を前期中間試験の点数に代用する	

科目	倫理 (Ethics)		
担当教員	手代木 陽 教授		
対象学年等	都市工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(20%), D1(80%)		
授業の概要と方針	現代社会において私たちはいかに生きるべきであろうか.人間として「よく生きる」ことを先人たちの思想や現代社会の問題を通して学び,自らの生き方を考える姿勢を身につける.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]青年期の特徴を理解し,自らの問題として考えることができる.		青年期の特徴についての理解度と,自らの問題として考えることができるかをレポート課題で評価する.
2	[C3]「思想の源流」と言われる先人の倫理思想を正しく理解できる.		ギリシャの思想の理解度をレポート課題で,キリスト教,イスラーム,仏教の理解度を前期定期試験で,中国思想の理解度を後期中間試験で評価する.
3	[C3]現代社会の前提となった近代の倫理思想を正しく理解できる.		近代における人間の尊厳,科学革命と自然観,民主社会の思想の理解度を後期中間試験で評価する.
4	[C3]現代社会における倫理的問題を正しく理解できる.		高齢社会,グローバル化,情報社会,生命倫理,環境倫理の問題についての理解度を後期定期試験で評価する.
5	[D1]現代社会における倫理的問題について自分の意見を矛盾なく展開できる.		現代社会における倫理的問題について自分の意見を矛盾なく展開できるかを中間・定期試験の作文問題とレポート課題で評価する.
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験80% レポート20% として評価する.レポート評価には授業の課題,自主課題のレポート評価とノートの評価が含まれる.なお,試験成績は前期は定期試験の成績,後期は中間試験と定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト	「高等学校 倫理」 越智貢他(第一学習社) 「アプローチ倫理資料PLUS」(東京法令)		
参考書	なし		
関連科目	哲学		
履修上の注意事項	なし		

授業計画(倫理)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	「倫理」とは	「倫理」という言葉の意味を漢字の成り立ちから考える。1年間の授業の概要、評価方法について説明し、最近のニュースの中から倫理的問題を取り上げる。
2	青年期の課題と自己形成(1)	青年期の特徴、青年期の発達課題としてのアイデンティティの確立、パーソナリティと性格、欲求と適応などの問題を解説する。
3	青年期の課題と自己形成(2)	青年期に特有の恋愛や性の問題について考える。セクシュアル・ハラスメントなどの社会問題も取り上げる。
4	人間としての自覚	人間の歴史の最初期において人間の生き方を導いた「思想の源流」について解説する。
5	ギリシャの思想(1)	初期自然哲学の形成、ソフィスト、ソクラテスの思想について解説する。
6	ギリシャの思想(2)	ソクラテスの死の意義について考える。国法を尊重するとはどういうことか、憲法改正の問題を通して現代のわれわれの問題として考える。
7	ギリシャの思想(3)	プラトン、アリストテレスの思想について解説する。
8	2-7回目までの復習	青年期の課題と自己形成、ギリシャの思想の範囲で練習問題を行う。
9	キリスト教(1)	練習問題の解答・解説をする。新約聖書から「放蕩息子の物語」を取り上げ、信仰するとはどういうことか考える。旧約聖書とユダヤ教の思想について解説する。
10	キリスト教(2)	新約聖書とイエスの思想について解説する。
11	イスラーム(1)	イスラームの成立史と信仰の特徴について解説する。
12	イスラーム(2)	「シャルリー・エブド事件」を通して政教分離の社会とイスラーム社会の関係のあり方を考える。
13	仏教(1)	仏教の成立史とゴータマ＝シツダッタの思想について解説する。
14	仏教(2)	日本仏教の展開について解説する。
15	中国思想	前期定期試験の解答・解説をする。孔子、孟子、荀子の儒家思想について解説する。
16	現代の特質と倫理的課題	現代社会の諸問題を考えるためにはその土台になっている近代思想の特徴を理解し、反省と修正を必要があることを解説する。
17	人間の尊厳(1)	「人間の尊厳」とは何かを、その思想的源泉であるルネサンスまで遡って考える。
18	人間の尊厳(2)	人間の尊厳を「人格」に見出したカントの思想を解説し、自由とは何かを考える。
19	人間の尊厳(3)	再生医療と人間の尊厳の問題について考える。
20	近代の科学革命と自然観	近代科学の自然観と合理論、経験論の思想について解説する。
21	自由で平等な社会の実現(1)	すべての人間の平等を目指す民主社会の思想的源泉を17-18世紀の社会契約説に遡って解説する。
22	自由で平等な社会の実現(2)	ヘーゲルの人倫と18-19世紀の功利主義の展開について解説する。
23	後期中間試験	中国思想、人間の尊厳、近代の科学革命と自然観、自由で平等な社会の実現の範囲で試験を実施する。
24	現代の諸課題と倫理(1)	後期中間試験の解答・解説をする。高齢社会の問題を現代の家族の変容との関係において解説する。
25	現代の諸課題と倫理(2)	グローバル化が進む世界の現状を解説し、国際支援や異文化理解について考える。
26	現代の諸課題と倫理(3)	ネットワーク社会と情報モラルの問題を解説する。AIの進化と共存の可能性について考える。
27	現代の諸課題と倫理(4)	生命倫理について概説し、生殖補助医療技術の倫理的問題について考える。
28	現代の諸課題と倫理(5)	臓器移植、終末期医療の倫理的問題について考える。
29	現代の諸課題と倫理(6)	環境倫理について概説し、市場社会システムで地球温暖化問題を解決できるか考える。
30	現代の諸課題と倫理(7)	後期定期試験の解答・解説をする。「救命ボート」の思考実験を通して格差にどう対処するか考える。
備考	前期定期試験、後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科目	歴史 (History)		
担当教員	深見 貴成 准教授		
対象学年等	都市工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	現代の日本社会に生きる人間にとって、他の社会とのコミュニケーションは必要不可欠であり、その基礎となるのが基本的な歴史知識である。本授業では、近代社会の成立から現代に至るまでの世界の歴史を「市民革命」「帝国主義」「戦争」を中心として学んでいく。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】18世紀から現在までの世界の歴史の流れを理解できる。		18世紀から現在までの世界の歴史の流れの理解度を、中間試験および定期試験で評価する。
2	【C3】基本的な世界の歴史的事項を理解する。		基本的な世界の歴史的事項の理解度を、中間試験および定期試験とレポート・提出物で評価する。
3	【C3】18世紀から現代までの世界の社会問題や文化に関して理解できる。		18世紀から現代までの世界の社会問題や文化に関しての理解度を、中間試験および定期試験で評価する。
4	【C3】現代の社会における事柄を世界の歴史に関連させて思考できる。		現代の社会における事柄を世界の歴史に関連させて思考できているか、レポート・提出物で評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験60% レポート・提出物30% 前期中間試験代替レポート10% として評価する。到達目標1・2・3については、前期定期・後期中間・後期定期の3回の試験およびレポート課題で評価する。また到達目標2・4については、レポート・提出物でも評価する。これらを総合して、100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	木村靖二他『詳説世界史 改訂版』(山川出版社) 第一学習社編集部編『グローバルワイド最新世界史図表三訂版』(第一学習社)		
参考書	全国歴史教育研究協議会編『世界史用語集』(山川出版社) 西川正雄他編『角川世界史辞典』(角川書店)		
関連科目	歴史(1年),日本史(5年),世界史(5年)		
履修上の注意事項	教科書をよく読み、内容を理解できるようにすること。		

授業計画(歴史)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入ー近代社会とは	古代から市民革命が起こるまでの世界の歴史を概観し、世界地理の基本を学ぶ。
2	産業革命とアメリカ独立革命(1)	イギリスで起こった産業革命の影響と、アメリカ独立革命の意義について理解する。
3	産業革命とアメリカ独立革命(2)	第2週に同じ。
4	フランス革命とナポレオン(1)	アンシャン＝レージュムとは何かを理解し、フランス革命の意義について理解する。
5	フランス革命とナポレオン(2)	フランス革命の経緯とナポレオンの動向について理解する。
6	ウィーン体制とその崩壊	二月革命と七月革命の意義について知る。また、イタリアとドイツの統一の経緯を理解し、近代国家とは何かを考える。
7	ドイツ・イタリアの統一	フランス革命後に統一国家を目指す動きがヨーロッパで拡大したことを理解する。
8	アメリカ合衆国の発展	アメリカの領土拡大の意義と南北戦争の経緯について理解し、現代のアメリカとの関係を考える。
9	オスマン帝国とムガル帝国(1)	オスマン帝国とヨーロッパ諸国の関係について理解する。またイギリスのインドの植民地化の経緯を知り、植民地とは何かを理解する。
10	オスマン帝国とムガル帝国(2)	オスマン帝国とヨーロッパ諸国の関係について理解する。またイギリスのインドの植民地化の経緯を知り、植民地とは何かを理解する。
11	清朝の動揺	アヘン戦争以降の清朝のヨーロッパとの関係および国内の改革について理解する。
12	帝国主義の展開と植民地(1)	ヨーロッパ諸国の動向と植民地化の拡大について理解する。特にアジアとアフリカの植民地化について考える。
13	帝国主義の展開と植民地(2)	第12週に同じ。
14	アジア諸国の改革	清朝の滅亡と辛亥革命の経緯について理解する。また、アジア各地での民族運動について考える。
15	19世紀の歴史を考える	定期試験の解答・解説を踏まえ、19世紀の世界の歴史について考える。
16	第一次世界大戦(1)	なぜ第一次世界大戦が起こったのか、その経緯を理解する。また、ロシア革命の経緯と意義について考える。
17	第一次世界大戦(2)	第16週に同じ。
18	ヴェルサイユ体制とワシントン体制(1)	国際協調の時代としての1920年代をヨーロッパ・アジアを中心にして学ぶ。また、各地域の民族運動について理解する。
19	ヴェルサイユ体制とワシントン体制(2)	第18週に同じ。
20	世界恐慌とファシズム(1)	世界恐慌が世界に与えた影響について考える。また、ファシズム諸国の動向が意味するものを理解する。
21	世界恐慌とファシズム(2)	第20週に同じ。
22	第二次世界大戦	第二次世界大戦の世界史的意義について考え、現代社会とのつながりを考える。
23	中間試験	第16週から第22週までの内容について試験を行う。
24	冷戦の構造(1)	中間試験の解答・解説をおこなう。アメリカとソ連だけではなく、世界史上における冷戦の意味とその構造について理解する。またアジア諸国の戦後の動向について知る。
25	冷戦の構造(2)	第24週に同じ。
26	第三世界の自立	冷戦構造と第三世界との関係について理解する。また各地の戦争・紛争の経緯とその意味を考える。
27	ベトナム戦争	ベトナム戦争が起こる経緯と世界に与えた意味について考える。特に日本社会に与えた影響についても考える。
28	冷戦の解消(1)	ソ連の消滅の意義について理解する。また、1990年代以降の世界の動き、特にアメリカの動向について考える。
29	冷戦の解消(2)	第28週に同じ。
30	まとめー歴史を学ぶことは何か	定期試験の解答・解説をふまえ、これまで学んできた世界の歴史と現代社会とのつながりについて理解し、今後の世界について考える。また、歴史を学ぶことがどのような意味を持つのかを考える。
備考	前期定期試験、後期中間試験および後期定期試験を実施する。状況に応じて再試験をおこなう場合がある。	

科目	政治・経済 (Political Science and Economics)		
担当教員	高橋 秀実 特任教授		
対象学年等	都市工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	歴史的転換期としての現代世界及び日本の政治・経済を理解するため、政治・経済・国際関係の諸事象を多角的な視点から分析し、その構造や潮流を把握して、広い視野から判断しうる見識と考察力を養成する。前期は国際政治を中心に政治分野を、後期は経済分野を扱う。国際政治や経済の時事問題を随時導入する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]第二次世界大戦・冷戦・核問題などを通じて戦争と平和の問題を理解する。南北問題・人口問題・民族問題など現代世界の諸課題を理解する。国際連合の組織・機能、国際機関や国際条約を理解する。		国際政治の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
2	[C3]リベラルデモクラシーの原理、日本国憲法の成立過程、国民主権・基本的人権・平和主義の3原理、政治制度を理解する。		リベラルデモクラシー・日本国憲法の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
3	[C3]資本主義経済の特徴、市場メカニズム、金融・財政、労働問題など現代経済のしくみを理解する。		現代経済のしくみの理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
4	[C3]資本主義成立期から敗戦・戦後復興・高度経済成長・石油危機・貿易不均衡・バブル経済崩壊、失われた30年を経て現在に至るまでの、日本経済の歩みを理解する。		日本経済の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
5	[C3]グローバリゼーションと地域経済統合が進展する世界経済を理解する。		世界経済の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験75% 課題レポート・提出物25% で総合評価する。試験成績は全回の平均点とする。100点満点の60点以上を合格とする		
テキスト	「政治・経済資料 2020」:東京法令出版編(東京法令出版)プリント		
参考書	「ゼミナール 日本経済入門」三橋規宏他編(日本経済新聞社)		
関連科目	経済学(5年選択)		
履修上の注意事項	なし		

授業計画(政治・経済)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	政治序論:現代世界の課題	20世紀,戦後の時代を多面的に検証し,転換期としての冷戦後,21世紀の世界の諸課題を考察するという前期政治編の方針を概観する。
2	国際社会と主権国家	近代国家のあり方・要素を分析し,国際社会を動かす政治・経済的利害関係,民族・宗教など文化的要因などを考察する。
3	20世紀の政治潮流,	第二次世界大戦と東西冷戦を,ファシズム・ Kommunismus・リベラルデモクラシーなど政治思想・国家体制の側面から分析し考察する。
4	戦後の東西冷戦	戦後の東西冷戦の政治過程を考察する。
5	国際連合の組織と機能	国際連合の成立過程,総会・安全保障理事会を中心とした国連の組織,PKOなど平和維持機能を理解する。
6	日本国憲法とリベラルデモクラシーの原理と制度	市民革命・人権宣言により確立したリベラルデモクラシーの原理と制度を理解し,権力分立,議院内閣制など日本国憲法の諸制度を理解する。日本国憲法成立に至る政治過程を分析し,大日本帝国憲法と比較考察する。
7	日本国憲法の平和主義と戦後日本の歩み	日本国憲法前文・第9条の条文を通じて日本の平和主義を考察する。憲法の理想と現実の戦後日本の歩みとの相克を考察する。
8	日本国憲法と基本的人権	基本的人権を自由権と社会権の視点から考察する。
9	冷戦終結	冷戦終結に至る政治過程を考察する。
10	冷戦後の世界	冷戦後の様々な国際潮流を考察する。
11	世界平和と核問題	広島・長崎原爆,戦後米ソ核対立,核抑止の国際条約締結の歩み,大量破壊兵器の危機的現実を考察する。
12	南北問題,人口問題	先進工業国と発展途上国の経済格差の現状や原因,国際社会の対応,近年の変化を分析する。世界人口の推移と問題点を南北問題と関連させて考察する。
13	冷戦後の民族対立,内戦,難民問題	冷戦後の1990年代以降の生じている民族対立,内戦,難民問題を考察する。
14	EU統合の現状と課題	EU統合の歩み,域内経済格差,移民問題,英国離脱の行方,などを分析し考察する。
15	総括:21世紀の国際社会と日本,前期定期試験の解説	前期定期試験を解説する。政治編の総括として,21世紀の国際社会の潮流と諸課題,及び日本のあり方を考察し総括する。
16	経済序論:商品経済・貨幣経済・生産と消費	商品としての財・サービスの生産,企業と消費者・労働者,貨幣の機能など,資本主義経済の特徴を基礎から分析し考察する。
17	市場メカニズム	自由競争市場で商品の需給関係が価格変動で自動調整されるという,産業革命期のアダムスミスが解明した市場メカニズムの原理を考察する。
18	自由競争から独占資本主義へ	産業革命期の自由競争期から独占資本主義への転換,独占(寡占)の形態を分析する。
19	世界恐慌とケインズ・修正資本主義	1930年代の世界恐慌・デフレスパイラル,欧州先進国のブロック経済化,米国のニューディール政策とその基盤たるケインズ理論,修正資本主義を理解する。
20	形成期の日本資本主義	富国強兵・殖産興業の下に国家主導で形成された成り立ちの日本資本主義の特徴を,後進的農村,劣悪な労働条件,植民地進出,など多面的に分析し考察する。
21	戦後の経済復興と高度経済成長	敗戦後の経済民主化改革と経済復興,1950・60年代の著しい工業発展・高度経済成長を可能にした諸要因を多面的に分析し考察する。
22	オイルショックと貿易不均衡	1970年代オイルショックによる高度成長の終結,日本企業の技術革新,輸出拡大,80年代日米貿易不均衡・貿易摩擦を分析する。
23	後期中間試験	後期中間試験を実施する。
24	中間試験の解説,技術革新と産業構造	後期中間試験を解説する。技術革新と産業構造の連関を考察する。
25	バブル経済とバブル崩壊デフレ	1985年ブラザ合意以降の株価・地価高騰,バブル経済,90年代株価・地価暴落によるバブル崩壊と金融システム不安,「失われた30年」に至った過程及び原因を考察する。
26	国際経済と貿易	IMF・GATT体制の中で加工貿易によって発展を遂げた日本経済を理解する。生産拠点の海外移転,世界市場の一体化(グローバルイゼーション)の潮流を考察する。
27	労働・雇用問題	憲法と労働基準法に規定された労働の権利を理解する。日本の雇用制度の特徴,1990年代以降の変化の潮流を考察する。
28	財政の機能としくみ・税制,財政政策	所得税と消費税を中心として直接税と間接税の税制を考察する。財政の機能とそのしくみ,予算(歳入・歳出),財政破綻に瀕している現状を考察する。財政政策を考察する。
29	金融の機能としくみ・金融政策	金融の機能とシステム,日本銀行による金融政策を理解する。バブル崩壊後の金融の潮流を考察する。
30	総括:世界経済・日本経済の現状と課題,後期定期試験の解説	後期定期試験を解説する。世界経済の現状と課題及び日本経済の現状と課題を考察し全授業の総括とする。
備考	前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する。前後期にレポート課題を課す。政治経済時事テーマを随時導入する関係上,予定テーマの内容と順序は随時変更可能性あり。	

科目	数学 I (Mathematics I)		
担当教員	山路 哲史 准教授		
対象学年等	都市工学科・1年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	高等専門学校における数学の基礎となる事柄を丁寧に講義する。さらに、演習を行うことにより、内容の定着と応用力の養成をはかる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】整式や分数式の計算ができる。		試験,レポート等で評価する。
2	【A1】方程式・不等式を解いたり,利用したりできる。		試験,レポート等で評価する。
3	【A1】簡単な等式・不等式の証明ができる。		試験,レポート等で評価する。
4	【A1】2次関数や分数関数などのグラフを理解し応用できる。		試験,レポート等で評価する。
5	【A1】三角比・三角関数に関する定理,公式を理解し活用できる。		試験,レポート等で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験70% 前期中間試験の代替課題15% レポート等15% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「新編高専の数学1(第2版・新装版)」: 田代嘉宏/難波完爾 編 (森北出版) 「増補改訂版チャート式基礎と演習 数学I+A」:チャート研究所 編著 (数研出版) 「増補改訂版チャート式基礎と演習 数学II+B」:チャート研究所 編著 (数研出版)		
参考書	「LIBRARY 工学基礎&高専TEXT 基礎数学」:佐々木 良勝 他 著 (数理工学社) 「基礎数学問題集」:佐々木 良勝 他 著 (数理工学社) 「新 基礎数学 問題集」:高遠 節夫 他 著 (大日本図書)		
関連科目	1年の数学II,2年の数学I・数学II		
履修上の注意事項	・時間に余裕がある場合には,発展的な話題を扱うこともある。・レポートは夏季休業前・冬季休業前等に課す。・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない。		

授業計画(数学Ⅰ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	整式の加法・減法・乗法	整式の加法・減法・乗法について理解し,計算ができる。
2	因数分解	因数分解の公式およびその使い方について理解し,色々な式を因数分解できる。
3	整式の除法,整式の約数・倍数,有理式	整式の除法・約数・倍数,分数式について理解し,計算ができる。
4	関数,関数の最大値・最小値,2次関数のグラフ,2次関数の決定	関数,関数の最大値・最小値,2次関数のグラフについて理解し,色々な問題を解ける。
5	2次関数の最大・最小	2次関数の最大・最小について理解し,色々な問題を解ける。
6	2次方程式	2次方程式の解・判別式について理解し,色々な問題を解ける。
7	第1週～第3週の復習	第1週～第3週の学習内容を確認し,理解を深める。
8	第4週～第6週の復習	第4週～第6週の学習内容を確認し,理解を深める。
9	第1週～第3週の総合演習	第1週～第3週の学習内容について総合演習を行う。
10	第4週～第6週の総合演習	第4週～第6週の学習内容について総合演習を行う。
11	解と係数の関係,グラフと方程式の解(1)	解と係数の関係,放物線とx軸との共有点について解説し,演習を行う。
12	グラフと方程式の解(2),不等式	放物線と直線との共有点,関数のグラフと方程式・不等式の解の関係について解説し,演習を行う。
13	2次不等式	2次不等式,連立不等式について解説し,演習を行う。
14	恒等式,因数定理,3次方程式・4次方程式	恒等式,因数定理,3次方程式・4次方程式について解説し,演習を行う。
15	定期試験の解答・解説	定期試験を返却し,解答・解説を行う。
16	高次の不等式,等式・不等式の証明	高次の不等式,等式・不等式の証明について解説し,演習を行う。
17	平行移動・対称移動,べき関数	グラフの平行移動・対称移動,べき関数について解説し,演習を行う。
18	偶関数・奇関数,分数関数	偶関数・奇関数,分数関数について解説し,演習を行う。
19	無理関数	無理関数について解説し,演習を行う。
20	逆関数	逆関数について解説し,演習を行う。
21	鋭角の三角関数	鋭角の三角関数について解説し,演習を行う。
22	一般角と弧度法	一般角と弧度法について解説し,演習を行う。
23	中間試験	中間試験を行う。
24	中間試験の解答・解説,三角関数の相互関係	中間試験を返却し,解答・解説を行う。三角関数の相互関係について解説し,演習を行う。
25	三角関数のグラフ	三角関数のグラフについて解説し,演習を行う。
26	加法定理,いろいろな公式	加法定理とその応用としての色々な公式について解説し,演習を行う。
27	三角関数の方程式・不等式の解	三角関数の方程式・不等式の解について解説し,演習を行う。
28	三角形の面積と正弦定理,余弦定理	三角形の面積と正弦定理,余弦定理について解説し,演習を行う。
29	演習	第24週～第28週の総合的な演習を行う。
30	定期試験の解答・解説,三角関数の応用	定期試験を返却し,解答・解説を行う。三角関数の応用について解説し,演習を行う。
備考	前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科目	数学Ⅱ (Mathematics II)		
担当教員	北村 知徳 准教授		
対象学年等	都市工学科・1年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	高等専門学校における数学の基礎となる事柄を丁寧に講義する。さらに、演習を行うことにより、内容の定着と応用力の養成をはかる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A1]実数,複素数の計算ができる。		前期中間試験の代替課題,レポートで評価する。
2	[A1]集合の概念を理解し応用できる。		前期中間試験の代替課題,レポートで評価する。
3	[A1]順列と組合せを使って場合の数の計算ができる。また,二項定理が使える。		前期中間試験の代替課題,レポートで評価する。
4	[A1]さまざまな確率の計算ができる。		試験,レポート,小テストで評価する。
5	[A1]命題の考え方を理解し,証明ができる。		試験,レポート,小テストで評価する。
6	[A1]座標平面上で,点と直線,2次曲線,領域などの扱い方を理解できる。		試験,レポート,小テストで評価する。
7	[A1]指数法則,指数関数を理解し,計算および応用ができる。		試験,レポート,小テストで評価する。
8	[A1]対数の定義,対数関数を理解し,計算および応用ができる。		試験,レポート,小テストで評価する。
9	[A1]数列とその和に関する事項および数学的帰納法の考え方を理解できる。		試験,レポート,小テストで評価する。
10			
総合評価	成績は,試験70% レポート10% 小テスト10% 前期中間試験の代替課題10% として評価する。試験成績は前期中間試験,後期中間試験,後期定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「新編 高専の数学1(第2版・新装版)」:田代 嘉宏/難波 完爾 編 (森北出版) 「増補改訂版 チャート式 基礎と演習 数学I+A」:チャート研究所 編著 (数研出版) 「増補改訂版 チャート式 基礎と演習 数学II+B」:チャート研究所 編著 (数研出版)		
参考書	「新版 基礎数学」:岡本 和夫 著 (実教出版) 「新 基礎数学」:高遠 節夫 他 著 (大日本図書) 「高専テキストシリーズ 基礎数学」:上野 健爾 監修 (森北出版) 「新版 基礎数学 演習」:岡本 和夫 著 (実教出版) 「新編 高専の数学1 問題集 (第2版)」:田代 嘉宏 編 (森北出版)		
関連科目	1年の数学I,2年の数学I・数学II		
履修上の注意事項	・時間に余裕がある場合には,発展的な話題を扱うこともある。・レポートは夏季休業前・冬季休業前等に課す。・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない。・確率,数列についてはチャートまたは配布プリントを利用する。		

授業計画(数学Ⅱ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	実数,実数の大小関係,平方根を含む式の計算	実数,絶対値,平方根について解説し,演習を行う.また,分母の有理化について解説し,演習を行う.
2	複素数	複素数の定義および計算方法について解説し,演習を行う.
3	集合,集合の要素の個数	集合の概念について解説し,演習を行う.また,集合の要素の個数について解説し,演習を行う.
4	場合の数,順列	和の法則,積の法則について解説し,演習を行う.また,順列について解説し,演習を行う.
5	円順列,重複順列	円順列,重複順列について解説し,演習を行う.
6	組合せ,同じものを含む順列	組合せの計算とその応用について解説し,演習を行う.また,同じものを含む順列について解説し,演習を行う.
7	二項定理	二項定理と二項展開について解説し,演習を行う.
8	命題	命題の考え方と必要条件・十分条件について解説し,演習を行う.また,命題の逆・裏・対偶と証明方法について解説し,演習を行う.
9	演習	第1週～第7週の内容について復習し,演習を行う.
10	事象と確率,確率の基本性質	事象と確率の概念および確率の基本性質について解説し,演習を行う.
11	独立な試行と確率,反復試行の確率	独立な試行の確率の計算について解説し,演習を行う.また,反復試行の確率について解説し,演習を行う.
12	直線上の点と座標平面上の点	線分の内分点・外分点,2点間の距離,三角形の重心について解説し,演習を行う.
13	直線の方程式,2直線の関係	座標平面上の直線の方程式,2直線の平行・垂直条件について解説し,演習を行う.
14	円	座標平面上の円とその接線について解説し,演習を行う.
15	前期定期試験の解答・解説,演習	前期定期試験の答案を返却し,解答を解説する.点と直線,円に関する演習を行う.
16	2次曲線(1)	座標平面上の楕円,双曲線について解説し,演習を行う.
17	2次曲線(2),不等式の表す領域(1)	座標平面上の放物線および2次曲線の平行移動について解説し,演習を行う.また,座標平面上で不等式の表す領域について解説し,演習を行う.
18	不等式の表す領域(2),領域における最大・最小	座標平面上で連立不等式の表す領域について解説し,演習を行う.また,領域における最大・最小について解説し,演習を行う.
19	累乗と累乗根,指数の拡張	累乗根とその性質,指数の整数・有理数への拡張と指数法則について解説し,演習を行う.
20	指数関数	指数関数とそのグラフ,指数方程式・不等式について解説し,演習を行う.
21	対数	対数の定義・性質,底の変換公式について解説し,演習を行う.
22	演習	指数関数および対数の計算について演習を行う.
23	中間試験	後期中間試験を行う.
24	後期中間試験の解答・解説,対数関数	後期中間試験の答案を返却し,解答を解説する.対数関数とそのグラフ,対数方程式・不等式について解説し,演習を行う.
25	常用対数	常用対数について解説し,演習を行う.
26	数列,等差数列	数列の基本事項,等差数列とその和について解説し,演習を行う.
27	等比数列,いろいろな数列(1)	等比数列とその和について解説し,演習を行う.また,和の記号 Σ の性質について解説し,演習を行う.
28	いろいろな数列(2),漸化式	さまざまな数列の和の計算方法について解説し,演習を行う.また,漸化式について解説し,演習を行う.
29	演習	24～28週の総合的な演習を行う.
30	後期定期試験の解答・解説,数学的帰納法	後期定期試験の答案を返却し,解答を解説する.数学的帰納法について解説し,演習を行う.
備考	前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	数学 I (Mathematics I)		
担当教員	[前期] 谷口 公仁彦 准教授, [後期] 吉村 弥子 准教授		
対象学年等	都市工学科・2年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	理工学系の基礎となる微分・積分学を講義する。概念の理解に重点を置き、豊富な演習を通じて運用能力を高める。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A1]関数の極限・連続性などの概念を理解し、いろいろな関数の極限と導関数を計算できる。		試験,レポート等で評価する。
2	[A1]様々な関数の微分係数・導関数・第2次導関数を計算でき、グラフの概形,関数の極値・最大最小,接線・法線,速度・加速度などに応用できる。		試験,レポート等で評価する。
3	[A1]不定積分・定積分の定義および性質を理解し、様々な関数の不定積分・定積分を計算できる。		試験,レポート等で評価する。
4	[A1]定積分を使って、面積,体積,曲線の長さなどを計算できる。		試験,レポート等で評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験70% 前期中間試験の代替課題15% レポート等15% として評価する。試験成績は前期定期試験,後期中間試験,後期定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「新 微分積分I」:高遠節夫 他 著 (大日本図書) 「新 微分積分I 問題集」:高遠節夫 他 著 (大日本図書) 「改訂版 チャート式 基礎と演習 数学II+B, 数学III」:チャート研究所編著(数研出版)		
参考書	新版数学シリーズ「新版 微分積分I」:岡本和夫 監修 (実教出版) 新版数学シリーズ「新版 微分積分I 演習」:岡本和夫 監修 (実教出版) 「新編 高専の数学2(第2版・新装版)」:田代嘉宏 他 編(森北出版) 「新編 高専の数学2問題集(第2版)」:田代嘉宏 編 (森北出版) 「大学・高専生のための 解法演習 微分積分I」:糸岐宣昭・三ツ廣孝 著 (森北出版)		
関連科目	1年の数学I・数学II		
履修上の注意事項	・時間に余裕がある場合には,発展的な話題を扱うこともある。・レポートは夏季休業前・冬季休業前等に課す。・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない。・前年度の学年末休業前に課された課題の成績をレポートの成績に加味する。		

授業計画(数学Ⅰ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	関数の極限	関数の極限について解説し,演習を行う。
2	関数の極限,微分係数	∞ を扱う関数の極限と微分係数について解説し,演習を行う。
3	導関数,導関数の性質	導関数と導関数の性質(和・差の導関数)について解説し,演習を行う。
4	導関数の性質	導関数の性質(積・商の導関数)について解説し,演習を行う。
5	三角関数・指数関数の導関数	三角関数・指数関数の導関数について解説し,演習を行う。
6	合成関数の導関数	合成関数の導関数について解説し,演習を行う。
7	対数関数の導関数	逆関数の導関数,対数関数の導関数について解説し,演習を行う。
8	逆三角関数とその導関数	逆三角関数とその導関数について解説し,演習を行う。
9	極限と導関数の復習	極限と導関数について復習と演習を行う。
10	導関数の復習	導関数について復習と演習を行う。
11	関数の連続,接線と法線	関数の連続,接線と法線について解説し,演習を行う。
12	関数の増減と極値	関数の増減と極値について解説し,演習を行う。
13	関数の最大・最小,不定形の極限	関数の最大・最小,不定形の極限について解説し,演習を行う。
14	演習	11~13週の内容について演習を行う。
15	定期試験の解答・解説,高次導関数	定期試験を返却し,解答・解説を行う。高次導関数について解説し,演習を行う。
16	高次導関数,曲線の凹凸	高次導関数,曲線の凹凸について解説し,演習を行う。
17	速度と加速度,媒介変数表示と微分法	速度と加速度,および媒介変数表示と微分法について解説し,演習を行う。
18	不定積分	不定積分について解説し,演習を行う。
19	定積分	定積分について解説し,演習を行う。
20	定積分の計算,いろいろな不定積分の公式	定積分の計算といろいろな不定積分の公式について解説し,演習を行う。
21	置換積分法・部分積分法	置換積分法・部分積分法について解説し,演習を行う。
22	置換積分法・部分積分法の応用	置換積分法・部分積分法の応用について解説し,演習を行う。
23	中間試験	中間試験を行う。
24	中間試験の解答・解説,いろいろな関数の積分	中間試験を返却し,解答・解説を行う。分数関数の積分について解説し,演習を行う。
25	いろいろな関数の積分	無理関数・三角関数の積分について解説し,演習を行う。
26	図形の面積,曲線の長さ	定積分の図形の面積,曲線の長さへの応用について解説し,演習を行う。
27	立体の体積	定積分の立体の体積への応用について解説し,演習を行う。
28	媒介変数表示による図形,極座標による図形	媒介変数表示による曲線で作られる図形の面積,曲線の長さ,回転体の体積,極座標による図形の面積について解説し,演習を行う。
29	極座標による図形,広義積分	極座標による図形の曲線の長さ,広義積分について解説し,演習を行う。
30	定期試験の解答・解説,変化率と積分	定期試験を返却し,解答・解説を行う。変化率と微分・積分の関係,速度・加速度について解説し,演習を行う。
備考	前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科目	数学Ⅱ (Mathematics II)		
担当教員	北村 知徳 准教授		
対象学年等	都市工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	工学,自然科学,社会学など幅広い分野で利用される線形代数学の基礎について講義し,演習を行う. 発展的な事項も適宜補う予定である.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】ベクトルの意味およびその性質を理解し,基本的な計算ができる.		ベクトルの意味およびその性質を理解し,基本的な計算ができるかどうか試験,前期中間試験の代替課題,レポート,小テストで評価する.
2	【A1】ベクトルの考え方を利用して平面や空間の図形を扱える.		ベクトルの考え方を利用して平面や空間の図形を扱えるかどうか試験,前期中間試験の代替課題,レポート,小テストで評価する.
3	【A1】複素数と複素数平面について理解し,実際に計算ができる.		複素数と複素数平面について理解し,実際に計算ができるかどうか試験,レポート,小テストで評価する.
4	【A1】行列の意味およびその演算方法を理解し,基本的な計算ができる.		行列の意味およびその演算方法を理解し,基本的な計算ができるかどうか試験,レポート,小テストで評価する.
5	【A1】線形変換を理解し,2次元における線形変換の基本的な計算ができる.		線形変換を理解し,2次元における線形変換の基本的な計算ができるかどうか試験,レポート,小テストで評価する.
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験70% 小テスト10% 前期中間試験の代替課題10% レポート10% として評価する.試験成績は前期定期試験,後期中間試験,後期定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト	「新 線形代数」: 高遠節夫 他 著 (大日本図書) 「改訂版 チャート式 基礎と演習 数学III」: チャート研究所 編著 (数研出版) 「新 線形代数 問題集」: 高遠節夫 他 著 (大日本図書)		
参考書	「改訂版 チャート式 基礎と演習 数学II+B」: チャート研究所 編著 (数研出版) 「数研講座シリーズ 大学教養 線形代数」: 加藤文元 著 (数研出版) 「新編 高専の数学2 [第2版・新装版]」: 田代嘉宏,難波完爾 編 (森北出版) 「教養の線形代数 四訂版」: 村上正康 他 著 (培風館) 「新版数学シリーズ 新版 線形代数 演習」: 岡本和夫 他 著 (実教出版)		
関連科目	1年の数学I, 数学II		
履修上の注意事項	・参考書に挙げた書籍は全部買い揃える必要はない.		

授業計画(数学Ⅱ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	平面ベクトル	ベクトルの基本的な概念,用語などを導入する.ベクトルの和,差,スカラー倍とこれらの演算に関する基本的な性質を学ぶ.
2	平面ベクトルの成分	ベクトルの成分表示を学ぶ.
3	平面ベクトルの内積	ベクトルの内積について学ぶ.
4	ベクトルの平行と垂直	ベクトルの平行条件,垂直条件を学ぶ.
5	平面ベクトルの図形への応用	ベクトルの観点か直線,法線ベクトルなどの扱い方を学ぶ.
6	空間座標,空間ベクトル	空間座標の基本的な扱い方および空間ベクトルとその成分について学ぶ.
7	空間ベクトルの内積	空間ベクトルの内積について学ぶ.
8	空間内の直線の方程式	空間内の直線とその方程式について学ぶ.
9	平面ベクトルの復習(1)	平面ベクトルの復習および演習を行う.
10	平面ベクトルの復習(2)	平面ベクトルの復習および演習を行う.
11	空間内の平面の方程式	空間内の平面とその方程式について学ぶ.
12	空間内の球面の方程式	空間内の球面とその方程式について学ぶ.
13	空間ベクトルの復習	空間ベクトルの復習および演習を行う.
14	空間内の直線,平面,球面の方程式の復習	空間内の直線,平面,球面の方程式の復習および演習を行う.
15	試験返却,演習	前期定期試験の答案を返却し解答を解説する.空間ベクトルに関する演習を行う.
16	複素数平面	複素数平面上での複素数の扱い方を学ぶ.
17	極形式	複素数の極形式について学ぶ.
18	ド・モアブルの定理	ド・モアブルの定理について学び,n乗根を計算する.
19	図形への応用	複素数の図形への応用について学ぶ.
20	演習	複素数についての総合演習を行う.
21	行列の定義	行列の概念と用語などが導入される.
22	行列の和,差,スカラー倍,行列の積	行列の基本的な演算について学ぶ.
23	中間試験	中間試験を行う.
24	試験返却,転置行列	後期中間試験の答案を返却し,解答を解説する.転置行列について学ぶ.
25	逆行列	逆行列について学ぶ.
26	線形変換の定義	線形変換の概念と点の変換について学ぶ.
27	線形変換の性質	線形変換による直線の像について学ぶ.
28	合成変換と逆変換	線形変換の合成と逆変換について学ぶ.
29	回転を表す線形変換	回転を表す線形変換について学ぶ.
30	試験返却,演習	後期定期試験の答案を返却し,解答を解説する.行列と線形変換に関する演習を行う.
備考	前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	数学 I (Mathematics I)		
担当教員	菅野 聡子 教授		
対象学年等	都市工学科・3年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	理工学系の基礎となるテイラー展開, 偏微分, 重積分, 微分方程式について講義する. 概念の理解に重点をおき, 基本問題, 応用問題の演習で基礎を固め, さらに応用力をつけて運用能力を高める.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A1]ロピタルの定理, テイラーの定理などを使って, 関数の極限值, 近似値などの計算ができる.		ロピタルの定理, テイラーの定理などを使って, 関数の極限值, 近似値などの計算ができるかどうかレポートで評価する.
2	[A1]分数関数, 三角関数などの様々な関数の不定積分を求めることができる.		分数関数, 三角関数などの様々な関数の不定積分を求めることができるかどうかレポートで評価する.
3	[A1]定積分を使って, 面積, 体積, 曲線の長さが計算できる.		定積分を使って, 面積, 体積, 曲線の長さが計算できるかどうか試験で評価する.
4	[A1]偏導関数の計算ができ, 偏導関数を応用し, 極値や条件付き極値を求めることができる.		偏導関数の計算ができ, 偏導関数を応用し, 極値や条件付き極値を求めることができるかどうか試験で評価する.
5	[A1]重積分の計算ができる.		重積分の計算ができるかどうか試験で評価する.
6	[A1]微分方程式とその解について理解し, 1階微分方程式, 2階微分方程式が解ける.		微分方程式とその解について理解し, 1階微分方程式, 2階微分方程式が解けるかどうか試験で評価する.
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は, 試験70% レポート30% として評価する. 試験成績は前期定期試験, 後期中間試験, 後期定期試験の平均とする. 100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト	「新版数学シリーズ 微分積分 II」: 岡本 和夫 編 (実教出版) 「新版数学シリーズ 微分積分 II演習」: 岡本 和夫 編 (実教出版)		
参考書	「新編 高専の数学3 (第2版)」: 田代 嘉宏 著 (森北出版) 「改訂版 チャート式 基礎と演習 数学III」: チャート研究所 編著 (数研出版) 「入門 微分積分」: 三宅 敏恒 著 (培風館) 「大学・高専生のための解法演習 微分積分II」: 糸岐 宣昭 他 著 (森北出版) 「高専テキストシリーズ 微分積分2 問題集」: 上野健爾 監修 (森北出版)		
関連科目	1,2年の数学I, 数学II		
履修上の注意事項	・時間に余裕がある場合には, 発展的な話題を扱うこともある. ・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない. ・前年度の学年末休業前に課された課題の成績をレポートの成績に加味する.		

授業計画(数学Ⅰ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	曲線の媒介変数方程式,極座標と曲線	媒介変数で表示された曲線の概形を調べる方法を学習する.
2	陰関数の微分法	陰関数の微分法について理解し,計算をする.
3	不定形の極限值	ロピタルの定理を用いて不定形の極限を求める.
4	テイラーの定理	テイラー展開,マクローリン展開を使って関数の近似式を求める.
5	有理関数の不定積分	有理関数の不定積分を求める.
6	三角関数の有理式の不定積分	三角関数の有理式の不定積分を求める.
7	無理関数の不定積分	無理関数の不定積分を求める.
8	面積	定積分を使って図形の面積を計算する.
9	復習	1~8週目までの復習および演習を行う.
10	曲線の長さ	定積分を使って曲線の長さを計算する.
11	体積	定積分を使って立体の体積を計算する.
12	広義積分	広義積分について理解し,広義積分を計算する.
13	2変数関数	2変数関数の概念を理解し,極限值や連続性を調べる.
14	偏導関数,合成関数の偏導関数	偏導関数について理解し,様々な偏導関数の計算をする.
15	試験返却,全微分と接平面	定期試験の答案を返却し,解答を解説する.全微分と接平面について理解し,接平面の方程式を求める.
16	2変数関数の極大・極小	偏導関数を使って極値の計算をする.
17	陰関数定理	陰関数定理について理解し,極値や特異点を求める.
18	条件付き極大・極小	条件付きの関数の極値について理解し,極値を求める.
19	2重積分	2重積分について理解し,計算をする.
20	積分の順序変更	積分順序の変更を理解し,計算をする.
21	変数変換	変数変換により2重積分の計算をする.
22	体積	2重積分を使って体積を求める.
23	中間試験	中間試験を行う.
24	試験返却,微分方程式と解	中間試験の答案を返却し,解答を解説する.微分方程式と一般解,特殊解,特異解について理解する.
25	変数分離形	変数分離形の微分方程式を解く.
26	同次形	同次形の微分方程式を解く.
27	1階線形微分方程式	1階線形微分方程式を解く.
28	2階微分方程式	2階微分方程式を1階微分方程式に直して解く.
29	定数係数2階同次線形微分方程式	定数係数2階同次線形微分方程式を解く.
30	試験返却,問題演習	定期試験の答案を返却し,解答を解説する.微分方程式に関する問題演習を行う.
備考	前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	確率・統計 (Probability and Statistics)		
担当教員	児玉 宏児 教授		
対象学年等	都市工学科・4年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)	JABEE基準	(c),(d)
授業の概要と方針	1年次に学んだ確率の基礎を踏まえて,確率や統計の考え方を必要とする場面に直面したとき,必要な基礎的知識を講義する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】データを解析するときの統計の考え方を理解する。		中間試験・定期試験・レポートで評価する。
2	【A1】確率変数と確率分布の概念を理解する。		中間試験・定期試験・レポートで評価する。
3	【A1】二項分布,正規分布を理解し,具体例の確率などを計算できる。		中間試験・定期試験・レポートで評価する。
4	【A1】推定・検定の考え方を理解し,具体例を扱える。		中間試験・定期試験・レポートで評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験60% レポート20% 前中間試験代替課題20% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「新 確率統計」:高遠 節夫 他 著(大日本図書) 「新確率統計問題集」 高遠節夫他,(大日本図書)		
参考書	「新版 確率統計」:岡本 和夫 監修(実教出版) 「新版 確率統計演習」:岡本 和夫 監修(実教出版) 「キーポイント 確率・統計」:和達 三樹・十河 清 著 (岩波書店) 「これだけは知っておこう! 統計学」:東北大学統計グループ 著 (有斐閣ブックス) 「Rで楽しむ統計」:奥村 晴彦 著(共立出版)		
関連科目	1年数学I,II,2年数学I,II,3年数学I		
履修上の注意事項	・授業中に電卓が必要な場合がある。・時間に余裕がある場合には,発展的な話題を扱うこともある。・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない。		

授業計画(確率・統計)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	1次元のデータと代表値	1次元のデータの整理とそれに関する基礎的な用語を学習する.平均などの代表値について学習する.
2	散布度	1次元のデータにおける散布度(分散,標準偏差)の意味を理解し,その計算方法を学習する.
3	2次元のデータ	2次元のデータの整理とそれに関する基礎的な用語を学習する.共分散と相関係数について学習する.
4	回帰直線	回帰直線の方程式を学習する.
5	確率変数と確率分布	確率変数,確率分布の基本的な概念や性質を学習する.
6	二項分布	二項分布の考え方と計算方法を学習する.
7	ポアソン分布	ポアソン分布の考え方と計算方法を学習する.
8	連続型確率分布	連続型確率分布と確率密度関数の概念を学習する.
9	正規分布	正規分布の基礎を学習し,関連した確率の計算方法を学習する.また,二項分布の正規分布による近似について学習する.
10	母集団と標本	母集団と標本の関係,さらに標本平均の分布と中心極限定理について学習する.
11	母数の推定(1)	点推定,区間推定の考え方,信頼係数や信頼区間について学習する.
12	母数の推定(2)	母平均と母比率の区間推定について学習する.
13	統計的検定(1)	仮説検定の考え方,用語について学習する.
14	統計的検定(2)	母平均と母比率の検定について学習する.
15	演習,試験の解説	推定・検定の演習を行う.定期試験の解答・解説も行う.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期定期試験を実施する.	

科目	物理 (Physics)		
担当教員	谷口 博 教授		
対象学年等	都市工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	物理的な事象・現象についての観察・考察などを通して、物理学的に探究する能力と態度を育てる。さらに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、それを活用する能力を育成する。第一学年では、特に物理の基礎部分である力学を学ぶ。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】等加速度直線運動の「速度と時刻」、「位置と時刻」、「速度と変位」の関係式を理解し、活用できる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
2	【A2】運動の第1法則、第2法則、第3法則を理解し、活用できる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
3	【A2】運動量保存の法則を理解し、活用できる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
4	【A2】力学的エネルギー保存の法則を理解し、活用できる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
5	【A2】力のつり合いの条件やモーメントを理解し、活用できる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
6	【A2】圧力と浮力について理解し、活用できる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
7	【A2】測定値の取り扱いと計算方法を理解し、有効数字の桁数に注意して計算ができる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% レポート25% 小テスト5% として評価する。試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。最終成績は、100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「高専テキストシリーズ 物理(上) 力学・波動」潮秀樹監修(森北出版)+「1年物理授業ノート」(神戸高専/谷口博) 「フォトサイエンス 物理図録」(数研出版) 「セミナー 物理基礎+物理」(第一学習社)		
参考書	「高専テキストシリーズ 物理(下) 熱・電磁気・原子」潮秀樹監修(森北出版) 「親切的な物理(上・下)」渡辺久夫著(復刊ドットコム) 「体系物理 第6版」下妻 清著(教学社) 「新・物理入門」山本義隆著(駿台文庫) 「理科年表」国立天文台編集(丸善)		
関連科目	国語, 数学I, 数学II		
履修上の注意事項	(i)授業計画とテキストに従い、必ず予習をすること。学んだことを定着させるため、必ず復習や問題演習等の自習学習を行うこと。(ii)物理を理解するためには、数学の知識、考えの伝達(回答やレポートの記述)や考えの享受(文章理解)の能力も必要である。数学や国語もよく勉強すること。(iii)携帯電話、等の授業に関係のない機器の使用、ならびに授業妨害につながる言動を行った者は、原則として教室より退室させ欠席扱いとする。		

授業計画(物理)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	物理学導入,測定値の計算方法	1・2・3年次の物理で学ぶ,力学,熱,波動,電磁気,原子を概観する.測定値の計算方法を学び,有効数字について理解する.
2	直線運動1(平均の速度・加速度)	直線運動での速度と加速度の平均値について考察する.
3	直線運動2(x-t,v-t,a-tグラフ)	位置と時刻,速度と時刻,加速度と時刻の関係をグラフを使って考察する.
4	直線運動3(瞬間の速度・加速度)	平均の速度と瞬間の速度について考察する.
5	直線運動4(まとめ)	等加速度直線運動を数式を用いて理解する.
6	運動の法則1(力,第一法則)	力の種類と動かし易さ・難さについて考察する.
7	運動の法則2(第二法則,第三法則)	力と加速度の関係(運動方程式),2つの物体の間にはたらく力の関係(作用反作用の法則)について考察する.
8	中間試験	習熟度をみるために中間試験を行う.
9	中間試験の解説	中間試験の解説を行う.
10	運動の法則3(まとめ)	慣性の法則,運動方程式,作用反作用の法則についてのまとめを行う.
11	いろいろな直線運動1(方程式作成)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用する.
12	いろいろな直線運動2(自由落下)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用する.
13	いろいろな直線運動3(摩擦と斜面)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用する.
14	運動量(力積と運動量・運動量保存の法則)	「力とその力がはたらいた時間の積」と「物体の質量と速度の積」について考察する.作用反作用の法則から運動量保存の法則を導出する.
15	定期試験の解説,力学的エネルギー序説	定期試験の解説を行う.物理における仕事について概説する.
16	力学的エネルギー1(仕事)	物理における仕事について理解する.
17	力学的エネルギー2(運動,位置)	仕事と運動・位置エネルギーについて考察する.
18	力学的エネルギー3(保存法則)	摩擦などが無い条件での運動エネルギーと位置エネルギーの関係について考察する.
19	力学的エネルギー4(まとめ)	力学的エネルギーについてのまとめを行う.
20	平面・空間運動1(ベクトルとスカラー)	大きさと向きを持つ量と大きさだけを持つ量について,その表記方法と数学的取り扱いを理解する.
21	平面・空間運動2(速度と運動量,力)	直線運動で学んだ速度や運動量などの知識を平面や空間運動の場合に拡張する.
22	平面・空間運動3(運動方程式,仕事)	平面運動での運動方程式と仕事について考察する.
23	中間試験	習熟度をみるために中間試験を行う.
24	中間試験の解説	中間試験の解説を行う.
25	いろいろな空間運動4(等速円運動)	等速円運動における速さや加速度について理解する.
26	いろいろな空間運動5(惑星の運動)	ケプラーの3法則と万有引力について考察する.
27	いろいろな空間運動6(単振動)	バネ振り子の運動について考察する.
28	剛体に働く力(モーメント,つりあい)	剛体に働く力のつりあいやモーメントを理解する.
29	流体に働く力(圧力,浮力)	圧力と浮力について考察する.
30	定期試験の解説,力学の復習	定期試験の解説を行う.1年次に学習した力学について総復習を行う.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	化学 (Chemistry)		
担当教員	佐藤 洋俊 教授		
対象学年等	都市工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	<p>高学年の専門的な研究では様々な物質を扱うため、化学的視点が欠かせない。化学物質に関する情報を身につけ、特性を生かして研究に応用し、危険性を認識して安全に配慮しなければならない。本科目では身近な物質や専門的器具・薬品を使用し、実験題材を数多く利用して学習し、基本的な考え方を養いそれらに応用できるよう学生自ら考える授業を展開していく。</p>		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】試薬・溶液の特徴に注意し、器具を適正に使用して、安全に実験を行うことができる。		試験・実験レポート・小テストで評価する。
2	【A2】実験から得られた結果について考察し、化学反応の量的関係を理解できる。		試験・実験レポート・小テストで評価する。
3	【A2】化学の基本法則を理解し、化学反応式を元に計算をすることができる。		試験・小テストで評価する。
4	【A2】化学物質と社会とのつながりを理解できる。		試験・小テストで評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	<p>成績は、試験70% レポート15% 小テスト15% として評価する。試験成績は、中間と定期の平均とする。班・個人のレポートや小テストで合計30%で評価する。指示に従わず危険な行為を行った場合は特別指導を行う。100点満点で60点以上を合格とする。再試験を実施する場合は60点以上で合格とし、当該試験の点数を60点とする</p>		
テキスト	<p>Professional Engineer Library化学(実教出版) 「五訂版 リードα 化学基礎+化学」(数研出版) 一般化学 (神戸高専)</p>		
参考書	<p>「フォトサイエンス化学図録(新課程用)」(数研出版) 「化学I・IIの新研究」ト部吉庸 著(三省堂)</p>		
関連科目	物理, 数学		
履修上の注意事項	原則として化学実験室において行う。		

授業計画(化学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	混合物の分離	混合物は様々な操作によって純物質に分離することができる。実験を通じて学ぶ。
2	物質の構成と混合物の分離	物質には2種類以上の物質からなる混合物と1種類の物質からできている純物質がある。また、実験室の主な実験器具の使用方法について実験を通じて説明する。
3	化合物と単体	実験を通じて蒸留装置の正しい使い方、物理変化と化学変化の違い、元素について学ぶ。
4	原子の構造	原子は、原子核とそれをとりまいくつかの電子で構成されている。原子の構造における規則性を学ぶ。
5	同位体、電子殻、電子配置	電子は電子殻に存在している。各元素の原子では、電子殻に存在する電子数は一定である。
6	溶液の電導性と電子配置の関係	イオンは電荷をもつ粒子であり、陽イオンと陰イオンに分類される。実験を通じてイオンの生成、元素の周期表について学ぶ。
7	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合などについて学ぶ。
8	中間試験(前期)	教科書、ノートの持ち込みは不可、計算機の持ち込みは事前に指示する。
9	中間試験の解答・解説、物質量(原子や分子の数え方)	中間試験の解答・解説を行う。実験を通じて物質量(mol)の考え方を学ぶ。
10	物質量の応用、発生する気体量の予想	化学反応式の係数から、その反応における物質の量的関係を知ることができる。実験を通じて学ぶ。
11	化学反応式と実験への応用	化学反応式の作り方を実験を通じて学ぶ。
12	化学反応式と量の関係	実験を通じて化学反応式から反応比を考え、必要な物質量を計算する方法を学ぶ。
13	物質の三態とその変化	実験を通じて物質の三態の違い、状態変化の呼び方、状態図について学ぶ。
14	気体の圧力と蒸気圧	実験を通じて気圧の定義、蒸気圧曲線について学ぶ。
15	定期試験の解答・解説、物質の三態と気体について	定期試験の解答・解説を行う。物質の三態と気体について学ぶ。
16	ボイルの法則・シャルルの法則	実験を通じて、気体の体積と圧力の関係・気体の体積と温度の関係について学ぶ
17	ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式	ボイル・シャルルの法則から気体定数を導く方法を学ぶ。
18	気体の状態方程式実験	気体の状態方程式を応用し、実験を通じて分子量を計算する方法を学ぶ。
19	溶解、溶液、溶媒、溶質	実験を通じて溶解の仕組みについて学ぶ。
20	溶解度	ある温度において、一定量の溶媒に溶解しうる溶質の質量を溶解度という。
21	濃度	モル濃度は、溶液1リットル中に溶解している溶質の物質量で表した濃度である。
22	酸と塩基・中和反応式	酸や塩基は、水溶液中で水素イオンや水酸化物イオンを生じる。また、酸と塩基が反応して、互いにその性質を打ち消すことを中和といい、水分子と塩が生成する。これらを実験を通じて学ぶ。
23	中間試験(後期)	教科書、ノートの持ち込みは不可、計算機の持ち込みは事前に指示する。
24	中間試験の解答・解説、中和滴定	中間試験の解答・解説を行う。濃度既知の塩基(酸)を用いて、濃度未知の酸(塩基)の濃度を求める操作を中和滴定という。計算及び操作方法についても学び、身の回りの実試料分析へ適用する。
25	pHと水素イオン濃度	水溶液の酸性、アルカリ性は、水素イオン指数によって表される。身の回りの溶液についてpHを調べ、水素イオン濃度との関係を実験を通じて学ぶ。
26	中和反応とpH	中和滴定曲線、塩の水溶液の液性について学ぶ。
27	酸化と還元	酸化還元反応は、酸素の授受だけではなく、水素や電子の授受でも説明される。実験を通じて、その考え方を学ぶ。
28	金属のイオン化傾向と酸化数	金属の単体には、水溶液中で電子を失って陽イオンになろうとする性質があり、これを金属のイオン化傾向という。実験を通じて学ぶ。
29	酸化・還元とイオン化傾向の応用	イオン化傾向を応用して、日常生活で応用されている化学の原理を実験を通じて学ぶ。
30	定期試験の解答・解説、論理的思考についての講話と実習	定期試験の解答・解説を行う。論理的思考についての講話と実習を行う。
備考	前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	物理 (Physics)		
担当教員	高見 健太郎 准教授		
対象学年等	都市工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	物理的な事象・現象についての観察・考察などを通して、物理学的に探究する能力と態度を育てる。さらに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、それを活用する能力を育成する。第二学年では、熱力学、電磁気学、波動の基礎を学ぶ。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A2]温度と熱について理解し、活用ができる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
2	[A2]電磁気について理解し、活用ができる。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
3	[A2]波動の基本的な性質を理解し、活用できるようにする。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% レポート30% として評価する。なお、試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「高専テキストシリーズ 物理(上) 力学・波動」潮秀樹監修(森北出版) 「高専テキストシリーズ 物理(下) 熱・電磁気・原子」潮秀樹監修(森北出版) 「セミナー 物理基礎+物理」(第一学習社)		
参考書	「フォトサイエンス 物理図録」(数研出版) 「高専の物理問題集[第3版]」田中富士男編著(森北出版) 「理科年表」国立天文台編集(丸善) 「理化学辞典」長倉三郎他編集(岩波書店)		
関連科目	国語, 数学I, 数学II		
履修上の注意事項	(i)授業計画とテキストに従い、必ず予習をすること。学んだことを定着させるため、必ず復習や問題演習等の自習学習を行うこと。(ii)物理を理解するためには数学的知識は必須となるので、数学をしっかりと勉強すること。また、考えの伝達・享受の能力も必要なので、国語も勉強すること。(iii)授業中における携帯電話やゲーム機の使用、ならびに授業妨害につながる言動を行った者は、原則として教室より退室させ欠席扱いとする。		

授業計画(物理)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	温度と熱	絶対温度,熱,内部エネルギーなどの概念を理解する。
2	熱量	熱力学に特有な熱量,熱容量,比熱の概念を理解する。
3	比熱の測定	物体間の熱量の出入りから,比熱について考察する。
4	理想気体	理想気体について成り立つ,ボイルの法則,シャルルの法則,ボイル・シャルルの法則を確認し,理想気体の状態方程式を理解する。
5	気体の分子運動論	力学の概念を用いて,気体の分子運動論を理解する。
6	熱力学第一法則	熱力学第一法則を理解し,その応用を考える。
7	熱力学第二法則	熱力学第二法則を理解し,その応用を考える。
8	中間試験	習熟度をみるために中間試験を行う。
9	中間試験の解説	中間試験の答え合わせと解説を行う。
10	静電気力	電荷の性質や電荷の間に働く力を理解する。
11	電界と電位	電界・電気力線・電位などを考察する。さらにガウスの法則の使い方を理解する。
12	コンデンサー	コンデンサーの仕組みを理解し,その応用を考える。
13	直流	電流と電荷の速度の関係,オームの法則,抵抗率について理解する。
14	キルヒホッフの法則	回路において起電力の代数和が電圧降下に等しいことを理解し,キルヒホッフの法則を適用して回路を流れる電流を考察する。
15	定期試験の解説	定期試験の答え合わせと解説を行う。
16	ジュール熱	抵抗によって発生するジュール熱について理解する。また,電力と電力量の関係を考える。
17	電流がつくる磁界	電流が磁界をつくることを理解し,直線電流・円形電流・ソレノイドの場合などについて考察する。
18	電流が磁界から受ける力	磁界,磁束密度,磁束の関係を理解し,磁界中の電流が受ける力の大きさやその方向を考察する。
19	ローレンツ力	磁界中を運動する荷電粒子が受ける力であるローレンツ力を理解する。また,その応用を考える。
20	電磁誘導	導体を貫く磁束の変化によって生じる誘導起電力について理解する。また,直流における自己誘導・相互誘導の現象を考察する。
21	交流	交流の性質を学び,実行値,誘導リアクタンス,容量リアクタンス,インピーダンスの概念を理解する。
22	電気振動と電磁波	コイルとコンデンサーの組み合わせにより電気振動が起きることを理解する。さらに,それが電磁波の送受信に関連していることを理解する。
23	中間試験	習熟度をみるために中間試験を行う。
24	中間試験の解説	中間試験の答え合わせと解説を行う。
25	正弦波	周期,角振動数,振動数,波長などの基本的な概念と,波動の基本の形である正弦波の表式を理解し,自在に変形できるようにする。
26	干渉と重ね合わせの原理	波動に特有な現象として,干渉を起こし,重ね合わせの原理により波の振幅が決定されることを理解する。
27	自由端・固定端反射	固定端と自由端でそれぞれで反射するときに,位相がどうずれるかを理解する。また,それによって生じる合成波について考察する。
28	定常波	互いに逆向きで同じ波長の進行波から,定常波が生じることを理解する。
29	波の干渉・回折・反射・屈折	ホイヘンスの原理を用いることで,波に特有な現象である干渉・回折・反射・屈折の現象を理解する。
30	定期試験の解説	定期試験の答え合わせと解説を行う。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。第8回および第23回に中間試験を実施と記載しているが,新型コロナウイルスの影響を受け,その実施回を変更する可能性がある。その場合は,事前に通知する。	

科目	化学 (Chemistry)		
担当教員	大塩 愛子 准教授		
対象学年等	都市工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	我々の生活は多くの化学物質に支えられている。しかし、化学物質は便利であると共に、有害で危険な影響を及ぼすものも存在する。専門的な研究では、この影響や特性に配慮しなければならず、その為には物質の基本となる化学の知識・視点が必要となる。本科目では、化学に対する基本的な考え方と応用力を養うため、身近な物質や専門的な器具・薬品を用いた学習を行い、学生自らが考える授業を展開する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】試薬・器具を適正に取り扱い、安全に実験を行うことができる。		試験・レポート・小テストで評価する。
2	【A2】実験から得られた結果を整理し、考察を行うことができる。		試験・レポート・小テストで評価する。
3	【A2】化学の基本法則を学び、化学反応の特徴を理解している。		試験・レポート・小テストで評価する。
4	【A2】化学物質の特性を理解し、社会での利用を認識している。		試験・レポート・発表で評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% レポート15% 小テスト15% として評価する。試験成績は中間と定期の平均点とする(今年度に限り、前期の試験成績は定期のみで算出)。指示に従わず危険な行為を行う者は特別課題の提出を求める。100点満点で60点以上を合格とする。再試験を実施する場合は70点以上で合格とし、該当する試験の点数を60点とする。		
テキスト	「Professional Engineer Library 化学」(実教出版) 「視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録」(数研出版) 「改訂版 リードα 化学基礎+化学」(数研出版)		
参考書	「化学I・IIの新研究」ト部吉庸 著(三省堂)		
関連科目	物理, 数学, 生物		
履修上の注意事項	講義は主としてHR教室にて行い、実験の際は化学実験室(一般科棟B棟5階)で行う。教室変更の際はその都度指示をする。問題集や化学図録は適宜使用する。毎回持参すること。		

授業計画(化学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入,反応熱	化学反応におけるエネルギーの出入りを数値を用いて表現する手法について学ぶ。
2	燃焼熱・生成熱・中和熱・溶解熱	反応熱について,熱化学方程式で対応できることを学ぶ。
3	ヘスの法則,結合エネルギー	未知の反応熱を知るときは,ヘスの法則を利用する。その手法と理論的理解を行う。さらに,結合は一種のエネルギーとみなすことができることから,その考え方について学ぶ。
4	演習	反応熱についてこれまでの範囲の演習を行う。
5	反応速度と化学平衡	化学反応の速度について学ぶ。また,化学反応は必ずしも一方通行のものではなく,その仕組みについても学ぶ。
6	水素と18族元素(希ガス)	水素や希ガスの特徴・反応性について学ぶ。
7	14族元素(炭素とケイ素)	炭素とケイ素の特徴・反応性について学ぶ。
8	15族元素(窒素とリン)	窒素とリンの特徴・反応性について学ぶ。
9	16族元素(酸素と硫黄)	酸素と硫黄の特徴・反応性について学ぶ。
10	17族元素(ハロゲン)	ハロゲンの特徴・反応性について学ぶ。
11	1族元素(アルカリ金属)	1族の元素から水素を除いた金属元素をアルカリ金属と言う。アルカリ金属が持つ特徴や反応について学び,その用途について解説する。
12	12族元素(亜鉛と水銀)	亜鉛と水銀の特徴・反応性について学び,その化合物の性質と用途について解説する。
13	8族元素(鉄)	鉄の特徴・反応性について学び,その化合物の性質と用途について解説する。
14	11族元素(銅・銀)	銅や銀の特徴・反応性について学び,身近な利用例を解説する。
15	定期試験の解説,有機化合物について	定期試験の解説を行う。また,有機化学分野の導入を行う。
16	有機化合物の特徴・構造・分類	炭素を含む化合物を有機化合物と呼ぶ。その分類について学ぶ。さらに,有機化合物は大きく分けて炭化水素基と官能基から構成されている。官能基による有機化合物の分類とその性質を学ぶ。
17	分子モデルと異性体	有機化合物は分子式だけでは構造が特定できない。分子式・示性式・構造式の違いを理解して,分子の立体構造と異性体について学ぶ。
18	いろいろな炭化水素	炭素と水素のみからできた有機化合物を炭化水素と呼ぶ。アルカン・アルケン・アルキンについて代表的な物質を例に挙げてそれぞれの製法や反応を学ぶ。
19	化学式の決定	試料から化学式を導く手法について学ぶ。
20	アルコールの性質(1)	アルコールの構造,性質を調べ,その相関性について学ぶ。
21	アルコールの性質(2)	アルコールの持つ反応性について学ぶ。
22	エーテル	エーテルの構造とその性質について学ぶ。
23	中間試験(後期)	教科書,ノートの持ち込みは不可。計算機の持ち込みは事前に指示する。
24	中間試験の解説,エステル	中間試験の解説を行う。エステルについて学ぶ。
25	油脂とセッケン	油脂とは,高級脂肪酸とグリセリンのエステルである。油脂とセッケンの関係を学ぶ。
26	セッケンの合成	いくつかの油脂を使用してセッケンの合成実験を行い,油脂による違いを比較する。
27	有機化合物と人間生活(1)	身近な染料と医薬品についてその歴史や分類,性質を学ぶ。
28	有機化合物と人間生活(2)	有機化合物は遠い存在のものではない。我々が口にする炭水化物も有機化合物である。代表的な糖とアミノ酸の構造と性質について学ぶ。
29	タンパク質	タンパク質の構造や性質について学ぶ。
30	定期試験の解説,実験で作成したセッケンの洗浄力の比較	定期試験の解説を行う。さらに,試験前に作成したセッケンの洗浄力の比較実験を行う。
備考	前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する。各試験とも,電卓の持ち込みは可とする(必要な時は予め周知する)。今年度は前期中間試験を行わない。遠隔授業の範囲は小テストやレポートで確認し,前期の成績に反映させる。	

科目	地学 (Earth and Planetary Science)		
担当教員	福江 慧 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	宇宙や地球の成り立ちとその構成について、「太陽系と惑星」、「地球の構造」、「地球の歴史」、「大気と海洋」、「地球環境問題」、「宇宙」をキーワードとして、幅広い内容について学習する。関連する分野が物理、化学、生物、地理と多岐にわたる学際的な分野であることを鑑みて、網羅的に学習するのではなく、地球の営みが相互に関係していることを体系的に学ぶ。また、人類が直面している具体的問題を取り上げ、社会人や技術者が備えているべき教養の涵養を目指す。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A2]地球の内部構造とプレートや地殻の運動について理解する。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
2	[A2]地球の火山活動と鉱物、火成岩と堆積岩、地表の変成作用について理解する。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
3	[A2]大気の大気構造と運動、雲の形成や降水過程、気象予報のしくみについて理解する。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
4	[A2]海洋の構造と運動、波と潮汐、エルニーニョやラニーニャについて理解する。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
5	[A2]地球環境問題と自然災害のメカニズムについて理解する。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
6	[A2]太陽系と太陽系の惑星、地球の自転と公転について理解する。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
7	[A2]太陽を含む恒星の構造と活動、宇宙の構造と進化について理解する。		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% レポート30% として評価する。なお、試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「地学」(啓林館) 「センサー地学」(啓林館) 「フォトサイエンス 地学図録」(数研出版)		
参考書	「地学は何ができるか—宇宙と地球のミラクル物語—」日本地質学会監修(愛智出版) 「宇宙と地球環境」石田恵一著(成山堂書店) 「一般気象学」小倉 義光著(東京大学出版会) 「地球・環境・惑星系」土居恒成 訳 パリテイ編集委員会編(丸善) 「現代地球環境論」和田 武・小堀洋美著(創元社)		
関連科目	物理,化学,生物,地理,高専生のための防災・減災入門		
履修上の注意事項	(i)授業計画とテキストに従い、必ず予習をすること。学んだことを定着させるため、必ず復習や問題演習等の自習学習を行うこと。(ii)地学を理解するためには、他の理科科目(特に物理や化学)の知識も必要となります。他の理科科目もしっかりと勉強すること。(iii)授業中における携帯電話やゲーム機の使用、ならびに授業妨害につながる言動を行った者は、原則として教室より退室させ欠席扱いとする。		

授業計画(地学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	地球の構造1	地球の形や大きさ,重力と地磁気について学習する。
2	地球の構造2	地球の内部構造について学習する。
3	地球の構造3	プレートの運動について学習する。
4	地球の構造4	地震と地殻変動について学習する。
5	地球の構造5	火山活動とその噴出物について学習する。
6	地球の構造6	鉱物と火成岩について学習する。
7	地球の構造7	変成作用について学習する。
8	中間試験	これまでに学んだ範囲について出題する。
9	試験返却と解説.地球の歴史1	試験返却と試験の解説を行う.地表の変化・風化・土壌や河川地形,海岸地形,水河地形と堆積岩について学習する。
10	地球の歴史2	地層の形成,地質図,化石について学習する。
11	地球の歴史3	原始大気・原始海洋の形成,生命の誕生と大量絶滅について学習する。
12	地球の歴史4	人類の進化,日本列島の形成について学習する。
13	大気と運動1	大気と運動,雲の形成と降水のしくみ,大気の安定性について学習する。
14	大気と運動2	太陽放射と地球放射,温室効果,大気の大循環,温帯低気圧と偏西風変動,高層天気図について学習する。
15	試験返却と解説.大気と運動3	試験返却と試験の解説を行う.日本の天気,熱帯低気圧と台風,日本の気象観測について学習する。
16	大気と運動4	気象予報の仕組みについて学習する。
17	海洋の構造と運動1	海洋の構造と海水の運動について学習する。
18	海洋の構造と運動2	海洋の大循環,波と潮汐について学習する。
19	大気海洋相互作用	エルニーニョとラニーニャについて理解し,それらが地球上の水循環にどのような影響を与えているか学習する。
20	地球環境問題1	自然の営みと地球資源,気候変動について理解する。
21	地球環境問題2	様々な地球環境問題(地球温暖化,オゾン層破壊,砂漠化,黄砂,大気汚染,酸性雨)について理解する。
22	地球環境問題3	様々な地球環境問題(地球温暖化,オゾン層破壊,砂漠化,黄砂,大気汚染,酸性雨)について理解する。
23	中間試験	これまでに学んだ範囲について出題する。
24	試験返却と解説.地球環境問題4	試験返却と試験の解説を行う.日本の自然災害(地震災害,火山災害,土砂災害,気象災害)について学習し,防災・減災について理解を深める。
25	太陽系1	太陽系と太陽系の惑星について学習する。
26	太陽系2	小天体や系外惑星,太陽系の誕生について学習する。
27	太陽系3	天球座標と歴,地球の自転・公転や惑星の運動について学習する。
28	太陽と宇宙1	太陽の構造と活動について学習する。
29	太陽と宇宙2	恒星の性質,進化,星団や星間雲,連星や変光星について学習する。
30	試験返却と解説.太陽と宇宙3	試験返却と試験の解説を行う.銀河系と銀河の分類,宇宙の構造,宇宙の膨張と進化,宇宙背景放射について学習する。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	物理 (Physics)		
担当教員	大多喜 重明 教授		
対象学年等	都市工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	第二学年までに身につけた物理学の知識・思考方法をもとにして、音波・光波および初等的な原子物理を理解し、自ら考え応用し、探求する力を身につける。各分野の基礎的な事項をよく理解し、工学的な応用を視野に入れて、自ら探求する契機を提供する。授業は、国立高専到達度試験への対策を視野に入れ、問題演習(実験を含む)を交えて、テキストに従い行う。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A2]波動の基礎的な概念とともに、音波と光波の具体的な性質を理解する		中間・定期試験とレポートで評価する。
2	[A2]前期量子論と原子・原子核・素粒子物理の初等的な知識を、科学的な視点とともに理解する。		中間・定期試験とレポートで評価する。
3	[A2]基礎的な問題を自ら考え、解く力を身につける。また、基礎的な実験を通して、これまでに学んだ物理現象の説明と考察が出来るようになる。		中間・定期試験とレポート、小テストで評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする(前期中間試験の代わりに課題の評価は試験85%に含む。状況によって、再試験を行う。)。最終成績は、100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「高専テキストシリーズ 物理(上) 力学・波動」潮秀樹監修(森北出版) 「高専テキストシリーズ 物理(下) 熱・電磁気・原子」潮秀樹監修(森北出版) 「セミナー物理基礎+物理」(第一学習社)		
参考書	「フォトサイエンス 物理図録」(数研出版) 「高専の応用物理[第2版]」小暮陽三監修(森北出版) 「新・物理入門」山本義隆著(駿台文庫) 「理科年表」国立天文台編集(丸善) 「高専の物理問題集[第3版]」田中富士男編著(森北出版)		
関連科目	国語, 数学I, 数学II, 応用物理ほかの専門科目		
履修上の注意事項	授業計画とテキストに従い、必ず予習をすること。学んだことを定着させるため、必ず復習や問題演習等の自習学習を行うこと。物理を理解するためには数学的知識は必須となるので、数学をしっかりと勉強すること。また、考えの伝達・享受の能力も必要なので、国語も勉強すること。		

授業計画(物理)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	音波1{音のちがいを決めるもの}	NHK高校講座「物理基礎」を聴講し、音の三要素、音の速さ、うなりについて学習する。
2	音波1{弦楽器の音を調べる}	NHK高校講座「物理基礎」を聴講し、倍振動と倍音、音色の正体、音の高さを決めるものについて学習する。
3	音波2{管楽器の音を調べる}	NHK高校講座「物理基礎」を聴講し、管楽器の音の出し方、気柱よ定常波、開管・閉管にできる定常波について学習する。
4	音波2{まとめ}	音の速さの公式など、高専の物理と異なる部分の解説や補足説明を加えたビデオを視聴し、そこで示した課題をgoogle classroomに提出する。
5	音波3{ドップラー効果}1	緊急車両がサイレンを鳴らして近づくとときと遠ざかるときでは、音の高さが異なる。このことについて考える。
6	音波3{ドップラー効果}2	緊急車両がサイレンを鳴らして近づくとときと遠ざかるときでは、音の高さが異なる。このことについて考える。
7	音波4{まとめ}	これまでの総復習を各自で行い、質問があれば、meetを使って質問をする。
8	中間試験の代わりの課題	中間試験の代わりの課題に取り組む時間とする。
9	光波1{反射と屈折、回折と干渉}	光波の反射と屈折、2本のスリットによる光の回折と干渉を考える。
10	光波2{薄膜による光の干渉}	シャボン玉に色が付くのはなぜか、薄膜による干渉を考える。
11	光波3{ニュートンリング}	くさび型空気層による干渉、ニュートンリングについて学習する。
12	光波4{偏光、分散、散乱}	光は横波であるが、自然光は進行方向に垂直な面であらゆる方向に振動している。一つの方向に振動が偏った光をつくることのようなことが起きるだろうか。また、夕日は赤く、空はなぜ青いのか、これらについて学習する。
13	電子	電界中での電子の運動、電子の電荷と質量について学習する。
14	前期の授業範囲の総まとめを行う。	前期の授業範囲の総まとめを行い、続いて、個別指導を行う。
15	中間試験と定期試験の解説	定期試験の答え合わせと中間試験の代わりの課題の解説を行う。
16	原子と原子核	原子の構造、原子核の構成について学習する。
17	原子核の崩壊と放射能1	原子核の崩壊、半減期について学習する。
18	原子核の崩壊と放射能2	放射線と放射能の単位、放射線の人体への影響やその利用について学習する。
19	原子核の崩壊と放射能3	原子核の結合エネルギー、原子核の反応について学習する。
20	波動性と粒子性1	光の粒子性について学習する。
21	波動性と粒子性2	X線、電子の波動性について学習する。
22	「原子と原子核」から「波動性と粒子性」までのまとめ	「原子と原子核」から「波動性と粒子性」までのまとめを行い、続いて、個別指導を行う。
23	中間試験	中間試験を行う。
24	中間試験の解説	中間試験の答え合わせと解説を行う。
25	原子の構造1	原子の線スペクトル、ボーアの原子模型について学習する。
26	原子の構造2	問題集と図録を使って、ボーアの原子模型についての補足説明を行う。
27	素粒子	素粒子について学習する。
28	特別演習	問題演習を行う(新型コロナウイルス感染症による学習の遅れなど対応)
29	特別演習	問題演習を行う(新型コロナウイルス感染症による学習の遅れなど対応)。
30	定期試験の解説	試験の答え合わせと解説を行う。
備考	前期定期試験、後期中間試験および後期定期試験を実施する。(前期中間試験の代わりの課題に変更)	

科目	英語 (English)		
担当教員	南 侑樹 講師		
対象学年等	都市工学科・1年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(80%), D2(20%)		
授業の概要と方針	4技能のバランスに配慮しながら,第1学年として必要な英語力を総合的に身につける.演習科目でもあるので,授業中に指示される方法で予習・復習を必ず行うこと,授業に積極的に参加すること,発表すること,英語音声を利用した演習を行うことが強く求められる.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[B3]1年次レベルの語彙・表現を習得する.		1年次レベルの語彙・表現を習得できているかを,中間・期末試験及び演習で評価する.
2	[B3]1年次レベルの文法項目を習得する.		1年次レベルの文法項目を理解しているかを,中間・期末試験及び演習で評価する.
3	[B3]1年次レベルの英語長文を正しく解釈できる.		1年次レベルの英語長文を正しく解釈できているかを,中間・期末試験及び演習で評価する.
4	[B3]1年次レベルの英語を聞いて正しく理解したり,リピートしたりできる.		1年次レベルの英語を聞いて正しく理解したり,リピートしたりできるかを,中間・定期試験または演習で評価する.
5	[B3]易しく長い英文を速く沢山読むことができる.		易しく長い英文をスラスラ速く沢山読むことができるかを演習で評価する.
6	[D2]英文を通して,異文化に属する人々の文化,生活様式,物の見方が理解できる.		異文化の諸事情について理解できているかを,演習で評価する.
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験70% レポート30% として評価する.ただし,必要に応じて再試験を行う場合がある.授業中の演習が十分に行われない場合,原則として年間総合評価は不可となる.なお,前期中間試験は実施しない.		
テキスト	「NEW ONE WORLD Communication I Revised Edition」:伊東治己ほか8名:(教育出版)		
参考書	総合英語 Evergreen:塊タカユキ編著:(いいずな書店) 理工系学生のための必修英単語2600:亀山太一監修(成美堂)		
関連科目	本科目はこれ以外の英語科が開講する全ての科目に関連する		
履修上の注意事項	電子辞書,または英和辞書を持参すること		

授業計画(英語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction	英語学習の心構え. 予習復習の仕方の説明, 力試し等
2	Lesson 1 Let's See the World	・だれもが1度は行って, 見てみたいと思う場所や風景の紹介を通して, 英語の有用性に触れ, 英語学習のモチベーションを高める. ・基本的な文構造(SV, SVC, SVO, SVOO, SVOC)とto不定詞の定着を図る.
3	Lesson 1 Let's See the World	第2週と同じ
4	Lesson 1 Let's See the World	第2週と同じ
5	Lesson 2 Bread Culture in Japan	・日本人の食生活にふれるとともに, 世界や日本におけるパンの歴史について理解する. ・比較表現(比較級, 原級比較), 受け身, 進行形の定着を図る.
6	Lesson 2 Bread Culture in Japan	第5週と同じ
7	Lesson 2 Bread Culture in Japan	第5週と同じ
8	これまでの復習	この週までに学習したことについて復習を行う.
9	Lesson 3 Why Do Cats Purr?	・ネコの生態についてふれながら, ネコの持つさまざまな特徴について理解する. ・動名詞, SVO(=that節), 分詞の形容詞としての用法の定着を図る.
10	Lesson 3 Why Do Cats Purr?	第9週と同じ
11	Lesson 3 Why Do Cats Purr?	第9週と同じ
12	Lesson 4 The Power of Anime	・日本のアニメについてふれ, アニメの歴史や影響力について理解する. ・現在完了形, 過去完了形, 比較表現(最上級)の定着を図る.
13	Lesson 4 The Power of Anime	第12週と同じ
14	Lesson 4 The Power of Anime	第12週と同じ
15	期末試験の解答・解説	期末試験の解答・解説を行う
16	Lesson 5 Projects with a Difference	・さまざまなイベントについてふれながら, その成り立ちや考え方について理解する. ・関係代名詞who, which, that(主格), whom, which, that(目的格)の定着を図る.
17	Lesson 5 Projects with a Difference	第16週と同じ
18	Lesson 5 Projects with a Difference	第16週と同じ
19	Lesson 6 We Are the World	・苦しんでいる人々に対して, さまざまな方法で援助することができることを理解する. ・SVO(=疑問詞節), SVO+to不定詞/疑問詞+to不定詞の定着を図る.
20	Lesson 6 We Are the World	第19週と同じ
21	Lesson 6 We Are the World	第19週と同じ
22	学習内容の復習	ここまでの学習内容を振り返る
23	中間試験・中間試験の解答・解説	それまでに学習したことについて試験を行う. 中間試験の解答・解説を行う.
24	Lesson 7 Learning about Science around You	・科学の目を通して見ることで, 意外な事実や原理について考える. ・It is ~ (for ...) to不定詞, It is ~that ..., SVOC(=現在分詞/原形不定詞)の定着を図る.
25	Lesson 7 Learning about Science around You	第24週と同じ
26	Lesson 7 Learning about Science around You	第24週と同じ
27	Lesson 8 The Ninth Symphony in December	・日本におけるベートーヴェン交響曲第九番の歴史について理解する. ・SVOC(=現在分詞), 関係副詞where, when, why, howの定着を図る.
28	Lesson 8 The Ninth Symphony in December	第27週と同じ
29	Lesson 8 The Ninth Symphony in December	第27週と同じ
30	期末試験の解答・解説と今までの総復習, 課題について	期末試験の解答・解説および後期・1年分の総復習と春季休業中の課題について
備考	前期定期試験, 後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	英語 (English)		
担当教員	今里 典子 教授		
対象学年等	都市工学科・2年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(80%), D2(20%)		
授業の概要と方針	4技能のバランスに配慮しながら,第2学年として必要な英語力を総合的に身につける.演習科目でもあるので,授業中に指示される方法で予習・復習を必ず行うこと,授業に積極的に参加すること,発表すること,英語音声を利用した演習を行うことが強く求められる.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[B3]2年次レベルの語彙・表現を習得する.		2年次レベルの語彙・表現を習得できているかを,中間・期末試験で評価する.
2	[B3]2年次レベルの英語長文を正しく解釈できる.		2年次レベルの文法項目を理解しているかを,中間・期末試験で評価する.
3	[B3]2年次レベルの英語長文を正しく解釈できる.		2年次レベルの英語長文を正しく解釈できているかを,中間・期末試験で評価する.
4	[D2]英文を通して,異文化に属する人々の文化,生活様式,物の見方が理解できる.		異文化の諸事情について理解できているかを,,中間・期末試験で評価する.
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験60% レポート・課題40% として評価する.ただし,必要に応じて再試験を行う場合がある.授業中の演習が十分に行われない場合,原則として年間総合評価は不可となる.		
テキスト	「My Way English Communication I I」:森住衛ほか16名著(三省堂)		
参考書	総合英語 Evergreen:塚タカユキ編著:(いいずな書店) 理工系学生のための必修英単語2600:(成美堂)		
関連科目	本科目はこれ以外の英語科が開講する全ての科目に関連する		
履修上の注意事項	電子辞書,または英和辞書を持参すること		

授業計画(英語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction	英語学習の心構え, 予習復習の仕方の説明, 力試し等
2	Lesson 1 Pictograms	素早く情報を伝えるピクトグラムについて学ぶ.SVC, SVO/SVO(O=if節)/SVC(C=分詞)
3	Lesson 1 Pictograms	第2週と同じ
4	Lesson 1 Pictograms	第2週と同じ
5	Lesson 2 A New Way to Clean Up the Ocean	プラスチックごみ回収のためのアイデアを学ぶ.SVOO(O=that/what節)/SVOO(O=if節)/It seems that節
6	Lesson 2 A New Way to Clean Up the Ocean	第5週と同じ
7	Lesson 2 A New Way to Clean Up the Ocean	第5週と同じ
8	中間試験, 中間試験の解答・解説	それまでに学習したことについて試験を行う, 中間試験の解答・解説を行う.
9	Lesson 3 Cuba	テスト返却, 平等と助け合いの国としてのキューバについて学ぶ, 形式主語・目的語のit
10	Lesson 3 Cuba	第9週と同じ
11	Lesson 3 Cuba	第9週と同じ
12	Lesson 4 The World's Poorest President	「世界で最も貧しい大統領」のメッセージから学ぶ.SVOC(V=知覚動詞, C=動詞の原形)等
13	Lesson 4 The World's Poorest President	第12週と同じ
14	Lesson 4 The World's Poorest President	第12週と同じ
15	期末試験の解答・解説	期末試験の解答・解説を行う
16	Lesson 5 Eye Contact	目で伝えるコミュニケーションについて学ぶ, 関係代名詞(主格)/前置詞+関係代名詞/関係代名詞・副詞の非制限用法
17	Lesson 5 Eye Contact	第16週と同じ
18	Lesson 5 Eye Contact	第16週と同じ
19	Lesson 6 A Space Elevator	エレベータで宇宙の旅へ出る技術について学ぶ, 現在完了形/現在完了進行形/過去完了進行形/未来進行形
20	Lesson 6 A Space Elevator	第19週と同じ
21	Lesson 6 A Space Elevator	第19週と同じ
22	学習内容の復習	ここまでの学習内容を振り返る
23	中間試験, 中間試験の解答・解説	それまでに学習したことについて試験を行う, 中間試験の解答・解説を行う.
24	Lesson 7 An Encouraging Song	歌がくれた勇気と希望について学ぶ, 助動詞/助動詞+have+過去分詞/wouldを使った表現/完了不定詞
25	Lesson 7 An Encouraging Song	第24週と同じ
26	Lesson 7 An Encouraging Song	第24週と同じ
27	Lesson 8 Language Contact	文化の出会い言葉の出会いであることを学ぶ, 家庭ほう過去/仮定法過去完了/ifを使わない仮定法/no matter+疑問詞
28	Lesson 8 Language Contact	第27週と同じ
29	Lesson 8 Language Contact	第27週と同じ
30	期末試験の解答・解説と今までの総復習, 課題について	期末試験の解答・解説および後期・1年分の総復習と春季休業中の課題について
備考	前期定期試験, 後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	英語 (English)		
担当教員	石井 達也 講師		
対象学年等	都市工学科・3年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(80%), D2(20%)		
授業の概要と方針	1,2学年で学習した内容を確実にした上で,さらに4技能のバランスにも配慮しながら,特にリーディング力の充実を図る.演習科目でもあるので,授業中に指示される方法で予習・復習を必ず行い,また授業に積極的に参加し,発表すること,英語音声を利用した練習を行うことが強く求められる.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[B3]3年次レベルの語彙,表現を習得する.		3年次レベルの語彙,表現を習得できているかを,中間,定期試験および演習で評価する.
2	[B3]3年次レベルの文法項目を習得する.		3年次レベルの文法項目を習得しているかを,中間,定期試験および演習で評価する.
3	[B3]さまざまなReading Skillを把握して,3年次レベルの英語長文を正しく解釈できる.		さまざまなReading Skillを把握して,3年次レベルの英語長文を正しく解釈できるかを,中間,定期試験および演習で評価する.
4	[D2]英文を通して,外国の人々の文化,生活様式,物の見方が理解できる.		外国の諸事情について知識が豊かになったかを,中間,定期試験および演習で評価する.
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験70% レポート30% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト	「New FLAG Communication III」 :鈴木寿一ほか17名著(増進堂)		
参考書	「総合英語 3rd Edition be Voyage to English Grammar」:鈴木希明著(いっずな書店) 「総合英語 be 3rd Edition Voyage to English Grammar 28」:いっずな書店編集部編著(いっずな書店)		
関連科目	本科目は,これ以外の英語科が開講するすべての科目に関連する.		
履修上の注意事項	電子辞書,または英和辞典を持参すること.		

授業計画(英語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction	シラバス解説, 英語学習の心構え, 予習復習の仕方等.
2	Skill 1 & Skill 2	意味のまとまりでよむ/代名詞・言い換えに注意する
3	Skill 3 & Skill 4	推測して読む/パラグラフ構成を意識して読む
4	Skill 5 & Skill 6	時間・順序を表す言葉に注意する/例示・列挙・新情報の追加
5	Skill 7 & Skill 8	逆接・対比の表現に注意する/原因・理由・結果の表現に注意する
6	Skill 9 & Skill 10	言い換え表現・要約・結論表現に注意する/必要な情報をつかむ
7	学習内容の復習	ここまでの学習内容を振り返る
8	前期中間試験, 前期中間試験の解答・解説	これまでの学習内容の理解を問う, 中間試験の解答・解説を行う
9	Chapter 1 Steve and Ryoma	「革新者」の定義について理解させ, またそこにはどんな要素が必要なのかを考えさせる. according to/ as to/ keep 現在分詞
10	Chapter 1 Steve and Ryoma	第9週(Chapter 1の箇所)と同じ
11	Chapter 2 Uluru, Not Ayers Rock	世界遺産であるウルルについての詳細と白人による開発の歴史について理解する. depend on/ take...out of/ make an impact on
12	Chapter 2 Uluru, Not Ayers Rock	第11週と同じ
13	Chapter 3 Community Design	コミュニティデザインという言葉の意味や, 具体的な内容を理解する.
14	Chapter 3 Community Design	第13週と同じ
15	期末試験の解答・解説	前期末試験の解答・解説を行う
16	Chapter 4 The Life of Murasaki Shikibu	『源氏物語』の作者である紫式部の出生と幼少の頃について理解する.
17	Chapter 4 The Life of Murasaki Shikibu	第16週と同じ
18	Chapter 5 Microfinance	マイクロファイナンスが貧困者向けの「小口金融」の総称であり, 貧困者に基本的な金融サービスを与えることがその背景にあることを理解する.
19	Chapter 5 Microfinance	第18週と同じ
20	Chapter 6 The Plain People	宗教集団アーミッシュに属する人々がどのような暮らしを送っているかを読み取り, 「the plain people」と呼ばれる理由やそのような生活様式を選択してきた経緯を理解する.
21	Chapter 6 The Plain People	第20週と同じ
22	学習内容の復習	これまでの学習内容を振り返る
23	後期中間試験, 後期中間試験の解答・解説	これまでの学習内容の理解を問う, 中間試験の解答・解説を行う
24	Chapter 7 The Air Powered Car	自動車燃料としてガソリンの代わりに「空気」を使用した「空気自動車」があることを知る
25	Chapter 7 The Air Powered Car	第24週(Chapter 7の箇所)と同じ
26	Chapter 8 Are Children the Best Learners?	子どものほうが大人よりも言語の学習能力に優れていると言われていたが, 本当にそうなのか検証する
27	Chapter 8 Are Children the Best Learners?	第26週と同じ
28	Chapter 9 Printing the Future	インクの代わりにプラスチックや金属といった素材を用いて印刷することができる「3Dプリンター」があることを知る
29	Chapter 9 Printing the Future	第28週と同じ
30	定期試験の解答・解説と今までの総復習, 課題について	定期試験の解答・解説を行う, 後期・1年分の総復習と春季休業中の課題について
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	英語演習 (The Practice of English)		
担当教員	PILEGGI MARK 准教授		
対象学年等	都市工学科・3年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(80%), D2(20%)		
授業の概要と方針	This class is the first time for students to have English class focusing on communication skills of speaking and listening. TOEIC / TOEIC Bridge study tips will also be introduced for the first time in this class.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【B3】英語による基本的なコミュニケーションができる。		英語による基本的なコミュニケーションができるかどうかを演習で評価する。
2	【B3】さまざまなコミュニケーション場面の、英語話者の発音を聞き取ることができる。		授業中の質疑・応答を通して、学生のリスニング能力を評価する。
3	【B3】TOEIC / TOEIC Bridge試験対策の基礎を演習し、身につける。		TOEIC / TOEIC Bridge対策の基礎が身についているかどうかを、中間試験・定期試験、演習で評価する。
4	【D2】アメリカの文化的内容について英語で書かれたものを理解できる。		アメリカの文化的内容について英語で書かれたものを理解できるか、中間試験・定期試験、およびレポートで評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% 演習30% として評価する。		
テキスト	プリント		
参考書			
関連科目	本科目は、これ以外の英語科が開講するすべての科目に関連する。		
履修上の注意事項	英和・和英辞書(電子辞書を含む)を準備すること。		

授業計画(英語演習)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction to the Course	Overview of the course — Assessment of students' English proficiency.
2	TOEIC / TOEIC Bridge Test Introduction	Basic info about the test, the different parts and the way to fill out the test sheet. Also comparison of the TOEIC & TOEIC Bridge
3	English Conversation and American Culture(1)	Self-introductions, Conversation Strategies - Rejoinders. American greeting styles and language.
4	TOEIC / TOEIC Bridge Tips(2)	Introducing TOEIC / TOEIC Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
5	English Conversation and American Culture(2)	American trivia and information exchange. Conversation Strategies - Follow up Questions.
6	TOEIC / TOEIC Bridge Tips(3)	Introducing TOEIC / TOEIC Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
7	English Conversation and American Culture(3)	Conversation strategies - Confirmation questions and review for midterm test.
8	中間試験	Midterm test and assessment.
9	TOEIC / TOEIC Bridge Tips(4)	Go over midterm. Continue introducing TOEIC / TOEIC Bridge Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
10	English Conversation and American Culture(4)	Discussion about family and travel. Conversation Strategies - Clarification Questions.
11	TOEIC / TOEIC Bridge Tips(5)	Introducing TOEIC / TOEIC Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
12	English Conversation and American Culture(5)	Video about American lifestyle and holidays.
13	TOEIC / TOEIC Bridge Tips(6)	Introducing TOEIC / TOEIC Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
14	English Conversation and American Culture(6)	Conversation Strategies - Keeping or killing the conversation, review test content
15	Final exam returned & strengthening of weak areas	Go over the final exam and strengthen any weak areas with various activities
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する。Midterm and final tests created from about 1/3 homework data, 1/3 TOEIC Bridge data, 1/3 Conversation Strategies data	

科目	英語演習 (The Practice of English)		
担当教員	[前期] PILEGGI MARK 准教授, [後期] 柳生 成世 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(90%), B4(10%)	JABEE基準	(d),(f)
授業の概要と方針	前期: Class alternates between English conversation skills and TOEIC test taking skills. American Culture and Global topics also introduced. 後期: クラスを2つに分け, 前半と後半で学生が入れ替わる. 外国人講師の授業では英語での自己表現技術を, 日本人教師による授業では, TOEIC問題の解法を学習する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[B4]TOEIC試験対策の基礎を演習し身につける.		TOEIC対策の基礎が身についているかどうかを, 中間試験・定期試験, 演習で評価する.
2	[B3]英語による基本的なコミュニケーションができる.		授業中の質疑・応答を通して, 各学生のコミュニケーション能力を評価する.
3	[B3]正しい英語の発音ができる.		授業中の質疑・応答を通して, 各学生が正しい発音ができるかどうかを評価する.
4	[B3]さまざまなコミュニケーション場面の, 英語話者の発話を聞き取ることができる.		授業中の質疑・応答を通して, 各学生のリスニング能力を評価する.
5	[B3]コミュニケーションに必要な英語の語彙, 文法を理解できる.		授業中に取り扱った重要語彙, 文法項目についての知識を中間試験・定期試験, 演習で評価する. 評価する.
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は, 試験50% 小テスト15% 演習35% として評価する. 前期は, 到達目標1,5を中間・定期試験20%, 小テスト15%, 演習15%で評価する. 後期は, 到達目標2~4を演習20%, 到達目標1,5を中間・定期試験30%で評価する.		
テキスト	「SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC L&R TEST」Yasumaru M. Watanabe A. Sunagawa N. Takamori A. etc. (成美堂) プリント Google Documents and Slides		
参考書			
関連科目	本科目はこれ以外の英語科が開講する全ての科目に関連する.		
履修上の注意事項	英和・和英辞書(電子辞書含む)を準備すること, Google Classroomに登録できる環境の準備すること		

授業計画(英語演習)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction to the course	Overview of the course - Assessment of students' English proficiency. Also TOEIC Introduction (Parts 1-7)
2	English Conversation (1)	Introducing yourself; introducing others; checking information, exchanging personal information
3	English Conversation (2), TOEIC 演習(1)	Describing school and daily schedules, Start Unit 1 Daily Life [文型・品詞]
4	TOEIC 演習(2)	Finish Unit 1 Daily Life [文型・品詞]
5	English Conversation (3), TOEIC 演習(3)	Talking about likes and dislikes, Start Unit 2 Shopping [代名詞・疑問詞]
6	TOEIC 演習(4)	Finish Unit 2 Shopping [代名詞・疑問詞]
7	English Conversation (4), (Review)	Talking and describing about families, review for midterm test
8	Midterm assessment	6 TOEIC quizzes and 2 Online group work assessments
9	English Conversation (5), TOEIC 演習(5)	Return test. Asking about and describing routines and exercise(1), Start Unit 3 Parties and Events [形容詞]
10	TOEIC 演習(6)	Finish Unit 3 Parties and Events [形容詞]
11	English Conversation (6)	Asking about and describing routines and exercise(2)
12	English Conversation (7), TOEIC 演習(7)	Talking about past events, Unit 4 Traffic and Travel [前置詞]
13	TOEIC 演習(8)	Unit 4 Traffic and Travel [前置詞]
14	English Conversation (8), (Review)	Giving opinions about past experiences; talking about vacations, final test review
15	Tests returned, skill strengthening	Tests returned and checked. Strengthen weak points through various exercises
16	English Conversation (1)	Overview of the course - International Introductions
17	English Conversation (2)	Jobs and routines
18	English Conversation (3)	Describing routines using adverbs of frequency
19	English Conversation (4)	Shopping, numbers and prices
20	English Conversation (5)	Describing where classmates live using prepositions of space.
21	English Conversation (6)	Asking about life experiences (Have you ever...)
22	English Conversation (7)	Writing a postcard, simple past.
23	Midterm test	Midterm test and assessment
24	TOEIC 演習(9)	後期授業におけるTOEIC学習の説明 及び Unit 5 Office Work [接続詞]
25	TOEIC 演習(10)	Unit 5 Office Work [接続詞], Unit 6 Marketing and ICT [名詞・主語と動詞の一致]
26	TOEIC 演習(11)	Unit 6 Marketing and ICT [名詞・主語と動詞の一致]
27	TOEIC 演習(12)	Review Test 1
28	TOEIC 演習(13)	Unit 7 Production and Logistics [助動詞]
29	TOEIC 演習(14)	Unit 7 Production and Logistics [助動詞], Unit 8 Employment [時制]
30	TOEIC 演習(15)とまとめ	Unit 8 Employment [時制] 後期 TOEIC 学習内容のまとめ
備考	前期定期試験, 後期中間試験および後期定期試験を実施する. 前期中間試験代わりにTOEICの小テスト6つとオンライン英語演習グループワーク2つで評価します.	

科目	英語演習 (The Practice of English)		
担当教員	[前期] 山本 長紀 准教授, ミラー 非常勤講師, [後期] 石井 達也 講師		
対象学年等	都市工学科・5年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(70%), B4(30%)	JABEE基準	(d),(f)
授業の概要と方針	前期は,クラスを2つに分け,少人数教育を実施する.授業計画の2回~8回と9回~15回がセットになっており,学生は入れ替わることになる.前期授業の半分は,英語で発信できる技術者を目指し,自分の考えを英語で発表するための技術の基本を学習する.前期授業の半分と後期の授業では,科学技術やその他のテーマを扱った英文とTOEICテストを演習形式で学習する.また,プレゼンテーション・コンテストに向けた演習も実施する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[B3]英語の論理展開を理解し,プレゼンテーション用原稿作成に利用できる.		英語の論理展開を理解し,プレゼンテーション用原稿作成に利用できているかどうか,原稿チェック時に評価する.
2	[B3]プレゼンテーションのための態度や提示の基本的な方法を理解し実践できる.		プレゼンテーションのための態度や提示の基本的な方法を実践できているかどうか,発表会で評価する.
3	[B4]科学技術やその他のテーマに関する英文を読み,正確に英文を読み取ることができる.		科学技術やその他のテーマに関する英文の読解力は,演習と中間試験および定期試験で評価する.
4	[B4]科学技術やその他のテーマに関する語彙を増加させる.		科学技術やその他のテーマに関する語彙力は,演習と中間試験および定期試験で評価する.
5	[B3]TOEICテストの演習を数多くこなすことにより,TOEICのスコアを向上させることができる.		TOEICテストに関しては,演習と中間試験および定期試験で評価する.
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験60% プレゼンテーション25% 演習15% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.必要に応じて再試験を行うことがある.		
テキスト	「Science Explorer」 Takayuki Ishii等 著(三修社)		
参考書	「理科系のための入門英語プレゼンテーション」:廣岡美彦著(朝倉書店) 「はじめての英語プレゼンテーション」:飯泉恵美子,T. J. Oba著(ジャパンタイムズ) 「理工系大学生のための英語ハンドブック」:東京工業大学外国語研究教育センター編(三省堂)		
関連科目	本科目は,これ以外の英語科が開講するすべての科目に関連する.		
履修上の注意事項	電子辞書または英和・和英辞典を持参すること.また,指示された課題や,予習・復習を確実に行うこと.		

授業計画(英語演習)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	イントロダクション	教員紹介, 少人数授業のためのグループ分け, 授業の進め方・内容についてのガイダンスを行う。
2	プレゼンテーション分析(1)	この回から15回目までは2グループに分かれて, グループごとの授業。プレゼンテーションの実践例に触れ, 英文の構成, 表現, 図の提示, 発表態度などについて分析し理解する。
3	プレゼンテーション分析(2)	2回目と同じ。
4	原稿作成実践(1)	自分が発表したい題目を選び, プレゼンテーションのための原稿を作成する。その際, 2~3回目で学習した内容を反映させるように指導する。
5	原稿作成実践(2)	書き言葉と話し言葉の差に注意を喚起し, 準備している原稿の英文を洗練させる。発表時の態度についても再度指導する。
6	発表会(1)	授業を受ける20名の学生のうち半数の10名が, 準備した原稿や図をもとにプレゼンテーションを行う。学生の相互評価も行う。
7	発表会(2)	前回と同様に残りの10名が, プレゼンテーションを行う。学生の相互評価も行う。
8	中間試験	これまで学習した内容について, 理解度を問う。
9	中間試験の解答・科学技術英語読解演習: テキストUnit 1 (前半)とTOEIC 演習(1)	中間試験の解答と解説及び科学技術英語読解演習(Is Red a Stimulating Color?)とTOEIC演習を行う。
10	科学技術英語読解演習: テキストUnit 1 (後半)と TOEIC 演習(2)	科学技術英語読解演習(Is Red a Stimulating Color?)とTOEIC演習を行う。
11	科学技術英語読解演習: テキストUnit 2 (前半)と TOEIC 演習(3)	科学技術英語読解演習(Why Are Giant Pandas Black and White?)とTOEIC演習を行う。
12	科学技術英語読解演習: テキストUnit 2 (後半)と TOEIC 演習(4)	科学技術英語読解演習(Why Are Giant Pandas Black and White?)とTOEIC演習を行う。
13	科学技術英語読解演習: テキストUnit 5 (前半)と TOEIC 演習(5)	科学技術英語読解演習(Can Eyesight Be Improved While We Sleep?)とTOEIC演習を行う。
14	科学技術英語読解演習: テキストUnit 5 (後半)と TOEIC 演習(6)	科学技術英語読解演習(Can Eyesight Be Improved While We Sleep?)とTOEIC演習を行う。
15	前期試験の解答とプレゼンテーションの準備1	前期試験の解答と解説。プレゼンテーション・コンテストの説明。
16	プレゼンテーションの準備2	プレゼンテーションの原稿作成。
17	プレゼンテーションの発表会1	プレゼンテーションの発表会を実施する。
18	プレゼンテーションの発表会2	プレゼンテーションの発表会を実施し, 校内のコンテストに出場する代表を決定する。
19	科学技術英語読解演習: テキストUnit 6 (前半)と TOEIC 演習(7)	科学技術英語読解演習(Excessive Intake of Vitamin C leads to Diarrhea)とTOEIC演習を行う。
20	科学技術英語読解演習: テキストUnit 6 (後半)と TOEIC 演習(8)	科学技術英語読解演習(Excessive Intake of Vitamin C leads to Diarrhea)とTOEIC演習を行う。
21	科学技術英語読解演習: テキストUnit 9 (前半)と TOEIC 演習(9)	科学技術英語読解演習(Future Use of Computers)とTOEIC演習を行う。
22	科学技術英語読解演習: テキストUnit 9 (後半)と TOEIC 演習(10)	科学技術英語読解演習(Future Use of Computers)とTOEIC演習を行う。
23	中間試験	これまで学習した内容について, 理解度を問う。
24	中間試験の解答・科学技術英語読解演習: テキストUnit 10 (前半)とTOEIC 演習(11)	中間試験の解答と解説及び科学技術英語読解演習(Ice, Pet Cats, Stamps, and Microwave Ovens)とTOEIC演習を行う。
25	科学技術英語読解演習: テキストUnit 10 (後半)と TOEIC 演習(12)	科学技術英語読解演習(Ice, Pet Cats, Stamps, and Microwave Ovens)とTOEIC演習を行う。
26	科学技術英語読解演習: テキストUnit 13 (前半)と TOEIC 演習(13)	科学技術英語読解演習(Will Space Exploration Unlock the Secrets of the Universe?)とTOEIC演習を行う。
27	科学技術英語読解演習: テキストUnit 13 (後半)と TOEIC 演習(14)	科学技術英語読解演習(Will Space Exploration Unlock the Secrets of the Universe?)とTOEIC演習を行う。
28	科学技術英語読解演習: テキストUnit 14 (前半)と TOEIC 演習(15)	科学技術英語読解演習(Twinkle, Twinkle Little Star- How I wonder How Bright You Are!)とTOEIC演習を行う。
29	科学技術英語読解演習: テキストUnit 14 (後半)と TOEIC 演習(16)	科学技術英語読解演習(Twinkle, Twinkle Little Star- How I wonder How Bright You Are!)とTOEIC演習を行う。
30	後期試験の解答と授業の振り返り	後期試験の解答と解説。科学技術英語の読解, 英語プレゼンテーション, TOEIC対策, それぞれの要点をおさらいする。
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科目	国際コミュニケーション(ドイツ語) (German for International Communication)		
担当教員	李明哲 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・4年・通年・選択・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	D2(100%)	JABEE基準	(a)
授業の概要と方針	日常生活で必要な表現を題材にしながら、ドイツ語の初歩的知識と文法を習得する。第二言語としてドイツ語を学ぶことで、ネイティブとしての日本語、義務教育で学んできた英語を相対化して見られるようにする。外国語学習は、その地域・国の文化を理解することにつながることを知る。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[D2]ドイツ語文法に関する基礎知識を持つ。		ドイツ語文法に関する基礎知識を持つことができているか、中間試験と定期試験で評価する。
2	[D2]ドイツ語の学習を通して日本語、英語を相対化して見ることができるようになる。		ドイツ語の学習を通して日本語、英語を相対化して見ることができるか、年度末にレポートで評価する。
3	[D2]言語を文化として理解する。		言語を文化として理解することができるか、年度末にレポートで評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。試験成績は、前期は定期試験(+暗唱)、後期は中間試験と定期試験(+暗唱)の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「新版アクティブ・ドイツ語」清水薫(同学社)		
参考書	「日本語の21世紀のために」丸谷才一 山崎正和(文春新書) 「ことばと文化」鈴木孝夫(岩波新書)		
関連科目	なし		
履修上の注意事項			

授業計画(国際コミュニケーション(ドイツ語))

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	アルファベットと発音(1),語学学習について	短母音,複母音,重母音の発音。「外国語学習の意義」について(一年を通して学びながら考えて欲しいこと)。
2	アルファベットと発音(2)	子音の発音.英語と違い,原則として「綴り通り」に発音することへの注意を徹底する。
3	挨拶 表現練習,基数詞	簡単な挨拶表現を覚え,使ってみる.数詞の紹介をし,以降,随時使いながら覚えていく。
4	名前,住所,出身地	名前,出身地など自己紹介.現在動詞の一人称,二人称形の練習。
5	年齢,趣味,職業,家族	自分以外の家族の紹介.現在動詞の三人称形の練習.文の作り方,seinの現在人称変化。
6	規則動詞の現在人称変化	語尾が規則的に変化する動詞(=規則動詞)の人称変化を覚える。
7	文法まとめ	規則動詞の人称変化,文の作り方,seinの現在人称変化など,文法まとめ。
8	ここまでの復習	第1回から第7回の範囲で復習問題。
9	sein,haben,人称変化	重要な不規則動詞の人称変化を覚える。
10	買い物する場面での表現	名詞の性と格(1格/4格)を学習.不定冠詞(一つの),定冠詞(その)の格変化を導入。
11	聞き取り練習	ここまでのまとめの聞き取り練習をする。
12	持ち物,所有の表現	名詞の性と格(2格/3格)を学習.不定冠詞,定冠詞の格変化を練習。
13	好みの表現	「誰が,どこで,何を,どの」などの疑問詞.目的語が3格になる(3格支配)動詞の練習。
14	不規則動詞と格変化のまとめ	語幹・語尾が不規則に人称変化する動詞の一覧を覚える.ここまでの名詞・定冠詞・不定冠詞の格変化まとめ。(教科書 LEKTION 5まで予定)
15	定冠詞類・不定冠詞類	前期定期試験の解答・解説. 定冠詞類と不定冠詞類の学習。
16	名詞の複数形,人称代名詞	名詞複数形の語尾変化と格変化,人称代名詞(1~4格)の導入。
17	プレゼントの表現	目的語が二つある文章の練習,3格・4格支配の動詞,命令形の練習。
18	外出の表現(1)	どこで,どこへを伴う表現と応答。
19	外出の表現(2)	前置詞の格支配の学習.前置詞句の入った多様な表現の練習。
20	前置詞句(1)	前置詞の総まとめをする。
21	前置詞句(2)	前置詞の総まとめをする。
22	中間試験	第16回から第21回の内容で中間試験を実施する。
23	希望,可能,許可,意志の表現	後期中間試験の解答・解説. 話法の助動詞の導入。
24	色,月日	色など,付加語的に使われる形容詞の導入.年月日の表現と記法。
25	形容詞の格変化(1)	形容詞の弱変化(定冠詞との組み合わせ)の練習。
26	形容詞の格変化(2)	形容詞の混合変化(不定冠詞との組み合わせ),強変化(無冠詞との組み合わせ)の練習。
27	比較表現,比較変化	形容詞(および副詞)の比較表現の導入.それぞれの変化の練習。
28	非人称代名詞・不定代名詞	非人称“es”を使った表現,不特定の人・物を表す代名詞の導入。
29	復習,総括(1)	ここまで習ったドイツ語文法(入門~初級半ば)の特徴のまとめ。(教科書 LEKTION 10まで予定)
30	復習,総括(2)	後期定期試験の解答・解説をする.ここまでの学習を踏まえ,「外国語学習の意義」を改めて確認。
備考	前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する.達成度の低い者には,暗唱を課する。	

科目	国際コミュニケーション(中国語) (Chinese for International Communication)		
担当教員	牛根 靖裕 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・4年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	D2(100%)	JABEE基準	(a)
授業の概要と方針	現代中国語(標準語)の発音と基礎的文法を、発音・読解・作文の演習を通じて学習する。受講者の教授内容に対する理解をはかる評価対象として、各回講義内での演習、中間・期末試験に加え、随時課外課題への取り組みも重視する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[D2]現代中国語の発音とそのピンインによる表記法を習得する。		現代中国語の発音とそのピンインによる表記法を講義中の演習(発音練習)、課題によって評価する。
2	[D2]現代中国語の漢字(簡体字)の中でも、比較的使用頻度の高いものの書き方を習得する。		現代中国語の漢字(簡体字)の書き方を講義中の演習(短文読解・作文)、課題によって評価する。
3	[D2]現代中国語の簡単な文法知識を習得する。		現代中国語の簡単な文法知識を講義中の演習(短文読解・作文)、課題、中間試験、定期試験および口頭発表によって評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験60% 演習(発音、読解、作文、小テスト)40% として評価する。試験成績は中間試験、定期試験の平均点。演習は授業内での暗誦および小テストを課す(複数回)。コミュニケーション能力の養成を重視するため、試験以外の評価を40%とする。試験・演習の評価を総合し、100点満点60点以上を合格とする。		
テキスト	竹島毅・趙昕『さあ、中国語をまなぼう! 一会話・講読一』(白水社,2015年)		
参考書	松岡榮志〔主幹〕,樋口靖・白井啓介・代田智明〔著〕『クラウン中日辞典 小型版(CD付)』(三省堂,2004年) 相原茂・石田知子・戸沼市子〔著〕『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(同学社,1996年;2016年再版) 相原茂・喜多山幸子・魯曉琨〔著〕『大事なことはみんなやさしい中国語で言える』(朝日出版社,2001年)		
関連科目	ドイツ語,韓国語		
履修上の注意事項	現代中国語の学習を通じ、中国の文化・社会に対する関心を深める。受講者には講義の予習・演習・復習への自主的な取り組みが求められる。		

授業計画(国際コミュニケーション(中国語))

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	講義概要の説明,発音練習(1)	本講義の方針・目標・内容・評価方法の説明,および同説明に関する質疑応答などの後,中国語の声調母音(単母音,複母音,n/ngを伴う母音)とアクセント(声調)の発声法,表記法(ピンイン)を学習する。
2	発音練習(2)	中国語の子音の発声法,表記法を学習する。現代中国(中華人民共和国)で公用文字とされている簡略字「簡体字」についても触れる。
3	人称代名詞,「是」構文,基本疑問文	「わたし」「あなた」といった各種人称代名詞,述語動詞「是」(AはBである)を用いた構文,「吗」を用いた疑問文を学習する。
4	指示代名詞(1),疑問詞疑問文,所属の「的」,副詞「也」「都」	「これ」「それ」といった指示代名詞,「什么」「何」「誰」「誰」を用いた疑問詞疑問文,所属の「的」(～の…)を用いた構文を学習する。
5	動詞述語文,所有の「有」,指示代名詞(2)	動詞を述語とする構文,所有を表す「有」を用いる表現,「ここ」「そこ」といった指示代名詞を学習する。
6	形容詞述語文,数字,発音・表記法,量詞	形容詞を述語とする構文,数字の発音と表記,および「量詞」(助数詞)の用法を学習する。
7	時・時間量の数詞,反復疑問文,介詞(1)	日付・時刻・時間量を表す言葉の発音と表記,「肯定+否定」で構成する反復疑問文,介詞「在」「从」を用いる構文を学習する。
8	演習	第2回から第7回までの講義での学習内容の習得状況を,演習により確認する。
9	口頭演習課題の発表	中国語短文暗誦課題の発表を行う。課題用短文は受講者の要望を汲んだ上で告知する。
10	完了を表す「了」,所在を表す「在」,助動詞「想」	述語の後ろに置き「完了」を表す助動詞「了」,人・ものが特定の場にあることを表す動詞「在」,および「～したい」の意を表す助動詞「想」の用法を学習する。
11	介詞「在」「离」「从」「到」「跟」「給」	「～で」「～から」「～まで」「～と」「～に」などの意を表す各種介詞の用法を学習する。
12	助動詞「得」,経験を表す「過」,「是～的」構文	「～しなければならない」の意を表す「得」,動詞の後ろに置かれ過去の経験を表す「過」,および強調構文「是～的」の用法を学習する。
13	助動詞「能」「会」,動詞の重ね方	助動詞「会」「能」の用法,同じ動詞を重ねる表現を学習する。
14	総合復習	中間試験以降の講義での学習内容について,復習・確認を行う。
15	総合復習	定期試験の問題解説の後,前期学習内容について,復習・確認を行う
16	前期学習内容の復習	動詞述語構文,助動詞など前期学習内容について,復習・確認を行う。
17	結果・程度を表す助詞「得」	形容詞・動詞の後に置かれ,結果・程度を表す補語を導く助詞「得」の用法を学習する。
18	動詞の進行を表す「在(～呢)」	「～しているところだ」の意を表す「在(～呢)」の用法を学ぶ。
19	「来」「去」を中心とする連動文	動詞「来(くる)」「去(いく)」を用いた事例を中心に,連動文を学習する。
20	「還是」を用いた選択疑問文,既習各種疑問文の復習	「還是」を用いた選択疑問文(AかBか)の構造を確認後,既習の疑問文についても復習を行う。
21	助詞「比」を用いた比較文	助詞「比」を用いた比較文(AはBにくらべて～)を学習する。
22	復習	第17回講義以降の学習内容について復習する。
23	中間試験	第17回から第21回までの講義での学習内容の習得状況を,筆記試験により確認する。
24	中間試験の解説	中間試験の問題,解答の確認を行い,内容について解説する。
25	「的」を用いた名詞の修飾	「的」を用いた動詞句・形容詞句による名詞の修飾を学習する。
26	1つの動詞が2つの目的語をとる文,主述句を目的語とする文	「AにBを～する」といったような,1つの動詞が2つの目的語をとる文,ならびに主語述語句を目的とする文の用法を学習する。
27	介詞「被」「让」を用いた受け身文	介詞「被」「让」を用いた受け身文(AはBによって～される)を学習する。
28	総合復習	中間試験以降の講義での学習内容について,復習・確認を行う。
29	作文課題作成	受講者がそれぞれ自己紹介文を作文する。同課題作文は受講者の要望を汲んだ上で作成する。
30	総合復習	定期試験の問題解説の後,後期学習内容について,復習・確認を行う。
備考	前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科目	国際コミュニケーション(韓国語) (Korean for International Communication)		
担当教員	高 秀美 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・4年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	D2(100%)	JABEE基準	(a)
授業の概要と方針	韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する.文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する.韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し,語学能力を含む文化の理解を深める.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[D2]ハングル文字構成を理解し,日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける.		文字学習の段階では,小テストを少なくとも2週に1回で実施し,文字の習得状況を把握しながら,「書く」ことについては小テストおよび前期,後期とも中間試験と定期試験で評価する.
2	[D2]簡単な挨拶や自己紹介からはじめ,学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する.		会話表現は,それぞれの表現を個別に発音やイントネーションを指導及びチェックを授業中に行い,後期においては会話について口頭での発表により評価する.
3	[D2]韓国・朝鮮の文化の理解を深め,コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける.		韓国語の基礎的な知識や会話学習と同時に会話の背景にある文化について解説を行い,その理解度を前期,後期とも中間試験と定期試験で評価する.
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験50% 演習30% 口頭発表20% として評価する.成績において,演習30%(課題及び授業中の暗唱・発表など),口頭発表20%とする理由は初歩的なコミュニケーション能力を確認するため,および前期遠隔授業期間の設定により,予定していた小テストが実施できなかったことによる.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト	『みんなで学ぶ韓国語(文法編)』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社		
参考書	『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 他編著 小学館,2004年 『パスポート朝鮮語小事典』 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社,2011年 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』木内 明著,国書刊行会,2004年		
関連科目	ドイツ語,中国語		
履修上の注意事項	課題,小テストの準備をした上で,授業に参加することを強く望みます.		

授業計画(国際コミュニケーション(韓国語))

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	授業ガイダンス・文字と発音(1)基本母音	授業のガイダンスとともに、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音(10個)について説明する。
2	文字と発音(2)子音(平音)	韓国語の基本母音を復習後、基本子音(10個)を学ぶ。
3	文字と発音(3)子音(激音・濃音)	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音(4)二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音(5)子音(終声子音)・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えると意味)について勉強する。
6	文化項目(1):韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ。
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか(ハムニダ体)、～は(助詞)について学習する。
8	演習	第1週から第7週までの内容について復習する。
9	第2課 お名前は何ですか	～です・ですかの(ヘヨ体)、～が(助詞)について学習する。
10	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。自己紹介の練習を行う。
11	Review 1,第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	第1課から第3課までの内容を復習する。～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+で)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字:日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第4課から第6課までの内容を復習、練習問題を通じて確認する。
15	定期試験の解答とまとめ	定期試験の内容について解説する。これまでの学習内容を再確認し、質疑応答。
16	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認する。
17	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』『～ハムニダ体』、～と(助詞)について学習する。
18	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
19	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
20	Review 3	第7課から第9課までの内容を復習、練習問題を通じて確認する。
21	文化項目(2):韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ。
22	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～ヘヨ体』～と不可能の表現について学習する。
23	中間試験	第16週から第22週までの内容について試験を行う。
24	中間試験の解答とまとめ,第11課 公園で友達を待ちます。	中間試験の内容について解説する。用言の『です・ます形』、『～ヘヨ体』を復習し、縮約形の『～ヘヨ体』を学習する。
25	第12課 コンは今日の夕方6時です。	固有数字:日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習する。
26	Review 4	第10課から第12課までの内容を復習、練習問題を通じて確認する。
27	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
28	第14課 韓国の映画は好きですか。	さまざまな尊敬の表現を学習する。
29	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
30	Review 5,まとめ	定期試験の内容について解説する。第13課から第15課までの内容を復習、練習問題を通じて確認する。これまで学習内容を再確認し、質疑応答。
備考	前期定期試験および後期中間試験を実施する。後期定期試験に代えて、口頭発表を実施する。	

科目	保健・体育 (Health and Physical Education)		
担当教員	春名 桂 教授, 吉本 陽亮 講師, 寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授		
対象学年等	都市工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	前期は、自宅滞在期間(登校再開後も含む)に健康・安全に留意した生活を送ることができる能力を養うこと及び自宅でもできる運動に取り組み、継続的に運動に取り組む習慣を育てることを目的とする。後期は、各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養うこと及び健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康、スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]改訂新版「保健体育概論」からテーマを選定しレポートを作成する。テーマについては、ガイダンスで伝達する。		レポートに記載された内容を評価する。
2	[C3]自宅滞在期間(登校再開後も含む)に健康・安全に留意した生活を送ることができる能力を養うことを目標とする。		健康・安全課題の実施報告書に記載された内容を評価する。
3	[C3]自宅でもできる運動に取り組み、継続的に運動に取り組む習慣を育てることを目標とする。		エクササイズ(自重トレーニング)の実施報告書に記載された内容を評価する。
4	[C3]エクササイズ(アドバンス)に取り組み、負荷及び難易度の高い運動に挑戦して習得することを目標とする。		提示された18種目の運動課題から10種目を選択して実技テストを行い、評価する。
5	[C3]毎時間ストレッチやサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を修得すること及び各種目の練習方法を学び、段階的な技能習熟を図ることを目標とする。		健康増進・傷害予防・技能習熟に関して、毎時間の習熟度(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
6	[C3]剣道の基本理念、礼儀作法を学び、対人技能の内、主に竹刀操作や足さばき等の基本動作を習得することを目標とする。		剣道の基本理念を学び、剣道における所作と竹刀操作、足さばきの基本について実技テストを行い、評価する。
7	[C3]バドミントンの特性を理解し、基本動作であるラケット操作、ストロークやサービスなどの基本技能を修得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、自分たちで簡易ゲームの運営ができることを目標とする。		バドミントンの特性の理解・ルール・審判法・シャトル操作・ゲームの進め方などを理解し、習得しているかについて実技テストを行い、評価する。
8			
9			
10			
総合評価	最終成績(総合評価)は、前期100点×0.2+後期100点×0.8=100点満点とし、60点以上を合格とする。評価内訳はガイダンスで伝達する。		
テキスト	ステップアップ高校スポーツ:大修館書店 改訂新版「保健体育概論」:近畿地区高等専門学校体育研究会編 晃洋書房		
参考書	目でみる動きの解剖学:大修館書店 最新体育・スポーツ科学研究法:大修館書店 スポーツマンなら誰でも知っておきたい「からだ」のこと:大修館書店 トレーニング指導者テキスト理論編:ベースボールマガジン社 トレーニング指導者テキスト実践編:ベースボールマガジン社		
関連科目	なし		
履修上の注意事項	前期授業において実技テストが未実施の者は、9月末日まで(後期は2月末日)に再テストを受けることができる。それ以降の再テストの申し出は受け付けない。但し、診断書が提出された病状や整形外科的な疾患の場合は、担当教官と相談の上、対応する。診断書が提出された病状や整形外科的な疾患において実技テストを受けることが困難な場合は、レポートで代替することがある。		

授業計画(保健・体育)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
2	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
3	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
4	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
5	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
6	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
7	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
8	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
9	ガイダンス/体育館シューズ採寸	ガイダンスを通じて新しい授業の様式を学ぶ/体育館シューズの採寸を行う。
10	レクリエーションスポーツ(1)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニスを行う。
11	レクリエーションスポーツ(2)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニスを行う。
12	レクリエーションスポーツ(3)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニスを行う。
13	エクササイズ(アドバンス)実技テスト	提示された18種目の運動課題から10種目を選択して実技試験を行う。
14	レクリエーションスポーツ(4)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニスを行う。
15	レクリエーションスポーツ(5)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニスを行う。
16	ガイダンス	後期授業についての方針や概要を学ぶ。指定された単元について講義を受け、レポートのテーマを探索する。
17	バドミントン(1)	用具(シャトル・支柱の運び方・ネットの張り方・ラケット)の正しい使い方を覚え、安全に留意した運動環境や対人のラリーを通して様々なストローク(オーバーハンド・アンダーハンド)を学ぶ。
18	バドミントン(2)	サービス(ロングハイサービス/ショートサービス)を学ぶ。また、シングルのリーグ戦を通して、競技ルールや運営方法を学ぶ。
19	バドミントン(3)	スマッシュやヘアピンなどいろいろな球種を学ぶ。また、シングルのリーグ戦を通して、競技ルールや運営方法を学ぶ。
20	バドミントン(4)	いろいろな球種を用いてラリーを組み立てることができるようにする。また、ダブルスのリーグ戦を通して、競技ルールや運営方法を学ぶ。
21	バドミントン(5)	パートナーと連携して、コースや球種を使い分けるストロークとその予測によって攻防が展開できるようにする。また、ダブルスのリーグ戦を通して、競技ルールや運営方法を学ぶ。
22	バドミントン(6)	パートナーと連携して、コースや球種を使い分けるストロークとその予測によって攻防が展開できるようにする。また、ダブルスのリーグ戦を通して、競技ルールや運営方法を学ぶ。
23	バドミントン(7)	実技テストを通して、技能習熟の度合いを評価する。
24	剣道(1)	剣道とは、歴史と競技性について学ぶ
25	剣道(2)	礼儀作法とすり足の方法を学び、実践する
26	剣道(3)	竹刀の握り方と操作の方法を学び、実践する
27	剣道(4)	素振りと空間打突について学び、実践する
28	剣道(5)	踏み込み足と対人での打突について学び、実践する
29	剣道(6)	これまでの復習
30	剣道(7)	実技テスト(礼儀作法の所作、素振り、打突)
備考	中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して、改訂新版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)実技テストについては、定期試験中には行わず、授業内で行う。	

科目	保健・体育 (Health and Physical Education)		
担当教員	春名 桂 教授, 吉本 陽亮 講師		
対象学年等	都市工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	前期は,自宅滞在期間(登校再開後も含む)に健康・安全に留意した生活を送ることができる能力を養うこと及び自宅でもできる運動に取り組み,継続的に運動に取り組む習慣を育てることを目的とする。後期は,各種の運動を自主的に行わせることによって,積極的に運動を実施する習慣を育て,生涯体育につながる能力を養うこと及び健全な社会生活を営む能力や態度を養い,健康,スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]改訂新版「保健体育概論」からテーマを選定しレポートを作成する。		レポートに記載された内容を評価する。
2	[C3]自宅滞在期間(登校再開後も含む)に健康・安全に留意した生活を送ることができる能力を養うことを目標とする。		健康・安全課題の実施報告書に記載された内容を評価する。
3	[C3]自宅でもできる運動に取り組み,継続的に運動に取り組む習慣を育てることを目標とする。		エクササイズ(自重トレーニング)の実施報告書に記載された内容を評価する。
4	[C3]エクササイズ(アドバンス)に取り組み,負荷及び難易度の高い運動に挑戦して習得することを目標とする。		提示された18種目の運動課題から10種目を選択して実技テストを行い,評価する。
5	[C3]毎時間ストレッチやサーキットトレーニングを行うことにより,継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を修得すること及び各種目の練習方法を学び,段階的な技能習熟を図ることを目標とする。		健康増進・傷害予防・技能習熟に関して,毎時間の習熟度(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
6	[C3]各自の体力を測定・評価するとともに,その結果を分析して,不足している能力の向上を目標とする。		新体力テストの得点を評価とする。
7	[C3]バレーボールの特性を理解し,レシーブ・パス・スパイク・サービス等の基本技能を習得する。また,ルールや審判法,スコアのつけ方等を学び,簡易ゲームができるようにする。		バレーボールの特性の理解・ルール・審判法・ボールスキル・ゲームの進め方などを理解し,習得しているか評価する。
8	[C3]サッカーの特性を理解し,シュート・ドリブル・パス・トラップなどのボールを扱った基本技能や,連携を活かした集団技能を修得する。また,ルールや審判法,スコアのつけ方等を学び,簡易ゲームができるようにする。		サッカーの特性の理解・ルール・審判法・ボールコントロール・ゲームの進め方などを理解し,習得しているか評価する。
9			
10			
総合評価	最終成績(総合評価)は,前期100点×0.2+後期100点×0.8=100点満点とし,60点以上を合格とする。評価内訳はガイダンスで提示する。		
テキスト	ステップアップ高校スポーツ:大修館書店 改訂新版「保健体育概論」:近畿地区高等専門学校体育研究会編 晃洋書房		
参考書	目でみる動きの解剖学:大修館書店 最新体育・スポーツ科学研究法:大修館書店 スポーツマンなら誰でも知っておきたい「からだ」のこと:大修館書店 トレーニング指導者テキスト理論編:ベースボールマガジン社 トレーニング指導者テキスト実践編:ベースボールマガジン社		
関連科目	なし		
履修上の注意事項	前期授業において実技テストが未実施の者は,9月末日まで(後期は2月末日)に再テストを受けることができる。それ以降の再テストの申し出は受け付けない。但し,診断書が提出された病状や整形外科的な疾患の場合は,担当教官と相談の上,対応する。診断書が提出された病状や整形外科的な疾患において実技テストを受けることが困難な場合は,レポートで代替することがある。		

授業計画(保健・体育)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
2	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
3	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
4	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
5	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
6	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
7	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
8	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
9	ガイダンス/体育館シューズ採寸	ガイダンスを通じて新しい授業の様式を学ぶ/体育館シューズの採寸を行う。
10	レクリエーションスポーツ(1)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニスを行う。
11	レクリエーションスポーツ(2)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニスを行う。
12	レクリエーションスポーツ(3)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニスを行う。
13	エクササイズ(アドバンス)実技テスト	提示された18種目の運動課題から10種目を選択して実技試験を行う。
14	レクリエーションスポーツ(4)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニスを行う。
15	レクリエーションスポーツ(5)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニスを行う。
16	ガイダンス	後期授業についての方針や概要を学ぶ。改訂新版保健体育概論p161-186「疾病の予防/脳の仕組みと働き」について講義を受け、レポートのテーマを探索する。
17	バレーボール(1)	安全に留意し、正しい用具(バレーボール・支柱の運び方・ネットの張り方)の使い方を覚える。対人パスを通して、様々なパス技能(オーバーハンド・アンダーハンド)の方法を学ぶ。また、ラリーが続くような簡易ゲームを学ぶ。
18	サッカー(1)	安全に留意し、正しい用具(ボール・ゴールの持ち運び)の使い方を覚える。対人パスを通して、様々なパス技能(インサイド・アウトサイド・ヘディング)及びトラッピングの方法を学ぶ。
19	バレーボール(2)	対人パスを通して、前回の学習内容を定着させる。また、スパイク練習やサーブ練習を通して、攻撃の方法を学ぶ。また、簡易ゲームを通して、ルールや運営方法を学ぶ。
20	サッカー(2)	対人練習を通して、前回の学習内容を定着させる。また、簡易ゲームを通して、関係プレーヤールール、運営方法を学ぶ。
21	バレーボール(3)	対人パスやスパイク練習を通して、前回の学習内容を定着させる。また、簡易ゲームを通して、三段攻撃やルール、運営方法を学ぶ。
22	サッカー(3)	対人練習や集団練習を通して、前回の学習内容を定着させる。また、簡易ゲームを通して、関係プレーヤールール、運営方法を学ぶ。
23	新体力テスト	反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅跳びを測定する
24	バレーボール(4)	対人パスやスパイク練習を通して、前回の学習内容を定着させる。また、ローテーションを取り入れた正式ゲーム(6人制)を通して、ルールや運営方法を学ぶ。
25	サッカー(4)	対人練習や集団練習を通して、前回の学習内容を定着させる。また、正式コートを使つてのリーグ戦を通して、より高度な関係プレーヤールール、運営方法を学ぶ。
26	バレーボール(5)	正式ゲームを通して、ルールや運営方法を学ぶ。
27	サッカー(5)	対人練習や集団練習を通して、前回の学習内容を定着させる。また、正式コートを使つてのリーグ戦を通して、より高度な関係プレーヤールール、運営方法を学ぶ。
28	バレーボール(6)	正式ゲームを通して、ルールや運営方法を学ぶ。
29	サッカー(6)	正式ゲームを通して、ルールや運営方法を学ぶ。また、学習内容を実技テストで評価する。
30	バレーボール(7)	正式ゲームを通して、ルールや運営方法を学ぶ。また、学習内容を実技テストで評価する。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して、改訂新版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)実技テストについては、定期試験中には行わず、授業内で行う。	

科目	保健・体育 (Health and Physical Education)		
担当教員	寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂 教授, 中川 一穂 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	前期は, 自宅滞在期間(登校再開後も含む)に健康・安全に留意した生活を送ることができる能力を養うこと及び自宅でもできる運動に取り組み, 継続的に運動に取り組む習慣を育てることを目的とする。後期は, 各種の運動を自主的に行わせることによって, 積極的に運動を実施する習慣を育て, 生涯体育につながる能力を養うこと及び健全な社会生活を営む能力や態度を養い, 健康, スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]改訂増補版「保健体育概論」p41-62「スポーツトレーニング」からテーマを選定しレポートを作成する。		レポートに記載された内容を評価する。
2	[C3]自宅滞在期間(登校再開後も含む)に健康・安全に留意した生活を送ることができる能力を養うことを目標とする。		健康・安全課題の実施報告書に記載された内容を評価する。
3	[C3]自宅でもできる運動に取り組み, 継続的に運動に取り組む習慣を育てることを目標とする。		エクササイズ(自重トレーニング)の実施報告書に記載された内容を評価する。
4	[C3]エクササイズ(アドバンス)に取り組み, 負荷及び難易度の高い運動に挑戦して習得することを目標とする。		提示された18種目の運動課題から10種目を選択して実技テストを行い, 評価する。
5	[C3]毎時間ストレッチやサーキットトレーニングを行うことにより, 継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を修得すること及び各種目の練習方法を学び, 段階的な技能習熟を図ることを目標とする。		健康増進・傷害予防・技能習熟に関して, 毎時間の習熟度(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
6	[C3]各自の体力を測定・評価するとともに, その結果を分析して, 不足している能力の向上を目標とする。		新体力テストの得点を評価とする。
7	[C3]バスケットボールの特性を理解し, ルールや審判法を習得する。また, 基本的な個人技能・集団戦略を学び, 正規ルールによりゲームができるようにする。		バスケットボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解, 習得できているかどうかを評価する。
8	[C3]サッカーの特性を理解し, ルールや審判法を習得する。また, 基本的な個人技能・集団戦略を学び, 正規ルールによりゲームができるようにする。		サッカーのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解, 習得できているかどうかを評価する。
9	[C3]バドミントン・卓球・テニス及びソフトテニスのルールや審判法を学び, 基本動作であるラケット操作を習得する。また, 基本的な戦術・戦略を学び, 正規ルールによるゲームができるようにする。		バドミントン・卓球・テニス及びソフトテニスのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解, 習得できているかどうかを評価する。
10	[C3]軟式野球及びソフトボールの特性を理解し, ルールや審判法を習得する。また, 基本的な個人技能・集団戦略を学び, 正規ルールによるゲームができるようにする。		軟式野球及びソフトボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解, 習得できているかどうかを評価する。
総合評価	最終成績(総合評価)は, 前期100点×0.2+後期100点×0.8=100点満点とし, 60点以上を合格とする。評価内訳はガイダンスで伝達する。		
テキスト	ステップアップ高校スポーツ: 大修館書店 改訂増補版「保健体育概論」: 近畿地区高等専門学校体育研究会編 晃洋書房		
参考書	目でみる動きの解剖学: 大修館書店 最新体育・スポーツ科学研究法: 大修館書店 スポーツマンなら誰でも知っておきたい「からだ」のこと: 大修館書店 トレーニング指導者テキスト理論編: ベースボールマガジン社 トレーニング指導者テキスト実践編: ベースボールマガジン社		
関連科目	なし		
履修上の注意事項	前期授業において実技テストが未実施の者は, 9月末日まで(後期は2月末日)に再テストを受けることができる。それ以降の再テストの申し出は受け付けない。但し, 診断書が提出された病状や整形外科的な疾患の場合は, 担当教官と相談の上, 対応する。診断書が提出された病状や整形外科的な疾患において実技テストを受けることが困難な場合は, レポートで代替することがある。		

授業計画(保健・体育)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
2	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
3	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
4	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
5	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
6	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
7	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
8	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
9	ガイダンス	ガイダンスを通じて新しい授業の様式を学ぶ。
10	レクリエーションスポーツ(1)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う
11	レクリエーションスポーツ(2)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う
12	レクリエーションスポーツ(3)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う。
13	エクササイズ(アドバンス)実技テスト	提示された18種目の運動課題から10種目を選択して実技試験を行う。
14	レクリエーションスポーツ(4)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う
15	レクリエーションスポーツ(5)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う
16	ガイダンス	後期授業についての方針や概要を学ぶ。改訂新版保健体育概論について講義を受け、レポートのテーマを探索する。
17	選択実技(1)	基本技能の習得を図り、簡易ゲームによってゲーム・ルールの理解を深める
18	選択実技(2)	基本技能の習得を図り、簡易ゲームによってゲーム・ルールの理解を深める
19	選択実技(3)	基本技能の習得を図り、簡易ゲームによってゲーム・ルールの理解を深める
20	選択実技(4)	基本技能の習得を図り、正規ルールに準じたゲームを行う
21	選択実技(5)	より高度な技能(応用技能)の習得を図り、集団戦術/戦略を理解する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う
22	選択実技(6)	より高度な技能(応用技能)の習得を図り、集団戦術/戦略を理解する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う
23	新体力テスト	反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅跳びを測定する
24	選択実技(7)	より高度な技能(応用技能)の習得を図り、集団戦術/戦略を理解する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う。
25	選択実技(8)	より高度な技能(応用技能)の習得を図り、集団戦術/戦略を理解する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う。
26	選択実技(9)	チームやペアで戦術を立案・実行し、試合結果を分析して、次の対戦に活用する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う。
27	選択実技(10)	チームやペアで戦術を立案・実行し、試合結果を分析して、次の対戦に活用する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う。
28	選択実技(11)	チームやペアで戦術を立案・実行し、試合結果を分析して、次の対戦に活用する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う。
29	選択実技(12)	チームやペアで戦術を立案・実行し、試合結果を分析して、次の対戦に活用する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う。
30	選択実技(13)	実技テストを通じて習得した技能の習熟度合いを評価する。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して、改訂増補版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)実技テストについては、定期試験中には行わず、授業内で行う。	

科目	保健・体育 (Health and Physical Education)		
担当教員	寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂 教授, 吉本 陽亮 講師		
対象学年等	都市工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	前期は, 自宅滞在期間(登校再開後も含む)に健康・安全に留意した生活を送ることができる能力を養うこと及び自宅でもできる運動に取り組み, 継続的に運動に取り組む習慣を育てることを目的とする。後期は, 各種の運動を自主的に行わせることによって, 積極的に運動を実施する習慣を育て, 生涯体育につながる能力を養うこと及び健全な社会生活を営む能力や態度を養い, 健康, スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]改訂増補版「保健体育概論」p63-103「スポーツへのアプローチ」からテーマを選定しレポートを作成する。		レポートに記載された内容を評価する。
2	[C3]自宅滞在期間(登校再開後も含む)に健康・安全に留意した生活を送ることができる能力を養うことを目標とする。		健康・安全課題の実施報告書に記載された内容を評価する。
3	[C3]自宅でもできる運動に取り組み, 継続的に運動に取り組む習慣を育てることを目標とする。		エクササイズ(自重トレーニング)の実施報告書に記載された内容を評価する。
4	[C3]エクササイズ(アドバンス)に取り組み, 負荷及び難易度の高い運動に挑戦して習得することを目標とする。		提示された18種目の運動課題から10種目を選択して実技テストを行い, 評価する。
5	[C3]毎時間ストレッチやサーキットトレーニングを行うことにより, 継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を修得すること及び各種目の練習方法を学び, 段階的な技能習熟を図ることを目標とする。		健康増進・傷害予防・技能習熟に関して, 毎時間の習熟度(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
6	[C3]各自の体力を測定・評価するとともに, その結果を分析して, 不足している能力の向上を目標とする。		新体力テストの得点を評価とする。
7	[C3]バスケットボールの特性を理解し, ルールや審判法を習得する。また, 基本的な個人技能・集団戦略を学び, 正規ルールによりゲームができるようにする。		バスケットボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解, 習得できているかどうかを評価する。
8	[C3]サッカーの特性を理解し, ルールや審判法を習得する。また, 基本的な個人技能・集団戦略を学び, 正規ルールによりゲームができるようにする。		サッカーのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解, 習得できているかどうかを評価する。
9	[C3]バドミントン・卓球・テニス及びソフトテニスのルールや審判法を学び, 基本動作であるラケット操作を習得する。また, 基本的な戦術・戦略を学び, 正規ルールによるゲームができるようにする。		バドミントン・卓球・テニス及びソフトテニスのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解, 習得できているかどうかを評価する。
10			
総合評価	最終成績(総合評価)は, 前期100点×0.2+後期100点×0.8=100点満点とし, 60点以上を合格とする。評価内訳はガイダンスで伝達する。		
テキスト	ステップアップ高校スポーツ: 大修館書店 改訂増補版「保健体育概論」: 近畿地区高等専門学校体育研究会編 晃洋書房		
参考書	目でみる動きの解剖学: 大修館書店 最新体育・スポーツ科学研究法: 大修館書店 スポーツマンなら誰でも知っておきたい「からだ」のこと: 大修館書店 トレーニング指導者テキスト理論編: ベースボールマガジン社 トレーニング指導者テキスト実践編: ベースボールマガジン社		
関連科目	なし		
履修上の注意事項	前期授業において実技テストが未実施の者は, 9月末日まで(後期は2月末日)に再テストを受けることができる。それ以降の再テストの申し出は受け付けない。但し, 診断書が提出された病状や整形外科的な疾患の場合は, 担当教官と相談の上, 対応する。診断書が提出された病状や整形外科的な疾患において実技テストを受けることが困難な場合は, レポートで代替することがある。		

授業計画(保健・体育)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
2	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
3	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
4	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
5	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
6	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
7	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
8	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む。
9	ガイダンス	ガイダンスを通じて新しい授業の様式を学ぶ。
10	レクリエーションスポーツ(1)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う
11	レクリエーションスポーツ(2)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う
12	レクリエーションスポーツ(3)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う。
13	エクササイズ(アドバンス)実技テスト	提示された18種目の運動課題から10種目を選択して実技試験を行う。
14	レクリエーションスポーツ(4)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う
15	レクリエーションスポーツ(5)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う
16	ガイダンス	後期授業についての方針や概要を学ぶ。改訂新版保健体育概論について講義を受け、レポートのテーマを探索する。
17	選択実技(1)	基本技能の習得を図り、簡易ゲームによってゲーム・ルールの理解を深める
18	選択実技(2)	基本技能の習得を図り、簡易ゲームによってゲーム・ルールの理解を深める
19	選択実技(3)	基本技能の習得を図り、簡易ゲームによってゲーム・ルールの理解を深める
20	選択実技(4)	基本技能の習得を図り、正規ルールに準じたゲームを行う
21	選択実技(5)	より高度な技能(応用技能)の習得を図り、集団戦術/戦略を理解する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う
22	選択実技(6)	より高度な技能(応用技能)の習得を図り、集団戦術/戦略を理解する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う
23	新体力テスト	反復横とび・(20mシャトルラン)・立ち幅跳び・上体起こし・長座体前屈・ハンドボール投げ・50m走・身長・体重・体脂肪・握力を測定する
24	選択実技(7)	より高度な技能(応用技能)の習得を図り、集団戦術/戦略を理解する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う。
25	選択実技(8)	より高度な技能(応用技能)の習得を図り、集団戦術/戦略を理解する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う。
26	選択実技(9)	チームやペアで戦術を立案・実行し、試合結果を分析して、次の対戦に活用する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う。
27	選択実技(10)	チームやペアで戦術を立案・実行し、試合結果を分析して、次の対戦に活用する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う。
28	選択実技(11)	チームやペアで戦術を立案・実行し、試合結果を分析して、次の対戦に活用する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う。
29	選択実技(12)	チームやペアで戦術を立案・実行し、試合結果を分析して、次の対戦に活用する。正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)を行う。
30	選択実技(13)	実技テストを通じて習得した技能の習熟度合いを評価する。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して、改訂増補版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)実技テストについては、定期試験中には行わず、授業内で行う。	

科目	保健・体育 (Health and Physical Education)		
担当教員	寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授, 吉本 陽亮 講師		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	自宅滞在期間(登校再開後も含む)に健康・安全に留意した生活を送ることができる能力を養うこと及び自宅でもできる運動に取り組み,継続的に運動に取り組み習慣を育てることを目的とする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]改訂増補版「保健体育概論」p104-127「スポーツと社会」からテーマを選定しレポートを作成する。		レポートに記載された内容を評価する。
2	[C3]自宅滞在期間(登校再開後も含む)に健康・安全に留意した生活を送ることができる能力を養うことを目標とする。		健康・安全課題の実施報告書に記載された内容を評価する。
3	[C3]自宅でもできる運動に取り組み,継続的に運動に取り組み習慣を育てることを目標とする。		エクササイズ(自重トレーニング)の実施報告書に記載された内容を評価する。
4	[C3]エクササイズ(アドバンス)に取り組み,負荷及び難易度の高い運動に挑戦して習得することを目標とする。		提示された18種目の運動課題から10種目を選択して実技テストを行い,評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	エクササイズ(自重トレーニング)の実施報告書(25点)+健康・安全課題の実施報告書(25点)+レポート(10点)に加えて,エクササイズ(アドバンス)を評価する簡易テスト(40点)の合計100点で評価する。		
テキスト	ステップアップ高校スポーツ:大修館書店 改訂増補版「保健体育概論」:近畿地区高等専門学校体育研究会編(晃洋書房)		
参考書	目でみる動きの解剖学:大修館書店 最新体育・スポーツ科学研究法:大修館書店 スポーツマンなら誰でも知っておきたい「からだ」のこと:大修館書店 トレーニング指導者テキスト理論編:ベースボールマガジン社 トレーニング指導者テキスト実践編:ベースボールマガジン社		
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	1)実技テストが未実施の者は,9月末日まで(後期は2月末日)に再テストを受けることができる。それ以降の再テストの申し出は受け付けない。但し,診断書が提出された病状や整形外科的な疾患の場合は,担当教官と相談の上,対応する。2)診断書が提出された病状や整形外科的な疾患において実技テストを受けることが困難な場合は,レポートで代替することがある。		

授業計画(保健・体育)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む
2	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む
3	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む
4	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む
5	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む
6	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む
7	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む
8	健康・安全課題/エクササイズ(自重トレーニング)/エクササイズ(アドバンス)	Google Classroomやyou tubeで配信された健康・運動課題に取り組む
9	ガイダンス	ガイダンスを通じて新しい授業の様式を学ぶ
10	レクリエーションスポーツ(1)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う
11	レクリエーションスポーツ(2)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う
12	レクリエーションスポーツ(3)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う
13	エクササイズ(アドバンス)実技テスト	提示された18種目の運動課題から10種目を選択して実技テストを行う
14	レクリエーションスポーツ(4)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う
15	レクリエーションスポーツ(5)	レクリエーションスポーツとしてバドミントン/ソフトテニス/卓球/軟式野球を行う
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない。中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して、改訂増補版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)実技テストについては、定期試験中には行わず、授業内で行う。	

科目	芸術 (Art)		
担当教員	水田 純子 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・1年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	鉛筆デッサンでは対象を深く見つけ、形や明暗から立体的な表現力を養う。透視図法を使った立体的な表現や混色や配色を使った色彩表現では、視覚的効果を工夫し表現する創造力を養う。立体作品では、素材、目的、機能、美しさ等を考えてデザインし、平面から立体を生み出す造形力を養う。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】対象の形や明暗を正確にとらえて立体的に表現する		鉛筆デッサンの作品において多様な視点から対象をみつけ、立体的に表現しているかを評価する
2	【C3】アイデアをもとに完成まで計画的に丁寧に制作する		全ての作品の制作過程を通して、指導内容に沿って丁寧に作業を進めているかを評価する
3	【C3】自己の表現したい意図を大切に、創意工夫して作品を完成させる		全ての完成作品から独創的に主題が表現されているかを評価する
4	【C3】制作に必要な用具の準備・使用等が適切に行える		授業時において、各自が用具の準備や使用を適切に行えているかを評価する
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、作品90% 用具の準備10% として評価する。それぞれを合算して60点以上を合格とする。		
テキスト	「美術1」(光村図書)		
参考書	なし		
関連科目	なし		
履修上の注意事項	作品は最後まで熱心に取り組み完成させて提出する。		

授業計画(芸術)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	鉛筆デッサン	有名画家の作品を鑑賞し,線と明暗を使って立体的に「手」を鉛筆デッサンする。
2	習作1	等角投影法の図法を使って,直方体,四角錐,円柱を立体的に鉛筆デッサンする。また3種類の立体を分割し,移動させた図を下書きする。
3	習作2	3種類の立体図の下書きを色彩を使って,立体的に着色し,完成させる。
4	構想画1	習作で学習した立体の分割,移動を発展させ,複雑で美しい立体校正を下書きする。
5	構想画2	立体的に見える色彩構成を工夫し,計画的に着色する。
6	構想画3	立体的に見える色彩構成を工夫し,計画的に着色する。
7	構想画4	立体的に見える色彩構成を工夫し,計画的に着色する。
8	構想画5	細部の手直しを行い完成させる。
9	ペーパークラフト(ランプシェード)1	紙を折ることで立体ができることを知り,素材の特性を生かした試作を作る。
10	ペーパークラフト(ランプシェード)2	試作をもとにトレーシングペーパー(2枚)に図案を写す。
11	ペーパークラフト(ランプシェード)3	トレーシングペーパー(2枚)の図案線にニードルや定規を使って折り癖をつける。
12	ペーパークラフト(ランプシェード)4	図案線通りにトレーシングペーパーを丁寧に折る。
13	ペーパークラフト(ランプシェード)5	図案線通りにトレーシングペーパーを丁寧に折る。
14	ペーパークラフト(ランプシェード)6	図案線通りにトレーシングペーパーを丁寧に折る。
15	ペーパークラフト(ランプシェード)7	2枚のトレーシングペーパーをつなぎ,上部に糸を通し,完成させる。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない。作品中心で試験は実施せず。	

科目	哲学 (Philosophy)		
担当教員	李明哲 非常勤講師		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	私たちが日常で無意識に受け入れたり信じたりしている法則や常識の中には、大きな哲学的問いが含まれています。この授業では、有名な哲学者たちが、独自の視点と方法で考え抜いた〈問いと答え〉の連鎖を概観し、哲学において「なぜそれが問題となるのか」「どうしてそういう考え方をするのか」などの思考パターンを学んでいきます。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】日常に隠された哲学的問いを自分で見つけ出し、哲学的に考えるためのモデルを獲得すること。		日常に隠された哲学的問いを自分で見つけ出し、哲学的に考えるためのモデルを獲得することができるか、小テストと定期試験で評価する。
2	【D2】哲学に欠かせない思考法や概念についての理解を深め、自分の考えをより明確に表現できるようになること。		哲学に欠かせない思考法や概念についての理解を深め、自分の考えをより明確に表現できるか、小テストと定期試験で評価する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験80% 小テスト20% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。小テストの評価の割合が大きいのは、哲学の基本的概念を正しく理解していることを確認する機会を小テストとして設けることで、より確実に授業内容が理解できるようにするためである。		
テキスト	なし。		
参考書	貫成人『哲学マップ』ちくま新書,2004年 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書,2006年 畠山 創『大論争! 哲学バトル』KADOKAWA,2016年 その他、授業で紹介します。		
関連科目	倫理		
履修上の注意事項	なし。		

授業計画(哲学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	イントロダクション 哲学を学ぶとはどういうことか?	生活で「当たり前」とされることを具体例にしながら、「哲学」という学問がどのように問い、考えるのかについて、おおまかなイメージが得られるようする。
2	古代ギリシア哲学:ソクラテス登場まで	古代ギリシアの哲学者たちによる独特な世界観や自然観を理解できるようにする。
3	古代ギリシア哲学:ソクラテス,プラトン	「無知の知」や「対話」を通じて、「～とはなにか?」という本質に迫ろうとするソクラテスの考えを理解できるようにする。また、その弟子であるプラトンが提唱した「イデア」という概念を学ぶ。
4	古代ギリシア哲学:アリストテレス	「目的因」などが登場する理論哲学から、「美德」を追い求める実践哲学まで、幅広いアリストテレスの哲学のエッセンスを学ぶ。
5	中世哲学:トマス・アキナスなど	「神学と哲学」の関係をテーマに活躍した中世の哲学者たちが、後世に与えた影響力などを理解できるようにする。
6	ここまでのまとめ 小テスト	ここまでの哲学概念などの理解度を確認し、復習する。
7	近世哲学:デカルト(1)	「我 思うゆえに 我あり」で有名な「方法的懐疑」について、理解できるようにする。
8	近世哲学:デカルト(2)	「主観/客観」という二項対立の世界観や、「心身問題」など、デカルト哲学のエッセンスを理解できるようにする。
9	大陸合理論:ライプニッツ	「 $1+1=2$ 」など数学的認識は、人間の生まれ持って得た知性、それとも生まれた後に得る経験、どちらによって成り立つのか。知性を重視する大陸合理論に分類される哲学者、ライプニッツによる「モナド論」などの哲学の要点を理解できるようにする。
10	大陸合理論:スピノザ	大陸合理論でありながらも、これまでのキリスト教的世界観にはとどまらないスピノザの「神=自然=世界」という哲学の要点を理解できるようにする。
11	イギリス経験論:ホブズ,ロック	経験を重視するイギリス経験論の哲学を学ぶ。ホブズの政治哲学や、「知性は経験によって成り立つ」とするロックの哲学の要点を学ぶ。
12	イギリス経験論:パークリー	すべての存在は、経験的な知覚によって説明されなければならないとする、パークリーの哲学の要点を理解できるようにする。
13	イギリス経験論:ヒューム	人間とは「知覚の束」であるとして、因果関係や「自我」についても否定した、ヒュームの哲学の要点を理解できるようにする。
14	ここまでのまとめ 小テスト	ここまでの哲学概念などの理解度を確認し、復習する。
15	定期試験の返却と解説 ディスカッション	前期定期試験を返却し、解説する。学んだ内容を自分の言葉でどのように表現し、思考するかを試すディスカッションをディベート形式で行う。
16	前期までの振り返り	前期で学んだ古代から近代までの哲学を振り返り、後期の準備にする。
17	カント(1)認識論	イギリス経験論と大陸合理論を調停したことで知られる、カントによる「カテゴリー」という概念と、その認識論の要点を理解できるようにする。
18	カント(2)倫理学	倫理学の3大アプローチ「義務論」としても知られるカント倫理学の要点を理解できるようにする。とりわけ、人間の理性から命じられる道徳法則による、自律的な規範のあり方の重要性について。
19	カント(3)美学と自然哲学	美学の概念、生物学が確立した時代を生きたカントだからこそとどろき、「判断力」という能力の可能性について、理解できるようにする。
20	ここまでのまとめ 小テスト	ここまでの哲学概念などの理解度を確認し、復習する。
21	ドイツ観念論:フィヒテ,シェリング,ヘーゲル	自我や自然など、世界すべてを観念的な原理で説明しようとした三人の哲学者たちの要点を学ぶ。ヘーゲルの「弁証法」など。
22	近代の不安:ショーペンハウエル,キルケゴール,フェオイエルバッハ	工業化が進む時代のなかで、一人ひとりのかけがえのなさや、現実社会による影響力を哲学に取り込もうとしたはじめた、三人の哲学者たちの要点を学ぶ。ショーペンハウエルの悲観主義(ベジニズム)など。
23	近代の終わり:マルクス,フロイト,ニーチェ	経済活動や労働から人間の生き方を説いたマルクス、無意識など心理的作用から自我へアプローチしたフロイト、近代までの西洋哲学の固定的概念を破壊しようとしたニーチェなどを学ぶ。
24	現象学と実存思想:フッサール,ハイデッガー	世界大戦前後に現れた、現象学やドイツ実存思想のエッセンスを学ぶ。フッサールによる認識論、ハイデッガーによる「本来的実存」など。
25	現象学と実存思想:サルトル,メルロ=ポンティ	サルトル「自由という刑」、メルロ=ポンティ「身体図式」など、フランス実存思想の要点を理解できるようにする。
26	ここまでのまとめ 小テスト	ここまでの哲学概念などの理解度を確認し、復習する。
27	分析哲学のはじまり:ラッセル,ヴァイデンシュタインなど	ラッセルによる「記述理論」や、ヴァイデンシュタインの「言語ゲーム」など、現代論理学や言語分析からはじまる、現代哲学の一片を知る。
28	構造主義のはじまり:ソシュール,レヴィ=ストロースなど	言語や社会、心理の分析から、戦後の哲学に大きな影響を与えた「構造主義」の要点を学ぶ。
29	東洋思想	仏教、儒教、道教など、古代からの東洋思想や、それを受けて日本で発生した独自の思想などについて、概要を学ぶ。
30	定期試験の返却と解説 ディスカッション	後期定期試験を返却し、解説する。学んだ内容を自分の言葉でどのように表現し、思考するかを試すディスカッションをディベート形式で行う。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。・小テストを2回実施する。	

科目	日本史 (Japanese History)		
担当教員	深見 貴成 准教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	1990年代以降の日本社会は、戦後に作り上げてきた政治・経済体制があらゆる意味で再編を迫られた時期であり、その再編は今も続いていると言える。このような時代に日本の近現代史を学び、なぜ日本がこのような社会になったのかを知ることが非常に重要である。よって、日本の20世紀前半の動きを学び、現代社会の課題を克服する上での知識を養いたい。また同時に歴史資料の重要性についても学んでいく。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]帝国主義の時代における日本社会の特徴を理解できる。		帝国主義の時代における日本社会の特徴を理解できるか、定期試験によって評価する。
2	[C3]大正デモクラシーの時代の特徴と現代との共通性を理解する。		大正デモクラシーの時代の特徴と現代との共通性を理解できるか、定期試験によって評価する。
3	[C3]昭和恐慌の影響とその後のファシズムの時代の特徴を理解する。		昭和恐慌の影響とその後のファシズムの時代の特徴を理解できるか、定期試験によって評価する。
4	[D2]近代日本における日本の植民地支配について理解し、アジア諸国と現代日本との関係を考える。		近代日本における日本の植民地支配について理解し、アジア諸国と現代日本との関係を考えることができるか、定期試験によって評価する。
5	[D2]第二次世界大戦へとつながる国際政治史の中に日本を位置づけることができる。		第二次世界大戦へとつながる国際政治史の中に日本を位置づけることができるか、定期試験によって評価する。
6	[C3]歴史資料の大切さを知り、身近にあることを確認する。また史料の内容を理解する。		歴史資料の大切さを知り、身近にあることを確認する。また史料の内容を理解することができるか、定期試験および歴史資料に関するレポートによって評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。試験成績は定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする		
テキスト	プリントを配布する		
参考書	宮地正人『国際政治下の近代日本』(山川出版社,1987年) 朝尾直弘ほか編『角川新版日本史辞典』(角川書店,1996年)		
関連科目	歴史(1年)・歴史(2年)・世界史(5年)		
履修上の注意事項	配布資料を毎時間持参すること。		

授業計画(日本史)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入ー日本近現代史を学ぶ意義	日本近現代史を学ぶにあたって、その学習する意味をこれまでの研究史から考える。また歴史資料とは何か、そしてその大切さについて言及する。
2	日露戦後の日本社会の変化	明治維新後の日本の歩みの概略を確認し、日露戦争後の日本社会が再編成されていく状況を学ぶ。
3	第一次世界大戦と日本社会(1)	第一次世界大戦が日本に与えた影響と帝国主義の時代における日本の位置を知る。またアジア諸国と日本の関係について確認する。
4	第一次世界大戦と日本社会(2)	第3週に同じ。
5	社会問題の発生(1)	大戦景気とその後の不況が日本社会に与えた影響の中で、特に社会問題の発生とその対応を知る。
6	社会問題の発生(2)	第5週に同じ。
7	政党政治の成立とその意義(1)	原敬内閣が成立した背景と政党政治の始まりの意義を知る。また日本のデモクラシー状況を民衆運動の中から学習する。
8	政党政治の成立とその意義(2)	第二次護憲運動によって成立した政党内閣の意義を知る。また当時の思想状況についても学習し、その特徴を理解する。
9	政党政治の成立とその意義(3)	デモクラシー期以降の政党政治の状況を知る。
10	男子普通選挙法と治安維持法の制定の意味	1925年に成立した男子普通選挙法と治安維持法の意義を学習する。
11	昭和恐慌の衝撃(1)	昭和恐慌が日本社会に与えた影響について、地域社会の状況、国家の政策などからその特徴と意味を知る。
12	昭和恐慌の衝撃(2)	第11週に同じ。
13	満州事変と「満州国」(1)	満州事変が起こる背景とその後成立した「満州国」について知る。
14	満州事変と「満州国」(2)	第13週に同じ。
15	小括ーデモクラシー期までの日本	定期試験の解答・解説を踏まえ、これまでの歴史的経緯を振り返り、現代日本社会について考える。
16	植民地と日本	日本と植民地の関係を理解し、アジアにおいて日本がどのような位置にあったのかを知る。
17	植民地と日本(2)	第16週に同じ。
18	1930年代の日本の政治状況	1930年代の国際政治状況の中で日本がどのような位置にいて、外交政策を採ったのかを知る。
19	十五年戦争と日本	満州事変以後、日本がなぜ戦争へ突入したのかを理解する。
20	総力戦体制について考える(1)	「十五年戦争」期の日本社会を「総力戦体制」ととらえ、その特徴について考える。
21	総力戦体制について考える(2)	第20週に同じ。
22	民衆と戦争(1)	総力戦下において日本の民衆がどのように考え、行動していたのかを知る。
23	民衆と戦争(2)	第22週に同じ。
24	民衆と戦争(3)	第22週に同じ。
25	戦争をどうとらえるか	戦争、特にアジア・太平洋戦争についてふりかえり、現代における戦争と比較しながら現代の世界と日本を考える。
26	戦後改革と日本(1)	戦後の民主化を中心とする改革について、その特徴を学ぶ。特に日本国憲法の制定の意義について考える。また戦後の文化について学ぶ。
27	戦後改革と日本(2)	第26週に同じ。
28	戦後改革と日本(3)	第26週に同じ。
29	高度経済成長への展望	戦後改革を受けて、1960年代以降日本社会がどのように変化したのかを理解する。
30	まとめー「国民国家」としての近現代日本	定期試験の解答・解説を踏まえ、「国民国家」としての日本近現代史を概観し、現代社会との共通点考える。また歴史資料の重要性について知る。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。状況に応じて再試験をおこなうことがある	

科目	世界史 (World History)		
担当教員	町田 吉隆 教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	現代の人類社会が抱える「環境と社会」、「人種の偏見と文化的多様性」という問題を歴史的に考える。対象とする地域も時代も多岐にわたるが、テーマごとに通時的に扱う。したがって通史ではない。社会的・経済的・政治的・文化的な視点から世界史を捉えることを目的とする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]異文化理解について、歴史的な背景を踏まえて理解することができる。		異文化理解について、歴史的な背景を踏まえて理解することができるかどうかを、プリントと定期試験で評価する。
2	[C3]気候変動や感染症などによる歴史的環境の変化を生業形態や歴史的な事件・事象の関連性について理解できる。		気候変動や感染症などによる歴史的環境の変化を生業形態や歴史的な事件・事象の関連性について理解できているかどうかを、プリントと定期試験で評価する。
3	[C3]奴隷制度、近代世界システム、資本主義、文化変容などの概念装置を用いて、人種の偏見の歴史的な形成過程を理解することができる。		人種の偏見の歴史的な形成過程を理解できているかどうかを、プリントと定期試験で評価する。
4	[D2]栽培食物の歴史について、当該地域における社会と文化を、現代社会を生きる自らの生活に引きつけて考察することができる。		受講者が選んだ栽培食物について、歴史的環境を理解した上で、当該地域における社会と文化を、正確にかつわかりやすく説明できるかどうかを、レポートで評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% レポート10% プリント10% 遠隔授業期間の課題10% として評価する。到達目標1,2,3については授業中に作業するプリントおよび前期・後期の定期試験の平均点で評価する。到達目標4についてはレポート(具体的な作成手順は指示する)で評価する。これらを総合して100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	ノートおよびプリント講義		
参考書	上坂昇『キング牧師とマルコムX』(講談社現代新書) 山本太郎『感染症と文明—共生への道』(岩波新書) 川北稔『砂糖の世界史』(岩波ジュニア新書) 新保満『人種の偏見』(岩波新書) ピーター・バラカン『魂(ソウル)のゆくえ』アルテスパブリッシング		
関連科目	歴史(1年生), 歴史(2年生), 日本史(5年生)		
履修上の注意事項	その他の参考文献, 視聴覚資料については授業中に紹介する。		

授業計画(世界史)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入	異なる文化の接触と変容を学ぶ意義について考える。思考を言語で表現する方法、推論して仮説を立てる手法をいくつか紹介し、今後の授業の中で理解を深める手段を学ぶ。
2	異文化を理解すること(1)	異文化の摩擦・衝突を扱う映画を鑑賞した上で、異文化理解とは何かを考える。
3	異文化を理解すること(2)	異文化の摩擦・衝突を扱う映画を鑑賞した上で、異文化理解とは何かを考える。
4	異文化を理解すること(3)	異文化の摩擦・衝突を扱う映画を鑑賞した上で、異文化理解とは何かを考える。
5	人種とスポーツ(1)	スポーツにおける人種的言説のしくみについて考える
6	人種とスポーツ(2)	スポーツにおける人種的言説のしくみについて考える
7	人種とスポーツ(3)	スポーツにおける社会的バイアスの存在について考える。
8	人種とスポーツ(4)	スポーツにおける社会的バイアスの存在について考える。
9	人種的偏見と差別(1)	「偏見」および「差別」の定義と構造について考える。
10	人種的偏見と差別(2)	人種間の摩擦、対立の背景となる社会的要因について考える。
11	公民権運動とは何だったのか(1)	1960年代以降の公民権運動の発展と変容について学び、アメリカ合衆国社会が現在も持つ課題について理解する。
12	公民権運動とは何だったのか(2)	視聴覚教材を用いて、1960年代以降の公民権運動の発展と変容について学び、アメリカ合衆国社会が現在も持つ課題について理解する。
13	キング牧師とマルコムX(1)	両者の思想的遍歴、その考え方の変容を手掛かりに、現在のアメリカ合衆国社会の抱える課題について理解する。
14	キング牧師とマルコムX(2)	両者の思想的遍歴、その考え方の変容を手掛かりに、現在のアメリカ合衆国社会の抱える課題について理解する。
15	まとめ	定期試験の解答・解説を踏まえ、人類史の課題としての人種的偏見を克服する道について考える。
16	導入	人類史における自然環境と歴史的環境の変容について概観する。
17	気候の変動と人類の歴史(1)	気候変動と農業生産の開始に関する仮説を説明し、人類による最初の環境改造がどのように行われたかを学ぶ。
18	気候の変動と人類の歴史(2)	ヨーロッパとアジアで起こった民族移動期の様相を学び、気候変動との関わりから、「中世社会」の成立について考える。
19	気候の変動と人類の歴史(3)	小氷期の到来と「17世紀の危機」の様相について学び、ヨーロッパ近代社会の成立について考える。
20	食物と人類史(1)	栽培植物の起源、伝播と文化圏の成立について学ぶ。
21	食物と人類史(2)	遊牧と酪農について、視聴覚教材を用いて考える。
22	食物と人類史(3)	イスラーム世界における砂糖生産と、その商品化について学ぶ。
23	演習	今までの講義内容をプリントで整理し、その内容を構造的に理解する。
24	食物と人類史(4)	アメリカ大陸における砂糖生産と奴隷制度の関係について学び、近代世界システムの中での「食物」の商品化について考える。
25	食物と人類史(5)	コーヒー、紅茶、ココアなどの嗜好飲料の普及と、近代市民社会および世界システムの構造について理解する。
26	感染症と人類史(1)	感染症の流行が人類の社会にどのような影響を与えてきたかを概観する。
27	感染症と人類史(2)	歴史的対象としてのペスト流行について学び、人類の歴史と感染症の関係について考える
28	感染症と人類史(3)	視聴覚教材を用いて、現代社会と感染症の関係をエボラ出血熱を例に考える。
29	感染症と人類史(4)	感染症とリスクコミュニケーションについて学び、経済構造と固有社会の文化の関係について考える。
30	まとめ	定期試験の解答・解説を踏まえ、環境と人類の社会のよりよい関係を考える。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科目	社会科学特講 (Comprehensive Social Studies)		
担当教員	八百 俊介 教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	前期は交通と地域との関係を学習したのち、交通の発生要因である人間の知覚と行動の成り立ちならびに都市・商業などの立地パターンとその形成要因を学習する。後期は、国内における異文化との共生について学習したうえで、各種資源をめぐる諸問題を把握し、過去の事例を参考にしながら発展途上国の成長策について検討する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】交通現象の計量的把握,人間の知覚と行動の成り立ちが理解できる		交通現象の計量的把握,人間の知覚と行動の成り立ちが理解できるか定期試験・レポートで評価する
2	【C3】都市ならびに施設・産業の立地パターンが理解できる		都市ならびに施設・産業の立地パターンが理解できるか定期試験で評価する
3	【D2】国内における外国人問題・少数民族問題が理解できる		国内における外国人問題・少数民族問題が理解できるか定期試験・レポートで評価する
4	【C3】各種資源をめぐる問題が理解できる		各種資源をめぐる問題が理解できるか定期試験・レポートで評価する
5	【C3】途上国の経済的発展方法が理解できる		途上国の経済的発展方法が理解できるか定期試験で評価する
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験90% レポート10% として評価する.100点満点とし,60点以上を合格とする		
テキスト	ノート講義		
参考書	授業時に提示		
関連科目	1年「地理」		
履修上の注意事項			

授業計画(社会科学特講)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	交通と地域1	交通と地域の相互関係
2	交通と地域2	交通路の計量的分析
3	交通と地域3	交通現象を指標とした地域分析
4	知覚と行動1	知覚の成り立ち
5	知覚と行動2	空間認識と図式化
6	知覚と行動3	行動の成り立ち
7	知覚と行動4	個人行動分析と地域計画
8	演習	第1週から第7週の範囲の演習
9	都市の立地と都市システム1	都市の立地と商圏
10	都市の立地と都市システム2	都市システムと中心地論
11	施設と産業の立地1	工業の立地(古典的立地論)
12	施設と産業の立地2	工業の立地(新しい視点)
13	施設と産業の立地3	公共施設の立地
14	施設と産業の立地4	物流拠点の立地
15	文化の伝播ならびに定期試験の解答・解説	定期試験の返却・解答の解説を行うとともに人間活動と文化の伝播を考察する
16	異文化との混住1	国内における外国人居住者・少数民族の発生原因
17	異文化との混住2	国内における外国人居住者・少数民族をめぐる問題とその対応
18	異文化との混住3	国内における外国人居住者・少数民族をめぐる問題の拡大
19	異文化との混住4	日本における外国人居住者をめぐる現状と今後
20	鉱産資源問題	鉱産資源確保をめぐる問題
21	食料問題	食料確保をめぐる諸問題
22	水資源問題	水資源確保をめぐる諸問題
23	演習	第16週から第22週の範囲での演習
24	途上国の経済的状況1	最貧国・債務超過など途上国の抱える経済的問題の原因
25	途上国の経済的状況2	途上国における工業化の現状
26	途上国の経済発展1	新興国における発展の要因
27	途上国における経済発展2	工業化による途上国の発展と問題
28	途上国経済の展望1	今後の途上国発展の方策
29	途上国経済の展望2	今後の途上国発展の方策
30	日本の国際貢献ならびに定期試験の解答・解説	定期試験の返却・解答の解説を行うとともに今後日本が国際社会で果たす役割を考察する
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する.学年末に再試験を行うことがある	

科目	人文科学特講(英会話) (Human Science)		
担当教員	PILEGGI MARK 准教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	アメリカ文化を紹介し英会話技術向上の為バラエティーに富む活動を行う。様々な技術を活用し、グローバルシンキングを培い、研究手段としての英語表現力向上も目指す		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]アメリカの文化の諸相ををより良く理解し,新たな発想を表現できる.		アメリカの文化の諸相を理解し新たな発想を表現できるかを,中間試験・定期試験,演習で評価する.
2	[C3]グローバルシンキングをテクノロジーを通してより深く理解できる.		授業中の質疑・応答を通して,各学生のグローバルシンキングの理解度を評価する.
3	[C3]テクノロジーを使って研究手段としての英語表現力を高める.		テクノロジーを使って研究手段としての英語表現力を高める事ができたかを演習で評価する.
4	[D2]英会話力を上達させる.		英会話力を上達させることができたかどうかを,中間試験・定期試験,演習で評価する.
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験15% プレゼンテーション30% 演習40% プロジェクト15% として評価する.		
テキスト	A) プリント Google Classroom Documents, Slides & Spreadsheets		
参考書			
関連科目	本科目はこれ以外の英語科が開講する全ての科目に関連する.		
履修上の注意事項	英和・和英辞書(電子辞書含む)を準備すること.Google Classroomに登録できる環境を準備すること		

授業計画(人文科学特講(英会話))

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction to the course	Overview of the course - Assessment of students' English proficiency
2	English Conversation and American Culture (1)	Self introductions, American greeting styles and language
3	Technology and studying English (1)	Introduction of technology useful when studying English as a second language
4	Global thinking and technology (1)	Introduce global thinking, global topics, using technology.
5	English Conversation and American Culture (2)	Focus on conversation skill building and American culture. Introduce ESL Card games.
6	Technology and studying English (2)	Discuss using technology to develop self-study tools.
7	Global thinking and technology (2)	Discuss using technology and English to interact on a global scale. Social media and Online gaming.
8	Midterm assessment of Travel Presentations	Midterm presentations and assessment
9	Return exams & English Conversation (3)	Introduce American Culture and Conversation techniques through video, after reviewing the midterm tests.
10	Technology and studying English (3)	Brainstorming on new ESL language game ideas and tools to make them.
11	Global thinking and technology (3)	Use technology to find out how other countries' college students live.
12	English Conversation and American Culture (4)	Conversation skills for debate, opinions and refusals
13	Technology and studying English (4)	Start to develop ESL original language game in groups.
14	Global thinking and technology (4)	Using technology to help in the development of study tools and continuation of group project
15	Return Final exams & Group presentations	Return the exams, go over answers and discuss the differences. ESL language game presented to other groups for ideas and self-assessment.
16	English Conversation and American Culture (5)	Introduction of different American popular tourist destinations and travel English
17	Technology and studying English (5)	Group ESL Language game final edits check
18	Global thinking and technology (5)	Introduction of presentation techniques and TED talks video
19	English Conversation and American Culture (6)	Presentation English and body language
20	Technology and studying English (6)	Tech skills for creating interesting PowerPoint presentations
21	Global thinking and technology (6)	TED talks video for presentation creating inspiration
22	Group project final adjustments	Students introduce ESL game to other groups and learn to use each language tool
23	Group Project Evaluation	Instead of midterm test, Group project will be evaluated by the teacher and peers
24	English Conversation and American Culture (7)	Group presentation brainstorming and script writing - Pecha Kucha format
25	Technology and studying English (7)	Powerpoint editing and advanced techniques
26	Global thinking and technology (7)	TED talks video for presentation creating inspiration
27	English Conversation and American Culture (8)	Script editing and peer/group/self assessment explanation - Pecha Kucha format
28	Technology and studying English (8)	Final - Pecha Kucha presentation project tech editing
29	Final individual (Pecha Kucha) presentations (1)	Final - Pecha Kucha Powerpoint Presentations in English with peer - assessment
30	Final individual (Pecha Kucha) presentations (2)	Final - Pecha Kucha Powerpoint Presentations in English with peer - assessment
備考	前期定期試験を実施する。遠隔授業の実施のため前期中間試験からオンライン・グループプレゼンに変更	

科目	人文科学特講(手話言語学) (Human Science)		
担当教員	今里 典子 教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	言語学の基礎的な概念や考え方を学んだ上で、日本手話(JSL)を対象に、言語とは何か、コミュニケーションとは何かを考察する。日本手話の構造を理解し、少数言語使用者である聾者への理解を深め、工学技術が福祉分野で貢献出来る可能性にも触れる。講義終了時には手話で基本的なコミュニケーションができる事も目指す。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]日本手話が独立した言語である事を言語学の視点から説明出来る。		日本手話が独立した言語である事を言語学の視点から説明出来るかを、定期試験・レポートで評価する。
2	[C3]手話話者である聾者について説明出来る。		手話話者である聾者について説明出来るかどうかを、定期試験・レポートで評価する。
3	[C3]工学技術が福祉分野に貢献する可能性について議論出来る。		工学技術が福祉分野に貢献する可能性について議論出来るかどうかを、定期試験・演習で評価する。
4	[D2]基本的な日本手話を使って簡単なコミュニケーションができる。		基本的な日本手話を使って簡単なコミュニケーションができるかどうかを、定期試験、演習で評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験50% レポート40% プレゼンテーション10% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。手話の特性上、JSLの習得度合い等については、記述式のテストにはなじまないため、評価方法については授業中に詳しく解説する。		
テキスト	ノート講義 (適宜プリントを配布、ビデオ教材)		
参考書	「改訂新版 はじめての手話」: 木村晴美・市田康弘著(生活書院)		
関連科目	本科目は該当無し。		
履修上の注意事項	授業では積極的に質問・発言する事が求められる。必ず基本的手話表現を習得する必要がある。また倫理上の問題にも留意する事が求められる。		

授業計画(人文科学特講(手話言語学))

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	イントロダクション	手話学習の注意事項説明,アンケートの実施.手話単語と指文字の違いについて学習する.
2	世界の言語	世界に存在している様々な言語の現状について学習する.指文字1+JSL語彙1
3	言語の定義	コミュニケーションの様々な手段のうち「言語」は他の手段とどのように異なり,いかに定義されるのかを学習する.指文字2+JSL語彙2
4	ノンバーバルコミュニケーション	音声言語とともに現れうるノンバーバルコミュニケーション手段について学習する.指文字3+JSL語彙3
5	音声学	音声言語における発声と聞こえのメカニズムを学習する.指文字4+JSL語彙4
6	手話言語の発生	手話言語がどのように生まれたのかその発生のプロセスと,JSLの歴史を学ぶ.指文字5+JSL語彙5
7	手話言語の習得	聾児の手話習得プロセスについて学習する.指文字6+JSL語彙6
8	手話表現と指文字まとめ	ここまで学習した手話表現と指文字について理解しているかどうか確認を行う.
9	手話言語の記述法	手話言語の記述法について学習する.+手話表現1
10	音韻論	ASLで見られる音韻ルールを紹介したうえで,JSLの音韻について学習する.+手話表現2
11	形態論	JSLがどのような形態の構造を持っているかを学習する.+手話表現3
12	統語論1	JSLの文法について学習する.(CL, 動詞分類, 語順)+手話表現4
13	統語論2	JSLの文法について学習する.(NMM, AUX)+手話表現5
14	手話表現まとめ1	前期に学んだ手話表現を復習する.
15	レポート講評会	レポートの講評を行い,それぞれが内容について改善し提出する.
16	レポート発表会1	レポートの内容をプレゼンテーションする.(前半)
17	レポート発表会2	レポートの内容をプレゼンテーションする.(後半)
18	意味論	JSLの意味について学習する.+手話表現6
19	語用論	JSLの語用について学習する.+手話表現7
20	手話失語	手話の失語について学習する.+手話表現8
21	聾文化	聾者の文化について学習する.+手話表現9
22	手話言語教育	世界と日本の手話教育について学習する.+手話表現10
23	手話表現まとめ2	後期に学習した手話表現について復習を行う.
24	情報保障1	情報保障の一般的な方法について学習する.+手話表現11
25	情報保障2	情報保障の技術について学習する.+手話表現12
26	情報保障3	情報保障と災害について学習する.+手話表現13
27	手話演習1	JSLを使用したコミュニケーションの演習を行う.自分の意見を発表する練習.
28	手話演習2	JSLを使用したコミュニケーションの演習を行う.Q&Aの練習.
29	手話演習3	JSLを使用したコミュニケーションの演習を行う.グルーブトークの練習.
30	まとめ	ここまで学んだ事を正しく説明できるかを確認する.
備考	後期定期試験を実施する.	

科目	経済学 (Economics)		
担当教員	高橋 秀実 特任教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	現代日本経済・世界経済の諸テーマを多面的に検証する。最新の経済テーマ・トピックスを採り入れ、時事経済記事・データを紹介し、経済動向を視野に入れつつ、現代経済の全体像を浮き彫りにする。転換期としての日本経済・世界経済の現状と課題を把握し、技術者として現代経済を広い視野から分析し判断しうる見識を養成する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C3]終身雇用・年功序列型雇用制度の変化、フリーター・非正規雇用の増大、失業率や雇用動向を最新データを用いて検証し、ワーキングプアなど現代の格差問題を考察する。		労働・雇用問題の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
2	[C3]少子化・高齢化の現況と原因を分析し、財政・税制・社会保障・経済成長に及ぼす影響や問題点を考察する。		少子化・高齢化問題の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
3	[C3]金融危機と財政危機が複合した現代経済、「失われた30年」たる平成経済の本質を考察する。		日本経済、世界経済の現況と課題の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
4	[C3]資源エネルギー問題、環境問題、と経済の関連を考察する。		資源エネルギー問題、環境問題、の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
5	[D2]技術革新と産業構造の変化の関連を考察する。サービス化・ソフト化・グローバル化・IT化・少子高齢化、などの影響を考察する。		技術革新と産業構造の関連の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70%、課題レポート・授業提出物30% で評価する。試験成績は前後期の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「平成経済 衰退の本質」：金子勝(岩波新書) プリント		
参考書	「経済財政白書 2020年度版」：内閣府(国立印刷局) 「ゼミナール 日本経済入門(最新版)」：三橋規宏他(日本経済新聞社) 「希望格差社会」：山田昌弘(筑摩書房) 「2030年 世界はこう変わる」：米国国家情報会議(講談社) 「大前研一 新経済原論」：大前研一(東洋経済)		
関連科目	政治経済(3年)		
履修上の注意事項	なし		

授業計画(経済学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
2	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
3	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
4	雇用・労働	完全失業率・有効求人倍率の概念,近年の失業率の推移など,雇用の現況を把握するための基礎知識を習得する。
5	雇用・労働	終身雇用制・年功序列型賃金・企業別労働組合など,戦後日本の雇用の特徴を検証し考察する。
6	雇用・労働	フリーターなど非正規雇用の増加の現状を分析し,雇用形態の多様化とその問題点を考察する。能力主義・成果主義賃金への転換など,雇用制度に関する現代的潮流を考察する。
7	日本のバブル経済:発生と崩壊	ブラザ合意以降の株価・地価高騰,バブル経済化,1990年代株価・地価暴落,バブル崩壊を分析する。
8	平成不況と金融危機	1990年代バブル崩壊以降のデフレ,金融危機,銀行不良債権問題,金融財政政策などを分析し,「失われた30年」としての平成経済を考察する。
9	IT革命とグローバリゼーション	1990年代以降世界経済の構造変化を生じさせた要因として,情報通信を基盤とする技術革新(IT革命)と,世界市場の一体化(グローバリゼーション)を考察する。
10	労働・雇用	賃金・労働時間・休暇など,労働基準法が規定する労働者の権利を検証する。女性の労働問題を考察する。
11	少子化・高齢化	日本の少子化・高齢化の現状を分析し考察する。
12	少子化・高齢化	晩婚化・未婚化及び経済的理由による出生率低下などの諸観点から,少子化の原因を分析し考察する。
13	少子化・高齢化	財政・税制・社会保障など様々な面に及ぼす少子化・高齢化の経済的影響を考察する。
14	格差問題	所得格差・ワーキングプアなど近年の格差拡大の現状を理解し,その原因を分析する。雇用形態の変化,高齢化など様々な要因から多面的に考察する。
15	前期総括	前期定期試験を解説する。前期の授業内容を総括する。
16	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
17	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
18	財政	公共財の供給・所得の再分配・景気の調整など諸観点から,財政の機能を考察する。
19	租税	直接税と間接税の比較を中心に税制度を分析する。国債累積・財政破綻の現状を分析する。
20	社会保障	日本の社会保障制度の現状と問題点を分析し考察する。
21	資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題について考察する。
22	資源・エネルギー問題	原子力発電の問題点と課題,新エネルギーの可能性について検証する。
23	環境問題	公害問題について考察する。
24	環境問題	地球環境問題について考察する。
25	貿易	日本の貿易の特徴を分析する。日本企業の生産海外移転・多国籍企業化を理解し,グローバリゼーションを考察する。
26	貿易	中国経済の現状を分析し,日中経済関係のあり方を考察する。
27	技術革新と産業構造	ペティ・クラークの法則が示す産業構造の変動を日本経済の歩みを通じて実証する。
28	技術革新と産業構造	戦後日本の技術革新の特徴を考察し,技術革新と産業構造の変遷の連関性を分析する。
29	技術革新の新しい潮流	情報通信革命,環境との調和,コンピュータ・ロボット・人工知能など,注目される技術革新の新しい潮流を考察する。
30	総括:世界経済・日本経済の現状と課題	後期定期試験を解説する。全授業の総括として世界経済・日本経済の現状と諸課題を考察する。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。時事経済テーマを随時導入するため,上記予定テーマの内容と順序は変更可能性あり。	

科目	情報基礎 (Fundamentals of Information Technology)		
担当教員	[前期] 上中 宏二郎 教授, [後期] 柿木 哲哉 教授		
対象学年等	都市工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A3(100%)		
授業の概要と方針	本講義は、コンピュータを電子文房具として手軽に使うために必要となる基礎技術を身につけることを目的としている。授業では、コンピュータやネットワークの仕組みを理解しながら、キーボードの操作や文書入力、電子メールの操作、コマンドによるLinuxの操作、Webページの作成方法、WWWによる情報収集と発信、アプリケーションソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)の操作について演習をしながら学習していく。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A3]コンピュータや電子メールを利用する際のマナーを身につける。		レポートと後期中間試験で、コンピュータや電子メールを利用する際の正しいマナーを説明あるいは選択させて、適切に説明・選択できるかどうかで評価する。
2	[A3]コンピュータおよびネットワークとセキュリティの基本的概念が理解できる。		後期中間試験で、コンピュータおよびネットワークとセキュリティの基本的概念を説明あるいは選択させ、適切に説明・選択できるかどうかで評価する。
3	[A3]コマンドを利用してLinuxの基本的な操作を行うことができる。		後期中間試験で、Linuxの基本操作を示し、適切なコマンドと操作手順を記述できるかどうかで評価する。
4	[A3]タッチタイピングができる。		タイピングテストの結果で評価する。
5	[A3]インターネット上の倫理観を身につけながら情報を収集、加工、発信(HTMLによるWebページ作成)できる。		レポートや演習と後期中間試験で、与えられた課題に対して適切にインターネットを通して情報を収集・加工・発信(HTMLによるWebページ作成)できるか、その際に適切な倫理観を示せるかどうかで評価する。
6	[A3]ワードプロセッサを使って文書作成ができる。		レポートや演習と後期中間試験で、与えられた課題に対してワードプロセッサを使って適切に文書作成ができるかどうかで評価する。
7	[A3]表計算ソフトウェアを使って簡単な計算およびデータ処理、グラフ作成ができる。		レポートや演習と後期中間試験で、与えられた課題に対して表計算ソフトウェアを使って簡単な計算およびデータ処理、グラフ作成ができるかどうかで評価する。
8	[A3]プレゼンテーションソフトウェアを使って簡単な作図およびスライドを作成することができる。		レポートや演習で、与えられた課題に対してプレゼンテーションソフトウェアを使って簡単な作図およびスライドを作成できるかどうかで評価する。
9			
10			
総合評価	成績は、試験30% タイピング10% レポートや演習60% として評価する。試験成績は、後期中間試験の点数とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「情報基礎」:神戸高専編		
参考書	「学生のための情報リテラシー Office 2016/Windows 10版」:若山 芳三郎(東京電機大学出版局) 「改訂第6版 HTML&スタイルシート ポケットリファレンス」:シーズ(技術評論社) 「研究発表のためのスライドデザイン」:宮野 公樹(講談社)		
関連科目	都市工学実験実習(2年),情報数値解析(4年),都市情報工学(5年)		
履修上の注意事項	本科目は演習を通じて修得する科目である。そのため、総合情報センターの演習室開放を積極的に利用するのが望ましい。		

授業計画(情報基礎)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	演習システムと利用方法	演習室の利用方法,ログイン,ログオフ,利用上のマナーについて説明し,コンピュータの基本的構造について学習する.
2	タイピング練習,SNS利用について	キーボード配列について学び,タイピング練習を行う.ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)を利用する上での注意点を学習する.
3	タイピング練習,メール送受信(1)	タイピング練習.電子メールのマナーおよび操作方法を学習する.
4	タイピング練習,メール送受信(2)	タイピング練習.メール送受信を行う.
5	タイピング練習,Linuxの基本コマンド(1)	タイピング練習.エディタの使用法について学習する.
6	タイピング練習,Linuxの基本コマンド(2)	タイピング練習.ファイルやディレクトリの基本操作を学習する.
7	タイピング練習,Linuxの基本コマンド(3)	タイピング練習.ファイルやディレクトリの基本操作を学習する.
8	復習	1~7週目までについての復習を行う.
9	コンピュータの基礎	コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの一般的な知識について学習する.
10	インターネットとセキュリティ	WWWの仕組みおよびセキュリティや倫理について学習する.
11	WWWを利用した情報検索	WWWを有効に利用するための検索手段について学習する.
12	ワードプロセッサの利用(1)	ワープロの基本的な操作(入力方法など)について学習する.
13	ワードプロセッサの利用(2)	ワープロの基本的な操作(書式設定など)について学習する.
14	ワードプロセッサの利用(3)	ワープロの基本的な操作(数式と図)について学習する.
15	表計算ソフトウェアの利用(1)	表計算ソフトの基本的な操作方法および関数の使い方について学習する.
16	表計算ソフトウェアの利用(2)	表計算ソフトを用いて基本的なデータ処理(抽出,ソートなど)の方法について学習する.
17	表計算ソフトウェアの利用(3)	表計算ソフトを用いて基本的なグラフ作成方法について学習する.
18	演習	これまで学習した内容について演習を行う.
19	HTMLによるWebページ作成(1)	HTMLによるWebページ作成のための基本事項について学習する.
20	HTMLによるWebページ作成(2)	HTMLによるWebページ作成のための基本事項について学習する.
21	HTMLによるWebページ作成(3)	HTMLによるWebページ作成のための基本事項について学習する.
22	コンピュータの基礎	コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの一般的な知識について復習する.
23	中間試験	コンピュータおよびネットワークについて筆記試験を行う.
24	中間試験の解答・解説,プレゼンテーションソフトウェアの利用(1)	中間試験の解答・解説を行う.プレゼンテーションについて学び,プレゼンテーションソフトウェアを利用して演習を行う.
25	プレゼンテーションソフトウェアの利用(2)	プレゼンテーションソフトウェアを利用して図形の描画,他のアプリケーションとの連携の演習を行う.
26	プレゼンテーションソフトウェアの利用(3)	的確で分かりやすいプレゼンテーション方法について学び,プレゼンテーションの準備を行う.
27	演習	これまで学習した内容について演習を行う.
28	演習	これまで学習した内容について演習を行う.
29	演習	これまで学習した内容について演習を行う.
30	演習	これまで学習した内容について演習を行う.
備考	後期中間試験を実施する.	

科目	測量学 I (Surveying I)		
担当教員	[前期] 酒造 敏廣 非常勤講師, [後期] 瀬谷 創 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S3(100%)		
授業の概要と方針	測量機器の説明および取扱いをもとに各種測量方法を理解する。また、それらの誤差処理の方法や計算を習得する。実験実習と連携し体験を重視した授業を行う。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-S3]測量に関する概略の知識を持たせる。		測量に関する概略の知識があるか前期中間試験で評価する。
2	[A4-S3]テープによる距離測量の方法とその精度を理解させる。		テープによる距離測量の方法とその精度について理解しているか、前期中間試験で評価する。
3	[A4-S3]テープによる距離測量の誤差の処理法を理解させる。		テープによる距離測量の誤差の処理法を理解しているか、レポートと前期中間試験で評価する。
4	[A4-S3]電磁波測距儀およびGPSについて、その概要を理解させる。		電磁波測距儀およびGPSについて、その概要を理解しているか前期定期試験で評価する。
5	[A4-S3]セオドライトの構造や機能を理解させる。		セオドライトの構造や機能を理解しているか前期定期試験で評価する。
6	[A4-S3]セオドライトによる角度の測定方法やその精度を理解させる。		セオドライトによる角度の測定方法やその精度を理解しているか、レポートと前期定期試験で評価する。
7	[A4-S3]トラバース測量の概要を知り、その測定値の誤差を処理し、座標値を求めることができるようにする。		トラバース測量の概要を知り、その測定値の誤差を処理し、座標値を求めることができるかをレポートと後期中間試験で評価する。
8	[A4-S3]水準測量の概略の知識を持たせる。		水準測量の概略の知識を持つかを後期定期試験で評価する。
9	[A4-S3]水準測量の作業方法を理解させる。		水準測量の作業方法を理解しているかレポートと後期定期試験で評価する。
10	[A4-S3]水準測量の誤差の処理法を理解させる。		水準測量の誤差の処理法を理解しているかレポートと後期定期試験で評価する。
総合評価	成績は、試験80% レポート20% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	測量入門:大杉和由・福島博行(実教出版)		
参考書	改定測量学I:堤 隆(コロナ社)		
関連科目	数学I, 数学II, 物理, 測量学II, 測量学III, 施工管理学		
履修上の注意事項	計算問題の演習を多く行うので、電卓が必要。		

授業計画(測量学Ⅰ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	測量の概要と歴史	測量の基準,測量方法の概要,歴史について解説する.
2	角度,長さの単位,測定値と有効数字	角度,長さの単位,測定値と有効数字について解説する.
3	簡単な,誤差の取扱い	簡単な,誤差の取扱いについて解説する.
4	直接距離測量,テープの種類,測定方法	直接距離測量,テープの種類,測定方法について解説する.
5	距離測定で生じる定誤差の処理	距離測定で生じる定誤差の処理について解説する.
6	距離測定で生じる定誤差の処理の演習	距離測定で生じる定誤差の処理の演習を行う.
7	距離測定の不定誤差と精度	距離測定の不定誤差と精度について解説し演習を行う.
8	電磁波測距儀およびGPSの概要	電磁波測距儀およびGPSの概要について解説する.
9	セオドライトの構造と操作方法	セオドライトの構造と操作方法について解説する.
10	セオドライトの検査と調整	セオドライトの検査と調整について解説する.
11	中間試験(前期)	距離測量を中心とした出題.
12	中間試験解答・解説,水平角の測定方法(単測法)	中間試験の解答・解説を行う.水平角の測定方法(単測法)について解説し,その記帳法についても解説する.
13	水平角の測定方法(反復法)	水平角の測定方法(反復法)について解説し,その記帳法についても解説する.
14	水平角の測定方法(方向法)	水平角の測定方法(方向法)について解説し,その記帳法についても解説する.
15	定期試験返却および前期内容の復習・総括	定期試験の解答・解説を行った後,前期の学習内容のポイントを復習し,総括を行う.
16	トラバース測量の概要	トラバース測量の概要について解説する.
17	トラバース測量の概要とその実施方法	トラバース測量の概要とその実施方法について解説する.
18	閉合トラバース測量の計算(方位角)	閉合トラバース測量の方位角の計算について解説し演習を行う.
19	閉合トラバース測量の計算(方位)	閉合トラバース測量の方位の計算について解説し演習を行う.
20	閉合トラバース測量の計算(緯距・経距)	閉合トラバース測量の緯距・経距の計算について解説し演習を行う.
21	閉合トラバース測量の計算(トラバースの調整)	閉合トラバース測量の調整計算について解説し演習を行う.
22	閉合トラバース測量の計算(座標)	閉合トラバース測量の座標計算について解説し演習を行う.
23	中間試験(後期)	トラバース測量の計算を中心とした出題.
24	中間試験解答・解説,水準測量の概要(高さの基準)	中間試験解答・解説,水準測量の概要(高さの基準)について解説する.
25	水準測量の概要(水準測量の分類など)	水準測量の概要(水準測量の分類など)について解説する.
26	水準測量で使用する器械,器具	水準測量で使用する器械,器具について解説する.
27	直接水準測量の方法と野帳記入法(器高式)	直接水準測量の方法と野帳記入法(器高式)について解説し演習を行う.
28	直接水準測量の方法と野帳記入法(昇降式)	直接水準測量の方法と野帳記入法(昇降式)について解説し演習を行う.
29	水準測量の誤差とその調整法	水準測量の誤差とその調整法について解説し演習を行う.
30	定期試験返却および後期内容の復習・総括	定期試験の解答・解説を行った後,一年間の学習内容のポイントを復習し,総括を行う.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.計算をすることが多いので,常に電卓を持参すること.また,配布したプリント,返却したレポートは整理して管理すること.	

科目	都市工学概論 (An Introduction to civil engineering)		
担当教員	水越 睦視 教授, 伊原 茂 教授, 鳥居 宣之 教授, 柿木 哲哉 教授, 上中 宏二郎 教授, 宇野 宏司 教授, 高科 豊 准教授, 野並 賢 准教授, 田島 喜美恵 准教授, 小塚 みすず 准教授		
対象学年等	都市工学科・1年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S4(100%)		
授業の概要と方針	本講義では,1年生に向けて都市工学の分野の様々な取り組みや理論を概説するために,都市工学科の全教員によるオムニバス形式の講義を行う。講義を通して,市民の生活に密接にかかわる都市工学の技術の射程とその社会的意義,および都市工学分野における職能について理解を深める。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S4】都市工学の範疇に含まれる多様な社会・自然現象について説明できる。		現代における都市工学技術の射程についての理解度をレポートにて評価する。
2	【A4-S4】都市工学で取り扱う様々な技術の概要を説明できる。		都市工学の様々な技術についての知識と理解度をレポートにて評価する。
3	【A4-S4】都市工学分野の職能について説明できる。		都市工学分野の職能についての知識と理解度をレポートにて評価する。
4	【A4-S4】講義概要をまとめ,内容に対する自身の意見・考えをレポートとしてまとめることができる。		論理的な思考と報告書の作成能力をレポートにて評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,レポート100% として評価する。成績は各回に担当教員から課されるレポートの平均点とする。総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。なお,提出期限が守られなかった課題は評価しない。また,未提出の課題がある場合には成績を評価しない。		
テキスト	「都市工学概論」:神戸市立工業高等専門学校 都市工学科 講義時に配付配付するプリント		
参考書			
関連科目	都市工学科専門科目全般,卒業研究		
履修上の注意事項	レポート点には,講義時のディスカッションの内容を反映させる回がある。		

授業計画(都市工学概論)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	都市工学とは	市民の工学(Civil Engineering)としての都市工学の歴史的経緯と技術の発展について概観する。
2	都市工学で扱う材料と診断	石材,鉄などの都市工学で扱う材料とコンクリート診断技術を概観する。
3	多様化するコンクリート	コンクリートの基本とJISで規定されている以外の様々な要求にこたえる特殊コンクリートについて概観する。
4	構造物を支える地盤と地下水とのかかわり	構造物,あるいは都市そのものを支える地盤の性質と地下水とのかかわりについて概観する。
5	地盤災害から人びとを護る	土砂崩れや液状化などの地盤災害のメカニズムとその対策について概観する。
6	河川と人びとの暮らし	河川と人間社会のかかわりについての歴史的経緯や河川環境整備のための技術について概観する。
7	環境との調和をめざした土木技術	都市の温暖化や水質問題などを含んだ人間を取り巻く「環境」と都市工学のかかわりについて概観する。
8	暮らしを支える土木・建築構造物(コンクリート構造物,複合構造物,木造構造物)	木造構造物,鉄筋コンクリート構造物および鋼・コンクリート構造物の概要とそれらの建設技術について概観する。
9	暮らしを支える土木構造物(鋼構造物)	橋梁を中心とした鋼構造物の概要と建設技術について概観する。
10	都市と交通	鉄道や道路などの交通インフラの整備,および景観形成などを含んだ都市計画の枠組みについて概観する。
11	建築構造物と人びとの暮らし	人間の「住まい」としての建築の意味と建築計画の考え方について概観する。
12	まちの風景をつくる技術	まちづくり,都市デザイン,コミュニティデザインの工学的・社会的技術について,日本各地における取り組みをふまえて概観する。
13	現場見学	建設・建築工事,あるいは都市開発などの現場を見学し,報告書を作成する。(14週目分とあわせて実施する)
14	現場見学	建設・建築工事,あるいは都市開発などの現場を見学し,報告書を作成する。(13週目分とあわせて実施する)
15	卒業後の進路と職業選択について	本授業の内容を総括しながら,「卒業後の進路と職業選択」について講義する。将来,社会に出て技術者として活躍するために,本科5年間でどのような力を身につける必要があるのかを考える。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない。	

科目	都市工学実験実習 (Laboratory Work in Civil Engineering)		
担当教員	[前期] 水越 陸視 教授, 酒造 敏廣 非常勤講師, [後期] 野並 賢 准教授, 小塚 みすず 准教授		
対象学年等	都市工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S3(30%), C1(30%), C4(30%), D1(10%)		
授業の概要と方針	測量学で学ぶ知識をもとに, 距離測量, 水準測量, セオドライトを用いた測量の技術およびデータ整理の方法を習得する。また班毎の実習作業およびその準備作業を通して, チームによる作業の進め方についても理解を深める。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-S3] 歩測やテープによる距離測量およびその誤差処理ができる。		歩測やテープを用いた距離測量およびその誤差処理ができていないかをレポートで評価する。
2	[A4-S3] セオドライトを用いて角度の測定ができる。		セオドライトの扱い方について, 据付テスト・測角テストにより評価する。
3	[A4-S3] トラバース測量を正確に行い, 測量結果から展開図を作成することができる。		トラバース測量の成果の計算ととりまとめ, および正確な展開図の作成についてレポートで評価する。
4	[A4-S3] 水準測量の測定結果をもとに正確に地盤の高さを求めることができる。		適切な水準測量の実施と計算処理について, レポートにより評価する。
5	[C1] 実習結果を適切に処理し, 実習レポートを提出できる。		各テーマごとのレポートが適切に作成できているかを評価する。
6	[C4] 決められた期限内に実習報告書(レポート)が書ける。		各テーマごとの報告書(レポート)の提出状況で評価する。
7	[D1] 機器の取り扱いに注意し, 安全に実習に取り組むことができる。		安全に実習が行なわれているか, 各実習の課題で評価する。
8			
9			
10			
総合評価	成績は, レポート70% 実技試験(セオドライト据付けテスト・測角テスト)20% 実習の遂行状況10% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。なお, 提出期限が守られなかった課題は評価しない。また, 未提出の課題がある場合には成績を評価しない。		
テキスト	「測量入門」: 大杉和由・福島博行ほか(実教出版) 実習時に配布するプリント		
参考書	「測量実習指導書」: 土木学会編(土木学会)		
関連科目	測量学(S1, S2, S4), 都市工学実験実習(S2)		
履修上の注意事項	実習受講の準備と取り組み状況とは, 作業服の着用, 器機の取り扱い方, 班員との協力状況などをいう。屋外での作業が中心となるため, 安全管理を徹底し, 外業の時は本校指定の実習服を着用すること。実験実習はチームワーク(班別)で実施することが多いため, 個別の再実験は認められない。そのため, 出席することが原則である。		

授業計画(都市工学実験実習)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス	測量学の概要,本実習の進め方,実験実習を受講するにあたっての注意点を概説する.また,実習で用いる器械の機能や取扱上の注意点を説明する.
2	歩測	距離のわかっている区間を学生各人が歩いて,その歩数より自分の歩幅の長さを知る.校内の決められた区間の長さを歩測で求める.
3	テープによる距離測量	50mスチールテープを用いて70~80mの区間を往復測定する.
4	テープによる精密距離測量	平坦地の2点間の距離を,スチールテープにより繰り返し測定することで,精密な距離測量を行う.また,測定値から最確値,標準偏差,精度を求める.
5	セオドライトの構造と名称	セオドライトの構造と操作方法の説明を行い,各部の名称を覚える.また,簡単な角測量を行う.
6	器械の据付	セオドライトの据付練習を行う.
7	器械の据付・測角	セオドライトの据付と測角練習を行う.
8	器械の測角	セオドライトの測角練習を行う.
9	水平角の測定(単測法)	水平角を正・反で測定する.
10	三角形の内角測定(単測法)	三角形の内角を単測法により測定し,誤差と精度を求める.
11	水平角の測定(倍角法)	水平角を反復して測定する.
12	四辺形の測角測定(倍角法)	四辺形の内角を倍角法により測定し,誤差と精度を求める.
13	水平角の測定(方向法)	水平角を方向法によって測定する.
14	器械の検査と調整	セオドライトの検査を行い誤差があれば調整する.
15	閉合トラバースの踏査・選点,測角	校内でトラバースの踏査および選点を行う.また校内に組んだトラバースの測角を行う.
16	トラバース測量	校内に組んだトラバースの測角および測距を行う.
17	トラバース測量	校内に組んだトラバースの測角および測距を行う.
18	トラバース測量	校内に組んだトラバースの測角および測距を行う.
19	トラバース測量	校内に組んだトラバースの測角および測距を行う.
20	トラバース測量	校内に組んだトラバースの測角および測距を行う.
21	トラバース測量	校内に組んだトラバースの測角および測距を行う.
22	トラバース測量	校内に組んだトラバースの測角および測距を行う.
23	トラバースの計算・座標の展開	測定したトラバースのデータを用いて座標計算を行う.トラバース計算書より座標の展開を行う.
24	実技テスト(セオドライトの据え付け)	セオドライトの据え付けができるか実技テストを行う.
25	実技テスト(セオドライトによる測角)	セオドライトによる測角ができるか実技テストを行う.
26	水準測量1	レベルの説明を行い,水準測量を行う.
27	水準測量2	トラバース点間の高低差を求める水準測量を行う.
28	水準測量3	高低差の大きな区間の水準測量を行う.
29	水準測量4-1(縦断測量の外業)	道路の縦断測量を行う.
30	水準測量4-2(縦断測量の内業)	縦断測量の結果より,縦断図を作成する.
備考	中間試験および定期試験は実施しない.	

科目	構造力学 I (Structural Mechanics I)		
担当教員	上中 宏二郎 教授		
対象学年等	都市工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S2(100%)		
授業の概要と方針	人々が安全・安心・快適に生活するために必要な構造物は社会基盤施設(インフラ)と呼ばれ、橋、ダム、トンネル、よう壁や防波堤などがある。この授業は、地震、風、交通荷重などの力が構造物に作用するとき、構造物がどのように挙動するかを知るための学問の入門として位置づけられる。構造物の要素である棒材、はり及び柱に生じる力を求め、力学の原理や数学の手法を用いて、力学的な特徴をどのように表すかを学ぶ。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S2】SI単位が理解できる。		重力単位からSI単位の変換ができることをレポートおよび前期中間試験により確認する。
2	【A4-S2】静定構造物の反力を求めることができる。		単純ばり、片持ちばり、張り出しばり、ならびにゲルバーばりの反力を求めることをレポート、前期中間試験、および前期定期試験により確認する。
3	【A4-S2】静定構造物の内部の力を図化できる。		静定構造物の断面力図を描くことができることをレポートおよび後期中間試験により確認する。
4	【A4-S2】トラスに働く部材の力を求めることができる。		トラス部材の力を求めることをレポートおよび後期定期試験により確認する。
5	【A4-S2】静定はりの影響線を図化できる。		静定はりの影響線を描くことができるかを後期定期試験により確認する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% レポート30% として評価する。試験70%の内訳は、中間試験35%、期末試験35%とする。総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	崎元達郎：構造力学(上),第2版,静定編,森北出版		
参考書	岡村宏一：構造力学(I),土木教程選書,鹿島出版 藤本一雄,西田進,中村一平,本田秀行,木村定雄：基礎から学ぶ構造力学,森北出版 福本口秀士編著,岡田清／監修：構造力学I(ニューパラダイムテキストブック),東京電機大学出版局		
関連科目	数学,物理(一般科目)		
履修上の注意事項	1)授業70%+授業時間外学習30%の理解となるように授業難易度を設定している。2)期限内に提出されなかった課題は0点とする。3)返却課題は1つのファイルに綴じて整理すること。4)迷惑行為をした場合は退場してもらおう。5)教科書を持参しない学生は授業進行の妨げになるので遅刻扱いとする,または,受講を遠慮してもらおう場合がある。6)授業開始5分前には受講準備を整えること。7)授業中のスマホ・携帯等の取り扱いは試験時と同様とする。		

授業計画(構造力学Ⅰ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	構造力学の概説	この1年間の学修方法について助言し,内容について概説する.
2	重力単位とSI単位	重力単位とSI単位の変換について学習する.
3	力の合成,分解	力の作用線の描き方,力の合成・分解の計算,描画方法について説明する.
4	力のつり合い(1)	1点に交わる力について計算を行う.
5	力のつり合い(2)	1点に交わらない力について計算を行う.
6	剛体のつり合い(1)	剛体の釣合いから力を求める方法の講義および演習を行う
7	剛体のつり合い(2)	剛体の釣合いから力を求める方法の講義および演習を行う
8	はりの支持方法とはりのつり合い	はりの支持方法について説明し,はりに集中荷重が作用する場合の反力を求める.
9	はりのつり合い(1)	単純ばりに集中荷重が作用する場合の反力を求める.
10	はりのつり合い(2)	単純ばりに分布荷重が作用する場合の反力を求める.
11	中間試験	1~7回までの範囲について試験を行う
12	中間試験の解答および力のつり合い(3)	中間試験の解答を解説後,これまでの復習を行う.
13	はりのつり合い(4)	片持ばりに集中荷重が作用する場合の反力を求める.
14	はりのつり合い(5)	片持ばりに分布荷重が作用する場合の反力を求める.
15	定期試験の解説およびはりのつり合い(6)	定期試験を解説するとともに,はりに様々な荷重が作用する場合の反力を求める.
16	単純ばりの断面力(1)	単純ばりに集中荷重が作用した場合の断面力を求める.
17	単純ばりの断面力(2)	単純ばりに分布荷重が作用した場合の断面力を求める.
18	片持ばりの断面力(1)	片持ばりに集中荷重が作用した場合の断面力を求める.
19	片持ばりの断面力(2)	片持ばりに分布荷重が作用した場合の断面力を求める.
20	ゲルバーばりのつり合い	ゲルバーばりの反力を求める.
21	ゲルバーばりの断面力(1)	ゲルバーばりの断面力を求める.
22	ゲルバーばりの断面力(2)	ゲルバーばりの断面力を求める.
23	中間試験	16~22回の内容について中間試験を行う.
24	中間試験の解答およびトラス部材	中間試験の解答を解説後,トラス部材の概要について説明する.
25	静定トラス部材の解法(1)	静定トラス部材の節点法について学習する.
26	静定トラス部材の解法(2)	静定トラス部材の断面法について学習する.
27	静定トラス部材の解法(3)	静定トラス部材の断面法について学習する.
28	影響線(1)	静定構造物の影響線について学習する.
29	影響線(2)	静定構造物の影響線について学習する.
30	定期試験の解説ならびに構造力学I総括	定期試験の解説を行う.また1年間学んだ構造力学Iの総括をして,重要な部分について演習を行う.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	材料学 (Material Engineering)		
担当教員	水越 睦視 教授		
対象学年等	都市工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S1(100%)		
授業の概要と方針	橋やトンネルなどの公共構造物やビルなどの建築構造物を造る上で、使用する材料の種類や特徴を知ることが重要かつ必要になる。そこで、都市工学に必要な建設材料についての基礎的知識を学習することを目的とする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S1】建設材料の種類と特徴,その性質について説明できる。		建設材料の特徴と性質について理解しているかを前期中間試験およびレポートで評価する。
2	【A4-S1】セメント,混和材料について説明できる。		セメント,混和材料について理解できているかを前期中間試験で評価する。
3	【A4-S1】コンクリートの構成材料と配合設計について説明できる。		コンクリートの構成材料と配合設計について説明できるかを前期定期試験およびレポートで評価する。
4	【A4-S1】フレッシュコンクリートの特性,コンクリートの施工について説明できる。		フレッシュコンクリートの特性,コンクリートの施工について説明できるかを前期定期試験で評価する。
5	【A4-S1】施工に留意が必要なコンクリート,硬化コンクリートの特性,コンクリートの耐久性,レディーミクストコンクリートについて説明できる。		施工に留意が必要なコンクリート,硬化コンクリートの特性,コンクリートの耐久性,レディーミクストコンクリートについて説明できるかを後期中間試験およびレポートで評価する。
6	【A4-S1】鋼材,高分子材料,アスファルトについて説明できる。		鋼材,高分子材料,アスファルトについて説明できるかを後期定期試験で評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験80% レポート20% として評価する。試験80%の内訳は中間試験50%,定期試験50%とする。前期後期の内訳は50%ずつとする。総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「改訂版 図説 わかる材料」:宮川豊章,岡本享久,熊野知司(学芸出版社)		
参考書	「エース 建設構造材料」:西林新蔵,阪田憲次,井上正一(朝倉書店) 「建設材料」:中嶋清実・角田 忍・菅原 隆共著(コロナ社) 「土木材料学」:近藤泰夫・谷本治三郎・岸本進著(コロナ社)		
関連科目	構造力学I(S1),コンクリート工学I(S3),コンクリート工学II(S4),都市工学実験実習(S3,S5)		
履修上の注意事項			

授業計画(材料学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンスおよび材料学概説	授業ガイダンスを行う。主な建設材料の種類と特徴、コンクリートの役割について学び理解する。
2	建設材料に求められる性質	建設材料の力学的性質と物理的性質について学び理解する。材料の応力とひずみを理解する。
3	セメント(1)	セメントの種類と強度発現や水和熱との関係をセメントの鉱物組成と関連して理解する。
4	セメント(2)	セメントの原材料と製造方法を理解する。
5	混和材料(1)	混和剤の役割と種類について学び、主にAE剤の空気連行メカニズム、減水剤および高性能減水剤のセメント粒子分散メカニズムを理解する。
6	混和材料(2)	混和材の役割と種類について学び、主に高炉スラグ微粉末、フライアッシュ、シリカフュームの特徴と留意点について理解する。
7	骨材	骨材の役割と種類について学び、骨材の性質を理解する。
8	コンクリート入門	コンクリートの基本を概観する。
9	コンクリートの配合設計(1)	コンクリートの配合設計の流れを学び理解する。
10	コンクリートの配合設計(2)	各材料の単位量を決定し、示方配合の計算を学び理解する。
11	前期中間試験	主な建設材料の種類・特徴・性質、コンクリートの構成材料であるセメント、混和材料、骨材について出題する。
12	中間試験の解答・解説およびコンクリートの配合設計(3)	中間試験の解答・解説および配合修正・現場配合の計算方法を学び理解する。
13	フレッシュコンクリート	フレッシュコンクリート(スランプ、空気量、材料分離など)について学び理解する。
14	コンクリートの施工	コンクリートの施工の基本について学び理解する。
15	前期定期試験の解答・解説および前期内容の復習・総括	前期定期試験の解答・解説を行った後、前期の学習内容のポイントを復習し、総括を行う。
16	施工に留意が必要なコンクリート	寒中コンクリート、暑中コンクリート、マスコンクリートについて理解する。
17	硬化コンクリート(1)	硬化コンクリートの圧縮強度、引張強度、曲げ強度、乾燥収縮、クリープなどについて学び理解する。
18	硬化コンクリート(2)	各種強度、クリープ係数の計算方法を学び理解する。
19	コンクリートの耐久性(1)	凍害、アルカリシリカ反応の基本について学び理解する。
20	コンクリートの耐久性(2)	化学的侵食の基本を学び理解する。
21	コンクリートの耐久性(3)	中性化、塩害の基本を学び理解する。
22	レディーミクストコンクリートの種類と呼び方	JIS A 5308のレディーミクストコンクリートの種類と呼び方について理解する。
23	後期中間試験	施工に留意が必要なコンクリート、硬化コンクリート、コンクリートの耐久性、レディーミクストコンクリートについて出題する。
24	中間試験の解答・解説および鋼材(1)	後期中間試験の解答・解説および鋼材の役割と種類、鋼材の製造法の基本を学び理解する。
25	鋼材(2)	鋼材の疲労・腐食と防食の基本を学び理解する。
26	高分子材料	有機系化合物の役割と特徴、補修・補強材料としての用途について学び理解する。
27	アスファルト	アスファルトの性質と特徴の基本を理解する。
28	建設材料のポイントの復習(1)	材料の応力、ひずみ関係の基本を復習し、確実に理解する。
29	建設材料のポイントの復習(2)	コンクリートの配合計算の基本を復習し、確実に理解する。
30	後期定期試験の解答・解説および後期内容の復習と総括	後期定期試験の解答・解説を行った後、後期の学習内容のポイントを復習し、総括を行う。
備考	前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	測量学Ⅱ (Surveying II)		
担当教員	瀬谷 創 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・2年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S3(100%)		
授業の概要と方針	TSを用いた測量,スタジア測量,面積体積の計算,基準点測量,写真測量についての講義を行い,これらの測量方法の理論的基礎と具体的な測量の実施方法について学習する.また演習問題を通して,測量における計算処理の方法を習得する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-S3]トータルステーションを用いた測量に関する知識をもち,その測量方法を説明できる.		トータルステーションを用いた測量に関する理論と技術についての理解度をレポートや中間試験で評価する.
2	[A4-S3]土地の面積,地盤計画高,工事時に発生する土量などの計算を行うことができる.		面積計算,土量計算についての理論と技術についての理解度をレポートや中間試験で評価する.
3	[A4-S3]基準点測量のしくみが説明でき,必要な計算を行うことができる.		基準点測量に関する理論と技術についての理解度をレポートや中間試験および定期試験で評価する.
4	[A4-S3]写真測量に関する知識を持ち,その測量方法が説明できるとともに必要な計算を行うことができる.		写真測量に関する理論と技術についての理解度をレポートや定期試験で評価する.
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験80% レポート20% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.なお,中間試験と定期試験の点数(100点満点)にそれぞれ30%と70%の比率を掛け合わせたものを試験成績とする.		
テキスト	「測量入門」:大杉和由,福島博行(実教出版) 講義時に配布するプリント		
参考書			
関連科目	測量学I(S1),測量学III(S4)都市工学実験実習(S1,S2)		
履修上の注意事項	講義時は必ず電卓と定規を持参すること		

授業計画(測量学Ⅱ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	オリエンテーション	講義の進め方に関するオリエンテーションを行う。
2	面積・体積の計算(1)	三角区分法,座標による方法での面積の測定について解説し,演習を行う。
3	面積・体積の計算(2)	断面法,点高法による体積測定について解説し,演習を行う。
4	面積・体積の計算(3)	面積・体積の計算について演習を行う。
5	トータルステーションを用いた測量(1)	トータルステーションの特徴と使用方法,およびTS地形測量,デジタルマッピング,マップデジタイズの概要について説明する。
6	トータルステーションを用いた測量(2)	トータルステーションを用いた測量の座標計算の方法について説明し,演習を行う。
7	トータルステーションを用いた測量(3)	トータルステーションを用いた測量の座標計算について演習を行う。
8	講義のまとめ	第7週目までの講義内容についての復習を行う。
9	演習課題(中間試験に相当するレポート)	面積体積の計算,トータルステーションを用いた測量に関する理解度を演習課題にて評価する。
10	空中写真測量(1)	空中写真測量の歴史,概要,写真測量の進め方について解説する。
11	空中写真測量(2)	写真測量の原理および実体視のしくみについて解説するとともに,地形判読の演習を行う。
12	空中写真測量(3)	空中写真を用いて,中写真を用いて,高低差,水平距離を測定する方法について解説する。
13	空中写真測量(4)	空中写真を用いて,地物の判読,および高低差,距離を測定する演習を行う。
14	測量技術の現在と今後の展望	建設現場における測量技術の現在と今後の展望について説明する。
15	定期試験の解答・解説	定期試験の解答・解説を行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科目	都市工学実験実習 (Laboratory Work in Civil Engineering)		
担当教員	[前期] 稲田 幸助 非常勤講師, 藤井 達司 非常勤講師, 倉園 史郎 非常勤講師, [後期] 宇野 宏司 教授		
対象学年等	都市工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S3(30%), C1(30%), C4(30%), D1(10%)		
授業の概要と方針	前期はトータルステーションを用いた測量等の測量実習を通じてその技術や要領を学ぶとともに, チームワーク力や協調性を養う。後期は情報処理言語を用い, 工学的諸問題を数値的に解決する方法としてのプログラミング基礎やデータ処理手法の基礎を習得する。また, 現場見学を通じて, 都市工学の技術についての関心を深める。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-S3]トータルステーションを用いてトラバース測量を実施することができる。		トータルステーションを用いた測量の実習成果及びレポートで評価する。
2	[A4-S3]面積および体積を, 各種方法により計算することができる。		面積および体積計算のレポートで評価する。
3	[A4-S3]空中写真を用いて地理情報を読み取り, 高低差等を計算することができる。		読み取った情報の正確さや高低差計算等の実習成果で評価する。
4	[A4-S3]スタジア測量を理解できる。		スタジア測量の実習成果及びレポートで評価する。
5	[A4-S3]プログラムの作成から, コーディング, デバッグ, コンパイル, 実行までの手順を理解し, 習得する。		プログラムの作成から実行までの一連の手順を理解できているかをレポートで評価する。
6	[A4-S3]Fortran言語による基本的なプログラムの作成ができる。		Fortran言語による基本的なプログラムの作成ができているかをレポート及び小テストで評価する。
7	[C1]現場見学での内容を理解し, 正確に報告できる。		現場見学後に課すレポートの内容で評価する。
8	[C4]決められた期限内に報告書(レポート)を提出できる。		各テーマごとの報告書(レポート)の提出状況で評価する。
9	[C4]班の構成員と協力して実習を行うことができる。		班の構成員と協力して実習が行なわれているか, 各実習の課題で評価する。
10	[D1]機器の取り扱いに注意し, 安全に実習に取り組むことができる。		安全に実習が行なわれているか, 各実習の課題で評価する。
総合評価	成績は, レポート30% 小テスト30% 実習成果40% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。なお, 提出期限が守られなかった課題は評価しない。また, 未提出の課題がある場合には成績を評価しない。		
テキスト	配布プリント 「ザ・Fortran 77」: 戸川隼人(サイエンス社)		
参考書	「改訂測量学I」, 堤隆(コロナ社) 「最新測量入門新訂版」, 浅野繁喜/伊庭仁嗣(実教出版)		
関連科目	S1「測量学I」, S2「測量学II」, S1「都市工学実験実習」, S1「情報基礎」		
履修上の注意事項	S1「測量学I」, S2「測量学II」, S1「都市工学実験実習」, S1「情報基礎」の知識が必要		

授業計画(都市工学実験実習)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス	年間スケジュールや実習時の注意事項について述べる。トータルステーションの取り扱い方法を理解する。
2	トータルステーションを用いた測角と測距	トータルステーションを用いて測角および測距を行う。
3	トータルステーションを用いたトラバース測量(1)	トータルステーションを用いて校内に組んだトラバースの測角および測距を行う。
4	トータルステーションを用いたトラバース測量(2)	トータルステーションを用いて校内に組んだトラバースの測角および測距を行う。
5	トータルステーションを用いたトラバース測量(3)	トータルステーションを用いて校内に組んだトラバースの測角および測距を行う。
6	トータルステーションを用いたトラバース測量(4)	トータルステーションを用いて校内に組んだトラバースの測角および測距を行う。
7	トータルステーションを用いたトラバース測量(5)	測定したトラバースのデータを用いて座標計算を行う。
8	トータルステーションを用いたトラバース測量(6)	トラバース計算書より座標の展開を行う。
9	実技テスト(トータルステーションを用いた測角と測距)	トータルステーションを用いて適切に測角・測距が行えるか実技テストを行う。
10	面積および体積の計算(1)	面積および体積の計算方法を解説する。
11	面積および体積の計算(2)	面積および体積の計算を実施する。
12	写真測量(1)	反射式実体鏡による空中写真の実体視を行って地理情報を読み取る。
13	写真測量(2)	空中写真から視差を読み取り、視差差によって高低差を求める。
14	スタジア測量	測量結果を計算して器械のスタジア定数を求めた後、スタジア測量にて距離を求める。
15	ドローン測量	最新の測量技術の一つであるドローンを用いた測量を体験する。
16	Fortranによる情報処理演習(1)	プログラミング言語としてのFortran言語の基本事項について学習する。
17	Fortranによる情報処理演習(2)	データ型及びデータの入出力について説明し、それらについて演習を通して理解する。
18	Fortranによる情報処理演習(3)	引き続き、データ型及びデータの入出力について説明し、それらについて演習を通して理解する。
19	Fortranによる情報処理演習(4)	四則演算の方法ならびに代表的な組み込み関数について説明し、それらについて演習を通して理解する。
20	Fortranによる情報処理演習(5)	引き続き、四則演算の方法ならびに代表的な組み込み関数について説明し、それらについて演習を通して理解する。
21	Fortranによる情報処理演習(6)	繰返し計算と判断のプログラムについて説明し、それらについて演習を通して理解する。
22	Fortranによる情報処理演習(7)	引き続き、繰返し計算と判断のプログラムについて説明し、それらについて演習を通して理解する。
23	Fortranによる情報処理演習(8)	配列変数(表形式のようなデータを扱う場合に用いられる添字付きの変数)について説明し、それらについて演習を通して理解する。
24	Fortranによる情報処理演習(9)	引き続き、配列変数(表形式のようなデータを扱う場合に用いられる添字付きの変数)について説明し、それらについて演習を通して理解する。
25	Fortranによる情報処理演習(10)	主プログラムと副プログラムという考え方とその必要性について説明し、それらについて演習を通して理解する。
26	総合演習(1)	都市工学関連の演習問題について、Fortranを活用して解く。
27	総合演習(2)	都市工学関連の演習問題について、Fortranを活用して解く。
28	総合演習(3)	都市工学関連の演習問題について、Fortranを活用して解く。また、16週目以降これまで実習してきたことの事項について小テストで確認する。
29	現場見学(1)	都市工学関連の施設を見学し、その技術について学ぶ。
30	現場見学(2)	都市工学関連の施設を見学し、その技術について学ぶ。(第29週と同日に開催)
備考	中間試験および定期試験は実施しない。筆記用具、電卓、実習ファイルを持参すること。見学先の事情や天候により、前後の授業計画を入れ替える場合がある。外業時は、安全管理に徹底し、相応しい服装(原則として実習服)で臨むこと。実験実習はチームワーク(班別)で実施することが多いため、個別の再実習は認められない。そのため、出席することが原則である。	

科目	構造力学Ⅱ (Structural Mechanics II)		
担当教員	伊原 茂 教授		
対象学年等	都市工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S2(100%)		
授業の概要と方針	2年に引き続き構造力学の授業である。静定構造物の解法に重点を置き、構造材料の力学的性質、はりの内部に働く応力、はりの弾性変形、柱の座屈の理論について学ぶ。授業のみならず予習・復習の自学自習を通じて、勉強する力を身につけられるように授業を進める。できるだけ多くの演習を取り入れて習熟度を高めるようにする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S2】各種断面の諸量が求められる。		各種断面の諸量の計算を前期中間・定期試験とレポートで評価する。
2	【A4-S2】はりの断面に生じる応力度やひずみが求められる。		はりの断面に生じる応力度やひずみの計算を前期中間・定期試験とレポートで評価する。
3	【A4-S2】はりのたわみ・たわみ角が求められる。		はりのたわみ・たわみ角の計算を後期中間・定期試験・レポートで評価する。
4	【A4-S2】不静定構造を静定構造に分解して不静定力が求められる。		未知の不静定力を定め、不静定構造物を解く計算を後期定期試験とレポートで評価する。
5	【A4-S2】柱の応力度が求められる。		柱の応力度の計算を後期定期試験・レポートで評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験80% レポート20% として評価する。試験80%の内訳は、中間試験40%、定期試験40%とする。総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「構造力学(上) 静定編」, 崎元達郎, 森北出版		
参考書	「構造力学(I)」, 岡村宏一, 土木教程選書, 鹿島出版		
関連科目	構造力学I(2年), 数学I, 数学II, 物理		
履修上の注意事項	1)はりの断面力図(曲げモーメント, せん断力)の十分な理解が必要。2)授業で70%の理解, 授業時間外の学習で30%理解となるように授業難易度を設定している。3)配布プリントや返却課題は1つのファイルに綴じて整理すること。4)授業進行の妨げになる迷惑行為をした場合, 退場を命ずることがある。5)教科書を持参しない場合, 受講を遠慮してもらう場合がある。6)授業開始5分前には受講準備を整えること。		

授業計画(構造力学Ⅱ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	構造材料の力学的性質(1)	構造材料内部の組織構造,弾性と塑性,応力度とひずみ度について学習する.
2	構造材料の力学的性質(2)	フックの法則,応力-ひずみ図について学習する.
3	構造材料の力学的性質(3)	構造材料の力学的性質のまとめと演習を行う.
4	はりの内部に働く応力(1)	平面保持の法則,断面2次モーメントについて学習する.
5	はりの内部に働く応力(2)	断面1次モーメント,図心について学習する.
6	はりの内部に働く応力(3)	せん断変形,せん断応力,せん断応力度について学習する.
7	はりの内部に働く応力(4)	はりの内部に働く応力のまとめを行う.
8	力を受ける物体内部の応力(1)	物体内部要素に働く応力度について学習する.
9	力を受ける物体内部の応力(2)	物体内部要素に働く応力度について学習する.
10	力を受ける物体内部の応力(3)	物体内部要素に働く応力度について学習する.
11	力を受ける物体内部の応力(4)	物体内部要素に働く応力度について学習する.
12	力を受ける物体内部の応力(5)	モールの応力円について学習する.
13	中間試験(前期)	第1~7回までの中間試験
14	中間試験の解説,力を受ける物体内部の応力(6)	中間試験の解説を行うとともに,モールの応力円について学習する.
15	前期定期試験の解説,およびはりの弾性変形(1)	定期試験を解説するとともに,はりのたわみ・たわみ角について学習する.
16	はりの弾性変形(2)	たわみ曲線の微分方程式について学習する.
17	はりの弾性変形(3)	たわみ曲線の微分方程式について学習する.
18	はりの弾性変形(4)	微分方程式からたわみを求める方法を学習する.
19	はりの弾性変形(5)	微分方程式からたわみを求める方法を学習する.
20	はりの弾性変形(6)	モールの定理からたわみを求める方法を学習する.
21	はりの弾性変形(7)	弾性荷重法からたわみを求める方法を学習する.
22	はりの弾性変形(8)	たわみを求める各方法のまとめを行う.
23	中間試験(後期)	第16~22回までの中間試験
24	中間試験回答,はりの弾性変形(9)	たわみを求める各方法のまとめを行う.
25	不静定構造(1)	不静定構造を静定構造に分解して解く方法について学習する.
26	不静定構造(2)	不静定構造を静定構造に分解して解く方法について学習する.
27	柱の計算(1)	長柱の座屈について学習する.
28	柱の計算(2)	オイラーの座屈荷重について学習する.
29	柱の計算(3)	オイラーの座屈荷重について学習する.
30	定期試験の解説,および柱の計算(4)	定期試験を解説するとともに,偏心圧縮を受ける柱の応力と断面の核について学習し,最終課題の仕上げを行う.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	水理学 I (Hydraulics I)		
担当教員	[前期] 柿木 哲哉 教授, [後期] 宇野 宏司 教授		
対象学年等	都市工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S2(100%)		
授業の概要と方針	水の性質, 静水圧, 水の流れなどについて, 例題を交えて基礎的な事項を理解させる. 特に後半では, 連続の式と運動方程式の考え方, 計算方法を重点的に学ばせる. 水理学の知識が環境系科目に生かされるよう応用面についても適用方法や考え方, 計算方法を理解させる.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-S2]水の物理的性質と静水圧の扱いを理解し, これらに関する計算ができる.		水の物理的性質と静水圧の扱いを, 演習問題を提出させるとともに前期中間試験及び前期定期試験で評価する.
2	[A4-S2]圧力の伝達や相似則, 浮体の安定に関する計算ができる.		水圧機の原理や実験と実物の評価, 浮力や物体の安定に関して, 演習問題を提出させるとともに前期定期試験で評価する.
3	[A4-S2]連続の式とベルヌーイの式を用いて, 損失を考慮しない流れの計算ができる.		損失を考慮しない流れについて, 演習問題を提出させるとともに後期中間試験で評価する.
4	[A4-S2]運動量方程式を理解し, これらに関する計算ができる.		運動量方程式に関する演習問題を提出させるとともに後期中間試験で評価する.
5	[A4-S2]オリフィスおよび水門, 堰についての考え方を理解し, これらに関する計算ができる.		オリフィスおよび水門, 堰についての考え方に関する演習問題を提出させるとともに後期定期試験で評価する.
6	[A4-S2]管水路の流速分布や損失水頭についての考え方を理解し, これらに関する計算ができる.		管水路の流速分布や損失水頭についての考え方に関する演習問題を提出させるとともに後期定期試験で評価する.
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は, 試験70% レポート30% として評価する. 到達目標1~6は, 中間試験および定期試験の平均点70%(ただし前期中間と前期定期の比率は3:7とする), レポート30%の割合で評価する. 総合評価は100点満点で60点以上を合格とする. なお, 提出期限が守られなかったレポートは評価しない.		
テキスト	「PEL水理学」: 神田佳一 (実教出版)		
参考書	「水理学I, II」: 大西外明 (森北出版) 「絵とき 水理学」: 国澤正和・福山和夫・西田秀行 (オーム社) 「水理学演習」: 鈴木幸一 (森北出版) 「土木基礎力学2」: 岡二三生・白土博通・細田尚ほか13名 (実況出版)		
関連科目	物理, 数学, 環境水工学I, 環境水工学II		
履修上の注意事項	計算を含む演習問題を毎時間行うので電卓を持参すること.		

授業計画(水理学Ⅰ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	「水理学」を学ぶにあたって	水と私たちの生活との関わり、資源としての水の存在や重要性を学習する。また、水理でよく使う基本的な単位(ニュートン、パスカル、体積、密度など)について理解させる。
2	水の物理的性質	水の性質、水の密度や単位体積重量、水の粘性と摩擦応力、表面張力、毛管現象などの水の物理的性質を学習する。
3	静水圧の基本(1)	ダムや堤防などの水利工作物に作用する静水圧の基本(水圧と全水圧、水深と水圧、圧力水頭など)を学習する。
4	静水圧の基本(2)	ダムや堤防などの水利工作物に作用する静水圧の基本(水圧計、パスカルの原理など)を学習する。
5	水平な平面、鉛直な長方形平面に作用する全水圧とその作用点	水槽の水平な底面、取水せきや水槽の側壁などの鉛直な平面に作用する全水圧とその作用点の求め方を学習する。
6	傾斜した長方形平面に作用する全水圧とその作用点	ロックフィルダムの上流側法面や河川堤防の法面に設けた門扉のように、傾斜した平面に作用する全水圧とその作用点の求め方を学習する。
7	平面に作用する全水圧と作用点の一般式	長方形以外の平面が傾斜している場合の全水圧とその作用点の求め方を学習する。
8	曲面に作用する全水圧とその作用点(1)	貯水ダムの洪水吐きに取り付けられるラジアルゲートなどの曲面に作用する全水圧とその作用点の求め方を学習する。
9	曲面に作用する全水圧とその作用点(2)	貯水ダムの洪水吐きに取り付けられるラジアルゲートなどの曲面に作用する全水圧とその作用点の求め方を学習する。
10	浮力と浮体(1)	アルキメデスの原理を学習し、浮力と浮心の求め方を学ぶ。また、浮体の基本(浮揚面、喫水、復元力、メタセンターなど)、浮体の安定性とその評価について学習する。
11	浮力と浮体(2)	アルキメデスの原理を学習し、浮力と浮心の求め方を学ぶ。また、浮体の基本(浮揚面、喫水、復元力、メタセンターなど)、浮体の安定性とその評価について学習する。
12	相対的静止水面	相対的静止水面の考え方を学び、簡単な計算を学習する。
13	前期中間試験	前半までに学んだ事項について出題する。
14	前期中間試験の解答・解説	前期中間試験の解答・解説を行い、これまでの学習の到達度を振り返る。
15	前期定期試験の解答・解説	前期定期試験の解答・解説を行い、これまでの学習の到達度を振り返る。相似則の考え方を学習する。
16	流れの基礎	流れの分類法や流速と流量について学ばせ、簡単な計算ができるようにする。
17	連続の式とベルヌーイの定理(1)	連続の式とベルヌーイの定理の概要を学ばせる。
18	連続の式とベルヌーイの定理(2)	ベルヌーイの定理を応用して計算ができるようにする。
19	運動量方程式	運動量方程式の概要を学ばせ、これを用いた計算ができるようにする。
20	オリフィス、水門、堰	オリフィス、水門、堰の概要を説明し、式誘導ができるようにする。
21	管水路の流速分布	管水路の流速分布の概要を説明し、式誘導ができるようにする。
22	管水路の摩擦損失水頭、平均流速公式	管水路の摩擦損失水頭、平均流速公式について学ばせ、これを用いた計算ができるようにする。
23	後期中間試験	前期定期試験以降に学んだ範囲から、出題する。
24	後期中間試験	後期中間試験の解答・解説を行い、これまでの学習の到達度を振り返る。
25	摩擦以外の形状損失、単管水路	摩擦以外の種々の形状損失について説明し、単管水路のエネルギー損失等が計算できるようにする。
26	管水路計算の応用(1)	サイフオンの計算ができるようにする。
27	管水路計算の応用(2)	管網の計算ができるようにする。
28	管水路計算の応用(3)	ポンプの計算ができるようにする。
29	管水路計算の応用(4)	水車の計算ができるようにする。
30	後期定期試験の解答・解説	後期定期試験の解答・解説を行い、これまでの学習の到達度を振り返る。
備考	前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。ほぼ毎時間、計算を主にした演習問題を行うので、電卓を持参すること。	

科目	土質力学 I (Soil Mechanics I)		
担当教員	[前期] 鳥居 宣之 教授, [後期] 野並 賢 准教授		
対象学年等	都市工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S2(100%)		
授業の概要と方針	土は構造物をつくる建設材料であると共に、構造物およびその基礎を支持する地盤としての機能がもつとも重要である。ここでは、工学的な見地から、土を構造物の材料や基礎として利用するために必要な概念を説明し、その基本的性質および力学的挙動について学習する。その際、都市工学実験実習(土質系実験)と並行して授業を進めることで内容の理解を助ける。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-S2]土の基本的性質について理解できる。		土質力学の概念ならびに地盤の調査・試験方法、土の生成、組成と構造、土の状態の表現、粒度、コンシステンシー、工学的分類について理解できているか中間試験(前期)ならびにレポートで評価する。
2	[A4-S2]有効応力と間隙水圧について理解できる。		土質力学における基本的概念の1つである有効応力の概念について理解できているか中間試験(前期)ならびにレポートで評価する。
3	[A4-S2]土の締固めについて理解できる。		土の締固めの目的、機構とその試験方法、締固めた土の性質について理解できているか定期試験(前期)ならびにレポートで評価する。
4	[A4-S2]土中の水の流れについて理解できる。		ダルシーの法則、透水係数、透水試験、浸透流量の算定について理解できているか定期試験(前期)ならびにレポートで評価する。
5	[A4-S2]土の圧縮と圧密について理解できる。		土の圧縮・圧密機構、圧密試験、圧密沈下量・時間の算定方法、圧密促進工法について理解できているか中間試験(後期)ならびにレポートで評価する。
6	[A4-S2]土のせん断特性について理解できる。		様々な土のせん断特性、および土のせん断特性を調べる各種土質実験の原理について理解できているかを定期試験(後期)ならびにレポートで評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。ただし、前期成績については、試験70%、小テスト10%、レポート20%として評価し、試験成績は、定期試験のみとする。なお、総合評価は前期成績と後期成績の平均点とし、100点満点で60点以上を合格とする。レポートは、提出期限を厳守すること。		
テキスト	「基礎からの土質力学」:常田賢一 他 著(理工図書) 「理解を深める土質力学320問」:常田賢一 他 著(理工図書) 講義時に適宜配付する講義資料		
参考書	「図説 わかる土質力学」:菊本統,西村聡,早野公敏(学芸出版) 「解いて分かる 土質力学」:近畿高校土木会(オーム社) 「わかる土質力学220問」:安田進,片田敏行,後藤聡,塚本良道,吉嶺充俊(理工図書) 「土質試験 基本と手引き 第二回改訂版」:地盤工学会(丸善)		
関連科目	数学I,数学II,物理,水理学,都市工学実験実習(土質系実験),土質力学II,土質力学III		
履修上の注意事項	講義時に配布する講義資料の予習をして講義に臨むこと。講義後に各自で充分理解を深めるよう復習すること。演習課題以外の演習問題にも自主的に取り組むこと。講義中ならびに試験時にコンパス,分度器,定規,関数電卓を使用するので、準備をしておくこと。レポートは指定された期限までに提出することを原則とし、遅れたものは減点対象とする。中間試験もしくは定期試験までに提出しなかったレポートがある場合、レポート点を0点とするので、全てのレポートを必ず提出すること。		

授業計画(土質力学Ⅰ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	オリエンテーション,土質力学とは	本講義の授業計画について説明する.土質力学の定義ならびに地盤の生成,地盤を構成する土の構造について学習する.
2	土の基本的性質(1)	土の構成と状態を表す物理量と土の粒度試験について学習する.
3	土の基本的性質(2)	土の粒度の利用と土のコンシステンシーについて学習する.
4	土の基本的性質(3)	土の工学的分類方法について学習する.
5	土の基本的性質(4)	土の基本的性質に関する演習問題を行う.
6	有効応力と間隙水圧(1)	応力の定義と有効応力の原理について学習する.
7	有効応力と間隙水圧(2)	地盤内の鉛直応力の算出方法について学習する.また,有効応力と間隙水圧についての演習問題を行う.
8	土の締固め(1)	土の締固めの目的と力学的メカニズムについて学習する.
9	小テスト	第7週目までの講義内容理解度を測るため,小テストを行う.
10	土の締固め(2)	締固め試験方法と締固めた土の性質,締固め施工への利用について学習する.
11	土中の水の流れ(1)	土中の水の流れとダルシーの法則,透水試験と透水係数について学習する.
12	土中の水の流れ(2)	水頭と水圧,流れの基礎方程式と浸透流量の算定方法について学習する.
13	土中の水の流れ(3)	原位置での透水係数の算出方法及び浸透圧について学習する.
14	総合演習問題	前期で学習した内容に関する演習問題を行う.
15	定期試験解説	定期試験の解答・解説を行う.
16	土の圧縮性と圧密(1)	土の変形特性の取り扱いと圧密機構について学習する.
17	土の圧縮性と圧密(2)	土の応力一ひずみ挙動モデルについて学習する.
18	土の圧縮性と圧密(3)	テルツァギーの圧密方程式と圧密沈下量を算定する手法について学習する.
19	土の圧縮性と圧密(4)	前週に引き続いて,圧密沈下量を算定する手法について学習する.
20	土の圧縮性と圧密(5)	圧密試験方法について学習する.
21	土の圧縮性と圧密(6)	圧密促進工法について学習する.
22	土の圧縮性と圧密(7)	土の圧縮性と圧密に関する演習問題を行う.
23	中間試験(後期)	地盤内の応力ならびに土の圧縮性と圧密に関する中間試験を行う.
24	中間試験解説,土のせん断特性(1)	中間試験の解答・解説を行う.地盤内応力表示方法ならびにモールの応力円について学習する.
25	土のせん断特性(2)	土のせん断特性と破壊規準について学習する.
26	土のせん断特性(3)	土のせん断試験の目的と種類について学習する.
27	土のせん断特性(4)	土のせん断時の排水条件の影響について学習する
28	土のせん断特性(5)	前週に引き続いて,土のせん断時の排水条件の影響について学習する
29	土のせん断特性(6)	土のせん断特性に与える応力履歴と密度の影響について学習する.
30	定期試験解説,総合演習問題	定期試験の解答・解説を行う.後期で学習した内容に関する演習問題(技術士第一次試験より)を行う.
備考	前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	コンクリート工学 I (Concrete Engineering I)		
担当教員	[前期] 水越 陸視 教授, [後期] 上中 宏二郎 教授		
対象学年等	都市工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S1(70%), A4-S2(10%), A4-S3(10%), A4-S4(10%)		
授業の概要と方針	鉄筋コンクリート(RC)構造物の設計方法の基礎を学ぶ。曲げを受けるRC梁部材の挙動について、(1)曲げひび割れ発生前、(2)曲げひび割れ発生から降伏まで、(3)終局状態に区分して説明する。また、実験実習の載荷試験とも連携させ、梁部材のせん断破壊と曲げ破壊の違いを説明する。以上より、使用状態のコンクリート応力、鉄筋応力、曲げ耐力、せん断耐力の計算方法を習得させる。また、一様な圧縮力を受けるRC柱部材の挙動についても学ぶ。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-S1] RC構造の特徴と挙動について説明でき、曲げを受ける梁部材の使用状態におけるコンクリート応力、鉄筋応力、降伏耐力、曲げ耐力を計算することができる。		RC構造の特徴と挙動について説明でき、曲げを受ける梁部材の使用状態におけるコンクリート応力、鉄筋応力については前期中間試験で、曲げ耐力については前期定期試験で評価する。
2	[A4-S3]鉄筋のかぶりと耐久性、鉄筋の配置と施工性の関係について説明できる。		鉄筋のかぶりと耐久性の関係、鉄筋の配置と施工性の関係についてレポートで評価する。
3	[A4-S2]せん断破壊の特徴やその補強鉄筋の役割を説明でき、せん断耐力を計算することができる。		せん断破壊の特徴やその補強鉄筋の役割を説明でき、せん断耐力を計算できているかを後期中間試験、レポートで評価する。
4	[A4-S4]柱部材の特徴について説明でき、軸方向耐力を計算することができる。		部材断面の軸方向耐力や曲げ耐力を計算できるか後期定期試験、レポートで評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% レポート30% として評価する。試験70%の内訳は中間試験50%、定期試験50%とする。前期と後期の内訳は50%ずつとする。総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「コンクリート構造の基礎[改定第2版]」:二羽淳一郎(コロナ社)		
参考書	「大学土木 鉄筋コンクリート工学」:町田篤彦 編(オーム社) 「コンクリート構造学」:小林和夫,宮川豊章 他(森北出版)		
関連科目	材料学(S2),構造力学I(S2),構造力学II(S3),都市工学実験実習(S3)		
履修上の注意事項			

授業計画(コンクリート工学Ⅰ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス,鉄筋コンクリート(RC)構造の特徴と基本	受講のポイントを理解する.RC構造の特徴と基本3条件を理解する.また,コンクリート構造の種類を理解する.
2	設計方法の概念,鉄筋の構造細目が耐久性と施工性に及ぼす影響	RCの設計概念を,限界状態設計法,許容応力度設計法の設計フローの比較と照査方法の観点から,設計法の概要を理解する.また,鉄筋のかぶりと耐久性(中性化,塩害など)の関係,鉄筋の配置と施工性の関係について理解する.
3	曲げを受けるRC梁の挙動(1)-全体挙動(載荷開始から破壊まで)	曲げを受けるRC梁の全体挙動をたわみと曲げひび割れの進展状況と対応付けながら説明できるようになる.
4	曲げを受けるRC梁の挙動(2)-曲げひび割れ発生まで	曲げひび割れ発生メカニズムと断面の応力分布を理解し,曲げひび割れ発生荷重の計算方法を理解する.
5	曲げを受けるRC梁の挙動(3)-曲げひび割れ発生から鉄筋降伏まで(1)	単鉄筋矩形断面のコンクリートと鉄筋が弾性状態にある使用状態における中立軸深さ,コンクリートの応力度,鉄筋の応力度を断面の力の釣合を考慮して計算する方法を理解する.また,降伏荷重を算定できるようになる.
6	曲げを受けるRC梁の挙動(4)-曲げひび割れ発生から鉄筋降伏まで(2)	複鉄筋矩形断面のコンクリートと鉄筋が弾性状態にある使用状態における中立軸深さ,コンクリートの応力度,鉄筋の応力度を断面の力の釣合を考慮して計算する方法を理解する.また,降伏荷重を算定できるようになる.
7	ここまでの復習(1)	ここまでのRC理論の復習を行い,理解を深める.
8	ここまでの復習(2)	ここまでの計算演習を行い,理解を深める.
9	RC梁の挙動(5)-鉄筋降伏から曲げ破壊まで(1)	コンクリートが弾塑性域にある終局状態における断面の応力分布を理解し,等価応力ブロックの理論を学び理解する.
10	曲げを受けるRC梁の挙動(6)-鉄筋降伏から曲げ破壊まで(2)	釣合鉄筋比の意味を理解し,式を誘導できるようになる.RC梁の曲げ破壊形式を学び,鉄筋比と釣合鉄筋比から曲げ引張破壊となるか曲げ圧縮破壊となるかを判断することができるようになる.
11	前期中間試験	1から8週目までの範囲から出題する.
12	中間試験の解答・解説および曲げを受けるRC梁の挙動(7)-鉄筋降伏から曲げ破壊まで(3)	単鉄筋矩形断面の曲げ引張破壊の場合の曲げ耐力の計算方法を理解する.
13	曲げを受けるRC梁の挙動(8)-鉄筋降伏から曲げ破壊まで(4)	単鉄筋矩形断面の曲げ圧縮破壊の場合の曲げ耐力の計算方法を理解する.
14	曲げを受けるRC梁の挙動(9)-鉄筋降伏から曲げ破壊まで(5)	複鉄筋矩形断面の場合の曲げ耐力の計算方法を理解する.
15	前期定期試験の解答・解説および前期まとめ	前期定期試験の解答,解説を行い,前期の授業を振り返り学力補充を行う.
16	せん断を受けるRC梁の挙動(1)-RC梁のせん断破壊のメカニズム	主応力の発生する角度から,梁腹部に斜め引張応力度によるせん断破壊の可能性があることを学び,せん断を受けるRC梁のひび割れ発生状況と応力状態を理解する.また,せん断破壊の特徴,せん断ひび割れの種類,せん断スパン長とせん断破壊形式について理解する.
17	せん断を受けるRC梁の挙動(2)-せん断力分担のメカニズム	RC梁にせん断力が作用した場合,どのような成分でせん断力に抵抗しているかを学び,その分担メカニズムを理解する.
18	せん断を受けるRC梁の挙動(3)-せん断補強鉄筋が配置されていない場合	せん断ひび割れ発生後のせん断補強鉄筋(スターラップ)が配置されていない場合のRC梁のせん断耐力(斜め引張破壊耐力)の算定方法を理解する.
19	せん断を受けるRC梁の挙動(4)-せん断補強鉄筋が配置されている場合	せん断ひび割れ発生後のせん断補強鉄筋(スターラップ)が配置されている場合の耐荷機構とトラス理論について学び理解する.また,修正トラス理論を学び,適切なせん断補強鉄筋(スターラップ)の配置間隔やせん断補強鉄筋径を決定することができるようになる.
20	せん断を受けるRC梁の挙動(5)-せん断破壊と曲げ破壊の判定	RC梁の曲げ耐力とせん断耐力(斜め引張破壊耐力)を算定し,与えられた部材がどちらの破壊が先行するかを判定することができるようになる.
21	せん断を受けるRC梁の挙動(6)-斜め圧縮破壊耐力	斜め圧縮破壊耐力の算定方法を学び理解する.
22	前期定期試験からここまでの復習	ここまでの復習を行い,理解を深める.
23	後期中間試験	後期中間試験
24	中間試験の解答・解説およびRC柱の挙動(1)-RC柱の特徴と区分	中間試験の解答・解説を行う.RC柱の特徴,短柱と長柱の区分,不可モーメントの影響など,RC柱の概要を理解する.
25	RC柱の挙動(2)-一様な圧縮力を受ける短柱の耐力(1)	一様な圧縮力を受けるRC柱の耐力を計算することができ,その式の係数の意味を理解する.
26	RC柱の挙動(3)-短柱に配置すべき補強用鉄筋	補強鉄筋の役割,構造細目について理解する.
27	RC柱の挙動(4)-らせん鉄筋柱の耐力および長柱の挙動	一様な圧縮力を受けるらせん鉄筋柱の耐力を計算することができ,その式の係数の意味を理解する.また,長柱の簡易な判定方法,長柱の構造解析方法の基礎を理解する.
28	曲げを受けるRC梁の挙動(10)-曲げひび割れ発生から鉄筋降伏まで(3)	単鉄筋矩形断面のコンクリートと鉄筋が弾性状態にある使用状態における中立軸深さ,コンクリートの応力度,鉄筋の応力度を換算断面を考慮して計算する方法を理解する.
29	後期中間試験からここまでの復習	ここまでの復習を行い,理解を深める.
30	後期定期試験の解答・解説および後期まとめ	後期定期試験の解答,解説を行い,後期の授業を振り返り学力補充を行う.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	CAD基礎 (Computer Aided Design)		
担当教員	田島 喜美恵 准教授		
対象学年等	都市工学科・3年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S1(100%)		
授業の概要と方針	本講義では、パソコン上のCADソフト(JW-WIN)を使用し、CADの基本的な描画操作を説明する。パソコン操作は自身で行い、CADによる製図を習得する。演習として3点程度の設計課題についてCAD図面を作成し、最終課題として各自創作による公園の設計を行う。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S1】JW-CADを用いた製図ができるようになる。		提出図面(等辺山形鋼,U字鋼,側溝,都市公園)の正確さにより評価する。
2	【A4-S1】都市公園の計画の基本的事項を習得できる。		都市公園の基本的事項および設計条件が提出図面にどのように盛り込まれているかを、レポート及びプレゼンテーションにより評価する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、レポート5% プレゼンテーション10% 提出図面85% として評価する。100点満点とし60点以上を合格とする。なお、ひとつでも未提出課題がある場合は不合格とする。		
テキスト	CAD製図に関するプリント		
参考書	「都市緑地の計画と設計」:内山正雄編(彰国社) 「やさしく学ぶJW-CAD for WINDOWS」:Obra Club著(エクスマレッジ)		
関連科目	土木建築設計製図I~IV, 橋梁工学, 応用CAD, 応用建築設計製図I, II		
履修上の注意事項	本教科の関連科目は設計製図および橋梁工学であり、CAD基礎で描画する内容を設計製図で学び、またCAD基礎で習得した技術を橋梁工学で応用する。		

授業計画(CAD基礎)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイドランスおよび製図基礎	JISに基づく製図諸規則,CAD製図の概要を講義する。
2	JW-WINおよびCAD製図方法	土木学会CAD製図案に従い製図方法を講義する。なお,必要に応じプロジェクトを用いてJW-WINの操作を示す。
3	基本的なコマンドの説明(1)	パソコンを使用し,JW-WINによる直線,曲線,円,四角,文字,寸法線などの操作を行う。
4	基本的なコマンドの説明(2)	パソコンを使用し,JW-WINによる複写,消去,面取り,線の伸縮などを行う。
5	等辺山形鋼の描画(1)	演習として等辺山形鋼を描画する。寸法はレイヤーを変えて記入する。
6	等辺山形鋼の描画(2)	引き続き等辺山形鋼を描画する。寸法はレイヤーを変えて記入する。図面ファイルを提出する。
7	U字鋼の描画	演習としてU字鋼を描画する。寸法はレイヤーを変えて記入する。図面ファイルを提出する。
8	側溝の描画	演習として側溝を描画する。寸法はレイヤーを変えて記入する。図面ファイルを提出する。
9	都市緑地の計画及び公園のコンセプト設計	公園の種類,緑地計画の技法,造園デザイン,植栽について講義をおこない,その後に公園の設計課題の設計条件等について説明する。各自設計条件に従い,設計方針を考え,紙上で概略設計を行いレポートを提出する。
10	公園の平面図描画(1)	JW-WINにより,具体的に公園の配置図(平面図)を描く。
11	公園の平面図描画(2)	引き続き,JW-WINにより,具体的に公園の配置図(平面図)を描く。
12	公園の平面図描画(3)	引き続き,JW-WINにより,具体的に公園の配置図(平面図)を描く。
13	公園の立面図描画(1)	JW-WINにより,具体的に自身で設計した公園の立面図を描く。
14	公園の立面図描画(2)	引き続き,JW-WINにより,具体的に自身で設計した公園の立面図を描く。図面ファイルを提出する。
15	公園の課題成果プレゼンテーション	児童公園の課題に対する計画および図面を示して発表する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない。提出図面および,公園のコンセプト設計(レポート)・プレゼンテーションにより評価する。	

科目	土木・建築設計製図 I (Design and Drawing for Civil Engineering and Architecture I)		
担当教員	小塚 みすず 准教授		
対象学年等	都市工学科・3年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S1(100%)		
授業の概要と方針	製図用具の正しい使い方と製図に関するJISおよび関連JISの規約を理解させ、構造物の写図、読図など製図の基本を修得させる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S1】製図を、正確に、明瞭に、迅速に描くことができる。		製図を描く課題を与え、正確かつ明瞭に描かれているか、迅速に描き期限内に提出できたかについて、成果品(図面)およびレポート(作業日誌等)で評価する。
2	【A4-S1】製図において、写図、読図できる。		道路用RC側溝図、木造建築物の模写の課題を与え、写図および読図ができていくかについて、成果品(図面)およびレポート(作業日誌等)で評価する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、成果品(図面)90% レポート(作業日誌)10% として評価する。レポートは毎回の作業日誌を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。なお、提出期限に遅れた場合は原則、評価の対象としない。また、一つでも課題が提出されない場合は不合格とする。		
テキスト	配布する資料および製図例		
参考書	「土木製図」: 文部科学省検定教科書(実教出版) 「建築設計製図」: 文部科学省検定教科書(実教出版)		
関連科目	土木・建築設計製図II~IV, CAD基礎, 建築計画, 建設都市法規		
履修上の注意事項	製図に必要な用具は購入し、毎回、自身の製図道具と配布資料を持参すること。		

授業計画(土木・建築設計製図Ⅰ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	オリエンテーション	製図用具の使い方,製図用紙のサイズ,製図の描き方について解説する.
2	線の練習	線の書き方について解説する.課題「線の練習」をケント紙に描く.
3	文字の練習	製図用文字について解説する.課題「文字の練習」をケント紙に描く.
4	ショートローイングの練習	ショートローイングに用いられる平面用・立面用シンボルについて解説する.課題「ショートローイングの練習」をケント紙に描く.
5	グリッド線の練習	等間隔に線を引く方法について説明する.課題「グリッド線の練習」をケント紙に描く.
6	開口部・建具の練習	様々な開口部や建具の説明と描き方について説明する.課題「開口部・建具の練習」をケント紙に描く.
7	道路用RC側溝図(1)	設計図法について解説する.課題「道路用RC側溝図」の写図を行う.
8	道路用RC側溝図(2)	課題「道路用RC側溝図」の写図を行う.
9	基準線,柱・壁の練習	建築の設計図法について解説する.課題「基準線,柱・壁,見えかき線の練習」をケント紙に描く.
10	提出課題の見直し	これまで提出された課題を見直し,必要個所の修正および再提出を行う.
11	平屋建専用住宅設計図(1)	設計図法について解説する.課題「平屋建専用住宅設計図:配置図」の写図を行う.
12	平屋建専用住宅設計図(2)	課題「平屋建専用住宅設計図:配置図」の写図を行う.
13	平屋建専用住宅設計図(3)	課題「平屋建専用住宅設計図:平面図」の写図を行う.
14	平屋建専用住宅設計図(4)	課題「平屋建専用住宅設計図:平面図」の写図を行う.
15	平屋建専用住宅設計図(5)	課題「平屋建専用住宅設計図:平面図」の写図を行う.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない.	

科目	土木・建築設計製図Ⅱ (Design and Drawing for Civil Engineering and Architecture II)		
担当教員	小塚 みすず 准教授		
対象学年等	都市工学科・3年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S1(100%)		
授業の概要と方針	土木構造物・建築建物の写図,読図を行い,土木・建築製図の基本を修得する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S1】製図を,正確に,明瞭に,迅速に描くことができる.		製図を描く課題を与えて,提出期限内に提出できたか,正確かつ明瞭に描かれているかなど成果品を評価するとともに,作業内容や工程の理解度をレポートで評価する.
2	【A4-S1】製図において,写図,読図できる.		木造建築物(断面・立面図),街路標準構造図,RC建築物(平面図)を模写した成果品を評価するとともに,作業内容や工程の理解度をレポートで評価する.
3	【A4-S1】RC建築物のコンセプトに従い,概略設計ができる.		RC建築物の設計コンセプト,自由設計製図による成果品でその理解度を評価するとともに,作業内容や工程の理解度をレポートで評価する.
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,成果品(図面)90% レポート(作業日誌)10% として評価する.レポートは毎回の作業日誌及び作業状況等から評価する.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト	配布する資料および製図例		
参考書	「土木製図」:文部科学省検定教科書(実教出版) 「建築設計製図」:文部科学省検定教科書(実教出版)		
関連科目	土木・建築設計製図I,CAD基礎,土木・建築設計製図IV,建築計画,都市建設法規		
履修上の注意事項			

授業計画(土木・建築設計製図Ⅱ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	平屋建専用住宅設計図(1)	断面図および立面図の設計図法について説明する。課題「平屋建専用住宅設計図」の断面図の写図を行う。
2	平屋建専用住宅設計図(2)	課題「平屋建専用住宅設計図」の断面図および立面図の写図を行う。
3	平屋建専用住宅設計図(3)	課題「平屋建専用住宅設計図」の立面図の写図を行う。
4	街路標準構造図(1)	街路標準構造について説明する。課題「街路標準構造図」の横断面図の写図を行う。
5	街路標準構造図(2)	課題「街路標準構造図」の平面図の写図を行う。
6	街路標準構造図(3)	課題「街路標準構造図」の詳細図の写図および図面全体の仕上げを行う。
7	RC建築物の写図(1)	RC建築物の設計図法について説明する。課題「店舗付事務所(RC造)」の写図を行う。
8	RC建築物の写図(2)	課題「店舗付事務所(RC造)」の写図を行う。
9	RC建築物の写図(3)	課題「店舗付事務所(RC造)」の写図を行う。
10	RC建築物の写図(4)	課題「店舗付事務所(RC造)」の写図を行う。
11	RC建築物の写図(5)	課題「店舗付事務所(RC造)」の写図を行う。
12	RC建築物の設計(1)	建築物の設計を構想(コンセプト,エスキス,ブロックプラン等)について説明する。RC建築物の設計を構想し,コンセプトやエスキス等をまとめる。
13	RC建築物の設計(2)	基本設計図(平面図)の間取りや寸法を決め,下書きを描く。
14	RC建築物の設計(3)	RC建築物の基本設計図を(平面図)描く。
15	RC建築物の設計(4)	RC建築物の基本設計図を(平面図)描く。RC建築物の基本設計図(題目,コンセプト,各種構想内容,平面図)を描き,作品を完成させる。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない。	

科目	都市工学実験実習 (Laboratory Work in Civil Engineering)		
担当教員	野並 賢 准教授, 伊原 茂 教授, 水越 睦視 教授, 鳥居 宣之 教授, 上中 宏二郎 教授, 高科 豊 准教授		
対象学年等	都市工学科・3年・通年・必修・3単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S2(10%), A4-S3(10%), B1(10%), C1(30%), C4(30%), D1(10%)		
授業の概要と方針	2年次までに学習した構造力学I,材料学ならびに,3年次に並行して開講される構造力学II,コンクリート工学,土質力学Iなど土木工学の専門基礎科目の一層の理解を深めるため,各専門分野の実験実習を3班編成の少人数のグループで行う。各種実験実習を班員と協力しながら行うことで,チームワーク力や協調性を養う。また,実験に関わる演習を合わせて行い,各専門分野の理論の理解と実際問題への応用能力を養う。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-S2]数種の室内土質試験ならびに原位置試験ができるようになるとともに試験目的と結果の活用を理解できる。		実験課題ごとの報告書(レポート)ならびに実験演習課題で評価する。
2	[A4-S3]セメントの強さ試験,骨材の物理試験,鉄筋コンクリート梁試験ができるようになるとともに試験目的と結果の活用を理解できる。		実験課題ごとの報告書(レポート)ならびに実験演習課題で評価する。
3	[A4-S2]RC梁の破壊形式や耐力等を理解できる。はりやトラスの変形特性を理解できる。また,はりの固有振動を理解できる。		実験課題ごとの報告書(レポート)ならびに実験演習課題で評価する。
4	[B1]実験内容について,的確な図・表を用いて口頭で説明することができる。		各自に与えられた実験課題に関するプレゼンテーションで評価する。
5	[C1]実験結果を適切に処理し,計算書,図・表等にまとめ結果に対する考察が書ける。		実験課題ごとの報告書(レポート)で評価する。
6	[C4]班の構成員と協力して実験を行うことができる。		班の構成員と協力して実験が行なわれているか,各実験の課題で評価する。
7	[C4]決められた期限内に実験報告書が書ける。		実験課題ごとの報告書(レポート)ならびに実験演習課題の提出状況で評価する。
8	[D1]設備・機器の取り扱いに注意し,安全に実験に取り組むことができる。		安全に実験が行なわれているか,各実験の課題で評価する。
9			
10			
総合評価	成績は,レポート90% プレゼンテーション10% として評価する。レポートの評価内訳は,土質実験30%,材料実験30%,実験演習15%,構造実験15%で評価する。総合評価を100点満点とし各実験・演習で60点以上獲得することを合格基準とする。提出期限が守られない課題は評価しない。また,未提出の課題があると成績を評価しない。		
テキスト	「レポート作成の手引き」: 都市工学科 (配付済み) 「土質試験 基本と手引き 第二回改訂版」:地盤工学会(丸善出版) 「土木材料実験指導書 2019年改訂版」:土木学会コンクリート委員会(土木学会)		
参考書	「地盤材料試験の方法と解説」:地盤工学会(丸善出版) 「地盤調査 基本と手引き」:地盤工学会(丸善出版) 「基礎からの土質力学」:常田賢一共著(理工図書)		
関連科目	構造力学I・II,材料学,コンクリート工学I・II,土質力学I,都市工学実験実習(S1,S2,S4,S5)		
履修上の注意事項	クラスを3班の少人数に編成して,各実験室へ週ごとに巡回する。安全管理に徹し,相応しい服装で臨むこと。実験実習はチームワーク(班別)で実施することが多いため,個別の再実験は認められない。そのため,出席することが原則である。土質実験,材料実験は通年,実験演習は前期,構造実験は後期に履修する。		

授業計画(都市工学実験実習)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	オリエンテーション	各系の実験実習について,実験内容,実験場所,スケジュール,諸注意などを説明する。
2	土質実験1:土の状態を表す諸量を求める実験	土の状態を表す諸量である含水比,土粒子の密度ならびに土の湿潤密度を調べる。
3	土質実験2:土の粒度試験	土を構成している土粒子の粒径の分布状態である粒度を沈降分析ならびにふるい分析により調べる。
4	土質実験3:土の液性限界・塑性限界試験	粘性土の液性限界・塑性限界を調べる。
5	土質実験4:土の透水試験	定水位透水試験により砂質土の透水係数を調べる。
6	土質実験5:突固めによる締固め試験	砂質土を一定の方法によって締め固め,最適含水比と最大乾燥密度を調べる。
7	土質実験6:原位置試験	原位置試験(砂置換による密度試験)によって,現地での地盤の性状を調べる。
8	土質実験7:土の圧密試験(1)	粘性土の圧密定数(圧密係数,体積圧縮係数,圧縮指数,透水係数など)を調べるための圧密試験を行う。
9	土質実験8:土の圧密試験(2)	前回の圧密試験結果を用いて,粘性土の圧密定数(圧密係数,体積圧縮係数,圧縮指数,透水係数など)を調べる。
10	材料実験1:セメントの強さ試験とデータ解析(1)	作製モルタルの非破壊試験を行い,実験供試体について考察する。
11	材料実験2:セメントの強さ試験とデータ解析(2)	強度試験とともに,非破壊試験との関連を考察する。
12	材料実験3:細骨材の有機不純物試験	山砂,川砂に含まれる不純物を検討する。
13	材料実験4:細骨材の塩化物含有量試験	海砂の塩化物イオン濃度を検討する。
14	材料実験5:鉄筋コンクリート梁の作製と載荷試験(1)	曲げ・せん断を受けるRC梁の鉄筋ゲージ貼付と組立てを行う。
15	材料実験6:鉄筋コンクリート梁の作製と載荷試験(2)	曲げ・せん断を受けるRC梁のコンクリート打設を行う。
16	材料実験7:鉄筋コンクリート梁の作製と載荷試験(3)	RC梁の曲げせん断載荷試験を行い,梁の破壊形式や耐力等を検討する。
17	材料実験8:鉄筋コンクリート梁の試験結果のまとめ	RC梁の試験結果を整理し,考察する。
18	材料実験9:骨材の物理試験(1)	骨材のふるい分け試験により骨材の粒度を調べる。
19	材料実験10:骨材の物理試験(2)	骨材の密度・吸水試験により骨材の性質を調べる。
20	構造実験1:部材断面の性質	断面の形状が変形に与える影響について理解する。また,相反定理も併せて学習する。
21	構造実験2:梁の曲げ応力試験	梁内部に作用する曲げ応力の分布を把握する。
22	構造実験3:はりの曲げ振動特性	梁の曲げ振動実験を行って,変位・ひずみの時刻歴応答を測定する。振動波形から,振動数,固有周期,減衰定数を求めて,実験値と理論値を比較する。
23	構造実験4:静定ばりの影響線	単純ばりに移動荷重を作用させて,支点反力および曲げモーメントを計測する。さらに,理論値と実験値を比較する。
24	構造実験に関する実験演習(1)	構造実験に関する実験演習を行う。
25	構造実験に関する実験演習(2)	構造実験に関する実験演習を行う。
26	構造実験に関する実験演習(3)	構造実験に関する実験演習を行う。
27	土質実験に関する実験演習(4)	土質実験に関する実験演習を行う。
28	土質実験に関する実験演習(5)	土質実験に関する実験演習を行う。
29	プレゼンテーション:(1)	プレゼンテーションファイルの作成方法の説明ならびにプレゼンテーションファイルの作成を行う。
30	プレゼンテーション:(2)	各自に与えられた実験課題に関するプレゼンテーションを行う。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。	

科目	応用数学 I (Applied Mathematics I)		
担当教員	佐野 英樹 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A1(100%)	JABEE基準	(c),(d)
授業の概要と方針	線形代数とベクトル解析の基本的な概念を理解し、それらを道具として使えることを目標とする。抽象的な話になり過ぎないように具体的な例と実際の計算を豊富に扱う。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】行列を用いた連立一次方程式の解法について理解できる。		行列を用いた連立一次方程式の解法について理解できているか、試験およびレポートで評価する。
2	【A1】ベクトルの1次独立と行列のランクの関係を理解できる。		ベクトルの1次独立と行列のランクの関係を理解できているか、試験およびレポートで評価する。
3	【A1】行列式の基本的な概念と行列式に関する諸計算について理解できる。		行列式の基本的な概念と行列式に関する諸計算について理解できているか、試験およびレポートで評価する。
4	【A1】ベクトル空間と線形写像の基本的な概念と諸計算について理解できる。		ベクトル空間と線形写像の基本的な概念と諸計算について理解できているか、試験およびレポートで評価する。
5	【A1】行列の固有値、固有ベクトル、対角化の概念と諸計算について理解できる。		行列の固有値、固有ベクトル、対角化の概念と諸計算について理解できているか、試験およびレポートで評価する(ただし、対称行列の対角化とその応用はレポートのみで評価する)。
6	【A1】ベクトルの内積・外積の概念と計算が理解できる。		ベクトルの内積・外積の概念と計算が理解できているか、試験およびレポートで評価する。
7	【A1】空間曲線や曲面の形や性質をベクトルを用いて表現できる。		空間曲線や曲面の形や性質をベクトルを用いて表現できているか、試験およびレポートで評価する。
8	【A1】スカラー場・ベクトル場の概念と勾配、発散、回転の概念を理解できる。		スカラー場・ベクトル場の概念と勾配、発散、回転の概念を理解できているか、試験およびレポートで評価する。
9	【A1】線積分、面積分の概念を理解し、発散定理、ストークスの定理の概要を理解できる。		線積分、面積分の概念を理解し、発散定理、ストークスの定理の概要を理解できているか、試験およびレポートで評価する(ただし、ストークスの定理はレポートのみで評価する)。
10			
総合評価	成績は、試験65% レポート35% として評価する。なお、試験成績は、前期定期、後期中間、後期定期の平均とする。総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	前期:「リメディアル線形代数」:桑村雅隆著(裳華房) 後期:「新 応用数学」:佐藤志保 他 著(大日本図書)(応用数学IIと共通) 後期:「新 応用数学 問題集」:嶋野 和史 他 著(大日本図書)(応用数学IIと共通)		
参考書	「わかる線形代数」:有馬哲,石村貞夫(東京図書) 「キーポイント ベクトル解析」:高木隆司(岩波書店)		
関連科目	数学I・II(2年), 数学I(3年), 応用数学II(4年)		
履修上の注意事項	内容が多岐にわたっており、進捗ペースも速いと思われるので、予習・復習を行い、そのつど授業内容を理解するように努めること。		

授業計画(応用数学Ⅰ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	オリエンテーション	講義の進め方についてのオリエンテーションを行う。
2	ベクトル・行列・1次変換の復習と固有値や固有ベクトル	ベクトルや行列や1次変換について復習を行い,2次正方行列における固有値や固有ベクトルの性質を説明し,演習する。
3	ベクトルの1次独立性	線形代数の理論の出発点となるベクトルの1次独立性について説明し,演習する。
4	連立1次方程式と掃き出し法	連立1次方程式の掃き出し法による解法を説明し,演習する。
5	行列の基本変形とランク	行列の基本変形の方法を説明する。またランク(階数)の定義と求め方を説明し,演習する。
6	連立1次方程式の解の構造	行列のランクと連立1次方程式の解の種類の関係について説明し,演習する。
7	行列式の定義と性質	行列式の定義と性質について説明し,演習する。
8	行列式の計算	行列式の計算方法を説明し,演習する。簡単な応用についても説明する。
9	行列式の余因子展開とクラメルの公式	余因子行列と連立方程式のクラメルの公式による求め方を説明し,演習する。
10	ベクトル空間	ベクトル空間とはどういうものかを説明し,演習する。
11	ベクトル空間の基底と次元	一般的なベクトル空間におけるベクトルの1次独立性を説明し,さらにベクトル空間の基底と次元について説明し,演習する。
12	線形写像	ベクトル空間における線形写像の概念を説明し,さらに行列による表示の方法を説明し,演習する。
13	固有値と固有ベクトル	n 次正方行列に対する固有値,固有ベクトルの求め方を説明し,演習する。
14	行列の対角化	固有値,固有ベクトルを利用して,行列の対角化をする方法を説明し,演習する。
15	定期試験の解答・解説,対称行列の対角化とその応用	定期試験の解答・解説を行う。対称行列での固有値と固有ベクトルの性質を説明し,その応用として2次曲線の標準化について説明し,演習する。
16	空間のベクトル	空間のベクトルの性質や内積について,復習する。
17	ベクトルの外積	ベクトルの外積とその応用のスカラー3重積について説明し,演習する。
18	ベクトル関数	ベクトル空間に値をとる関数とその微分について説明し,演習する。
19	ベクトルと曲線	ベクトルによる曲線の表示とその微分や積分を,力学における速度・加速度や曲線の長さとの関連で説明し,演習する。
20	ベクトルと曲面	ベクトルによる曲面の表示とその微分や積分を,接平面・法線ベクトルや曲面の面積との関連で説明し,演習する。
21	スカラー場とベクトル場および勾配・方向微分	スカラー場とベクトル場およびスカラー場での勾配・方向微分について説明し,演習する。
22	発散と回転(1)	ベクトル場での発散と回転を説明し,演習する。
23	中間試験	16~22回までの内容について試験する。
24	中間試験の解答・解説,発散と回転(2)	中間試験の解答・解説を行う。発散と回転の基本公式,さらにそれらを用いることによって得られる関係式を説明する。
25	スカラー場での線積分	スカラー場での線積分の意味を説明し,演習する。
26	ベクトル場での線積分	ベクトル場での線積分の意味を説明し,演習する。
27	グリーンンの定理	グリーンンの定理の意味を説明する。
28	スカラー場・ベクトル場での面積分	スカラー場・ベクトル場の曲面上での面積分の意味を説明し,演習する。
29	発散定理	発散定理の意味を説明する。
30	定期試験の解答・解説,ストークスの定理	定期試験の解答・解説を行う。ストークスの定理の意味を説明する。
備考	本科目の修得には,60時間の授業の受講と30時間の自己学習が必要である。 前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科目	応用数学Ⅱ (Applied Mathematics II)		
担当教員	大澤 哲史 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位Ⅲ)		
学習・教育目標	A1(100%)	JABEE基準	(c),(d)
授業の概要と方針	前期は、一階常微分方程式、定数係数二階線形同次常微分方程式、定数係数二階線形非同次常微分方程式を講義し、その解法を学習する。後期は、フーリエ級数、ラプラス変換の定義を講義し、その解法を学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】変数分離形、同次形、完全形、線形の一階常微分方程式の解法を理解する。		変数分離形、同次形、完全形、線形の一階常微分方程式の解法が理解できているか中間試験(前期)・レポートで評価する。
2	【A1】一階常微分方程式の工学的応用例を通じ、その解法を理解する。		一階常微分方程式の工学的応用例の解法が理解できているか中間試験(前期)・レポートで評価する。
3	【A1】定数係数二階線形同次常微分方程式の定義を理解し、その工学的応用例を通じてその解法を理解する。		定数係数二階線形同次常微分方程式の解法を理解できているか定期試験(前期)・レポートで評価する。
4	【A1】定数係数二階線形非同次常微分方程式の解法を理解する。		定数係数二階線形非同次常微分方程式の解法を理解できているか定期試験(前期)・レポートで評価する。
5	【A1】フーリエ級数の定義を理解し、その工学的応用例を通じてその解法を理解する。		フーリエ級数の定義、およびその工学的応用例を通じてその解法を理解できているか中間試験(後期)・レポートで評価する。
6	【A1】ラプラス変換の定義を理解し、その工学的応用例を通じてその解法を理解する。		ラプラス変換の定義、およびその工学的応用例を通じてその解法を理解できているか定期試験(後期)・レポートで評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験80% レポート20% として評価する。100点満点とし60点以上を合格とする。試験成績は前期期末30%、後期中間25%、後期期末25%の合計を0.8で割り戻したものとす。レポート課題は提出期限を厳守すること(提出遅れは原則、0点とする)。		
テキスト	「書き込み式 工学系の微分方程式入門」:田中聡久(コロナ社) 「新 応用数学」:佐藤志保 他 著(大日本図書) (応用数学Iと共通) 「新 応用数学 問題集」:嶋野 和史 他 著(大日本図書) (応用数学Iと共通)		
参考書	「新編 高専の数学3」:田代嘉宏(森北出版) 「今日から使える微分方程式」:鮑本一裕(講談社) 「フーリエ解析」:馬場敬之・高杉豊(マセマ) 「ラプラス変換」:馬場敬之・高杉豊(マセマ)		
関連科目	数学I,応用数学I		
履修上の注意事項	履修者には、到達目標を達成するために努力する義務があります。レポートは課題を与えた次の授業までに提出することを原則とし、遅れたものは減点対象とする。中間試験もしくは定期試験までに提出しなかったレポートがある場合、レポート点を0点とするので全てのレポートを必ず提出すること。		

授業計画(応用数学Ⅱ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	オリエンテーション,実力試験	本講義の授業計画について説明する.3年次で学習した数学Iの内容について実力試験を実施する.
2	微分方程式の基本	微分方程式の解を求めるにあたり,基本的な用語説明や微分・積分の定義など,基本的な事柄を理解する.
3	変数分離形・同次形一階常微分方程式	一階常微分方程式において,変数分離形と同次形について解を得ることができる.
4	一階非斉次常微分方程式	非斉次型の一階線形常微分方程式について解を得ることができる.
5	一階常微分方程式に帰着できる方程式	ベルヌーイ方程式,ロジスティック方程式など,式変形によって一階線形微分方程式に帰着できる式について解を得ることができる.
6	完全形一階常微分方程式	$\partial P/\partial y = \partial Q/\partial x$ が成立するとき,完全形微分方程式であるという.完全形の関係式を用いて積分を行えば,解を得ることができる.
7	一階常微分方程式の応用	一階常微分方程式に関する問題について演習を行う.
8	中間試験	一階常微分方程式の中間試験を実施する.
9	中間試験解説・定数係数二階線形斉次常微分方程式	中間試験の解答・解説を行う.一つの独立変数のみの関数に関する二階の導関数を含んでいる方程式を二階常微分方程式という.二階常微分方程式の係数が定数のとき,定数係数二階線形斉次常微分方程式という.特性方程式の根が,2つの実根,重根,および虚数根の場合に応じて,一般解がそれぞれ与えられる.
10	変数係数二階線形斉次常微分方程式	二階常微分線形方程式の係数 p, q が定数でないとき,変数係数二階線形斉次常微分方程式という.オイラーの方程式,定数変化法が適用できる場合について,解を得ることができる.
11	未定係数法を用いた定数係数二階線形非斉次常微分方程式(1)	非斉次項が多項式, $\sin(mx), \cos(mx)$ で与えられる二階線形常微分方程式に未定係数法を適用したときの定理を理解する.
12	未定係数法を用いた定数係数二階線形非斉次常微分方程式(2)	オイラーの公式を理解し,非斉次項が $\exp(x)$ で与えられる二階線形常微分方程式に未定係数法を適用したときの定理を理解する.
13	演算子法を用いた定数係数二階線形非斉次常微分方程式(1)	微分演算子法の基礎を理解する.非斉次項が多項式, $\sin(mx), \cos(mx)$ で与えられる二階線形常微分方程式に演算子法を適用したときの定理を理解する.
14	演算子法を用いた定数係数二階線形非斉次常微分方程式(2)	非斉次項が $g(x) \cdot \exp(x)$ で与えられる二階線形常微分方程式に未定係数法を適用したときの定理を理解する.
15	定期試験解説,二階常微分方程式の応用	定期試験の解答・解説を行う.二階常微分方程式に関する問題について演習を行う.
16	フーリエ級数と三角関数の公式	周期性を有する関数を周期の異なる三角関数の無限級数で表す方法をフーリエ級数と呼ぶ.フーリエ級数の理解に必要な三角関数の公式についての知識を得る.
17	周期 2π のフーリエ級数	周期 2π の関数について,フーリエ係数およびフーリエ級数を求めることができる.
18	一般周期のフーリエ級数とフーリエ正弦級数,フーリエ余弦係数	一般的な周期を有するフーリエ級数およびフーリエ正弦級数,フーリエ余弦係数を求めることができる.
19	フーリエ級数の成立条件	フーリエ級数が成立するための条件の整理を行い,ギブスの現象の理解を行う.
20	複素フーリエ級数	複素フーリエ係数および複素フーリエ級数を求めることができる.
21	偏微分方程式へのフーリエ級数の適用	熱伝導方程式,ラプラス方程式,波動方程式など偏微分方程式の解を得る際の,フーリエ級数の適用例を理解する.
22	フーリエ級数の応用	演習問題を通じて,フーリエ級数を理解する.
23	中間試験	フーリエ級数の中間試験を実施する.
24	中間試験解説・ラプラス変換の定義	中間試験の解答・解説を行う.微分方程式を解く際に代数方程式を解く要領で解を求めるためにラプラス変換を用いることがある.そのために必要なラプラス変換の定義を理解する.
25	単位ステップ関数,デルタ関数とラプラス変換の諸法則	単位ステップ関数,デルタ関数の定義を理解する.またラプラス変換の相似性と移動法則を証明しながら理解する.
26	ラプラス変換の微分・積分法則	ラプラス変換の微分法則と積分法則を証明しながら理解する.
27	逆ラプラス変換	部分分数分解の方法を理解し,逆ラプラス変換の解法を理解する.
28	ラプラス変換の微分方程式への適用	ラプラス変換を用いて線形微分方程式を解く方法を例題を通じて理解する.
29	たたみこみのラプラス変換	たたみこみのラプラス変換について,その解法を例題を通じて理解する.
30	定期試験解説,ラプラス変換の応用	定期試験の解答・解説を行う.演習問題を通じて,ラプラス変換を理解する.
備考	本科目の修得には,60時間の授業の受講と30時間の自己学習が必要である.前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	応用物理 (Applied Physics)		
担当教員	大多喜 重明 教授		
対象学年等	都市工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A2(100%)	JABEE基準	(c),(d)
授業の概要と方針	「力学」問題に、「振動」、「波の伝搬」分野も加えた内容について理解する。具体的問題を取り上げて理解度を上げることを試みる。また、自然現象のうち、電気磁気的現象を理解する上で重要な基礎的概念を修得し、それを現実の問題に応用する能力を養う。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A2]力学で用いるベクトルの基本法則の意味を理解し、極座標系で記述された問題を解くことができる。		ベクトルの基本法則を理解しているかどうかを試験およびレポートによって評価する。
2	[A2]質点の力学に関する基本法則の意味を理解し、重力や中心力などが作用する系にこの法則を適用して解くことができる。		質点の力学に関する問題の解を求められるかどうかを試験およびレポートによって評価する。
3	[A2]振動に関する基本法則の意味を理解し、振動系にこの法則を適用して解くことができる。		振動に関する問題の解を求められるかどうかを試験およびレポートによって評価する。
4	[A2]剛体の力学に関する基本法則の意味を理解し、剛体の運動問題に関してこの法則を適用して解くことができる。		剛体の力学に関する問題の解を求められるかどうかを試験およびレポートによって評価する。
5	[A2]電荷間に働くクーロン力、近接作用としての電界、電位などの関係を理解する。		電荷間に働くクーロン力、近接作用としての電界、電位などの関係を理解しているかどうかを試験およびレポートによって評価する。
6	[A2]電流や電気抵抗の概念とその取り扱い方を理解する。		電流や電気抵抗の概念とその取り扱い方を理解しているかどうかを試験およびレポートによって評価する。
7	[A2]連続的に分布する電荷がつくる電場やコンデンサーについて理解し、ガウスの法則を用いて電場の計算ができるようになる。		連続的に分布する電荷がつくる電場の計算やコンデンサーについて理解し、ガウスの法則を用いて電場の計算ができるかどうかを試験およびレポートによって評価する。
8	[A2]静磁場におけるローレンツ力、ビオサバールの法則、アンペールの法則について理解する。		ローレンツ力、ビオサバールの法則、アンペールの法則について理解しているかどうかを試験およびレポートによって評価する。
9	[A2]ファラデーの電磁誘導の法則を理解し、誘導起電力や誘導電流の計算ができるようになる。		ファラデーの電磁誘導の法則を理解し、誘導起電力や誘導電流の計算ができるかどうかを試験およびレポートによって評価する。
10	[A2]マクスウェル方程式と電磁波の定式化について理解する。		マクスウェル方程式と電磁波の定式化について理解しているかどうかを試験およびレポートによって評価する。
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。100点満点とし60点以上を合格とする。試験成績は中間試験、定期試験の平均点とする(前期中間試験の代わりの課題の評価は試験85%に含む。再試験を行い、その点数も考慮する。)		
テキスト	「基礎からの物理学」:山本貴博(裳華房) 「基礎物理学演習」:後藤憲一・小早川恵三・國友正和(共立出版)		
参考書	「力学」:原島鮮著(裳華房) 「電気磁気学」:石井良博著(コロナ社) 「100問演習電磁気学」:今崎正秀著(共立出版) 「ビジュアルアプローチ 力学」:為近和彦著(森北出版) 「ビジュアルアプローチ 電磁気学」:前田和茂・小林俊雄著(森北出版)		
関連科目	物理		
履修上の注意事項	関連科目は1年および2年の物理である。本教科は1,2年の物理の内容を踏まえ、その応用および1,2年で触れなかった範囲を講義する。授業に対する理解がその都度完結するよう、予習・復習を必須とする。理解の定着をはかるため、毎回レポート課題を宿題として課す。		

授業計画(応用物理)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	運動の表し方1	質点の概念,位置と座標系(デカルト座標系,極座標系,円柱座標系),ベクトルの基本定理(単位ベクトル,位置ベクトル,変位ベクトル,スカラー積,ベクトル積)について学習する.
2	運動の表し方2	速度と加速度の表し方,計算方法,接線成分と法線成分の表現方法について学習する.
3	運動の表し方3	2次元極座標系について理解し,2次元極座標系による速度と加速度の表現,円運動と面積速度について学習する.
4	運動の法則	ニュートンの運動の3法則と運動方程式の立て方と解き方について学習する.
5	単振動	単振動の運動方程式について学習する.
6	減衰振動と強制振動	減衰振動と強制振動について学習する.
7	束縛運動	束縛力(抗力,張力)について理解し,束縛運動(斜面をすべる物体の運動,単振り子)の運動方程式について学習する.
8	中間試験の代わりの課題	中間試験の代わりの課題に取り組む時間とする.
9	力学的エネルギーとその保存則(仕事とエネルギー)1	仕事,保存力とポテンシャル,運動エネルギーと仕事の関係,力学的エネルギー保存則について学習する.
10	力学的エネルギーとその保存則2,角運動量とその保存則	前回の続き.その後,角運動量とその保存則について講義する.
11	非慣性系での物体の運動	慣性系と非慣性系,並進座標系,回転座標系,様々な慣性力について理解し,慣性系と非慣性系での運動について学習する.
12	質点系の力学	運動量保存の法則,力積,弾性衝突・非弾性衝突,重心,角運動量と力のモーメント,角運動量保存則について学習する.
13	剛体の力学1	慣性モーメント,剛体のつりあいと運動に関する基本定理について学習する.
14	剛体の力学2	慣性モーメント,剛体のつりあいと運動に関する基本定理について学習する.
15	定期試験解答	試験の解答と解説を行う.
16	タコマ・ナローズ橋の落下事故について	タコマ・ナローズ橋の落下事故についての解説と演習を行う.
17	力学のまとめ1	剛体の力学についての問題演習と復習を行う.
18	力学のまとめ2	剛体の力学についての問題演習と復習を行う.
19	力学のまとめ3	剛体の力学についての問題演習と復習を行う.
20	力学のまとめ4	剛体の力学についての問題演習と復習を行う.
21	電磁気学の4つの原理とマクスウェル方程式1	低学年で学んだこととこれから学ぶことの関係とこれから学ぶことの概要の解説と演習を行う.
22	電磁気学の4つの原理とマクスウェル方程式2	低学年で学んだこととこれから学ぶことの関係とこれから学ぶことの概要の解説と演習を行う.
23	中間試験	後期のこれまでに学んだ範囲について出題する.
24	中間試験の解答	中間試験の解答
25	電磁気学の第1の原理	クーロンの法則の解説と演習を行う.
26	電磁気学の第1の原理と第2の原理	ガウスの法則,ビオ・サバルの法則,磁束密度に対するガウスの法則の解説と演習を行う.
27	電磁気学の第2の原理と第3の原理1	ビオ・サバルの法則,アンペールの法則の解説と演習を行う.
28	電磁気学の第2の原理と第3の原理2	アンペールの法則,ファラデーの電磁誘導の法則の解説と演習を行う.
29	電磁気学の第4の原理	マクスウェルの変異電流の法則とアンペール・マクスウェルの法則,電磁波の解説と演習を行う.
30	定期試験解答	試験の解答と解説を行う.
備考	本科目の修得には,60時間の授業の受講と30時間の自己学習が必要である. 前期定期試験,後期中間試験および後期定期試験を実施する.(前期中間試験はその代わりの課題に変更)	

科目	構造力学Ⅲ (Structural Mechanics III)		
担当教員	伊原 茂 教授		
対象学年等	都市工学科・4年・後期・必修・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-S2(100%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	4年生の構造力学では、主に不静定構造物を解く方法について学ぶ。2～3年時で学んだ構造力学の基礎知識が前提になっている。授業では、不静定構造物の解法とエネルギー原理を中心に講義する。構造物を設計するときの構造解析に用いる仮想仕事の原理等について理解を深める。授業では、演習問題を豊富に取り入れて、力学計算の内容を細かく解説する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S2】不静定構造物の解析法が理解できる。		不静定構造物の解法計算ができていないか定期試験, 中間試験, レポート, 及び, 小テストで評価する。
2	【A4-S2】ひずみエネルギーによる解析法が理解できる。		ひずみエネルギーによる解析法が理解できるか中間試験, 定期試験, レポートで評価する。
3	【A4-S2】仮想仕事の原理を用いて各種構造物の変形を求めることができる。		仮想仕事の原理を用いて各種構造物の変形を求めることができるか中間試験, レポートで評価する。
4	【A4-S2】カステリアーノの定理により不静定構造物が解法できる。		カステリアーノの定理により不静定構造物が解法できるか定期試験とレポートで評価する。
5	【A4-S2】相反定理, ミューラープレスラウの定理とその応用が理解できる。		相反定理, ミューラープレスラウの定理とその応用が理解できるか中間試験, レポートで評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は, 試験70% レポート20% 小テスト10% として評価する。100点満点とし60点以上を合格とする。試験70%の内訳は, 中間試験30%, 定期試験40%とする。		
テキスト	崎元達郎: 構造力学(下), 第2版, 不静定編, 森北出版		
参考書	福本口秀士編著, 岡田清/監修: 構造力学I(ニューパラダイムテキストブック), 東京電機大学出版局 「基礎から学ぶ構造力学」, 藤本一男他(森北出版) 「構造力学(II)」, 岡村宏一(鹿島出版会) 「構造力学(2)」, 村上正ほか著(コロナ社)		
関連科目	構造力学I(2年), 構造力学II(3年), 橋梁工学(4年前期), 構造力学IV(5年)		
履修上の注意事項	1) 学習単位IIの科目である。2) 授業60%+授業時間外学習40%の理解となるように授業難易度を設定。3) 期限内に提出されなかった課題は0点の評価。4) 教科書を持参しない学生は授業進行の妨げになるので遅刻扱いとする, または, 受講を遠慮してもらう場合がある。5) 授業開始5分前には受講準備を整えること。6) 授業中のスマホ・携帯等の取り扱いは試験時と同様とする。		

授業計画(構造力学Ⅲ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	構造力学復習	構造力学概論,3年次構造力学の復習し構造力学の理解度を把握する.
2	仕事とエネルギー	仕事とエネルギー,仮想仕事の概念を説明し,仮想変位の原理の応用として梁の支点反力やトラスの部材力を求める.
3	弾性体の仮想仕事の原理	仮想仕事の原理の一般式の誘導について説明する.仮想仕事の原理による弾性変形の解法(単位荷重法)について説明する.
4	はりおよびトラスに対する単位荷重法の応用	片持ちばりや静定トラスの節点変位を求める計算例を示し説明するとともに,温度変化による単純ばりの変形の算定について説明する.また課題も提示する.
5	相反定理の説明	相反定理の基礎式を示すとともにMaxwellの相反定理を説明する.
6	影響線(1)	相反定理を用いた力の影響線を求める方法(ミュラー・プレスラウの原理)を説明し,課題を課す.
7	影響線(2)	ミュラー・プレスラウの原理の応用として断面力の影響線を求める方法を説明し,静定ばり,不静定ばりの影響線を求める演習を行う.
8	中間試験	1回~7回の授業内容より試験をする.
9	中間試験の解答・解説,弾性体のひずみエネルギー	中間試験の解説をする.弾性体の応力,ひずみ,ひずみエネルギーについて説明し,具体例を挙げてひずみエネルギーを算定する.また課題を課す.
10	カステリアーノ定理(1)	カステリアーノの第2定理を説明し,片持ちばりを例にたわみの算定方法を示す.小テストを行う.
11	カステリアーノ定理(2)	カステリアーノの第1定理を説明し,応用の具体例を示す.
12	最小仕事の定理(1)	不静定次数の数え方,最小仕事の定理について説明する.
13	最小仕事の定理(2)	最小仕事の定理を用いた不静定力の解法について説明する.
14	余力法と弾性方程式(1)	応力法の一つである余力法を用いて,不静定骨組を解く.静的基本系を定めて弾性方程式を立て,単位荷重法を利用して不静定力を求める.
15	定期試験の解答,解説,余力法と弾性方程式(2)	定期試験の解説ならびに連続ばりや不静定ラーメンに余力法を適用し,最終課題の仕上げを行う.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である. 後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	水理学 (Hydraulics)		
担当教員	宇野 宏司 教授		
対象学年等	都市工学科・4年・前期・必修・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-S2(100%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	本講義では、水理学の中でも特に河川工学等の実務に必要な開水路に対する知識や解析手法を解説する。後半はこれまで履修した水理学の総復習を実施する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S2】ポテンシャル流れの水理について理解できる。		ポテンシャル流れの水理について理解できているかどうか、レポートで評価する。
2	【A4-S2】開水路の流れの分類や解析理論が理解できる。		開水路の流れの分類や解析理論が理解できているかどうか、定期試験で評価する。
3	【A4-S2】水理学的に有利な断面、段波の運動、比エネルギー、支配断面などから常流と射流の物理的意味について理解する。		水理学的に有利な断面、段波の運動、比エネルギー、支配断面などから常流と射流の物理的意味について理解できているかどうか、定期試験及びレポートで評価する。
4	【A4-S2】開水路流れにおける各種水面形の特徴について説明できる。		開水路流れにおける各種水面形の特徴について理解できているかどうか、定期試験及びレポートで評価する。
5	【A4-S2】流体力について説明できる。		流体力について理解できているかどうか、定期試験及びレポートで評価する。
6	【A4-S2】これまでの水理学で習った単元を総復習し、単元間のつながりを確認することで、水理学に対する理解を深める。		これまでの水理学で習った単元を理解できているかどうかレポートで確認する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験50% レポート50% として評価する。総合成績は、100点満点として60点以上を合格とする。試験は定期試験のみ実施する		
テキスト	「PEL水理学」:神田佳一・編著(実教出版) 配布プリント		
参考書	「水理学I,II」:大西外明(森北出版) 「応用流体力学」:室田明(共立出版) 「明解水理学」:日野幹雄(丸善出版)		
関連科目	数学,物理,水理学(3年次)		
履修上の注意事項	数学,物理,水理学(3年次)の知識を活用するためにそれらを十分に理解しておくこと		

授業計画(水理学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	概説	3年生で習った水理学の単元を振り返るとともに、今後の授業計画と学習内容について概説する。
2	ポテンシャル流れの水理	ポテンシャル流れの水理について説明する。
3	開水路の流れ(1)	比エネルギーと限界水深について説明する。
4	開水路の流れ(2)	常流と射流,跳水現象について説明する。
5	開水路の流れ(3)	開水路の等流について説明する.特に水理学的に有利な断面について説明する。
6	開水路の流れ(4)	開水路の不等流について説明する.特に一様水路の不等流と水面形状の特性について説明する。
7	物体に作用する力	定常・非定常な流れにおける流体力について説明する。
8	前半のまとめ	ここまで習った範囲についての復習を行う
9	水理学の復習(1)	水の物性について復習し,これに関する演習問題を解く。
10	水理学の復習(2)	静水力学について復習し,これに関する演習問題を解く。
11	水理学の復習(3)	流れの基礎理論について復習し,これに関する演習問題を解く。
12	水理学の復習(4)	前週に引き続き,流れの基礎理論について復習し,これに関する演習問題を解く。
13	水理学の復習(5)	管路の流れについて復習し,これに関する演習問題を解く。
14	水理学の復習(6)	開水路の流れについて復習し,これに関する演習問題を解く。
15	定期試験の返却と解説・総まとめ	定期試験を返却し,問題の解説を実施する.これまでの授業内容を振り返り,学習の総まとめを実施する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である. 前期定期試験を実施する。	

科目	土質力学Ⅱ (Soil Mechanics II)		
担当教員	野並 賢 准教授【実務経験者担当科目】		
対象学年等	都市工学科・4年・前期・必修・2単位 (学修単位Ⅱ)		
学習・教育目標	A4-S1(20%), A4-S2(80%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	3年生で学習した土質力学Ⅰに引き続き、様々な地盤調査法ならびに地盤定数の評価方法について学習する。また、様々な局部載荷重によって発生する地盤内の応力増分ならびに変位の推定方法について学習する。さらに、講義の後半では、地盤工学における安定問題の1つである「土圧」について学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S1】地盤特性と調査法について理解できる。		様々な地盤調査ならびに地盤定数の評価方法について理解できているかを中間試験ならびに定期試験、レポートで評価する。
2	【A4-S2】地盤内の応力と変位について理解できる。		様々な局部載荷重によって発生する地盤内の応力増分および変位の推定方法について理解できているかを中間試験ならびに定期試験、レポートで評価する。
3	【A4-S2】土圧の種類とその算定手法について理解できる。		構造物に作用する土圧の概念と土圧の算定手法(クーロン土圧,ランキン土圧)について理解できているかを中間試験ならびに定期試験、レポートで評価する。
4	【A4-S1】地盤の崩壊を防ぐ目的で構築される擁壁や土留め壁などの構造物の基礎的な設計手法について理解できる。		擁壁や土留め壁の基礎的な設計手法について理解できているかを定期試験ならびにレポートで評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験75% レポート25% として評価する。試験成績は、定期試験のみとする。レポート(演習課題)は、定期試験実施日までに提出しないものは、原則評価対象としない。総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「基礎からの土質力学」:常田賢一他(理工図書)(土質力学Ⅰで使用したもの) 「理解を深める土質力学320問」:常田賢一他(理工図書)(土質力学Ⅰで使用したもの) 講義時に適宜配布する補足資料		
参考書	「図解 わかる土質力学」:菊本統,西村聡,早野公敏(学芸出版) 「解いてわかる 土質力学」:近畿高校土木会(オーム社) 「土質力学入門」:三田地利之(森北出版) 「わかる土質力学220問」:安田進,片田敏行,後藤聡,塚本良道,吉嶺充俊(理工図書) 「土質試験 基本と手引き 第二回改訂版」:地盤工学会(丸善)		
関連科目	土質力学Ⅰ,土質力学Ⅲ,数学Ⅰ,数学Ⅱ,物理,都市工学実験実習(土質系実験)		
履修上の注意事項	各自、十分に予習して授業に臨み、講義後は十分理解を深めるよう復習すること。レポート以外の演習問題にも自主的に取り組むこと。講義中ならびに試験時にコンパス,分度器,定規,関数電卓を使用するので、準備をしておくこと。レポートは課題を与えた次の授業までに提出することを原則とし、遅れたものは減点対象とする。定期試験までに提出しなかったレポートがある場合、レポート点を0点とするので全てのレポートを必ず提出すること。		

授業計画(土質力学Ⅱ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	オリエンテーション,地盤特性と調査法(1)	本講義の授業計画について説明する.ボーリング調査とサウンディングについて学習する.
2	地盤特性と調査法(2)	調査深度と地盤定数の評価方法について学習する.
3	地盤内の応力(1)	弾性地盤の応力と変位,単一集中荷重による地盤内鉛直応力増分と影響値について学習する.
4	地盤内の応力(2)	様々な局部載荷重(線状荷重,帯状荷重,台形分布荷重)によって発生する地盤内の鉛直応力増分の推定手法について学習する.
5	地盤内の応力(3)	前回に引き続いて,様々な局部載荷重(円形分布荷重,長方形分布荷重,任意形状の分布荷重)によって発生する地盤内の鉛直応力増分の推定手法について学習する.
6	地盤内の応力(4)	近似解法による地盤内の鉛直応力増分の推定手法,圧力球根の考え方,地表面の沈下量の推定方法ならびに接地圧の考え方について学習する.
7	地盤特性と調査法にかかる演習問題	第1~2回までの内容に関する演習問題を行う.
8	地盤内の応力にかかる演習問題	第3~6回までの内容に関する演習問題を行う.
9	中間試験の解答・解説,土圧(1)	壁体に作用する土圧理論の1つであるランキンの土圧理論について学習する.
10	土圧(2)	前回に引き続いて,ランキンの土圧理論について学習する.
11	土圧(3)	壁体に作用する土圧理論の1つであるクーロンの土圧理論について学習する.
12	土圧(4)	前回に引き続いて,クーロンの土圧理論について学習する.
13	土圧(5)	擁壁や土留め壁の設計手法について学習する.
14	土圧(6)	前回に引き続いて,擁壁や土留め壁の安定性評価手法について学習する.
15	定期試験の解答・解説,総合演習	定期試験の解答・解説を行う.地盤内応力・土圧に関する総合演習問題を行う.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である. 前期中間試験および前期定期試験を実施する.定期試験では,土質力学IIで学習した全ての内容を試験範囲とする.	

科目	土質力学Ⅲ (Soil Mechanics III)		
担当教員	鳥居 宣之 教授		
対象学年等	都市工学科・4年・後期・必修・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-S1(20%), A4-S2(80%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	本講義は,担当教員の地盤工学の実務経験を踏まえて,前期で学習した土質力学IIに引き続き,地盤工学の安定問題である「基礎の支持力」ならびに「斜面の安定」について学習する.また,実務では土質力学の知識を総合して地盤工学の諸問題を解決することが必要である.第9回目以降の講義では,これまで学習してきた土質力学の知識を活用して実務での諸問題へ適用する方法について学習する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-S2]基礎の支持力の概念ならびに基礎の支持力と沈下量の評価方法が理解できる.		基礎の支持力の概念ならびに基礎の支持力と沈下量の評価方法を理解できているかを中間試験ならびに定期試験,レポートで評価する.
2	[A4-S2]斜面の安定解析手法が理解できる.		斜面の安定解析手法を理解できているかを中間試験ならびに定期試験,レポートで評価する.
3	[A4-S1]実務への土質力学の適用(斜面の安定性評価)が理解できる.		実務への土質力学の適用(斜面の安定性評価)が理解できているかを定期試験ならびにレポートで評価する.
4	[A4-S1]実務への土質力学の適用(基礎の設計)が理解できる.		実務への土質力学の適用(基礎の設計)が理解できているかを定期試験ならびにレポートで評価する.
5	[A4-S1]実務への土質力学の適用(土圧問題)が理解できる.		実務への土質力学の適用(土圧問題)が理解できているかを定期試験ならびにレポートで評価する.
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.なお,試験85%の内訳は,中間試験35%,定期試験50%とする.レポートは,提出期限を厳守すること.総合評価は100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト	「基礎からの土質力学」:常田賢一他(理工図書)(土質力学I・IIで使用したもの) 「理解を深める土質力学320問」:常田賢一他(理工図書)(土質力学I・IIで使用したもの) 講義時に適宜配付する補足資料		
参考書	「図解 わかる土質力学」:菊本統,西村聡,早野公敏(学芸出版) 「解いてわかる 土質力学」:近畿高校土木会(オーム社) 「土質力学入門」:三田地利之(森北出版) 「わかる土質力学220問」:安田進他(理工図書) 「土質試験 基本と手引き 第二回改訂版」:地盤工学会(丸善)		
関連科目	土質力学I,土質力学II,数学I,数学II,物理,都市工学実験実習(土質系実験)		
履修上の注意事項	各自,十分に予習して授業に臨み,講義後は十分理解を深めるよう復習すること.レポート以外の演習問題にも自主的に取り組むこと.講義中ならびに試験時にコンパス,分度器,定規,関数電卓を使用するので,準備をしておくこと.レポートは指定された期限までに提出することを原則とし,遅れたものは減点対象とする.中間試験もしくは定期試験までに提出しなかったレポートがある場合,レポート点を0点とするので,全てのレポートを必ず提出すること.		

授業計画(土質力学Ⅲ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	オリエンテーション,基礎の支持力(1)	本講義の授業計画について説明する.基礎の支持力の考え方ならびに構造物の基礎形式,浅い基礎の支持力について学習する.
2	基礎の支持力(2)	前回に引き続いて,浅い基礎の支持力について学習する.
3	基礎の支持力(3)	深い基礎の支持力について学習する.
4	基礎の支持力(4)	基礎の支持力に関する演習問題を行う.
5	斜面の安定(1)	すべりの発生形態および破壊機構と,無限長斜面の安定解析手法について学習する.
6	斜面の安定(2)	円弧すべり法と図解法について学習する.
7	斜面の安定(3)	斜面の安定性に関する演習問題を行う.
8	中間試験	第1~7回までの内容に関する中間試験
9	中間試験解説,実務への土質力学の適用(斜面の安定性評価)	中間試験の解答・解説を行う.斜面の安定性評価について学習する.
10	実務への土質力学の適用(基礎の支持力)(1)	軟弱地盤上への盛土・橋梁基礎の安定性評価について学習する.
11	実務への土質力学の適用(基礎の支持力)(2)	軟弱粘性土地盤への杭基礎の設計について学習する.
12	実務への土質力学の適用(基礎の支持力)(3)	前回に引き続いて,軟弱粘性土地盤での杭基礎の設計方法について学習する.
13	実務への土質力学の適用(基礎の支持力)(4)	砂質地盤への直接基礎の設計について学習する.
14	実務への土質力学の適用(土圧問題)	開削工事における土留めの安定性評価について学習する.
15	定期試験解説,地盤の設計基準類	定期試験の解答・解説を行う.地盤の設計基準類について学習する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である. 後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	コンクリート工学 (Reinforced Concrete)		
担当教員	高科 豊 准教授		
対象学年等	都市工学科・4年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S1(70%), A4-S2(10%), A4-S3(10%), A4-S4(10%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	RC及びPC部材の使用限界状態及び終局限界状態における照査,曲げと軸力を受けるRC部材の挙動を学ぶ.また,プレストレストコンクリートPCの原理等を学ぶ.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S1】RC部材の使用限界状態の照査について理解できる.		RC梁の耐力計算やコンクリートおよび鉄筋の応力度計算が理解できているか中間試験で評価する.
2	【A4-S1】RC部材の終局限界状態の照査について理解できる.		RC梁の曲げ耐力およびせん断耐力の計算が理解できているか中間試験で評価する.
3	【A4-S1】曲げと軸力を受けるRC部材の挙動を説明できる.		曲げと軸力を受けるRC部材の挙動について理解できているかを定期試験で評価する.
4	【A4-S2】曲げひび割れ幅の照査について理解できる.		RC梁の曲げひび割れ幅の計算が理解できているか定期試験で評価する.
5	【A4-S4】曲げひび割れ幅と耐久性の関係について説明できる.		RC部材の曲げひび割れ幅と鉄筋腐食などの耐久性との関係が理解できているかをレポートと定期試験で評価する.
6	【A4-S3】プレストレストコンクリートの施工方法と分類の関係を知らうえで,その原理を説明できる.		プレストレストコンクリートの基礎事項の設問について理解できているか定期試験で評価する.
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験80% レポート20% として評価する.中間試験と定期試験の配分は,50%,50%とする.総合評価は100点満点で,60点以上を合格とする.		
テキスト	「コンクリート構造の基礎〔改定第2版〕」:二羽淳一郎(コロナ社) プリント		
参考書	「鉄筋コンクリート工学」:近藤泰夫・岸本進・角田忍著(コロナ社) 「コンクリート構造」:小林和夫,宮川豊章 他(学芸出版社)		
関連科目	構造力学I,構造力学II,材料学,都市工学実験実習(S3)		
履修上の注意事項	私語をしない等,しっかりした受講姿勢で学ぶ.		

授業計画(コンクリート工学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	コンクリート構造物の維持管理	コンクリート構造物のメンテナンス技術を理解する。
2	RC部材の限界状態の照査	RC部材(複鉄筋長方形断面)とT形断面の終局状態における曲げ耐力算定方法を学び理解する。
3	RC部材の終局限界状態・使用状態の照査の基礎事項の復習	RC梁部材の終局状態における曲げ耐力や使用状態の応力算定方法を復習し、理解を深める。
4	RC部材のせん断耐力の照査の復習	RC梁部材の終局状態におけるせん断耐力のトラス理論を復習し、理解を深める。
5	曲げと軸力を受けるRC部材の挙動(1)	曲げと軸力を受けた場合の耐力算定における相互作用の概念を学び理解する。
6	曲げと軸力を受けるRC部材の挙動(2)	偏心量の変化に伴って、RC部材の破壊形態が変化していくことを学び理解する。
7	RC部材のねじり耐力	RC部材のねじり耐力算定方法を学び理解する。
8	中間試験(第1回から7回までの内容)	RC部材の終局限界状態の照査方法、曲げと軸力を受けるRC部材の挙動について出題する。
9	中間試験の解答・解説およびRC部材の曲げひび割れ幅の照査	中間試験の解答・解説を行う。また、曲げひび割れ幅の算定方法を学び、鉄筋腐食環境などの耐久性との関係を理解する。
10	RC部材の曲げひび割れによる剛性低下	RC部材の曲げ剛性低下による変位への影響を理解する。
11	プレストレストコンクリートの分類と原理	プレストレストコンクリートの施工方法と分類、原理を理解して説明することができる。
12	プレストレス力の減少と有効プレストレス	プレストレス力の減少要因を理解でき、有効プレストレスの計算ができる。
13	許容応力度による断面算定	許容応力度による断面算定の計算ができる。
14	使用状態におけるコンクリート部材任意断面の応力算定	使用状態のコンクリート部材の任意断面における応力算定を理解できる。
15	定期試験の解答・解説および学習内容の復習と総括	定期試験の解答・解説を行った後、学習内容のポイントの復習と総括を行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科目	橋梁工学 (Bridge Engineering)		
担当教員	伊原 茂 教授【実務経験者担当科目】		
対象学年等	都市工学科・4年・前期・必修・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-S2(100%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	橋は人々の生活を支える重要な社会基盤構造物の一つです。橋梁を設計するには、3年次までに学んだ構造力学を基礎にして作用荷重を仮定し、材料を選択し、具体的な寸法を決めて、強度的に問題がないことを照査するという設計の一連の流れを理解することが大切です。本講義は、担当教員の高速道路会社における橋梁の建設・改築・更新に関する実務経験を踏まえて、橋梁の設計方法について教授する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S2】橋梁を構成する各種部材に関わる基本的な用語が説明できる。		支間、橋長、桁長、径間や幅員といった用語が理解できているか小テストで評価する。
2	【A4-S2】橋梁の分類と形式およびその力学的な特徴を説明できる。		鋼桁橋、トラス橋、アーチ橋、吊橋や斜張橋などの分類と、その力学的な原理が理解できているかをレポートと中間試験で評価する。
3	【A4-S2】設計荷重の種類とそれらがどのように決められているかを説明できる。		材料の単位体積重量、自動車荷重のモデル化、地震や温度変化などの影響の考慮方法が理解できているかをレポートと中間試験で評価する。
4	【A4-S2】限界状態設計法、部材の強度評価方法、及び、鋼材の許容応力度について説明できる。		各種構造用鋼材の力学的特性、許容応力と安全率、及び、限界状態設計法の考え方が理解できているかをレポート・中間・定期試験で評価する。
5	【A4-S2】高力ボルト接合と溶接接合の種類を説明できる。		摩擦接合型高力ボルトのメカニズム、ボルト本数の決め方、耐力照査方法、ならびに、鋼板の溶接接合の種類、寸法の決め方、応力照査方法が理解できているかをレポートと中間試験で評価する。
6	【A4-S2】鉄筋コンクリート床版の応力照査ができる。		床版の役割、鉄筋コンクリート(RC)床版と鋼床版の構造、および、RC床版の応力照査方法が理解できているかをレポートで評価する。
7	【A4-S2】プレートガーダー橋の主桁断面設計の流れを説明できる。		I桁に作用する荷重強度の算出、影響線を用いた断面力の算定、そして応力照査の方法が理解できているかについて、非合成のプレートガーダー橋のレポートと定期試験で評価する。
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% レポート20% 小テスト10% として評価する。100点中60点以上を合格とする。試験70%の内訳は、中間試験30%、定期試験40%とする。		
テキスト	中井 博・北田俊行著：新編 橋梁工学,共立出版		
参考書	中井 博,事口壽男他著： 例題で学ぶ橋梁工学, 第2版,共立出版		
関連科目	構造力学I,構造力学II,構造力学III		
履修上の注意事項	1)1回の授業につき約2時間の授業時間外学習が必要。2)期限内に提出されなかった課題は0点の評価。3)教科書を持参しない学生は授業進行の妨げになるので遅刻扱いとする。または、受講を遠慮してもらう場合がある。4)授業開始5分前には受講準備を整えること。5)授業中のスマホ・携帯等の取り扱いは試験時と同様とする。		

授業計画(橋梁工学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	橋梁工学概論, 橋梁のライフタイム	橋梁工学の講義の進め方に関するガイダンスを行い, 橋梁をはじめとする様々な構造物を設計する上で構造力学を理解しておくことの重要性について説明する. 続いて, 橋梁の生涯に関して説明し, 今後, 我が国では, 既設橋の適切な維持管理による長寿命化が重要な課題であることを述べる.
2	橋梁の分類と構成	橋梁の利用目的による分類, 使用材料, 平面形状, 通行位置や可動・固定などによる分類法について解説する. また, 橋梁の寸法と構成を表す用語である支間, 径間, 桁長や幅員などの定義, ならびに, 橋梁を構成する床版, 主桁や横桁といった部材の定義とその力学的な役割について解説する.
3	橋梁に作用する荷重	橋を設計するときにどんな外力を考慮する必要があるかを考える. 死荷重, 活荷重の種類, 衝撃, 地震・温度変化等の考え方と道路橋示方書の規定について講義する.
4	許容応力度設計法と限界状態設計法について	平成30年4月から導入された鋼橋の限界状態設計法について概説する. 従来の許容応力度設計法は既存橋梁の維持管理の際に必要な. 2つの設計法の違いを説明し, 橋の設計法の変遷について講義する.
5	構造用鋼材の種類と機械的性質について	許容応力度設計法に用いられる安全率という概念と許容応力度について講義する. 柱の座屈, I桁の横倒れ座屈他, 許容応力度を算定するときに考慮されている座屈現象について解説する.
6	橋梁に使用する材料とその許容応力度	材料に作用する応力が低くとも, それが繰り返し作用することにより, 疲労破壊の現象が起こる. 自動車等の活荷重が作用する橋梁の設計において, 疲労による強度低下をどのように考慮しているかを講義する.
7	高力ボルト接合	摩擦接合型の高力ボルト接合の原理について講義し, 高力ボルトで鋼板をどのように接合するかを解説する. 作用外力に対して, 高力ボルトの所要本数を求め, 耐力照査する演習を行う.
8	溶接接合	鋼板を溶接で継ぐ方法(接合する方法)について講義する. 溶接の原理と継手の種類について解説する. 作用外力に対して溶接寸法を決めて, 応力照査する演習を行う.
9	橋梁の床版	一般の橋梁で用いられる鉄筋コンクリート床版(RC床版)と長大橋で採用される鋼床版について講義する.
10	プレートガーダー橋の設計(1)	プレートガーダー橋としてI桁橋を取り上げ, 断面設計の流れについて講義する. 主桁に作用する荷重の求め方, 断面力の求め方について解説する.
11	プレートガーダー橋の設計(2)	10週に引き続いて, フランジ・プレートと腹板の寸法決定で考慮すべき事項(幅厚比制限, 水平補剛材の役割, 応力照査の種類)について講義する. 橋梁用語について小テストを実施する.
12	プレートガーダー橋の設計(3)	11週までの授業で勉強した事項を踏まえて, 以下の内容で設計の流れが理解できるように総合演習を行う. 1)床版厚の決定, 2)主桁に作用する死荷重強度の算出, 3)着目点の断面力(M, S)の算出, 4)断面(桁高, 腹板厚, フランジ・プレート寸法)の決定, 5)応力照査
13	中間試験	1~7回目までの講義内容に関する試験を実施する.
14	中間試験の解答・解説, プレートガーダー橋の設計(4)	中間試験の解説を行う. また, 12週に引き続いて総合演習を行う.
15	定期試験の解説, プレートガーダー橋の設計(5)	定期試験の解説を行う. また, プレートガーダー橋の設計についてのまとめを行う.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には, 30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である. 前期中間試験および前期定期試験を実施する.	

科目	情報数値解析 (Numerical Analysis of Information)		
担当教員	高科 豊 准教授		
対象学年等	都市工学科・4年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A3(100%)	JABEE基準	(c),(d)
授業の概要と方針	表計算ソフトを用いて,工学的問題について数値解析を通して処理することを学ぶ.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A3]表計算ソフトを用いて,基礎的な物理数学の解を求めることができる.		表計算ソフトを用いて,基礎的な物理数学の問題を解法できるかを課題レポートで評価する.
2	[A3]表計算ソフトのグラフィカル機能を使うことができる.		表計算ソフトを用いて,解をグラフィカルに問題解決できるかを課題レポートで評価する.
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,レポート100% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト	課題関連プリント		
参考書	Excelではじめる数値解析 伊津野和行・酒井和久共著 森北出版 演習グラフィカル物理数学 松本亮介・山口智実著 電気書院 てっとり早く確実にマスターできるExcel VBAの教科書 大村あつし著 技術評論社 しっかり学ぶExcel VBA標準テキスト 近田順一朗 技術評論社		
関連科目	数学I,数学II,物理,確率統計		
履修上の注意事項	私語をしない等しっかりとした受講姿勢等で学ぶこと.指定課題の提出は原則必要不可欠とする.		

授業計画(情報数値解析)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス及び数値微分	接線の傾きと微分係数,関数の概形について学習する.
2	関数の近似	テイラー(Taylor)展開・差分による関数近似 マクローリン(maclaurin)展開について学習する.
3	積分の計算	定積分と面積の計算,回転体の体積の計算について学習する.
4	偏微分の計算	多変数関数における偏微分について学習する.
5	非線形方程式の解法	ニュートンラフソン法(Newton Raphson)による非線形方程式の解法について学習する.
6	常微分方程式	振動シミュレーションについて学習する.
7	偏微分方程式	熱伝導シミュレーションについて学習する.
8	連立方程式と逆行列	ヤコビ法について学習する.
9	ベクトル演算(内積・外積)	ベクトル演算(内積・外積)について学習する.
10	回転行列による3次元空間表現の利用	回転行列による3次元空間表現の利用について学習する.
11	非線形連立方程式	非線形連立方程式の解法について学習する.
12	最小二乗法と回帰直線・相関係数	最小二乗法と回帰直線・相関係数について学習する.
13	確率密度関数による力学的評価	確率密度関数による力学的評価について学習する.
14	フーリエ(Fourier)級数,フーリエ変換・スペクトル解析の意味,ノコギリ波の作成	フーリエ(Fourier)級数,フーリエ変換・スペクトル解析について学習する.
15	都市工学における数値解析例	都市工学における数値解析例について学習する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない.	

科目	土木計画学 I (Infrastructure Planning and Management)		
担当教員	小塚 みすず 准教授		
対象学年等	都市工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A1(20%), A4-S4(80%)	JABEE基準	(c),(d),(g)
授業の概要と方針	社会基盤整備に対する需要予測の精査, 価値観の多様化に伴って計画システムを考慮した社会基盤整備が重要になってきている. 計画システムの基礎概念およびシステム設計のための手法として, 統計学, 土木計画学のモデル等について学習し, 講義と演習問題を繰り返し行なうことにより理解を深める.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A1] 確率的手法や統計的手法を用いたデータ分析ができる.		確率的手法や統計的手法が理解できているか, レポートおよび中間試験で評価する.
2	[A1] 適切な分析手法を用いてデータから傾向を推測できる.		データから傾向を推測するための分析方法が理解できているか, レポート, 中間試験および定期試験で評価する.
3	[A4-S4] 線形計画法の計算ができる.		線形計画法の計算が理解できているか, レポートおよび中間試験で評価する.
4	[A4-S4] 費用便益分析の計算ができる.		費用便益分析の計算が理解できているか, レポートおよび中間試験で評価する.
5	[A4-S4] 工程管理の計算ができる.		工程管理の計算が理解できているか, レポートおよび定期試験で評価する.
6	[A4-S4] 待ち行列理論の計算ができる.		待ち行列理論の計算が理解できているか, レポートおよび定期試験で評価する.
7	[A4-S4] 代替案の策定と評価ができる.		代替案の策定と評価ができているか, 定期試験, グループワークおよびプレゼンテーションで評価する.
8			
9			
10			
総合評価	成績は, 試験70% レポート20% プレゼンテーション10% として評価する. 試験成績は中間試験30%(前期中間: 10%, 後期中間: 20%)と定期試験40%(前期定期: 20%, 後期定期: 20%)として評価する. プレゼンテーションの評価はグループワークの評価を含んだものとする. 100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト	「土木計画学」: 伊豆原浩二・嶋田喜昭 (オーム社) 授業時の配布プリント		
参考書	「図説わかる土木計画」: 新田保次・松村暢彦他 (学芸出版社) 「新編土木計画学」: 西村昂・本多義明 (国民科学社)		
関連科目	確率・統計		
履修上の注意事項	関数電卓を準備すること.		

授業計画(土木計画学Ⅰ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	計画学の方法	都市工学における計画学分野の体系を解説する。
2	統計的手法	計画に必要なデータ整理の手法について解説する。
3	確率的手法(1)	確率変数と確率分布について解説する。
4	確率的手法(2)	連続型確率分布と離散型確率分布について解説する。
5	観測統計的手法(1)	標本調査および標本抽出について解説する。
6	観測統計的手法(2)	点推定と区間推定について解説する。
7	観測統計的手法(3)	統計的検定手法について解説する。
8	記述統計的手法(1)	相関と回帰について解説する。
9	記述統計的手法(2)	相関と回帰の統計的検定手法について解説する。
10	中間試験	第1～7回の講義内容を試験範囲として中間試験を行う。
11	分散分析(1)および中間試験の返却	分散分析について解説する。中間試験の返却および解説を行う。
12	分散分析(2)	分散分析とその検定手法について解説する。
13	データの収集	各種データとその収集方法について解説する。
14	時系列分析(1)	時系列分析について解説する
15	時系列分析(2)・定期試験返却	時系列分析について解説する。定期試験の返却および解説を行う。
16	多変量解析	多変量解析について解説する。
17	重回帰分析(1)	重回帰分析について解説する。
18	重回帰分析(2)	重回帰分析とその検定手法について解説する。
19	線形計画法(1)	線形計画問題について解説する。
20	線形計画法(2)	シンプレックス法について解説する。
21	費用便益分析(1)	費用便益分析について解説する。
22	費用便益分析(2)	費用便益分析について解説し、演習問題を行う。
23	中間試験	第16～22回の講義内容を試験範囲として中間試験を行う。
24	工程管理(1)・中間試験の返却	工程管理について解説する。中間試験の返却および解説を行う。
25	工程管理(2)	工程管理について解説し、演習問題を行う。
26	待ち行列理論(1)	待ち行列について解説する。
27	待ち行列理論(2)	待ち行列理論について解説し、演習問題を行う。
28	代替案の作成と評価・演習(1)	計画代替案策定のプロセスと評価手法について解説する。課題に対する代替案の作成と評価方法についてグループワークを行う。
29	代替案の作成と評価・演習(2)	課題に対する代替案の作成と評価方法についてグループワークを行う。
30	代替案の作成と評価・演習(3)・定期試験返却	課題に対する代替案の作成と評価方法についてグループワークおよびプレゼンテーションを行う。定期試験の返却および解説を行う。
備考	<p>本科目の修得には、60時間の授業の受講と30時間の自己学習が必要である。 前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。授業では関数電卓を使用する場合があるので準備すること。グループワークを行い、その成果のプレゼンテーションを行う。</p>	

科目	測量学 (Surveying)		
担当教員	伊原 茂 教授【実務経験者担当科目】		
対象学年等	都市工学科・4年・前期・必修・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-S3(100%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	路線測量についての講義および演習を行い、理論的基礎と具体的な測量の実施方法について学習する。また、建設現場における工事測量の概要と、構造物の位置出しのための測量方法および座標計算について学習する。本講義は、担当教員の高速道路会社における測量業務の実務経験を踏まえて、施工管理の現場における測量技術について教授する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S3】道路設計における円曲線の設置方法を説明できる。		道路設計における円曲線設置方法に関する理解度をレポートおよび中間試験で評価する。
2	【A4-S3】道路設計における緩和曲線や縦断曲線の設置方法を説明できる。		道路設計における緩和曲線や縦断曲線の設置方法に関する理解度をレポートおよび中間試験で評価する。
3	【A4-S3】建設現場における工事測量の概要を説明できる。		工事測量の理論や方法に関する理解度をレポートおよび定期試験で評価する。
4	【A4-S3】工事実施時における構造物の位置出しに必要な計算を行うことができる。		構造物の位置を現場に明示するための方法およびそのための座標計算の方法に関する理解度を、レポートおよび定期試験で評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。		
テキスト	「測量入門」: 大杉和由, 福島博行(実教出版) 講義時に配布するプリント		
参考書	「工事測量現場必携」: 財団法人全国建設研修センター(森北出版)		
関連科目	測量学(S1,S2), 都市工学実験実習(S1,S2), 都市情報工学(S5), 施工管理学(S5)		
履修上の注意事項	講義時は必ず電卓と定規を持参すること		

授業計画(測量学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	路線測量における単心曲線(1)	単心曲線の設置法を説明し,演習を行う。
2	路線測量における単心曲線(2)	単心曲線の設置法を説明し,演習を行う。
3	路線測量における緩和曲線(1)	道路や鉄道に用いられている緩和曲線の種類等を説明し,演習を行う。
4	路線測量における緩和曲線(2)	クロソイドの設置法を説明し,演習を行う。
5	路線測量における縦断曲線(1)	縦断曲線について解説し,演習を行う。
6	路線測量における縦断曲線(2)	縦断曲線について解説し,演習を行う。
7	道路測量の計画と実施	構造物の位置出しのための座標計算についての演習を行う。
8	工事測量の概要	現場で構造物などの位置を求めていくための工事測量の概要を説明する。
9	工事測量の方法と位置出しのための座標計算	建設現場における構造物の位置出しの基本的手法と座標計算の方法について解説する。
10	構造物の位置出しの演習(1)	構造物の位置出しのための座標計算についての演習を行う。図面から構造物の位置を現場に求め,丁張りを設置する手順についての演習を行う。
11	構造物の位置出しの演習(2)	図面から構造物の位置を現場に求め,丁張りを設置する手順についての演習を行う。
12	中間試験	路線測量についての理解度を試験によって評価する。
13	中間試験の解答・解説,宅地造成工事測量	中間試験の解答・解説を行う。また,宅地造成工事の現場における工事測量の手順について概説する。
14	建築の墨出し	施工現場における墨出しの手順について概説する。
15	定期試験の解説,GISの技術とその活用方法	定期試験の解説を行う。また,解答地理情報システム(GIS)の概要と都市工学分野における活用方策について概説する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である。 前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科目	環境水工学 I (Environmental Hydraulic Engineering I)		
担当教員	宇野 宏司 教授		
対象学年等	都市工学科・4年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S2(50%), A4-S4(50%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	治水や利水,水資源開発に関する河川計画・管理手法の概要について講義する.河川とは何か.我が国の河川の特徴,河川計画の基礎となる降雨データの分析方法,流出現象と流出モデル,治水,利水事業の歴史の変遷と計画策定方法について講義する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S2】河川とは何か,我が国の河川の特徴について理解できる.		河川とは何か,我が国の河川の特徴が理解できているかどうか,中間試験で評価する.
2	【A4-S4】流出過程と流出モデルについて理解できる.		流出過程と流出モデルについて理解できているかどうか,中間試験で評価する.
3	【A4-S4】河口の水理について理解できる.		河口の水理について理解できているかどうか,定期試験で評価する.
4	【A4-S4】流砂量計算及び河床変動形態について理解できる.		流砂量計算及び河床変動形態について理解できているかどうか定期試験で評価する.
5	【A4-S4】河川計画手法について理解できる.		河川計画手法について理解できたかどうか,定期試験で評価する.
6	【A4-S2】堤防等の河川構造物の種類や機能について理解できる.		堤防等の河川構造物の種類や機能について理解できたかどうか,定期試験で評価する.
7	【A4-S2】河川に関する時事問題に対し自分の意見を述べるができる.		河川に関する時事問題に対し自分の意見を述べるができるかどうかレポートで評価する.
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.総合成績は,100点満点とし60点以上を合格とする.試験成績は中間試験,定期試験の平均点とする.		
テキスト	「河川工学」:川井,和田,神田,鈴木・著(コロナ社) 配付プリント		
参考書	「河川工学」:竹林洋史著(コロナ社) 「河川工学」:室田明編著(技報堂出版) 「建設省河川砂防技術基準(案)同解説」:日本河川協会(山海堂) 「日本の川」:阪口豊ほか(岩波書店)		
関連科目	水理学		
履修上の注意事項	授業中に演習を行う場合があるので,電卓を持参すること.開講期間内に河川に関する時事問題についてのレポートを課す.		

授業計画(環境水工学Ⅰ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	授業ガイダンス,河川の定義と役割	本講義の授業計画について説明する.河川の自然科学的役割,社会的役割について解説する.
2	河川の地形学(1)	河川の分類や流域の特性について解説する.位数と地形則に関する演習を行う.
3	河川の地形学(2)	河川の3作用(侵食,運搬,堆積)とそれによって造られる様々な地形について解説する.
4	河川の水文学(1)	地球上の水循環,我が国の降水の特徴について解説する.
5	河川の水文学(2)	流出現象について解説する.
6	河川の水文学(3)	流出解析の具体的手法について解説し,演習を行う.
7	河川の水文学(4)	前回に引き続き流出解析の具体的手法について解説し,演習を行う.
8	中間試験	7回目までに学んだ内容に対して,試験を行う.
9	中間試験の返却,河口の水理	中間試験を返却し,設問の解答・解説を行う.河口における水理現象について解説する.
10	土砂水理・河床変動	掃流砂・浮遊砂,河床変動と河床形態について解説する.
11	河川構造物	堤防等の河川構造物の種類と構造について解説する.
12	河川計画(1)	計画対象水文学の決定方法について解説する.確率水文学についての演習を行う.
13	河川計画(2)	洪水防御計画における河道計画について,歴史の変遷を踏まえて解説する.
14	河川計画(3)	利水計画,環境保全計画について歴史の変遷を踏まえて解説する.
15	定期試験の返却・総まとめ	定期試験を返却し,設問の解答・解説を行うとともに,これまでの学習の総まとめをする.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する.授業中に演習を行う場合があるので,電卓を持参すること.開講期間内に河川に関する時事問題についてのレポートを課す.	

科目	環境水工学Ⅱ (Environmental Hydraulic Engineering II)		
担当教員	柿木 哲哉 教授		
対象学年等	都市工学科・4年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S2(50%), A4-S4(50%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	本講義で取り扱う海岸は、水産物の調達、交通や交易の場、生活空間の場として利用され、開発されてきた。その一方で、暴浪、高潮、津波といった災害、および種々の環境問題に人々は悩まされ続けている。本講義はこうした諸問題を理解し、問題解決できる素地を養うため、沿岸・海岸で生じる海の波や流れの発生機構やその制御法、ならびに沿岸域の水環境問題について学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-S2]海岸工学の基本的な事項について説明できる。		海岸工学の基本的な事項について説明できるか課題と中間試験で評価する。
2	[A4-S2]微小振幅波理論と規則波の性質と変形について説明や計算ができる。		微小振幅波理論と規則波の性質と変形について説明や計算ができるか課題と中間試験で評価する。
3	[A4-S4]長周期の波の水位変動、海の波の統計的性質、沿岸海浜過程について説明や計算ができる。		長周期の波の水位変動、海の波の統計的性質、沿岸海浜過程について説明や計算ができるか課題と定期試験で評価する。
4	[A4-S4]海岸構造物に作用する波、海岸侵食とその対策について説明や計算ができる。		海岸構造物に作用する波、海岸侵食とその対策について説明や計算ができるか課題と定期試験で評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% 課題30% として評価する。試験成績は中間試験を30%、定期試験を70%とする。総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。提出期限が守られなかった課題は評価しない。		
テキスト	「海岸工学」:服部昌太郎(コロナ社)		
参考書	「海岸工学」:平山ら(コロナ社)		
関連科目	水理学,応用数学IおよびII,環境水工学I		
履修上の注意事項	第4学年に相応しい態度で授業に臨むこと。これが守られない場合、他の学生への悪影響を防ぐため、退学を命じることがある。いい加減な内容や字の汚い課題など、不十分な課題は低評価とする。授業の進度や試験範囲は理解度に応じて調整することがある。		

授業計画(環境水工学Ⅱ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	序論1	日本の海岸,海岸工学の歴史,海岸工学が対象とする事柄,海岸と海岸地形など,海岸工学の基本を学習する。
2	序論2	海浜,海の波,沿岸域での波と流れによる諸現象など,海岸工学の基本を学習する。
3	微小振幅波理論と規則波の一般的性質1	波の諸元と代表指標,波の分類,微小振幅波理論を学習する。
4	微小振幅波理論と規則波の一般的性質2	波長と波速,進行波の水面形,水粒子の運動速度と軌跡,水中圧力を学習する。
5	微小振幅波理論と規則波の一般的性質3	波のエネルギーとその伝達率,重複波の諸性質を学習する。
6	浅水域での規則波の変形1	浅水変形,波の屈折,波の回折を学習する。
7	浅水域での規則波の変形2	波の反射と透過,砕波,波の減衰を学習する。
8	中間試験の解説,長周期の波と水位変動1	中間試験の解答・解説を行う。潮汐,高潮を学習する。
9	長周期の波と水位変動2	津波,副振動,湾水振動を学習する。
10	海の波の統計的性質と波浪推算	波別解析法による不規則波の表示,エネルギースペクトル法による不規則波の表示,方向スペクトル,風波の発生と発達,風波の推算法,うねりの推定,不規則波の変形を学習する。
11	沿岸海浜過程	海浜形状,海浜底質,波による底質移動,漂砂量の算定,海浜流と発生メカニズムを学習する。
12	波と構造物	波力,重複波の波力式,砕波圧の算定式,砕波後の波による波力,連続形の波圧式,捨石構造物の波力,小口径部材に作用する波力,波の打ち上げ,越波,構造物での波の反射と伝達を学習する。
13	中間試験	中間試験を実施する。
14	海岸浸食とその対策	海浜変形の原因,侵食対策の計画と工法,海岸堤防と護岸,突堤,離岸堤,養浜工を学習する。
15	前期定期試験の解答・解説	前期定期試験の解答・解説を行い,これまでの学習の到達度を振り返る。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科目	土木・建築設計製図Ⅲ (Design and Drawing for Civil Engineering and Architecture III)		
担当教員	小走 薫 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・4年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S2(100%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	橋梁設計に興味を持ち設計業務に携わりたいと言う人を、出来るだけ多く育てることを念頭に講義を行う。橋梁を設計する場合の手順と設計方法を単純非合成 I 桁を例に用い、設計実務を理解することに重点をおいて講義する。設計演習では課題設計を通して設計実務の基礎を習得させる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-S2]橋梁の設計条件から設計計算,設計図面,設計数量計算までの設計手順を理解できる。		設計手順における線形計算,構造解析,設計計算,設計図面,設計数量の関係が理解できているか,課題設計(レポート)により評価する。
2	[A4-S2]線形計算,設計荷重,構造解析,設計断面力の算出方法を理解できる。		主桁配置の方法,横桁・対傾構の配置方法,設計荷重の算出方法が理解できているか,また主桁の断面を決めるための設計断面力が理解できているか,中間試験で評価する。
3	[A4-S2]橋梁の主要部材である床版,主桁の断面決定方法と照査方法を理解できる。		床版の照査方法,主桁の断面決定方法を理解できているか,中間試験で評価する。
4	[A4-S2]橋梁の主要部材である主桁の設計計算書を作成することにより,設計方法を理解できる。		設計演習としての課題設計計算書(レポート)より,主要部材の設計方法を理解しているか評価する。
5	[A4-S2]橋梁一般図,主桁の図面を作成することにより,構造を理解できる。		設計演習としての課題設計図面(レポート)より,主要部材の構造や部材を構成している材料を理解しているか評価する。
6	[A4-S2]数量計算書を作成することにより,製作材料を理解できる。		設計演習としての課題数量計算書(レポート)より,部材構成材料の寸法,材質,質量を理解しているか評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験40% レポート60% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	講義テキストとして随時資料を配付		
参考書	中井 博・北田俊行: 新編 橋梁工学 (共立出版) 道路橋示方書・同解説 I共通編 II鋼橋編(平成14年3月) (社団法人 日本道路協会)		
関連科目	構造力学I,II, III, 橋梁工学,コンクリート工学,材料学		
履修上の注意事項	橋梁の設計方法を理解するうえで最低限必要な知識として,一つ目は構造力学における梁の力学,応力度であり,二つ目は橋梁工学におけるプレートガーダーの設計法である。今まで履修した知識で十分に理解できるが,構造力学の基礎と橋梁工学全般についてもう一度復習して講義に臨むこと。また,講義による知識の吸収も大切であるが,その知識を応用して実務をこなす技術力は社会人となって仕事行う上で必要不可欠なものである。したがって,演習に重きを置いた配点とする。		

授業計画(土木・建築設計製図Ⅲ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	橋梁の設計手順と設計概説	設計・製図の講義の進め方に関するガイダンスを行う。続いて、実際に橋梁を設計する場合の設計手順を説明し、設計計画・設計計算・設計図面・設計数量計算について概説する。
2	設計条件と線形計算	設計条件の解説と主桁配置、横桁・対傾構配置の方法について解説する。また平面線形、縦横断線形等の道路線形について解説する。
3	構造解析1	単純非合成 I 桁を例に、構造解析モデル、設計荷重、荷重載荷図について解説する。
4	構造解析2	単純非合成 I 桁を例に、1-0荷重分配影響線縦距と影響線面積を使って、主桁上に載荷する荷重強度の算出方法について解説する。
5	構造解析3	単純非合成 I 桁を例に、曲げモーメント影響線図およびせん断力影響線図を使って、主桁設計断面力の算出方法について解説する。
6	部材の設計法1	単純非合成 I 桁を例に、鉄筋コンクリート床版と主桁断面の決め方と照査方法について解説する。
7	設計全般解説	前回までの講義内容について理解が低い項目に重点をおいて、再度解説する。
8	中間試験	1～7回までの講義内容が理解できているか、中間試験を実施する。
9	中間試験の解答・解説、設計演習1(課題設計1)	中間試験の解説を行う。単純非合成 I 桁について、個人別に設計条件を変えて課題を与え、主桁に関する設計計算書の提出を課す。
10	設計演習2(課題設計2)	単純非合成 I 桁を例に、主構造設計図面の種類と内容について解説する。前回の講義で課題として与えた単純非合成 I 桁の設計断面を用いて、橋梁一般図、主桁の断面構成図を作成する課題を与え、設計図面の提出を課す。
11	部材の設計法2	単純非合成 I 桁を例に、主桁の添接計算方法について解説する。
12	設計演習3(課題設計3)	単純非合成 I 桁を例に、設計数量計算書の内容について解説する。前回の講義で課題として与えた単純非合成 I 桁の主桁断面構成図を用いて、主桁の数量計算書を作成する課題を与え、設計数量計算書の提出を課す。
13	部材の設計法3	単純非合成 I 桁を例に、補剛材、分配横桁、横構について解説する。
14	構造解析4	各種形式の橋梁について、解析方法と部材設計法について概説する。課題設計の提出。
15	設計演習4	提出された課題設計(設計計算書、設計図面、設計数量)の成果を踏まえ、成果内容を総括して理解度の低い項目について再度解説する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験を実施する。	

科目	都市工学実験実習 (Laboratory Work in Civil Engineering)		
担当教員	上中 宏二郎 教授, 伊原 茂 教授, 鳥居 宣之 教授, 柿木 哲哉 教授, 野並 賢 准教授		
対象学年等	都市工学科・4年・前期・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S2(10%), B1(10%), C1(40%), C4(30%), D1(10%)	JABEE基準	(b),(d),(e),(f),(g),(h),(i)
授業の概要と方針	本実験実習では、3年次までに学修した知識(教養・専門)を総動員して、問題解決にあたる能力(=エンジニアリング・デザイン能力)を養うことを目的とする。各分野の実験を通じて、工学的な感覚を磨き、構造、水理、土質など専門基礎科目の一層の理解を深める。実験実習班はクラスを4班に編成して週毎に巡回し、各専門分野の実験装置で理論の理解と実際問題への応用・展開能力を養うと同時に、各種テーマを班員と協力しながら行うことで、チームワーク力や協調性を養う。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[C1]創造教育:橋の構造および材料の特徴を理解し模型の製作と載荷実験を通じて創造力を養い力学の理解を深め報告できる。コストやデザインなど総合的に優れた橋梁を設計できる。		製作模型の耐力力の値とデザイン(橋としての形状と構造の独創性)により評価する。またそれらをレポートにまとめその内容、橋梁模型のデザインの新規性と力学的な合理性によりアンケート投票により評価する。
2	[C4]土質:土の力学的性質を求める実験を通じて、実験方法を理解し遂行することでレポートが作成できること。		土の力学的性質について実験方法の理解度及び報告書作成の評価は、レポート(実験目的、方法、結果、考察等)の内容で評価する。
3	[C4]水理:水の物理特性・力学特性についての実験を4つ行い、その中の1つに関して理論的検討を行い、報告書の作成、添削を通して水理実験に関するレポートの作成できる。		水の物理特性・力学特性についての理解度及び報告書作成の評価は、レポート(実験目的、方法、結果、考察等)の内容で評価する。
4	[A4-S2]橋梁の構造を理解し、耐力力の大きい橋梁模型を制作できる。		載荷試験を行って荷重値(最大強度)により評価する。
5	[B1]橋梁設計の思考の過程をポスターにまとめるとともに、載荷試験の際に説明できる。		ポスターの思考記述内容をアンケート投票により評価する。
6	[D1] 設備・機器の取り扱いに注意し、安全に実験に取り組むことができる。		安全に実験が行なわれているか、各実験の課題で評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、レポート60% アンケート(創造実験)20% 最大強度(創造実験)20% として評価する。レポート成績60%の内訳は土質実験30%、水理実験30%とする。100点満点とし60点以上を合格とする。		
テキスト	[創造実験]プリント [水理実験]「水理実験解説書」(土木学会) [土質実験]「土質試験基本と手引き 第二回改訂版」(地盤工学会)		
参考書	「橋(1)」堀井ほか(彰国社) 「PEL水理学」神田ほか(実教出版) 「土質試験のてびき」(土木学会) 「土質試験の方法と解説 第一回改訂版」(地盤工学会)		
関連科目	構造力学, 水理学, 土質力学, 橋梁工学		
履修上の注意事項	実験は、構造力学, 水理学, 土質力学など専門基礎知識に基づいて、工学的現象を正しく理解することにある。また実験はチームワーク(班別)で実施するので再実験はできないことが原則である。さらに、レポートの提出の期限を厳守すること。期限を守らなかった場合は、受け付けない。		

授業計画(都市工学実験実習)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	S4都市工学実験実習の実施方法についてオリエンテーション	S4実験実習は1,創造実験 2.土質実験 3.水理実験の3つを実施する。クラスを1/4づつA班,B班,C班,D班に分け,創造実験は2班一緒に2週ごとに,土質および水理実験は4週毎のローテーションで実施する。
2	[AB班]設計1,[C班]土の一面せん断試験,[D班]直角三角堰の検定(層流と乱流)	[創造実験]設計用資料をもとに説明を受けた後に,小グループに別れ製作物の概略設計を行う。[土質実験]供試体を作製し,定まった1つの面でその供試体をせん断し,その面上のせん断応力とせん断強さを調べる。[水理実験]直角三角堰の越流水深と流量を測定する。/層流と乱流を観察し,限界レイノルズ数を測定する。
3	[CD班]設計1,[A班]土の一面せん断試験,[B班]直角三角堰の検定(層流と乱流)	[創造実験]設計用資料をもとに説明を受けた後に,小グループに別れ製作物の概略設計を行う。[土質実験]供試体を作製し,定まった1つの面でその供試体をせん断し,その面上のせん断応力とせん断強さを調べる。[水理実験]直角三角堰の越流水深と流量を測定する。/層流と乱流を観察し,限界レイノルズ数を測定する。
4	[AB班]設計2,[D班]土の一面せん断試験,[C班]直角三角堰の検定(層流と乱流)	[創造実験]引き続き製作物の詳細設計を行う。[土質実験]供試体を作製し,定まった1つの面でその供試体をせん断し,その面上のせん断応力とせん断強さを調べる。[水理実験]直角三角堰の越流水深と流量を測定する。/層流と乱流を観察し,限界レイノルズ数を測定する。
5	[CD班]設計2,[B班]土の一面せん断試験,[A班]直角三角堰の検定(層流と乱流)	[創造実験]引き続き製作物の詳細設計を行う。[土質実験]供試体を作製し,定まった1つの面でその供試体をせん断し,その面上のせん断応力とせん断強さを調べる。[水理実験]直角三角堰の越流水深と流量を測定する。/層流と乱流を観察し,限界レイノルズ数を測定する。
6	[AB班]製作1,[C班]土の一軸圧縮試験,[D班]ベンチュリメーターによる流量の測定	[創造実験]各自設計図に基づき材料の裁断・加工を行う。[土質実験]供試体を作製し,その自立する供試体に対して拘束圧が作用しない状態で圧縮し一軸圧縮強さを調べる。[水理実験]ベンチュリメーターの実験を通してベルヌイの定理の理解を深める。流量係数の測定を通じオリフィスからの流出に伴う力学機構を学ぶ。
7	[CD班]製作1,[A班]土の一軸圧縮試験,[B班]ベンチュリメーターによる流量の測定	[創造実験]各自設計図に基づき材料の裁断・加工を行う。[土質実験]供試体を作製し,その自立する供試体に対して拘束圧が作用しない状態で圧縮し一軸圧縮強さを調べる。[水理実験]ベンチュリメーターの実験を通してベルヌイの定理の理解を深める。流量係数の測定を通じオリフィスからの流出に伴う力学機構を学ぶ。
8	[AB班]製作2,[D班]土の一軸圧縮試験,[C班]ベンチュリメーターによる流量の測定	[創造実験]各自設計図に基づき部材接合を行う。[土質実験]供試体を作製し,その自立する供試体に対して拘束圧が作用しない状態で圧縮し一軸圧縮強さを調べる。[水理実験]ベンチュリメーターの実験を通してベルヌイの定理の理解を深める。流量係数の測定を通じオリフィスからの流出に伴う力学機構を学ぶ。
9	[CD班]製作2,[B班]土の一軸圧縮試験,[A班]ベンチュリメーターによる流量の測定	[創造実験]各自設計図に基づき部材接合を行う。[土質実験]供試体を作製し,その自立する供試体に対して拘束圧が作用しない状態で圧縮し一軸圧縮強さを調べる。[水理実験]ベンチュリメーターの実験を通してベルヌイの定理の理解を深める。流量係数の測定を通じオリフィスからの流出に伴う力学機構を学ぶ。
10	[AB班]製作3,[C班]土の三軸圧縮試験,[D班]実験データの整理解析	[創造実験]引き続き各自設計図に基づき部材接合を行って模型を形成する。[土質実験]供試体を作製し側圧を加えこれに上下方向の軸圧を加えて圧縮し,土の強度定数を調べる。[水理実験]実験値と理論値を比較するなどして,それぞれの特徴や違いを学ぶ。パソコンを用いてデータを表やグラフなどに整理する。
11	[CD班]製作3,[A班]土の三軸圧縮試験,[B班]実験データの整理解析	[創造実験]引き続き各自設計図に基づき部材接合を行って模型を形成する。[土質実験]供試体を作製し側圧を加えこれに上下方向の軸圧を加えて圧縮し,土の強度定数を調べる。[水理実験]実験値と理論値を比較するなどして,それぞれの特徴や違いを学ぶ。パソコンを用いてデータを表やグラフなどに整理する。
12	[AB班]製作4,[D班]土の三軸圧縮試験,[C班]実験データの整理解析	[創造実験]引き続き各自設計図に基づき部材接合を行って模型を形成する。[土質実験]供試体を作製し側圧を加えこれに上下方向の軸圧を加えて圧縮し,土の強度定数を調べる。[水理実験]実験値と理論値を比較するなどして,それぞれの特徴や違いを学ぶ。パソコンを用いてデータを表やグラフなどに整理する。
13	[CD班]製作4,[B班]土の三軸圧縮試験,[A班]実験データの整理解析	[創造実験]引き続き各自設計図に基づき部材接合を行って模型を形成する。[土質実験]供試体を作製し側圧を加えこれに上下方向の軸圧を加えて圧縮し,土の強度定数を調べる。[水理実験]実験値と理論値を比較するなどして,それぞれの特徴や違いを学ぶ。パソコンを用いてデータを表やグラフなどに整理する。
14	[ABCD班]載荷実験	小グループごとに,製作した模型を載荷台上に据え空気圧ジャッキにより荷重をかけて耐荷力を測定する。
15	まとめ・報告書	3種類の実験とくに創造実験について,これまでの検討内容をまとめ報告書を作成する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない。	

科目	応用CAD (Applied CAD)		
担当教員	田島 喜美恵 准教授		
対象学年等	都市工学科・4年・後期・選択・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S1(100%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	本講義では,3年で習得したCAD基礎の知識を基に,CADソフト(Auto CAD)のコマンドの基本操作方法や描画法を習得する。また,創造教育演習として戸建住宅を例に,CADによる製図(平面図,立面図もしくは断面図の図面)を実践する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S1】AUTO-CADの基本的なコマンドを操作できる。		到達度を提出図面(基礎演習1)の巧拙により評価する。
2	【A4-S1】AUTO-CADを用いた製図ができるようになる。		到達度を提出図面(基礎演習2)の巧拙により評価する。
3	【A4-S1】習得したAUTO-CADによる操作を応用することができる。		平面図に加えてインテリアや立面図なども表現できているか,提出図面(設計課題)の巧拙により評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,基礎演習30% 平面図及び立面図もしくは断面図(設計課題)70% として評価する。100点満点とし60点以上を合格とする。なお,ひとつでも未提出課題がある場合は不合格とする。		
テキスト	プリント		
参考書	「はじめて学ぶAuto CAD LT2018作図・創作ガイド」:鈴木孝子 著 (ソーテック社) 「基礎からしっかり身に付くAutoCAD LT入門」:芳賀百合著(ソシム版)		
関連科目	CAD基礎,土木・建築設計製図I~IV,応用建築設計製図I,II		
履修上の注意事項	本教科の関連科目は設計製図およびCAD基礎であり,将来CADを使用する可能性が考えられ,CADを幅広く活用できる技術者を目指す学生に対する科目である。受講人数を20名程度迄とし,希望者が多い場合は3年時の成績により受講者を決定する。		

授業計画(応用CAD)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス及びAutoCADの概要・初期設定	講義内容、課題、評価方法など教科内容を説明し、AutoCADの概要についても説明する。オブジェクトのプロパティ、画層プロパティ管理、画面操作のためのマウスの使用法、画面の縮小拡大などについて、プロジェクタを用いてAutoCADの操作を説明する。
2	AutoCADの基本的なコマンドの説明(1)	分解、ポリライン、円の書き方などのコマンド説明を行う。
3	AutoCADの基本的なコマンドの説明(2)	連続複写、鏡像、ストレッチ、トリムなどのコマンド説明を行う。
4	コマンドを用いた図面の描画(1)	これまで学習したコマンドを使用し、基礎演習1の図面を作成する。
5	コマンドを用いた図面の描画(2)	引き続き、基礎演習1の図面を作成し完成させ、ファイルを提出する。
6	平面図と建具の描画(1)	レイヤーの意味を理解し、レイヤー毎に建具、文字、躯体などを描き、基礎演習2の図面を作成する。
7	平面図と建具の描画(2)	引き続き、基礎演習2の図面を作成し完成させ、ファイルを提出する。
8	戸建住宅の平面図描画(1)	建築設計資料集成(日本建築学会編)に掲載されている戸建住宅の平面図を元に、設計課題図面を作成する。
9	戸建住宅の平面図描画(2)	引き続き、設計課題図面を作成する。
10	戸建住宅の平面図描画(3)	引き続き、設計課題図面を作成する。
11	戸建住宅の平面図描画(4)	引き続き、設計課題図面を作成する。
12	戸建住宅の平面図描画(5)	引き続き、設計課題図面を作成する。
13	戸建住宅の立面または断面図描画(1)	建築設計資料集成(日本建築学会編)に掲載されている戸建住宅の立面または断面図を元に、設計課題図面を作成する。
14	戸建住宅の立面または断面図描画(2)	引き続き、設計課題図面を作成する。
15	戸建住宅の立面または断面図描画(3)	引き続き、設計課題図面を作成し完成させ、ファイルを提出する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない。	

科目	学外実習 (Practical Training in Factory)		
担当教員	宇野 宏司 教授【実務経験者担当科目】		
対象学年等	都市工学科・4年・通年・選択・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C2(50%), D1(50%)	JABEE基準	(b),(d),(e),(g),(i)
授業の概要と方針	企業またはその他の受け入れ機関で業務の一部を実際に経験することによって、技術者に必要な人間性を養うとともに、工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深める。実習終了後、実習証明書と実習報告書を提出し、報告会にて報告を行う。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C2】実習機関の業務内容を理解し、実習先での具体的な到達目標を達成する。		実習機関の業務内容に対する理解度および実習先での具体的な到達目標の達成度を実習証明書と実習報告書で評価する。
2	【D1】実習を通じて工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深める。		実習を通じて工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深めたことを実習報告書と実習報告会で評価する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、プレゼンテーション50% 実習報告書50% として評価する。学科内審査において、上記項目で100点満点で60点以上かつ、実習証明書の内容をふまえて評価し、単位を認定する。		
テキスト			
参考書			
関連科目	都市工学科で学ぶ該当学年までの科目		
履修上の注意事項	実習機関に受け入れを依頼して実施する科目なので、受け入れ先に失礼のないように節度を持って行動するとともに、健康管理、安全管理に留意して真剣に取り組むこと。		

授業計画(学外実習)

内容(テーマ, 目標, 準備など)

1) インターンシップ(学外実習)説明会(4月)

・担当教員よりインターンシップの意義, 目的, 内容および実習先の希望方法, 学内調整要領, その後の手続きの概要の説明を行う。

2) 実習先の希望, 調整, 辞退に関して(4月～7月)

・実習先企業は, 自ら業界研究を行った上で希望する進路(キャリアプラン)も踏まえた上で有意義な実習となるように希望すること。

・希望者数が募集数を超えた実習先については調整を行う。(調整は担当教員に従う。)

・学内調整で希望が認められた学生は, 直ちに実習先所定の応募書類を作成して提出する

・学内調整で希望が認められなかった学生, および実習先での選考により実習が認められなかった学生は, 他の実習先の中から再度希望を提出する。

(原則として, 受入先がなくなるまで希望することとするが, 止むを得ない状況となった場合には本校所定の「選択科目受講辞退願書」で辞退を願い出る)

3) 学外実習届, 保険料, その他の必要書類(5月～8月)

・実習先が決定した後, 本校所定の「学外実習届」を担当教員へ提出し, 所定の保険料を納付する。

・併せて実習先からの指示により, 履歴書, 誓約書, 入寮申請書, ユニフォーム貸与申請書等の他の必要書類がある場合も, 担当教員に提出する。

4) 学外実習の実施(夏季休業期間中)

・実習期間は原則として夏季休業期間中とする。ただし, 必要に応じて9月末までは公欠として参加を認めることがある。

・実習期間は5日以上で総実習時間30時間以上とする。

5) 学外実習報告書の提出および報告会の実施(10月)

・インターンシップ終了後, 本校所定の「学外実習報告書」を丁寧に作成し, 十分なチェックの後に担当教員に提出する。また, 学科毎に報告会を実施する。

・「学外実習報告書」は担当教員から実習先へ提出し, 学科の全教職員が評価するだけでなく, 後輩学生が参考のために閲覧するので, 丁寧な記載を心がけるとともに, 守秘すべき事柄を書くことの無いように留意すること。(守秘事項の遵守は報告会も同様である)

備考

中間試験および定期試験は実施しない。

科目	環境生態 (Ecology of Land Plants)		
担当教員	宇野 宏司 教授【実務経験者担当科目】		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・必修・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A2(100%)	JABEE基準	(c),(d)
授業の概要と方針	都市工学において、環境問題への取り組みや生態系への配慮はなくてはならないものになっている。本講義では、生態学と都市工学の学際領域における基礎知識、技術体系について学ぶことを目的とする。本講義は、担当教員の民間企業および大学研究機関での実務経験を踏まえて、環境保全技術の各論について教授する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】生態学の基本概念・用語について理解し、説明できる。		生態学の基本概念・用語について理解しているか、定期試験で評価する。
2	【A2】生物多様性の重要性について理解し、説明できる。		生物多様性の重要性について理解しているか、定期試験で評価する。
3	【A2】環境生態学に関する時事問題について自分の意見を論理的に述べるができる。		環境生態学に関する時事問題について自分の考えを論理的に述べるができるか、レポートで評価する。
4	【A2】各種生態系の機能と役割について理解し、説明できる。		各種生態系の機能と役割について理解しているか、定期試験で評価する。
5	【A2】環境保全と防災の両立の重要性について理解し、説明できる。		環境保全と防災の両立の重要性について理解しているか、定期試験で評価する。
6	【A2】環境関連の法律の内容について理解し、説明できる。		環境関連の法律の内容について理解しているか、定期試験で評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験50% レポート50% として評価する。総合成績は、100点満点で60点以上を合格とする。試験成績は定期試験の素点とする。		
テキスト	「環境生態工学」宇野宏司・渡部守義(コロナ社)		
参考書	「生物保全の生態学」鷺谷いづみ(共立出版) 「保全生物学」樋口広芳(東京大学出版会) 「ゼロからわかる生態学」松田裕之(共立出版) 「生態と環境」松本忠夫(岩波書店) 「環境保全・創出のための生態工学」須藤隆一(丸善)		
関連科目	環境水工学I・II(S4), 都市環境工学(S5)		
履修上の注意事項			

授業計画(環境生態)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	授業ガイダンス,さまざまな環境問題	シラバス内容の説明,地球環境問題をはじめとする様々な環境問題について解説する.
2	環境生態学の基礎(1)	生態系の概念,生態系の種類と分布,生態系の機能と生態系サービスについて解説する.
3	環境生態学の基礎(2)	個体,個体群,生物群集について解説する.
4	生態系の構成・エネルギーの流れ	生態系の構成・エネルギーの流れについて解説する.
5	生態系における物質循環	生態系における物質循環について解説する.
6	生物多様性	生物多様性について解説する.
7	生態系の評価とリスクマネジメント	生態系の評価とリスクマネジメントについて解説する.
8	レポート課題の趣旨説明	レポート課題の趣旨説明を行う
9	環境保全技術	環境保全技術の定義,ビオトープについて解説する.
10	森林・都市生態系の保全と管理	森林・都市生態系の機能と役割について,実社会での取り組みを踏まえて解説する.
11	農耕地生態系の保全と管理	農耕地生態系の機能と役割について,実社会での取り組みを踏まえて解説する.
12	陸水生態系の保全と管理	河川・ダム・湖沼生態系の機能と役割について,実社会での取り組みを踏まえて解説する.
13	沿岸・海洋生態系の保全と管理	沿岸・海洋生態系の機能と役割について実社会での取り組みを踏まえて解説する.
14	環境保全と法制度	環境保全のための法制度について,解説する.
15	学習の総まとめ	試験問題の解答・解説を行うとともに,これまでの学習を振り返りその内容を確認する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	<p>本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である. 前期中間試験および前期定期試験を実施する.夏季休業期間中に環境問題についての時事問題に関するレポートを課す.</p>	

科目	構造力学Ⅳ (Structural Mechanics IV)		
担当教員	上中 宏二郎 教授		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S2(100%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	2～4年生までに学習した構造力学の総括を行うとともに、高次不静定構造物の解法である変位法を学習する。さらに、マトリックス構造解析について学ぶ。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S2】節点変位が無いラーメンの曲げモーメント図が描ける。		節点変位が無いラーメンの曲げモーメント図を理解しているかをレポートおよび中間試験により確認する。
2	【A4-S2】節点変位が有るラーメンの曲げモーメント図が描ける。		節点変位が有るラーメンの曲げモーメント図を理解しているかをレポートおよび定期試験により確認する。
3	【A4-S2】バネ系の剛性方程式や断面力を求めることができる。		バネ系の剛性方程式や断面力を求められるかをレポートおよび定期試験により確認する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。100点満点中60点以上を合格とする。試験85%の内訳は、中間試験42.5%、定期試験42.5%とする。		
テキスト	「構造力学下(不静定編)」, 崎元達郎, 森北出版		
参考書	「構造力学徹底演習」, 鈴木基行, 森北出版 「構造力学II」, 岡村宏一, 鹿島出版会 「詳解構造力学演習」, 彦坂熙, 崎山毅, 大塚久哲, 共立出版		
関連科目	数学, 物理, 構造力学(2～4年生で学習した内容)		
履修上の注意事項	1) 受講にあたり, 2～4年生までに学習した構造力学を復習しておくこと。2) 授業内容の理解には手を動かして演習することが大事。3) 配布プリントや返却課題は1つのファイルに綴じて整理し, いつでも参照できるようにしておくこと。4) 授業進行の妨げになる迷惑行為をした場合, 退場してもらうことがある。5) 教科書を持参しないと受講を遠慮してもらう場合がある。6) 授業開始5分前には受講準備を整えること。		

授業計画(構造力学Ⅳ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	たわみ角法概要説明	材端モーメント,接線角,部材角,たわみ角について概説する.
2	荷重項(1)	荷重項の算定について学習する.
3	荷重項(2)	荷重項の算定について学習する.
4	節点変位が無いラーメンの解法(1)	節点変位が無いラーメンについて学習する.
5	節点変位が無いラーメンの解法(2)	節点変位が無いラーメンについて学習する.
6	節点変位が有るラーメンの解法(1)	節点変位が有るラーメンについて学習する.
7	節点変位が有るラーメンの解法(2)	層方程式を学び節点変位が有るラーメンについて学習する.
8	節点変位が有るラーメンの解法(3)	温度変化によるラーメンの曲げモーメントの解法について学習する.
9	節点変位が有るラーメンの解法(4)	地盤の不当沈下など支点が移動した場合のラーメンの曲げモーメントを求める.
10	中間試験	1~7回目内容の中間試験を行う.
11	中間試験の解説,マトリクス構造解析(1)	中間試験の解答を示し,解説するとともに,マトリクス構造解析について概説する.
12	マトリクス構造解析(2)	軸力部材の剛性マトリクスの解法を学習する.
13	マトリクス構造解析(3)	軸力部材の剛性マトリクスの解法を学習する.
14	マトリクス構造解析(4)	任意方向を向く軸力部材の剛性マトリクスについて学習する.
15	定期試験の解答および構造力学のまとめ	定期試験の解答,解説を行う.また4年間の構造力学全般についてまとめる.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する.	

科目	施工管理学 (Construction Management)		
担当教員	松岡 義幸 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S3(100%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	土木工事を施工する際に、土木技術者として必要な施工に関する基礎知識および施工管理の概要と要点について講義する。土工、基礎工、コンクリート工の種類と施工管理、トンネル工法の概要等について解説する。また、施工計画、工程管理、品質管理などについて解説する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S3】土工、法面保護工の種類と施工管理について説明できる。		土工、法面保護工の種類と施工管理について説明できるか、中間試験とレポートで評価する。
2	【A4-S3】地盤改良及び基礎工、山留工の種類と施工管理について説明できる。		地盤改良及び基礎工、山留工の種類と施工管理について説明できるか、中間試験とレポートで評価する。
3	【A4-S3】コンクリート工の種類と施工管理、劣化現象について説明できる。		コンクリート工の種類と施工管理等について説明できるか、定期試験とレポートで評価する。
4	【A4-S3】橋梁上部工、トンネル工の種類や施工概要について説明できる。		橋梁上部工、トンネル工の概要について説明できるか、定期試験とレポートで評価する。
5	【A4-S3】施工計画や工程管理、品質管理などについて説明できる。		施工計画や工程管理、品質管理などについて説明できるか、定期試験で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均とする。総合成績は、100点満点で60点以上とする。		
テキスト	「建設施工」:金子研一(森北出版)		
参考書	「最新土木施工 第3版」:大原資生・三浦哲彦・梅崎健夫(森北出版) 「土木施工管理技術テキスト(土木一般編)」:(一財)地域開発研究所		
関連科目	土質力学I,II,III,コンクリート工学,材料学		
履修上の注意事項			

授業計画(施工管理学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス	施工法の狙い,シラバスの進め方について解説する。
2	土工(1)	土工施工の基本を理解した上で,切土と盛土,土積曲線率,土量の配分等について概説する。また,土工機械の種類と計画等を解説する。
3	土工(2)	切土および盛土の施工,締固め,土工機械の施工留意点等を解説する。また,舗装工,のり面保護工について解説する。
4	地盤改良工	基礎工の分類・留意点を理解するとともに,杭基礎の種類,施工の特徴等を解説する。また,地盤支持力についての演習する。
5	基礎工(1)	基礎工の分類・留意点を理解するとともに,杭基礎の種類,施工の特徴等を解説する。また,地盤支持力についての演習する。
6	基礎工(2)	ケーソン基礎および連続地中壁の種類,施工の特徴及び留意点について解説する。
7	山留工	山留工の分類について理解するとともに,各種山留(鋼・鋼管矢板,地中壁,支保工)の概要と特徴について解説する。
8	中間試験	第1～第7回の講義内容を試験範囲として中間試験を行う。
9	中間試験の返却・解説,コンクリート工(1)	定期試験の解答及び解説を行う。コンクリートの施工計画,生コンクリート,運搬等について解説する。またコンクリートの打設,養生等の留意点と各種試験について解説する。
10	コンクリート工(2)	コンクリートの施工性,耐久性,配合,混和材・混和剤の関係について解説し,初期ひび割れ,特殊コンクリートの種類,補修等について解説する。
11	橋梁上部工	橋梁の基礎,上部工の分類・名称について理解し,鋼材・溶接等について説明する。また各種架設工法の概要,特徴について解説する。
12	トンネル工(1)	トンネルの分類について理解し,山岳トンネル,都市トンネル工の構造,施工概要,留意点について解説する。またケーソン工法について解説する。
13	トンネル工(2),ダム工	土木施設交差部でのアンダーパス,水中トンネルの施工概要,留意点について解説する。ダム工の分類と各構造,施工概要について解説する。
14	工程管理,現場管理	土木工事の計画から竣工までの流れに触れ,工程表,ネットワークにおける日程計算,進捗管理について解説する。現場の品質管理,原価管理について概説するとともに,安全活動について解説する。また,建設に関する法律体系についてについて概説する。
15	定期試験の返却・解説,施工管理学のまとめ	定期試験の解答・解説,事例集に関する施工観点についてのレポートの講評・解説をする。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科目	都市環境工学 (Civil and Environmental Engineering)		
担当教員	稲生 智則 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・5年・後期・必修・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A2(50%), A4-S1(25%), A4-S4(25%)	JABEE基準	(c),(d),(g)
授業の概要と方針	本講義では都市環境の創造に関する知識(大気や水などに関する都市環境問題とその対策,地球環境問題とその対策,など)を習得し,実際に利用できる素地をつくることを目的とする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S1】環境政策に関する事項について説明できる。		環境政策に関する事項について説明できるか中間試験で評価する。
2	【A2】水質環境について説明できる。		水質環境について説明できるか中間試験で評価する。
3	【A2】大気環境について説明できる。		大気環境について説明できるか定期試験で評価する。
4	【A2】土壌環境について説明できる。		土壌環境について説明できるか定期試験で評価する。
5	【A4-S4】浄水,下水,水処理について説明できる。		浄水,下水,水処理について説明できるかレポートと定期試験で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験75% レポート25% として評価する.試験成績は中間試験と定期試験の平均とする.総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「環境化学概論」田中 稔・船造 浩一・庄野 利之 共著 (丸善株式会社)		
参考書	「セミナー化学I+II」(第一学習社)		
関連科目	環境水工学IおよびII		
履修上の注意事項	低学年で学んだ化学の知識を活用するので十分に理解しておくこと。		

授業計画(都市環境工学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	講義概要・成績評価法の説明,環境の問題,環境問題におけるインターネットの活用	講義概要・成績評価法の説明,環境の問題,環境問題におけるインターネットの活用について述べる.
2	環境1:日本の環境と環境政策,公害事例	日本の環境と環境政策,公害事例について述べる.
3	環境2:日本の環境に関する法律や基準	日本の環境に関する法律や基準について述べる.
4	水質環境1:水質の保全,有機物汚濁	水質の保全,有機物汚濁について述べる.
5	水質環境2:有機物汚濁の指標(BOD,COD)	有機物汚濁の指標(BOD,COD)について述べる.
6	水質環境3:有機物汚濁の指標(窒素化合物),有機物汚濁の指標の相互関連	有機物汚濁の指標(窒素化合物),有機物汚濁の指標の相互関連について述べる.
7	大気環境:大気汚染と公害(窒素酸化物,硫黄酸化物),大気の循環,二酸化炭素の増加,地球温暖化ガス	大気汚染と公害(窒素酸化物,硫黄酸化物),大気の循環,二酸化炭素の増加,地球温暖化ガスについて述べる.
8	中間試験	中間試験を実施する.
9	中間試験の解答・解説,化学物質:環境ホルモン,農薬,生物濃縮,抗生物質耐性菌	中間試験の解答と解説を行う.環境ホルモン,農薬,生物濃縮,抗生物質耐性菌について述べる.
10	土壌環境1:鉱山と鉱毒,重金属汚染の事例	鉱山と鉱毒,重金属汚染の事例について述べる.
11	土壌環境2:土壌汚染と地下水	土壌汚染と地下水について述べる.
12	土壌環境3:鉱毒と回復,バイオリメディエーション,客土,農地の回復,塩類化	鉱毒と回復,バイオリメディエーション,客土,農地の回復,塩類化について述べる.
13	浄水の仕組みと取り組みについて	浄水の処理過程,浄水処理上の問題点について述べる.
14	尿尿処理下水処理,水処理施設,水処理プラント	尿尿処理下水処理,水処理施設,水処理プラントについて述べる.
15	定期試験の解答・解説	定期試験の解答・解説を行い,これまでの学習の到達度を振り返る.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である. 後期中間試験および後期定期試験を実施する.	

科目	都市交通計画学 (Traffic Planning Engineering)		
担当教員	小塚 みすず 准教授		
対象学年等	都市工学科・5年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S1(85%), A4-S4(15%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	都市交通計画の社会性,公共性についての認識を深めるとともに,交通流現象や道路設計,道路構造等の基本知識を習得する.交通計画全般にわたる理解に基づいた課題形成と解決方法を提案できるまでの能力を習得する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S1】都市交通計画の社会的意義を説明できる.		都市交通計画の社会的意義や交通施設整備について説明できるか,レポートと中間試験により評価する.
2	【A4-S1】都市交通計画の考え方や道路空間整備の手法を説明できる.		都市交通計画策定の考え方,交通施策の運用,道路空間整備手法について説明できるか,レポート,中間試験および定期試験により評価する.
3	【A4-S1】交通流現象及び道路設計の基礎要件を説明できる.		交通流現象及び道路設計の基礎要件が説明できるか,レポートと定期試験により評価する.
4	【A4-S4】交通計画の考え方を踏まえて,都市交通問題を解決するための方法を提案できる.		都市交通計画全般に係る理解と,問題解決に対する提案ができるか,レポートと定期試験により評価する.
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験80% レポート20% として評価する.試験成績は中間試験と定期試験の平均とする.総合評価は100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト	「地域交通の計画」:竹内伝史・川上洋司他(鹿島出版会) 授業時の配布プリント		
参考書	「道路交通技術必携2018」:(一社)交通工学研究会(丸善株式会社) 「交通システム工学」:大橋健一 他(コロナ社)		
関連科目	景観工学,建築計画		
履修上の注意事項			

授業計画(都市交通計画学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	都市交通計画の概要	都市交通に関わる現状と課題,道路計画を行う上での必要な知識について解説する.
2	交通の歴史(1)	国内外における古代の交通の歴史について解説する.
3	交通の歴史(2)	国内における中世および近世の交通の歴史について解説する.
4	交通の歴史(3)	国内における近世以降の交通の歴史について解説する.
5	交通問題と交通施設	交通問題の変遷と交通施設整備について解説する.
6	都市交通計画の対象と都市交通計画の技法	計画対象の地域や主体について解説する.交通計画策定のシステムや調査技法について解説する.
7	交通施策	交通計画の考え方や交通施策について解説する.
8	中間試験	第1~7回の講義内容を試験範囲として出題する.
9	都市内道路の計画・歩行者系街路計画,中間試験の返却	都市内道路の機能や分類について解説する.歩行空間整備の考え方や整備手法について解説する.中間試験の返却・解説を行う.
10	交通調査	道路計画に用いられる調査の種類や交通分析手法について解説する.
11	交通流現象	自動車交通流現象について解説する.
12	道路の交通容量	交通渋滞や交差点の交通現象について解説する.
13	道路の計画	道路構造の設計条件と道路企画について解説する.
14	道路の設計	道路の断面構成について解説する.
15	今後の都市交通計画,定期試験返却	都市交通計画に係る法制度,近年の取り組み,国内外の事例を紹介し,これまでの学習内容を復習する.定期試験の返却・解説を行う.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する.都市交通計画の理解度を確認するため,レポートを課す.	

科目	土木・建築設計製図Ⅳ (Design and Drawing for Civil Engineering and Architecture Ⅳ)		
担当教員	田島 喜美恵 准教授		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・必修・1単位 (学修単位Ⅰ)		
学習・教育目標	A4-S1(100%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	建築設計の基本的な方法を、住宅図面の模写をすることで理解し、平面図・立面図・矩計図・パースについての製図手法を学ぶことで、設計の基礎を身につける。また、室内の内装デザインをおこなうことでデザイン力を身につける。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S1】住宅の平面図を描くことができる。		提出図面(平面図)で評価する。
2	【A4-S1】住宅の立面図を描くことができる。		提出図面(立面図)で評価する。
3	【A4-S1】住宅の矩計図を描くことができる。		提出図面(矩計図)で評価する。
4	【A4-S1】パースを描くことができる。		提出図面(パース)で評価する。
5	【A4-S1】コンセプトに沿って内装デザインができる。		提出図面(内装デザイン)で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、提出図面100% として評価する。成績は、平面図(20%)・立面図(20%)・矩計図(30%)・パース(10%)、内装デザイン図(20%)を100%として評価する。100点満点とし60点以上を合格とする。製図は全て手書きで作成する。なお、ひとつでも未提出課題がある場合は不合格とする。		
テキスト	製図に関するプリント		
参考書	「建築製図基本の基本」桜井良明 著(学芸出版社) 「名作住宅で学ぶ建築製図」藤木庸介 著(学芸出版社) 「やさしく学ぶ建築製図」松下希和著(エクスナレッジ)		
関連科目	CAD基礎, 応用CAD, 土木・建築設計製図Ⅰ~Ⅲ, 建築計画, 建築施工, 建設都市法規, 応用建築設計製図Ⅰ,Ⅱ		
履修上の注意事項			

授業計画(土木・建築設計製図Ⅳ)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス及び木造住宅平面図の描写(1)	住宅設計図の見方,基本的な記号について解説する.木造住宅の平面図の描き方を説明後,平面図をトレースする.
2	木造住宅平面図の描写(2)	木造住宅の平面図の描き方を説明.プリントにならって平面図をトレースする.
3	木造住宅平面図の描写(3)	木造住宅の平面図の描き方を説明.プリントにならって平面図をトレースする.
4	木造住宅平面図の描写(4)	木造住宅の平面図の描き方を説明.プリントにならって平面図をトレースする.
5	木造住宅立面図の描写(1)	木造住宅の立面図の描き方の説明後,プリントにならって立面図をトレースする.
6	木造住宅立面図の描写(2)	木造住宅の立面図の描き方の説明後,プリントにならって立面図をトレースする.
7	木造住宅矩計図の描写(1)	矩計図の描き方の説明後,プリントにならって矩計図をトレースする.
8	木造住宅矩計図の描写(2)	矩計図の描き方の説明後,プリントにならって矩計図をトレースする.
9	木造住宅矩計図の描写(3)	矩計図の描き方の説明後,プリントにならって矩計図をトレースする.
10	木造住宅矩計図の描写(4)	矩計図の描き方の説明後,プリントにならって矩計図をトレースする.
11	木造住宅の図面の補正	寸法や書き足りない所はないかを確認し,あれば補正し,なければ提出する.
12	パースの基礎演習	パースの描き方を説明し,基礎演習を行う.
13	内装パースの作成(1)	居室内の内装パースの書き方を手順に従って学び,自身で内装デザインを考えて内装パースにする.
14	内装パースの作成(2)	居室内の内装パースの書き方を手順に従って学び,自身で内装デザインを考えて内装パースにする.
15	内装パースの作成(3)	完成した内装パースに,各自色鉛筆で着色し,提出する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない.提出図面にて評価する.	

科目	工業英語 (ESP, Engineering)		
担当教員	角谷 明美 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・5年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B4(100%)	JABEE基準	(d),(f)
授業の概要と方針	本授業では,技術英語読解に必要な英文法の復習,都市工学に関する英文読解を実施する.技術英語読解の基礎を習得することを目的とし,ESP(English for Specific Purposes)の研究成果に基づいて,効率的に最新の工業英語をトレーニングすることを目指す.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[B4]技術英語の読解に必要な英単語を習得できる.		技術英語の読解に必要な英単語が習得できたかどうか,中間試験,定期試験,小テスト,演習により評価する.
2	[B4]技術英語の読解に必要な英文法を習得できる.		技術英語の読解に必要な英文法が習得できたかどうか,中間試験,定期試験,小テスト,演習により評価する.
3	[B4]工学基礎ならびに都市工学に関する文章を英訳・和訳することができる.		工学基礎ならびに都市工学に関する文章を英訳・和訳できるかどうか,中間試験,定期試験,小テスト,演習により評価する.
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験60% 小テスト20% 演習20% として評価する.試験成績は中間試験と定期試験の平均とする.100点満点で60点以上を合格とする.試験成績が60%評価の理由として,聞き取り試験等を考慮する.		
テキスト	「ESPにもとづく工業技術英語 大学・高専生のための新しい英語トレーニング」		
参考書	「Judy先生の英語科学論文の書き方」ジュディ野口ほか(講談社) 「すぐに役立つ 科学英語の書き方」ジョン・スウェイルズ(日経サイエンス)		
関連科目	英語演習(S4・S5)		
履修上の注意事項			

授業計画(工業英語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	技術英語の入門	技術英語についての基礎的知識を学ぶ。
2	Email	技術文書における数字関連のルール,Eメールの形式現在時制を必要とする記述を学ぶ。
3	New Product Advertisement	新製品広告の語彙の特徴,新製品広告の構文の特徴を学ぶ。
4	Catalogue	カタログの見方,商品情報を効果的に伝えるための語法(名詞の複合語),Order Form(注文書)の形式と書き込み方を学ぶ。
5	Specs / Specifications	さまざまな単位記号,句読法(コロン(:)とセミコロン(;)),仕様書の読み取り方を学ぶ。
6	Operating Instructions	操作マニュアルにおける命令形,日常生活における機器維持と操作,Do-it-yourselfの考え方を学ぶ。
7	Job Advertisement	丁寧文,敬語表現の使い方(電話,Eメールの意志の伝え方),求人広告に含まれる情報,求人広告を見て会社に問い合わせる方法を学ぶ。
8	中間試験	第1回目から第7回目までの内容に関する問題を出題する。
9	中間試験解説・Business Letter	中間試験の解答・解説を行う。ビジネスレターの形式,ビジネスレターの段落構成を学ぶ。
10	Online Science Magazine	オンライン科学雑誌の読み方,可能性に関連した語法(仮定法「would / could」),オンライン科学雑誌の購読申込方法を学ぶ。
11	Presentation	プレゼンテーション用スライドの構成,口頭発表のポイント,専門用語の留意点を学ぶ。
12	Explanatory Information / HP	解説書・ホームページ(HP)などに表れる説明情報,用語を定義する定義文(definition)のルールとパターン,英英辞典についてを学ぶ。
13	Lab Reports(1)	実験報告書の構成(1):タイトル・目的・実験のセクション,実験報告書に関連した動詞の時制の使い方,実験報告書に関連した受動態の使い方学ぶ。
14	Lab Reports(2)	実験報告書の構成(2):結果および考察・結論のセクション,実験報告書における図(グラフ)表の使用ルール,結果および考察・結論のセクションでの頻出表現を学ぶ。
15	定期試験解説,English Technical Writing Test	定期試験の解答・解説を行う。Technical Englishの3C'sと,それを実現するためのトレーニングを行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科目	建築計画 (Architectural Design and Planning)		
担当教員	田島 喜美恵 准教授		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S1(100%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	建築物の設計を行うためには、そこで展開される人々の生活がうまく機能するような空間を計画することが必要である。本講義では、建築計画で用いる基礎的手法及び各用途の建築物に関する計画論の概要を学ぶことで、建築設計に役立てるものである。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S1】住宅、公共施設について、その計画手法の概要を理解し、建築士試験における「計画」分野の基礎知識を習得する。		建築に関わるスケールについて理解したかどうか、また住宅、医療福祉施設、学校について、その計画手法の概要を理解したかどうかを定期試験で評価する。
2	【A4-S1】空間を構成するエレメントを理解し、建築のデザインについて理解する。		空間を構成するエレメントを理解し、建築のデザインについて理解したかどうか、レポートで評価する。
3	【A4-S1】空間デザインを創造し、わかりやすく発表・説明・討議できる。		自分で作成した空間デザインのコンセプトが形やプレゼンテーションにいかされているかどうか、パワーポイントによるプレゼンテーションにより評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験50% レポート20% プレゼンテーション30% として評価する。100点満点とし60点以上を合格とする。定期試験のみを行う。なお、本講義は前半(1~8回)は講義であり、後半(9~15回)は演習形式で課題に取り組むため、試験評価を50%としている。		
テキスト	プリント		
参考書	「住まいを読むー現代日本住居論」鈴木成文著(建築資料研究社) 「建築計画」長澤泰著(市ヶ谷出版) 「パタン・ランゲージ」C・アレグザンダー著(鹿島出版社)		
関連科目	応用CAD, 景観工学, 都市交通計画, 建設都市法規, 建築施工, 建築計画(AS1)		
履修上の注意事項			

授業計画(建築計画)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス及び空間デザイン基礎	建築と生活の意味について理解し、建築を計画することについて理解する。人間の動作寸法と空間構成に対して理解を深めると共に、各自の人体寸法を理解する。
2	住まいの計画(1)	生活と空間の関係を捉えながら、住宅の歴史(古代～近代)を理解する。
3	住まいの計画(2)	近現代における、集合住宅の設計方法及び共同住宅(コーポラティブハウス、コレクティブハウス)など、多様な住まい方を理解する。
4	施設計画(1)	バリアフリー法の基準寸法を理解した上で、医療福祉施設(高齢者施設や病院)の計画について理解する。
5	施設計画(2)	就学前乳幼児施設及び学校の計画について理解する。
6	プレゼンテーション技法	パワーポイントやポスターや模型などを制作する上で、わかりやすく伝えるための技術を修得する。
7	空間デザインと表現(1)	中庭のリニューアルデザインを各自で検討し、設計案を作成する。
8	空間デザインと表現(2)	設計案を模型で表現する。
9	空間デザインと表現(3)	引き続き、設計案を模型で表現する。
10	空間デザインと表現(4)	作成した図面、および模型写真をもとにプレゼンテーションの準備を行う。
11	空間デザインと発表(1)	課題の発表として3～5分程度のプレゼンテーションを行い、各自のデザインについてわかりやすく説明を行う。
12	空間デザインと発表(2)	引き続き発表を行い、発表後にディスカッションを行う。
13	バリアフリー法	バリアフリー法の基準寸法の復習をおこなった上で、実際に車椅子を使用することでバリアフリーの重要性を理解する。
14	建築の歴史(1)	学外フィールドワークを行い、建築の成り立ちや手法を理解し、レポートを作成する。
15	建築の歴史(2)	学外フィールドワークを行い、建築の成り立ちや手法を理解し、レポートを作成する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期定期試験を実施する。	

科目	都市工学実験実習 (Laboratory Work in Civil Engineering)		
担当教員	柿木 哲哉 教授, 水越 睦視 教授, 高科 豊 准教授, 宇野 宏司 教授, 小塚 みすず 准教授, 田島 喜美恵 准教授		
対象学年等	都市工学科・5年・通年・必修・3単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S2(10%), B1(10%), C1(40%), C4(30%), D1(10%)	JABEE基準	(b),(d),(e),(f),(g),(h),(i)
授業の概要と方針	水理学,材料学,衛生工学,交通計画学,デザイン工学など都市工学の実験をともなう応用分野の一層の理解を深めるため,各分野の実験・実習を3班編成の少人数のグループで行う。各種実験実習を班員と協力しながら行うことで,チームワーク力や協調性を養う。また,シミュレーションやコンピュータ演習,模型の製作等で各専門分野の理論の理解と実際問題への応用能力を養う。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S2】水理学に関する実験ができるようになるとともに,実験目的と結果の活用を理解できる。		水理学に関する実験を行い,1週間以内に設定されたレポートの提出状況および内容により評価する。
2	【B1】実験内容について,的確な図・表を用いて文章や口頭で説明できる。		各自に与えられた課題に関する報告書等の文章や発表会で評価する。
3	【C1】実験結果を適切に処理し,計算書,図・表等にまとめ,得られた結果に対する考察を書ける。		各実験の課題や報告書(レポート)で評価する。
4	【C1】コンクリートの物性試験を行うことができるとともに,得られた結果を分析できる。		コンクリートの物性に関する試験を行い,レポートの提出状況および内容により評価する。
5	【C1】各種の水質検査ができるようになるとともに,得られた結果を分析できる。		各種の水質に関する検査を行い,1週間以内に設定されたレポートの提出状況および内容により評価する。
6	【C1】交通実態調査ができる。交通環境の改善案を検討し,設計できる。		交通実態調査のデータ整理,交通環境改善案を検討し,レポートおよび成果物の内容により総合的に評価する。
7	【C4】住まいのデザインができる。		高齢者夫婦,3世代の住まいの図面・模型製作,レポートの提出,成果の発表会により評価する。
8	【C4】班の構成員と協力して実験を行うことができる。		班の構成員と協力して実験が行なわれているか,各実験の遂行状況で評価する。
9	【C4】決められた期限内に実験報告書を書ける。		実験ごとの報告書(レポート)ならびに課題の提出状況で評価する。
10	【D1】設備・機器・装置等の取り扱いに注意し,安全に実験を遂行することができる。		設備・機器・装置等の取り扱いに注意し,安全に実験が行なわれているか,各実験の遂行状況で評価する。
総合評価	成績は,課題100%として評価する。ただし,デザインのみ図面・模型・発表80% レポート20% として評価する。総合評価は100点満点で60点以上を合格とし,各実験の合格基準を60点以上とする。総合評価の内訳は水理:コンクリート:衛生:交通計画:デザイン=2:1:1:1:1とする。提出期限が守られていない課題は評価しない。未提出課題がある場合は成績を評価しない。		
テキスト	「土木材料実験指導書 2015年度版」:土木学会編(土木学会) 「水理実験解説書 2015年度版」:土木学会編(土木学会) 「環境工学」:石井一郎(森北出版)		
参考書			
関連科目	水理学,材料学,コンクリート工学,構造力学,都市環境工学,環境水工学I,環境水工学II,都市交通計画学,建築計画,景観工学		
履修上の注意事項	クラスを3班の少人数に編成し各実験を受講する。水理は通年,材料・交通計画,衛生・デザインは前期または後期に履修する。安全管理に徹し,相応しい服装で臨むこと。実験実習はチームワーク(班別)で実施することが多いため,個別の再実験は認められない。そのため,出席することが原則である。		

授業計画(都市工学実験実習)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	前期実験ガイダンス	水理学(前期)・コンクリート・計画学各実験の予定,班割,注意事項など,実験前のあらゆる問題点について,事前説明を行う。
2	水理学(前期)・コンクリート・交通計画学実験	開水路(1)・相対的静止水面の実験,スランプ試験・空気量試験,交通実態調査(1)。
3	水理学(前期)・コンクリート・交通計画学実験	開水路(1)・相対的静止水面の実験,スランプ試験・空気量試験,交通実態調査(1)。
4	水理学(前期)・コンクリート・交通計画学実験	開水路(1)・相対的静止水面の実験,スランプ試験・空気量試験,交通実態調査(1)。
5	水理学(前期)・コンクリート・交通計画学実験	開水路(1)・相対的静止水面の実験,スランプ試験・空気量試験結果の考察,交通実態調査(2)。
6	水理学(前期)・コンクリート・交通計画学実験	開水路(1)・相対的静止水面の実験,スランプ試験・空気量試験結果の考察,交通実態調査(2)。
7	水理学(前期)・コンクリート・交通計画学実験	開水路(1)・相対的静止水面の実験,スランプ試験・空気量試験結果の考察,交通実態調査(2)。
8	前期中間実験のまとめ	水理学(前期),コンクリート,交通計画学各実験のレポートおよび実験器具の整理と整備。
9	水理学(前期)・コンクリート・交通計画学実験	開水路(2)・管水路の実験,繊維補強コンクリートの配合試験,交通環境の調査。
10	水理学(前期)・コンクリート・交通計画学実験	開水路(2)・管水路の実験,繊維補強コンクリートの配合試験,交通環境の調査。
11	水理学(前期)・コンクリート・交通計画学実験	開水路(2)・管水路の実験,繊維補強コンクリートの配合試験,交通環境の調査。
12	水理学(前期)・コンクリート・交通計画学実験	開水路(2)・管水路の実験,繊維補強コンクリートの靱性試験,交通環境の設計。
13	水理学(前期)・コンクリート・交通計画学実験	開水路(2)・管水路の実験,繊維補強コンクリートの靱性試験,交通環境の設計。
14	水理学(前期)・コンクリート・交通計画学実験	開水路(2)・管水路の実験,繊維補強コンクリートの靱性試験,交通環境の設計。
15	前期実験のまとめ	水理学(前期),コンクリート,交通計画学各実験のレポート作成および実験器具の整理と整備。
16	後期実験ガイダンス	水理学(後期),衛生工学,デザイン各実験の予定,班割,注意事項など,実験前のあらゆる問題点について,事前説明を行う。
17	水理学(後期)・衛生工学・デザイン実験	相対的静止水面の理論的検討,水質測定(1),高齢者住まいのデザイン(1)。
18	水理学(後期)・衛生工学・デザイン実験	相対的静止水面の理論的検討,水質測定(1),高齢者住まいのデザイン(1)。
19	水理学(後期)・衛生工学・デザイン実験	相対的静止水面の理論的検討,水質測定(1),高齢者住まいのデザイン(1)。
20	水理学(後期)・衛生工学・デザイン実験	開水路流れの理論的検討(1),水質測定(2),高齢者住まいのデザイン(2)。
21	水理学(後期)・衛生工学・デザイン実験	開水路流れの理論的検討(1),水質測定(2),高齢者住まいのデザイン(2)。
22	水理学(後期)・衛生工学・デザイン実験	開水路流れの理論的検討(1),水質測定(2),高齢者住まいのデザイン(2)。
23	後期中間実験のまとめ	水理学(後期),衛生工学,デザイン各実験のレポートおよび実験器具の整理と整備。
24	水理学(後期)・衛生工学・デザイン実験	管水路流れの理論的検討,水質測定(3),3世代住まいのデザイン(1)。
25	水理学(後期)・衛生工学・デザイン実験	管水路流れの理論的検討,水質測定(3),3世代住まいのデザイン(1)。
26	水理学(後期)・衛生工学・デザイン実験	管水路流れの理論的検討,水質測定(3),3世代住まいのデザイン(1)。
27	水理学(後期)・衛生工学・デザイン実験	開水路流れの理論的検討(2),ジャーテスト,3世代住まいのデザイン(2)。
28	水理学(後期)・衛生工学・デザイン実験	開水路流れの理論的検討(2),ジャーテスト,3世代住まいのデザイン(2)。
29	水理学(後期)・衛生工学・デザイン実験	開水路流れの理論的検討(2),ジャーテスト,3世代住まいのデザイン(2)。
30	後期実験のまとめ	水理学(後期),衛生工学,デザイン各実験のレポート作成および実験器具の整理と整備。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。	

科目	卒業研究 (Graduation Thesis)		
担当教員	都市工学科講義科目担当教員		
対象学年等	都市工学科・5年・通年・必修・10単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(20%), B2(10%), C2(70%)	JABEE基準	(d),(e),(f),(g),(i)
授業の概要と方針	都市工学科の教育プログラムにおいて、「卒業研究」は1～5年で履修する専門科目の総括として位置づけられる。特定のテーマを設定し、授業等で修得した知識と技術を総合して自主的かつ計画的に指導教官のもとで研究を行い、研究を通じて、問題解決のための糸口を見出す方法を理解し、文献調査や実験、理論的な考察などの問題解決の手順を修得して、総合力およびデザイン能力を高める。また、研究成果を口頭で発表し論文にまとめることでコミュニケーション能力を身につける。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C2】研究活動：研究テーマの背景と目標を的確に把握し十分な準備活動を行い、指導教官、共同研究者と連携しながら自主的に研究を遂行できる。		研究への取り組み、達成度と卒業研究報告書の内容を評価シートで評価する。
2	【C2】研究の発展性：得られた研究結果を深く考察し、今後の課題等を示し、研究の発展性を展望することができる。		研究活動の状況、研究成果と卒業研究報告書の内容を評価シートで評価する。
3	【B1】発表および報告書：研究の発表方法を工夫し、与えられた時間内に明瞭でわかりやすく発表できる。また、報告書が合理的な構成で研究全体が簡潔・的確にまとめることができる。		中間および最終発表会、報告書を評価シートで評価する。
4	【B2】質疑応答：質問の内容を把握し、質問者に的確に回答できる。		中間および最終発表会の質疑応答を評価シートで評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	研究活動30点、収集分析40点、発表30点、総合評価は100点満点で、60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	特記事項なし。		
履修上の注意事項	成績評価事項は以下のとおりである。(1)研究活動：日々の研究の取り組みや計画立案の内容を評価する。(2)収集分析：研究の方法や実行および考察の適切性、研究の発展性の内容を評価する。(3)発表：中間および最終発表会での発表や質疑応答に加え、報告書の内容を評価する。以上の事項を十分に注意して、卒業研究に取り組むこと。		

授業計画(卒業研究)

内容(テーマ, 目標, 準備など)

1. 卒業研究の進め方について

- (1) 配属ガイダンス: 5年生進級予定者を対象に, 研究室配属のガイダンスを行う。
- (2) 指導教員の決定: ガイダンスのときに配布した希望調書にもとづいて, 指導教員を決定する。
- (3) 指導方法: 卒業研究の趣旨にしたがい, 指導教員が指導する。
- (4) 卒業論文研究の提出: 2月初旬頃の〆切までに提出すること。
- (5) 発表会: 11月中旬に中間発表会を行う。2月中旬に都市工学科・卒業研究発表会を行う。
- (6) 論文書式他: 1) 卒業論文執筆のフォーマットは指導教員の指示に従うこと。 2) 卒業研究の概要を作成する。

2. 2019年度の卒業研究のテーマ等の設定は以下のとおりである。

(上中研究室)

二重鋼管・コンクリート合成部材の曲げせん断特性／ライフサイクルコストに着目した鋼・コンクリート合成部材の提案とその終局強度

(水越研究室)

高強度軽量コンクリートはりの曲げせん断挙動に関する研究／各種短繊維のコンクリートへの適用性に関する研究

(高科研究室)

コンクリートのスケーリング試験法の考察／ニューラルネットワークによるコンクリート劣化予測／凍結融解劣化を受けたRC梁の検討／凍結防止剤・融雪剤のコンクリートへの影響／サーモグラフィ・超音波によるコンクリートの簡易診断法の検討／コンクリート景観等

(鳥居研究室)

風化花崗岩(まさ土)地域の斜面不安定化機構の解明／豪雨を起因とする斜面崩壊の発生危険度評価手法の提案／道路の事前通行規制区間における規制・解除規準の検討／斜面防災・減災のための教育教材の開発／地域防災力向上のための空間情報技術の活用

(野並研究室)

既設盛土の物性評価のための現地点検手法の開発に関する実験的研究／土質材料のせん断強度定数に与える異方性の影響を評価するための実験的研究／深層混合処理工法による改良地盤の応力分担比に関する実験的研究／盛土地盤の強度定数の推定手法が安定計算結果に与える影響を評価するための解析的研究

(柿木研究室)

海岸などの水域における流体運動や底質移動に関する研究／地球温暖化が海岸の環境に与える影響に関する研究

(宇野研究室)

河口干潟, 河口砂州の長期地形変動要因の検討／瀬戸内海の環境保全に資する研究／兵庫県・神戸市内の地域防災に関する研究

(伊原研究室)

鋼構造物・コンクリート構造物の補修・補強に関する研究／高架橋の耐震補強に関する研究

(小塚研究室)

県境地域の道路整備に関する研究／交通環境整備に関する研究／地域開発による周辺地区への影響に関する研究

(田島研究室)

歴史的建造物などの既存建物の運営手法に関する研究／出産・育児環境に関する研究／公園などのオープンスペースの使い方に関する研究／神戸高専における施設評価に関する研究

以上

備考

中間試験および定期試験は実施しない。中間報告会, 卒業研究報告会を実施する。

科目	建設都市法規 (Building and Civil Engineering Law)		
担当教員	浅見 雅之 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-S3(90%), A4-S4(10%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	建築計画・設計および施工を行うにあたって必要となる関係法令について、実務で役に立つ知識を中心とした講義を行う。内容については、建築基準法を中心に条文の趣旨及び背景を理解することを目標とし、建築士試験にも対応可能な授業内容とする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-S3]建築基準法の規定について理解し、自分で法令集を読み、法令の学習ができるようになる。		建築基準法の概念を理解できているかを小テスト・中間試験・定期試験で評価する。
2	[A4-S3]条文を解読し、建築物の意匠設計に法令の主要規定を反映することができるようになる。		建築基準法の用語、基本となる法律の種類等を理解できているか小テスト・中間試験・定期試験で評価する。
3	[A4-S4]建設関連法等の種類を把握し、それらの内容を説明できるようになる。		建設関連法の概要が理解できているか小テスト・定期試験で評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% 小テスト30% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均とする。100点満点とし60点以上を合格とする		
テキスト	なし。プリントを配布して授業を行う。		
参考書	「建築関係法令集 法令編」:総合資格学院編(総合資格) 「いちばんわかりやすい建築基準法」:深滝准一(エクスマレッジ)		
関連科目	建築計画, 施工管理学, 建築施工, 土木・建築設計製図		
履修上の注意事項			

授業計画(建設都市法規)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス・建築法規の基礎	建設関連法令の意義、生い立ちと構成について学び、法体系の概要を把握し、条文の読み方の基礎について学ぶ。条文を正確に読み、法を正しく理解するための基礎的な事項(用語の定義・面積・高さ等の算定方法)を学ぶ。集団規定・単体規定の違いを理解する。
2	建築基準法の用語の定義・建築士資格・基準法関係規定	建築基準法における用語の定義を学ぶ。建築士法を含む建築士資格の概要を学ぶ。建築基準法関連規定について学ぶ。
3	建築物に関する集団規定(1)敷地・道路・用途地域等	建築物に関する集団規定のうち「道路と敷地の関係・用途地域等」について学ぶ。
4	建築物の集団規定(2) 面積と容積の考え方	建築物に関する集団規定のうち「容積率・建ぺい率・絶対高さ等」について学ぶ。
5	建築物の集団規定(3) 建ぺい率・容積率・接道条件	建築物に関する集団規定のうち「建ぺい率・容積率」「接道条件」について学ぶ。
6	建築物の集団規定(4) 斜線制限・日影規制	建築物に関する集団規定のうち「斜線制限」「日影規制」について学ぶ。
7	建築物の単体規定(1) 防火規定(1)(耐火・準耐火建築物,防火・準防火構造等)	建築物に関する単体規定のうち防火に関する規定(耐火・準耐火建築物の規定,防火準防火構造の規定等)について学ぶ。
8	中間試験	1~7回までの範囲について試験を行う。
9	建築物の単体規定(2) 防火規定(2)(防火性能と防火区画その1)・中間試験の返却	建築物に関する単体規定のうち防火に関する規定(防火性のと防火区画等)について学ぶ。中間試験の返却・解説を行う。
10	建築物の単体規定(3) 防火規定(3)(防火性能と防火区画その2)	建築物に関する単体規定のうち防火に関する規定(防火性のと防火区画等)について学ぶ。
11	建築物の単体規定(4) 避難規定(1)(階段・避難階段手すり等)	建築物に関する単体規定のうち避難に関する規定(階段・避難階段・手すり等)について学ぶ。
12	建築物の単体規定(5) 避難規定(2)(廊下・非常用進入口・防煙壁・昇降機等)	建築物に関する単体規定のうち避難に関する規定(廊下・非常用進入口・防煙壁・昇降機等)について学ぶ。
13	建築物の単体規定(6) 居室の規定	建築物の単体規定のうち、居室に関連する規定について学ぶ。構造設計と構造計算、構造種別ごとの構造仕様について学ぶ。
14	建築基準法の関連法	バリアフリー法・耐震改修促進法・品確法・瑕疵担保法・長期優良住宅促進法等についてその概略を学ぶ。消防法・都市計画法・建築士法・景観法等についてその概略を学ぶ。
15	資格関係法・定期試験の返却	建築士法・宅建業法・技術士法・測量法・建設業法などの法に基づく資格や、実務で活用される民間資格等について学ぶ。定期試験の返却・解説を行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には、30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である。 前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科目	都市情報工学 (Engineering of Spatial Information and Value Structure)		
担当教員	鳥居 宣之 教授		
対象学年等	都市工学科・5年・後期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A3(100%)	JABEE基準	(c),(d)
授業の概要と方針	都市計画,環境,防災など様々な分野で必要となる社会や空間の情報を処理・解析するための方法について,現在フリーで入手できるソフトウェアを用いながら学習する.具体的なソフトとしては,GISソフト「QGIS」および統計処理ソフト「R」を用いて,演習を中心に講義を進める.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A3】社会基盤整備事業で取り扱う様々な空間情報を理解する.		社会基盤整備事業にかかわる様々な空間情報の種類についての理解度をレポートで評価する.
2	【A3】地理情報システム(GIS)のしくみと表現を理解する.		地理情報システム(GIS)の基礎的理論や用語,またGISによって可能な空間情報処理についての理解度をレポートならびにプレゼンテーションで評価する.
3	【A3】GISソフトを操作し,基本的な空間情報処理を行うことができる.		GISソフトを用いて,与えられた条件から適切に空間情報を処理できるかを,レポートならびにプレゼンテーションで評価する.
4	【A3】統計処理ソフトを用いて,与えられた条件から適切に社会状況を分析できる.		様々な社会統計データを適切に分析することができるかを,レポートならびにプレゼンテーションで評価する.
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,レポート80% プレゼンテーション20% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.なお,提出期限が守られなかった課題は評価しない.また,未提出の課題がある場合には成績を評価しない.		
テキスト	講義時に適宜配付するプリント		
参考書	「Rによるやさしい統計学」:山田 剛史ほか(オーム社) 「統計・防災・環境情報がひと目でわかる地図のつくり方」:朝日孝輔ほか(技術評論社)		
関連科目	土木計画学I(S4),景観工学(S5),防災工学(S5),測量学(S4),都市計画(AS1),都市防災工学(AS),地盤防災工学(AS)		
履修上の注意事項	受講人数を25名までとし,希望者が多い場合は4年時の成績により受講者を決定する.		

授業計画(都市情報工学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	講義の概要と進め方についてのガイダンス	本講義の概要と進め方を説明する。また都市空間情報について概説する。
2	GISを用いた解析(1)	地理情報システム(GIS)の基礎的理論,用語などについて概説する。
3	GISを用いた解析(2)	GISソフト「QGIS」を用いて,空間情報の地図表現について演習を行う。
4	GISを用いた解析(3)	「QGIS」を用いて,緯度経度などの位置情報から地図上にポイントデータを追加するための方法について演習を行う。
5	GISを用いた解析(4)	「QGIS」を用いて,コロプレスマップ(階層区分図)を作成するための方法について演習を行う。
6	GISを用いた解析(5)	「QGIS」を用いて,ベクタデータの空間演算処理を行う。
7	GISを用いた解析(6)	「QGIS」を用いて,空間情報データから面積などを算出するための方法について演習を行う。
8	社会調査データの解析(1)	都市工学の分野における様々な社会調査データの取り扱いとその解析方法について概説する。統計処理ソフト「R」を用いて,標準化などの簡単な統計処理を行う。
9	社会調査データの解析(2)	「R」を用いて,2変数間の関係について統計処理を行う。
10	社会調査データの解析(3)	「R」を用いて,母集団と標本についての統計処理を行う。
11	社会調査データの解析(4)	「R」を用いて,統計的仮説検定を行う。
12	社会調査データの解析(5)	「R」を用いて,統計的仮説検定を行う。
13	社会調査データの解析(6)	外部データを読み込んで,「R」によって統計処理を行うための方法を解説し,演習を行う。
14	社会調査データの解析(7)	「R」を用いて,回帰分析を行う。
15	プレゼンテーション	都市工学に関連した課題についてのプレゼンテーションを行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	<p>本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である。 中間試験および定期試験は実施しない。本科目は,パソコン端末を用いながら具体的に都市空間情報を分析・処理することによって,その理論を理解し,技術を習得するものである。よって,試験は行わず,レポート課題ならびにプレゼンテーションで評価を行う。</p>	

科目	建築施工 (Building Operation and Management)		
担当教員	浅見 雅之 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-S3(100%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	建築生産は発注者が企画し、設計図書を仕上げ、それにしたがって経済的に具現化するものである。現在、建築施工技術は多岐にわたり、日々進化しているため、施工の基本を重点に建物を造る仕組みや、プロセス、工事の計画、工事監理、施工法及び各施工技術について講義を行い、建築士試験にも対応可能な知識を身につける。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A4-S3]受注した建築物を設計図書通りに完成し、引き渡すまでの施工技術全般の基本を習得する。		施工技術全般の基本事項を理解しているか小テスト・中間試験で評価する。
2	[A4-S3]建築工事に関する契約・法令・品質管理の手法等について理解する。		契約・法令・品質管理の手法等について理解できているか小テスト・中間試験・定期試験で評価する。
3	[A4-S3]建設産業の現状、建築生産にあたっての管理手法、各工事の知識などを修得する。		管理手法、各工事の知識などを理解できているか小テスト・定期試験で評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% 小テスト30% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均とする。100点満点とし60点以上を合格とする。		
テキスト	なし。プリントを配布して授業を行う。		
参考書	「建築施工用教材」:(日本建築学会) 「初学者の建築講座・建築施工」:中澤明夫・角田誠(市ヶ谷出版) 「初めての建築施工」:建築のテキスト編集委員会(学芸出版社)		
関連科目	施工管理学, 建築計画, 建設都市法規		
履修上の注意事項			

授業計画(建築施工)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	建築工事の契約と施工計画	建設施工全般についての総論.施工主から依頼され,設計図書通りに建築物が出来上がる過程を学ぶ.
2	建築工事の施行計画と施工管理	建築工事の施工管理および,工事着手前の敷地調査等について学ぶ.
3	仮設工事・土工事・基礎工事	仮設工事および,土工事・基礎工事について学ぶ.
4	鉄筋コンクリート工事(1)鉄筋工事	鉄筋コンクリート工事のうち,鉄筋のとりあつかい,施工上の留意点について学ぶ.
5	鉄筋コンクリート工事(2)型枠工事	鉄筋コンクリート工事のうち,型枠のとりあつかい,施工上の留意点について学ぶ.
6	鉄筋コンクリート工事(3)コンクリート工事	鉄筋コンクリート工事のうち,コンクリートのとりあつかいと品質,施工方法について学ぶ.
7	プレキャスト・補強コンクリートブロック工事	ALC板のほかプレキャスト工事,補強コンクリートブロック工事の施工上の留意点について学ぶ.
8	中間試験	1~7回までの範囲について試験を行う.
9	鉄骨工事および中間試験の返却	鉄骨工事の基礎,施工上の留意点について学ぶ.中間試験の返却・解説を行う.
10	木工事	木工事の概要,在来工法を中心とした施工上の留意点について学ぶ.
11	防水・屋根工事	防水・屋根工事の概要,施工上の留意点について学ぶ.
12	左官・タイル工事	左官工事・タイル工事の概要,施工上の留意点について学ぶ.
13	ガラス・内装・塗装工事	ガラス工事・内装工事・塗装工事の概略,施工上の留意点について学ぶ.
14	設備工事・外構工事	設備工事・外構工事の施工上の留意点について学ぶ.
15	事例紹介および定期試験の返却	建築施工現場や各種工事等について事例を紹介する.定期試験の返却・解説を行う.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である. 前期中間試験および前期定期試験を実施する.	

科目	環境経営学 (Environmentaru Economics)		
担当教員	柿木 哲哉 教授		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	D1(100%)	JABEE基準	(b)
授業の概要と方針	公共事業の効率性やその環境に及ぼす影響について適切に評価し、円滑な合意形成を達成するために、経済評価の重要性が増している。本講義では、公共事業の現状と環境の経済評価の重要性を理解させることから出発して、経済学的な考え方、公共事業や環境評価の基礎となるミクロ経済学の基礎、環境経済学の基礎について講義する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[D1]公共土木事業の現状と方向性,経済評価の重要性が理解できる。		公共土木事業の現状と方向性,経済評価の重要性についての理解度を中間試験で評価する。
2	[D1]ミクロ経済学の基礎事項について習得できる。		公共事業を取り巻く社会情勢の変化,なぜ,経済評価の重要性が強調される背景について理解できているかを中間試験で評価する
3	[D1]経済学の基本的な考え方,基礎的事項について,習得する。		「経済学とは何か」,「経済学的な考え方」,「希少性の意味」等を経済学の基本的な考え方に関して理解しているかを定期試験で評価する。
4	[D1]環境経済学の基礎事項について習得できる。		需要曲線,供給曲線,需給バランス等について理解できているかを定期試験で評価する。
5	[D1]環境の価値を理解し,環境の経済評価方法を用いることができる。		効用,効用関数,需要の決定等について理解できているかを定期試験で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験100% として評価する。総合評価は,中間試験,定期試験の成績平均点の100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	配付プリント		
参考書	スティグリッツ,入門経済学,東洋経済 西村和雄,現代経済学入門ミクロ経済学,岩波書店 植田和弘,現代経済学入門環境経済学,岩波書店		
関連科目	数学I,数学II		
履修上の注意事項	本講義には,教科書がないので,なるべく参考書に目を通しておくこと。倫理学や哲学,経済学などに関連する面もあるので理解しておくこと		

授業計画(環境経営学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	社会資本整備の現状と経済学	社会資本整備の現状と経済学我が国の公共建設事業の現状と地球環境問題が及ぼす影響について理解し、公共事業の経済評価が重要視される理由について考える。
2	経済学の基礎的事項1	「希少性と経済学」、「市場」、「競争モデル」、「合理的選択」等の経済学の基本的な考え方、基本事項について理解する。
3	経済学の基礎的事項2	「所有権とインセンティブ」、「割当て」、「機会集合」、「費用」等の経済学における基本的な考え方、基礎事項について理解する。
4	経済学の基礎的事項3	経済学の基礎的事項3「需要曲線の意味、特徴」、「供給曲線の意味、特徴」、「需要と供給のバランス、均衡」等の事項について理解する。
5	経済学の基礎的事項4	「需要、供給の価格弾力性」、「需給バランスへの介入(不足と過剰)」、「時間とリスク」等の事項について理解する。
6	ミクロ経済学の基礎1	「効用の意味」、「効用関数」、「無差別曲線」、「需要の決定」等の事項について理解する。
7	ミクロ経済学の基礎2	「上級財と下級財」、「価格変化と需要変化」、「価格格差と実質所得」、「代替効果と所得効果」等の事項について理解する。
8	中間試験	7回までの内容の試験を行う。
9	環境経済学の基礎1	中間試験の解答・解説を行う。環境破壊の原因と環境経済学の果たすべき役割について考える。
10	環境経済学の基礎2	「市場の失敗」、「外部不経済」、「社会的費用概念」、「公共部門の役割」等の事項について理解する。
11	環境勘定	「GNP指標とその問題点」、「グリーンGNP」、「NNW」等の事項について理解する。
12	開発と環境	開発事業の費用便益分析とその環境経済学的な諸問題点(環境破壊費用や世代間倫理など)について理解する。
13	環境価値評価法	環境の価値の内容について考える。環境価値の評価法の概要について理解する。
14	環境価値評価の実例1	環境価値評価の実例2代替法とトラベルコスト法を利用した実例を紹介し、仮想データを用いて分析の演習を行なう。ヘドニック法、仮想評価法を利用した実例を紹介し、仮想データを用いて分析の演習を行なう。
15	前期定期試験の解答・解説	前期定期試験の解答・解説を行い、これまでの学習の到達度を振り返る。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には、30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である。 前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科目	防災工学 (Disaster Prevention Engineering)		
担当教員	宇野 宏司 教授, 鳥居 宣之 教授		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A2(30%), A4-S4(20%), C1(30%), C4(20%)	JABEE基準	(c),(d),(e),(f),(g),(h),(i)
授業の概要と方針	わが国は世界でも有数の災害大国である。本講義では、地震、火山噴火、津波、洪水等の各災害の原因、特徴、防災・減災について学ぶ。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S4】過去の災害を説明できる。		過去の災害を理解できているか中間試験、定期試験およびレポートで評価する。
2	【A2】各種災害の特性を説明できる。		各種災害の特性を理解できているか定期試験で評価する。
3	【C1】災害に関する外力等を正確に計算できる。		災害に関する外力等を正確に計算できるか定期試験およびレポートで評価する。
4	【C4】防災に関する演習を行い、成果をレポートとしてまとめることができる。		演習の内容はレポートとして評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験80% レポート20% として評価する。総合成績は、100点満点とし60点以上を合格とする。試験成績は定期試験の素点とする。		
テキスト	配布資料		
参考書	「これから防災を学ぶ人たちのための地域防災学入門」: 熊本大学防災まちづくり研究会編(成文堂) 日本に住むための「必須!!防災知識」: 土木学会(土木学会) 「防災工学」: 石井一郎編・著(森北出版) 「暮らしと自然災害」: 後藤 恵之輔ほか著(電気書院) 「これからの防災・減災がわかる本」: 河田恵昭・著(岩波ジュニア新書)		
関連科目	地理, 数学, 物理, これまで履修した都市工学系専門科目		
履修上の注意事項	避難所運営に関する個別演習を行う。		

授業計画(防災工学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス,災害総論	本講義の授業計画について説明する.近年の国内外の災害について事例紹介する.
2	地震災害(建物)	国内外における過去の地震災害(建物)を映像を交えて紹介する.地震の発生原因,特徴,地震の尺度,地震波種類,地震波の進行速度,地震対策などについて講義する.
3	地震災害(津波)	国内外における過去の地震災害(津波)を映像を交えて紹介する.津波の発生原因,特徴,津波の伝播速度,津波対策などについて講義する.
4	地震災害(液状化)	国内外における過去の地震災害(液状化)を映像を交えて紹介する.液状化の原因,特徴,液状化対策などについて講義する.
5	風水害(台風・洪水)	国内外における過去の風水害(台風と洪水)を映像を交えて紹介する.台風・洪水の成因,特徴,対策などについて講義する.
6	風水害(高潮・高波)	国内外における過去の風水害(高潮・高波)を映像を交えて紹介する.高潮・高波の成因,特徴,対策などについて講義する.
7	風水害(風害)	国内外における過去の風水害(風害)を映像を交えて紹介する.風害の成因,特徴,対策などについて講義する.
8	地盤災害(豪雨)	国内外における過去の地盤災害(豪雨)を映像を交えて紹介する.豪雨による土砂災害の特徴,対策などについて講義する.
9	地盤災害(地震)	国内外における過去の地盤災害(地震)を映像を交えて紹介する.地震による土砂災害の特徴,対策などについて講義する.
10	火山災害	国内外における過去の火山災害を映像を交えて紹介する.噴火の機構,分類,火山災害の特徴,対策などについて講義する.
11	防災から減災へ(自助・公助・共助)	自助,公助,共助の概念について講義する.
12	演習の説明・取り組み(1)	趣旨説明を受けた後,演習に取り組む.
13	演習の取り組み(2)	前回に引き続き,演習に取り組む.
14	個別課題の取り組み(3)	これまでの演習をレポートとしてとりまとめ,授業終了時を期限として提出する.
15	定期試験の返却・解答解説	定期試験の返却・解答解説を実施する.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である. 前期定期試験を実施する.	

科目	景観工学 (Landscape Engineering)		
担当教員	田島 喜美恵 准教授		
対象学年等	都市工学科・5年・後期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-S1(100%)	JABEE基準	(d),(g)
授業の概要と方針	「景観」および「風景」の概念を理解し,工学的立場から景観を把握・分析・評価するための理論や技術を習得する.また,景観計画の具体的事例をふまえながら,景観にかかわる諸制度についての理解を深めるとともに,空間や建造物のデザイン手法についての基礎的知識を身に付ける.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-S1】「景観」および「風景」の概念を理解し,説明できる.		「景観」および「風景」の概念についての理解度をレポートおよび中間試験で評価する.
2	【A4-S1】景観の分析・計画・設計の手法について理解し,説明できる.		景観の分析・計画・設計手法についての理解度をレポート,中間試験および定期試験で評価する.
3	【A4-S1】景観にかかわる諸制度についてその概要を説明できる.		景観にかかわる諸制度についての理解度を中間試験および定期試験で評価する.
4	【A4-S1】建造物のデザインと景観との関係を理解し,説明できる.		建造物のデザインと景観との関係についての理解度を定期試験で評価する.
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.総合評価は100点満点で60点以上を合格とする.試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.		
テキスト	講義時に配付するプリント		
参考書	「景観用語辞典」:篠原修ほか(彰国社) 「風景学入門」:中村良夫(中公新書) 「風景のなかの環境哲学」:桑子敏雄(東京大学出版会)		
関連科目	都市情報工学(S5),建築計画(S5),都市計画(AS1)		
履修上の注意事項			

授業計画(景観工学)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	講義の概要と進め方	講義の目的・進め方を説明し,景観工学の射程について概説する.
2	「景観」および「風景」概念の理論的基礎	「景観」および「風景」の概念の様々な捉え方を紹介し,その都市工学的意義について概説する.
3	景観の視覚的構造	景観の「見え方」の構造について説明する.
4	景観の計画と設計	景観の計画と設計のプロセス,考え方および具体的手法を紹介する.
5	景観にかかわる法制度	景観法や景観条例などの法制度の成立背景について概説し,実例をまじえながらその運用方法を紹介する.
6	景観の保護・保全	風致・美観地区,文化的景観などの概念について,具体的事例をまじえながら,景観の保護・保全のあり方を概説する.
7	都市の景観	都市空間の構造について概説しながら,街路や公園緑地のデザインについても紹介する.
8	中間試験	景観の捉え方および景観にかかわる計画手法や法制度等について理解度を確認する.
9	中間試験の解答・解説,水辺の景観	中間試験の解答・解説を行う.河川や海岸,港湾などの水辺の景観について,事例を紹介しながら概説する.
10	伝統的建造物群保存地の概要と景観工学上の意義	伝建地区・重伝建地区の制度について概説し,実例を紹介する.
11	歴史的建造物と景観(1)	登録有形文化財2件(明治期の洋館,昭和初期の和館)と史跡(前方後円墳)を見学し,写真をもちいたレポートを作成する.
12	歴史的建造物と景観(2)	登録有形文化財2件(明治期の洋館,昭和初期の和館)と史跡(前方後円墳)を見学し,写真をもちいたレポートを作成する.
13	景観デザイン演習(1)	景観デザイン演習として,環境的自叙伝およびデザインマニフェストを作成する.
14	景観デザイン演習(2)	作成した環境的自叙伝およびデザインマニフェストを発表し,景観の問題についてディスカッションする.
15	定期試験の解答・解説,総合演習・ディスカッション	定期試験の解答・解説を行う.講義内容をふりかえりながら,ディスカッションする.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30時間の授業の受講と60時間の自己学習が必要である. 後期中間試験および後期定期試験を実施する.	